



東京理科大学

TOKYO UNIVERSITY OF SCIENCE

2024 年度 活動報告書

教育支援機構 教育 DX 推進センター

Center for Teaching, Learning and Technology

目次

1 センター長挨拶	1
2 センター設置までの経緯・変遷	2
3 概要と構成	6
4 活動報告	9
4-1 センター委員会の開催日及び議案	9
4-2 DX 部門の活動報告	16
4-2-1 教育 DX 推進小委員会	16
4-2-2 教学 IR 小委員会	19
4-3 TL 部門の活動報告	21
4-3-1 学修支援小委員会	21
4-3-2 教育支援小委員会	35
4-3-3 教授方法支援小委員会	41
5 関連規程	46
5-1 東京理科大学教育支援機構規程	46
5-2 東京理科大学教育 DX 推進センター規程	48
6 センター委員会委員一覧	50



センター長挨拶

教育 DX 推進センター長 滝本 宗宏

教育 DX 推進センター（以下「センター」という。）は、教育 DX 及び FD の全学推進組織として 2022 年 4 月に設置されました。センター設置のきっかけとして、2020 年の新型コロナウイルス感染症のパンデミック発生が挙げられます。これによって本学の教育は ICT 化から DX を念頭にした取組みに加速度的に転換することが急務となり、「教育 DX を牽引する組織」の必要性が浮き彫りになりました。これを受けて本学では、教育 DX やウィズコロナ・ポストコロナを見据えた各種課題の検討・推進を重ね、前身組織である教育開発センターに「教育 DX を牽引する組織」の機能を追加するかたちで「教育 DX 推進センター」を設置しました。

学内には組織的に教育改善を推進する風土が醸成されている一方、各取組みの更なる実質化やボトムアップ型 FD の推進が課題として挙げられます。こうした課題に対し、学修・教育活動に好循環を生み出し、学修者本位の教育を実現していくとともに、これまで教育開発センターで培ってきた FD に関する知見と、新たに加わる教育 DX に関する知見とを掛け合わせることで、学修効果・教育効果を最大化していくことを目指します。

2022 年度に「[学校法人東京理科大学中期計画 2026 \(2022～2026 年度\)](#)」が策定され、法人としてこれに基づく教育施策の検討が開始されました。センターではこの中期計画を踏まえ、センターの目的である「本学学生及び教員の学修・教育活動の変革、一層の深化及び好循環を生み出し、学修者本位の教育を実現すること」の更なる実質化を図るため、独自の「年次計画」を策定しました。年次計画は柔軟な対応ができるよう、5 年 2

期（2 年+3 年）で設定しており、2 期目の始まりとなる 2024 年度は、各種取組の改善を行いました。例えば、項目反応理論を用いた「学修到達度測定 WEB テスト」の開発・実施について、全学部・学科の新入生を対象に、2023 年度に実施を開始した「物理」「化学」のテストは、統計学の専門家による出題問題の分析を行い、問題の難易度・分野の改善を行うとともに、2024 年度の実施結果を踏まえた改善点へのシステム改修を実施したことで、より効率的に学修到達度測定を行うことが可能となりました。

このほか、大学設置基準の改正によって、授業の一部を担当させる授業嘱託（授業 TA）の導入に伴い、授業の一部を担当するうえで身に付けるべき事項等を修得することを目的とした「授業 TA 研修」を、事前の動画視聴、ワークシートの作成やディスカッションを含む対面形式の研修、それらを踏まえた事後のレポート課題提出の内容で実施しました。

また、「授業改善のためのアンケート」では、未回答者へリマインド画面が表示されるようにシステム改修を行うことで、回答率を向上させ、より多くの意見を聴取して点検・分析を行い、授業改善への取り組みを行えるようにしました。

以上のようにセンターでは、本学の教育 DX 及び FD について、各学部・研究科・教養教育研究院が実施主体となる「ボトムアップ型」と、センターが実施主体となる「トップダウン型」の双方において活性化するよう、これからも活動を全学的に推進していきます。

本学の教育（学生の学び）を継続していくためにも、教職員の皆様からのより一層のご支援・ご協力を心よりお願い申し上げます。



センター設置までの経緯・変遷

教育委員会の設置とその背景

本学における組織的な FD 活動の開始は、2002 年 4 月の「教育委員会」発足まで遡る。教育委員会は「本学の教育の理念及び目標並びに教育の内容及び方法についての組織的な研修、調査及び研究を実施するとともに、本学の教育研究の質的改善及び向上に貢献すること」を目的として設置された。その 3 年半前、1998 年の大学審議会の答申「21 世紀の大学像と今後の改革方策について」において、「各大学は、個々の教員の教育内容・方法の改善のため、全学的にあるいは学部・学科全体で、それぞれの大学等の理念・目標や教育内容・方法について組織的な研究・研修（Faculty Development：以下「FD」という。）の実施に努めるものとする」と提言され、日本の大学改革の一環として FD について議論されるきっかけとなった。翌 1999 年に大学設置基準が改正され、「大学は、当該大学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究の実施に努めなければならない」と規定された。これがいわゆる「FD の努力義務化」である。これに対応するため、本学では教育委員会を設置し、教育委員会のもとで FD 活動を組織的に推進することとなった。

教育委員会での活動

教育委員会では、主に、新しい成績表記（GP）と成績評価法（GPA）の導入、シラバスの Web 化、授業評価アンケートの Web 化などに関する検討を行った。

教育開発センターへの改組

教育委員会の下で FD 活動を開始した一方で、課題も見つかった。1 点目は、より発展的で組織的な FD 活動を行うにあたり、学内に存在する複数の委員会における FD 活動が有機的に連携できておらず、委員会組織による FD 推進の限界が感じられたことである。2 点目は、大学組織として教育改革に取り組むためには、FD 推進の母体となる全学的な組織が必要と感じられたことである。これらの課題を解消するため、2006 年 3 月に「東京理科大学における FD 推進」を学長宛に答申し、その結果、教育委員会を発展的に改組した「教育開発センター（Center for Faculty Development）」を 2007 年 10 月に設置することとなった。その後、2008 年の大学設置基準の改正では、「大学は、当該大学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする」と FD が義務化され、本学における FD 活動に係る議論はさらに活発になる。

教育開発センターでの活動

教育開発センターでは、主に、シラバスの充実化、GPA を用いた入学後の学力追跡調査、学習相談室の設置、補習講義の実施等に関する事項の検討を行った。また、2010 年 10 月には、教育開発センターの下に学部教育関係の FD に係る諸問題を扱う「学部教育分科会」を、大学院教育関係の FD に係る諸問題を扱う「大学院教育分科会」を設置した。

教育開発センター委員会の設置

2007 年の大学院設置基準の改正では、「大学院は、当該大学院の授業及び研究指導の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする」と規定され、学部教育よりも 1 年早く、大学院における FD が義務化された。また、中央教育審議会の答申「新時代の大学院教育」（2005 年 9 月）や、文部科学省「大学院教育振興施策要綱」（2006 年 3 月）等により、大学院教育の実質化（教育課程の組織的展開の強化）、国際的な通用性・信頼性の向上（大学院教育の質の確保）等が求められるようになってきた。そのような背景に対応するため、各研究科幹事会の下に「FD 委員会」を設置し、研究科単位での FD 活動を推進した。

また、「学部教育分科会」、「大学院教育分科会」の上位審議機関として「教育開発センター委員会」を設置し（その後、2015 年 4 月に両分科会は「教育開発センター委員会」に統合）、教育開発センター全体の連絡調整、予算・決算等のほか、学部及び大学院教育全体に係る諸問題についての検討、各研究科の FD 活動の支援・推進を取り扱った。

教育開発センター委員会の委員は学部・研究科から選出される「副学部長又は FD を担当する幹事の長」及び「生命科学研究科の専攻主任」等で構成し、「学部 FD 幹事会」、「研究科 FD 幹事会」に代わる組織として、FD を担当する幹事で構成される「FD 幹事会」を設置し、学部・研究科での一体的な取組みを可能とした。

総合教育機構の設置

2011 年 10 月には、教育開発センターの上位組織として、教育の支援を横断的、総括的に取り扱う機能を集約する「総合教育機構」が設置された。

「総合教育機構」の下には教育開発センターのほか、「教職支援センター」、「理数教育研究センター」、「情報教育センター」が設置され、機構内で有機的に連携し、全学的に教育の改善、改革に取り組む体制が整備された。

教育支援機構への改組

学校教育法の改正（2015 年 4 月）に伴い、大学のガバナンス体制の見直しを行うため、「総合教育機構」を「教育支援機構（Organization for Education Advancement）」として発展的に改組した。「全学的な教育方針の策定並びに教育施策及び教育課程の企画を行うことで、本学の学長の

教育に係る政策の決定及び推進を支援するとともに、各学部及び研究科における教育の充実に寄与すること、また、本学における組織的な教育活動の支援、活性化及び質的向上を図るとともに、理数系分野の教育方法及び教育指導方法に関する研究とその実践及び成果の発信を通じて、我が国の科学技術知識普及の進展に寄与すること」を目的として、教育開発センター、教職教育センター、理数教育研究センター及び情報教育センター（2018年3月末廃止）でそれぞれ検討していた教育関連の各種課題を集約し、全学的な観点で議論し、「方針の決定」、「企画の立案」等を行うこととした。

教養教育の検討

1991年に大学設置基準が大綱化されて以降、教養教育について全学的見地から検討される機会はなかったが、2013年3月に「教養教育検討専門小委員会」が学長室の下に設置されたことで検討が開始された。2013年12月、「東京理科大学における教育・研究のあるべき姿」と連動させ、全学的な教養教育の改革を推進すること」を目的として、教育開発センターの下に「教養教育分科会」が設置されることとなった（その後、2015年10月に「教養教育部会」に名称変更）。

2018年4月には、「本学における教養教育の充実に係る企画を立案及び実施し、各学部及び研究科の教養教育に係る活動と連携するとともに、教養及び教養教育に関する調査及び研究を総合的に行うことにより、本学の教養教育の持続的な発展及び質の向上に資すること」を目的として、教養教育部会を「教養教育センター（Liberal Arts Center for Education and Research：略称LACER）」に発展的に改組した。

教養教育センターでは、主に教養教育のあり方について検討を行った。2021年4月には、「本学における教養教育の目標の実現のために、教養と専門が有機的に連携し並列した教育を展開することで、複雑化・多様化する社会で活躍できる人材を育成するとともに、本学の教養教育・研究の持続的な発展及び質の向上に資すること」を目的として、教養教育を担当する教員により構成する部局として「教養教育研究院」が設置された。その後1年間の移行期間をもって、教養教育センターを2022年3月末で廃止した。

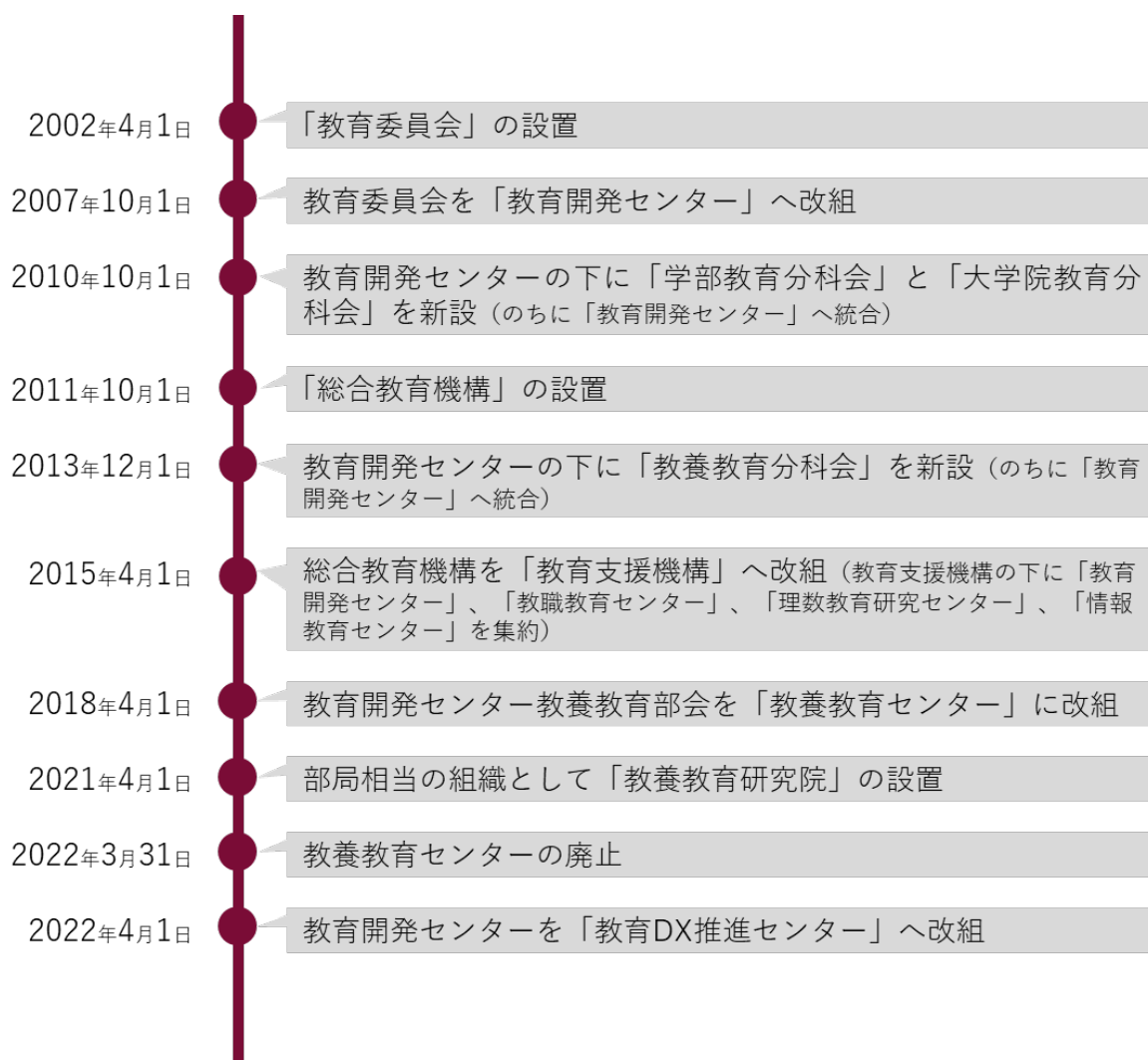
教育 DX 推進センターの設置

近年の Society 5.0 時代、ウィズコロナ・ポストコロナ時代に即した大学の在り方として、「教育 DX」を加速度的に推進することが大学にとって急務となった。また、これまでの教育改革・教育改善活動に加え、デジタル技術を積極的に活用した教育をより一層取り入れた教育手法への転換を図ることが必要となったことから、2021年3月に「教育 DX 推進組織検討 WG」が設置され、新組織設置に向けての検討が開始された。

そして2022年4月、教育開発センターを発展的に改組し、「ICTの活用、FD活動の推進等により、本学学生の学修支援及び教員の教育支援の充実に資するとともに、本学における教育 DX の推進により、効果的・効率的な教育活動による教育の質的転換の実現を図ることで、本学学生及び教員の学修・教育活動の変革、一層の深化及び好循環を生み出し、学修者本位の教育を実現す

ること」を目的として、「教育 DX 推進センター（Center for Teaching, Learning and Technology：略称 TUS-CTLT）として設置した。

年表





概要と構成

目的

センターは、ICT の活用、FD 活動の推進等により、本学学生の学修支援及び教員の教育支援の充実を図るとともに、本学における教育 DX の推進により、効果的・効率的な教育活動による教育の質的転換の実現を図ることで、本学学生及び教員の学修・教育活動の変革、一層の深化及び好循環を生み出し、学修者本位の教育を実現することを目的としている。

概要

センターは、前項に掲げる目的を達成するため、前身の教育開発センターを発展的に改組するかたちで 2022 年 4 月 1 日に新設され、「FD の全学推進組織」、「教育 DX の全学推進組織」としての役割を担っている。センターにおける主な活動内容は以下のとおり。

- (1) 学生の学修支援に関すること
- (2) 教員の教育支援に関すること
- (3) 教育 DX の推進に関すること
- (4) 教育効果の評価及び新たな教育方法の開発に関すること
- (5) その他本学の教育活動に関すること

なお、センターでは、教育 DX 及び FD を以下のとおり定義している。

① 教育 DX

未来を拓く実力を学生に身に付けさせることを目的に、デジタル技術を積極的に活用することで、学生の学修活動及び教員の教育活動に変革をもたらし、学修効果・教育効果の最大化を図ること

② FD

ア 教員個人を対象とした、授業内容・方法を検証・改善し、向上させるための取組み
(ミクロレベルの FD)

[例] シラバスの点検・改善、アクティブ・ラーニングの促進

イ 学科・専攻・キャンパス教養部を対象とした、教育課程の検証・改善に関する取組み
(ミドルレベルの FD)

[例] FD ポートフォリオ、卒業予定者対象アンケートの実施

ウ 教員個人を対象とした、教育を行う上での意識を向上させるための取組み
(ア、イの基盤となる FD)

[例] 新任教員向け FD プログラム、FD セミナー

組織

センターにおける具体的な活動を検討するため、FD 活動の全学推進を主な機能とする「TL (Teaching & Learning) 部門」と、教育 DX の全学推進を主な機能とする「DX (Digital Transformation) 部門」の 2 つの部門を設置している。

両部門が有機的に関与することで効果的・効率的な教育活動による教育の質的転換を図り、学修者本位の教育の実現に向けた各種施策を検討している。

委員会組織としては、センターの活動に関する事項や予算及び決算に関する事項を審議する「教育 DX 推進センター委員会」（以下「センター委員会」という。）を設置し、その下に「DX 部門分科会」と「TL 部門分科会」を置いている。さらに、その下に小委員会を設けている。

教育 DX 推進センター委員会

センター委員会は、以下のメンバーをもって組織され、センターの活動に関する事項や予算及び決算に関する事項を審議する。

- (1) 教育 DX 推進センター長
- (2) 副学部長又は FD を担当する幹事のうちから各学部の学部長が指名する者
- (3) FD を担当する幹事のうちから教養教育研究院長が指名する者
- (4) 生命科学研究科の専攻主任
- (5) 教育 DX の推進に関する知見を有する者として学長が指名した者
- (6) 学務部長

DX 部門分科会

DX 部門分科会の下に以下の小委員会を設置している。

■ 教育 DX 推進小委員会

…大学教育の在り方の検討、新たな教育方法の開発・導入、ガイドライン作成、教育活動への ICT 導入・活用に係る企画・実施支援

■ 教学 IR 小委員会

…TL 部門で実施した各種アンケート調査や学生情報等を基にした教育分析・効果検証・改善支援

TL 部門分科会

TL 部門分科会の下に以下の小委員会を設置している。

■ 学修支援小委員会

…ICT ツール (CLASS、LETUS 等) の利用方法の支援、情報倫理教育の実施、学習相談室の実施、学習ポートフォリオシステムの活用支援、ロジカルライティング講座の実施、入学前学習支援の実施、プレ FD の実施、TA ハンドブックの作成・配布、授業 TA 研修の実施等

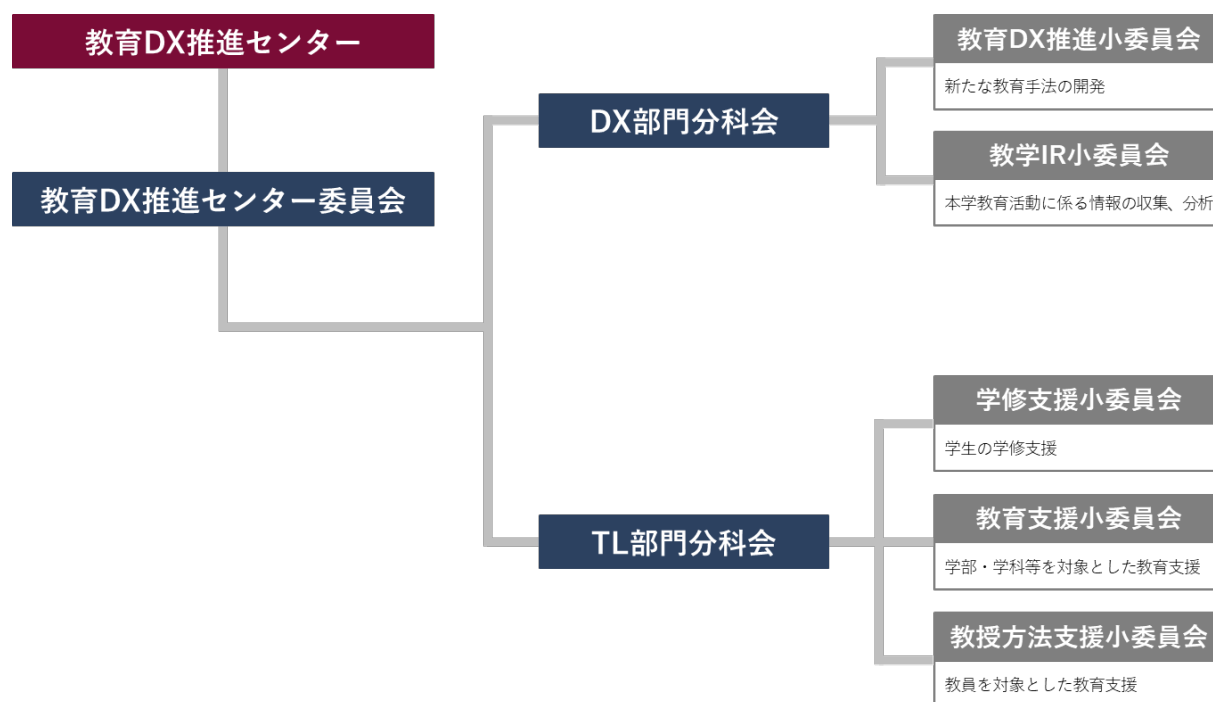
■ 教育支援小委員会

…学習実態調査の実施、TOEIC-IP テストの実施、FD ポートフォリオ、授業改善のためのアンケートの実施、卒業予定者対象アンケートの実施、学生参画 FD、教育用ソフトウェアの補助・支援、学部等 FD 活動推進経費等

■ 教授方法支援小委員会

…ICT ツールの利活用支援、アクティブ・ラーニングの促進、シラバスの点検・改善、ICT の新技術活用に係る周知や講習会等の啓発活動、授業改善のためのアンケート結果に基づく学部選定授業の分析、新任教員向け FD プログラム、FD セミナー等

教育 DX 推進センター構成図





活動報告

4-1 教育 DX 推進センター委員会の開催日程及び議案

教育 DX 推進センター委員会

日時			議題
2024 年 4 月 26 日	審議	1	教育 DX 推進センター 2023 年度振り返り及び 2024 年度以降の計画について
		1	2024 年度前期委員会開催日程について
	報告	2	2023 年度教育 DX 推進センター予算実績報告及び 2024 年度予算について
		3	FD 関係出張に対する旅費等の補助について
2024 年 7 月 10 日	メール 審議	1	2023 年度教育 DX 推進センター活動報告書（案）の確認について
2024 年 9 月 30 日	審議	1	2025 年度教育 DX 推進センター予算申請について
	報告	1	2024 年度後期委員会開催日程について

教育 DX 推進センター委員会 DX 部門分科会

日時			議題
2024 年 5 月 16 日	審議	1	2023 年度活動報告書について
		2	学修ポートフォリオシステムの改善検討について
	報告	1	2024 年度 新入生学修到達度測定 WEB テストの設問分析結果について
		2	各小委員会活動報告及び活動計画
2024 年 7 月 18 日	審議	1	大学教育の在り方（仮）の検討について
		2	学修到達度測定 WEB テストのシステム改修について
		3	学修ポートフォリオシステムの改善検討について
	報告	1	Qualtrics の活用について
		2	各小委員会活動報告及び活動計画
2024 年 9 月 12 日	審議	1	学修ポートフォリオシステムに関する調査結果を踏まえた検討状況・結果および帳票出力機能について
		2	学修ポートフォリオシステムの改善検討について
	報告	1	2024 年度後期教育 DX 推進センター委員会 DX 部門分科会の開催日程について
		2	各小委員会活動報告及び活動計画
2024 年 11 月 13 日	審議	1	学修ポートフォリオシステムの改善検討について
		2	個別最適な学修支援システムの構築について
	報告	1	学修ポートフォリオシステムに係る分析・検証結果（2019～2023 年度）と傾向及び今後の分析・検証の方向性について

日時			議題
2024 年 11 月 13 日 (続き)	報告	2	2023 年度授業改善のためのアンケート結果に基づく授業外学修時間の状況について
		3	各小委員会活動報告及び活動計画
2024 年 11 月 14 日	メール 審議	1	2024 年度における個別最適な学修支援システムの構築について
2025 年 1 月 16 日	審議	1	学修ポートフォリオシステムの改善検討について
		1	2023 年度学修状況アンケートで面談の対象となった学生の追跡調査について
	報告	2	個別最適な学修支援システムの構築について
		3	各小委員会活動報告及び活動計画
2025 年 3 月 13 日	審議	1	教育 DX 推進センターDX 部門分科会の 2024 年度振り返り及び 2025 年度業務計画について
		1	2025 年度前期教育 DX 推進センター委員会 DX 部門分科会の開催日程について
	報告	2	個別最適な学修支援システムの構築について（委託結果の報告）
		3	学修ポートフォリオシステムに係る分析・検証結果について
		4	各小委員会活動報告及び活動計画

教育 DX 推進センター委員会 TL 部門分科会

日時			議題
2024 年 4 月 26 日	審議	1	2025 年度教育用ソフトウェアに係る予算要望書の提出について
		2	2024 年度学習相談室実施要項 富士見地区の開室時間の変更について
	報告	1	2024 年度 教育 DX 推進センター 教育用ソフトウェア一覧
		2	2023 年度（令和 5）年度私立大学等改革総合支援事業（タイプ 1）への申請状況と今後の対応について
		3	2023 年度（令和 5）年度私立大学等経常費補助金「教育の質に係る客観的指標調査票」への回答状況と今後の対応について
		4	2024 年度 新入生学修到達度測定 WEB テストの実施結果について
		5	2024 年度 GPS-Academic の実施調査について（受検期間の延長）
		6	学修ポートフォリオシステムにおける各学科独自データ（2024 年度前期分）の掲載内容調査及び GAKUEN への登録について
		7	2024 年度授業 TA 研修の実施結果報告について
		8	FD ポートフォリオの更新について
		9	2023 年度後期授業改善のためのアンケート集計結果について
		10	2023 年度「授業改善のためのアンケート」結果に基づく学部選定授業の分析の実施について
		11	2022 年度「授業改善のためのアンケート」結果に基づく学部選定授業の授業参観実施について
		12	各学部・研究科・教養教育研究院 FD 活動報告

日時			議題
2024 年 4 月 26 日 (続き)	要旨	1	2024 年度シラバスに関する FD 実施状況、点検・整備状況の調査結果について
		2	教育 DX 推進センターにおける取り組みのホームページへの公開について (2024 年 4 月)
2024 年 5 月 30 日	審議	1	2024 年度教育用ソフトウェアを活用するためのセミナー等に係る選定結果について
		2	2024 年度「学部等 FD 研修推進経費」に基づく取組の選定結果について
	報告	1	2024 年度学部新入生学習実態調査の実施結果について
		2	学修ポートフォリオシステムにおける学科の独自運用等の調査について
		3	第 38 回 FD セミナーの開催について (新任教員向け)
		4	各学部・研究科・教養教育研究院 FD 活動報告
		5	DX 部門分科会報告
	要旨	1	2024 年度入学前学習支援実施報告
		2	2024 年度 [新入生対象] TOEIC-IP テスト学科別平均点について
		3	第 36 回 FD セミナーの報告・共有について
		4	教育 DX 推進センターにおける取り組みのホームページへの公開について (2024 年 5 月)
2024 年 6 月 24 日	審議	1	2023 年度教育 DX 推進センター活動報告書 (案) について
		2	2025 年度入学前学習支援の実施について
	報告	1	2023 年度卒業予定者対象アンケートの実施結果について
		2	2024 年度 教育 DX 推進センター 教育用ソフトウェア学科負担について
		3	2023 年度受検者向け GPS-Academic フォローアップガイダンスについて (報告)
		4	2025 年度入学前学習支援講座 (通信制) 及び学習課題の実施調査について
		5	各学部・研究科・教養教育研究院 FD 活動報告
	要旨	1	2023 年度後期・2024 年度入学時学修ポートフォリオシステムの活用状況について
		2	2024 年度 [学部 3 年生対象] TOEIC-IP テスト学科別平均点について
		3	2022 年度「授業改善のためのアンケート」結果に基づく学部選定授業の授業参観実施報告について
2024 年 7 月 25 日	審議	1	2024 年度学生参画 FD の実施について
		2	2025 年度教育用ソフトウェア予算要望状況について
	報告	1	2024 年度英語教授法セミナーについて
		2	2024 年度における「学部等 FD 研修推進経費」に基づく理学部第一部における取組の変更について
		3	学修状況アンケート (2024 年度第 1 回実施分) の実施結果について
		4	2024 年度「卒業生アンケート」の実施について
		5	2024 年度ロジカルライティング講座 実施報告

日時			議題
2024 年 7 月 25 日 (続き)	報告	6	2024 年度学修ポートフォリオシステムに係る入力率の目標値について
		7	2024 年度前期学修ポートフォリオシステムの活用状況の確認について
		8	各学部・研究科・教養教育研究院 FD 活動報告
		9	DX 部門分科会報告
		10	教育 DX 推進センター委員会の次期委員選出について
	要旨	1	2023 年度「授業改善のためのアンケート」結果に基づく学部選定授業の選定結果について
		2	第 37 回 FD セミナーの報告・共有について
		3	教育 DX 推進センターにおける取り組みのホームページへの公開について (2024 年 7 月)
2024 年 9 月 30 日	審議	1	2025 年度入学前学習支援講座実施要項の改定について
		2	2024 年度卒業予定者対象アンケートの実施について
		3	2025 年度シラバスのネイティブチェック実施について
	報告	1	2024 年度学生参画 FD 実施概要について
		2	FD 活動の実施状況について
		3	「授業改善のためのアンケート」未回答者へのログイン強制遷移に係る詳細及び周知について
		4	2023 年度後期・入学時学修ポートフォリオシステムの入力率について (再報告)
		5	学修ポートフォリオシステムに関する調査結果を踏まえた検討状況・結果および帳票出力機能について
		6	第 38 回 FD セミナー開催報告
		7	第 39 回 FD セミナーの開催について
		8	2023 年度「授業改善のためのアンケート」結果に基づく 2024 年度後期学部選定授業の授業参観実施について
		9	各学部・研究科・教養教育研究院 FD 活動報告
		10	DX 部門分科会報告
	要旨	1	2024 年度教育用ソフトウェアを活用するためのセミナー開催報告
		2	2024 年度学部新入生学習実態調査の検証結果報告
		3	2025 年度入学前学習課題の実施スケジュール及び「学科独自の学習課題」の取り扱いについて
		4	2025 年度入学前学習支援講座における地区総括責任者及び科目担当責任者の選出について
		5	学習相談室における地区総括責任者及び科目担当責任者の選出について
		6	2023 年度後期授業改善のためのアンケートの結果をふまえた各学部学科・研究科専攻等の活用策について

日時			議題
2024 年 9 月 30 日 (続き)	要旨	7	教育 DX 推進センターにおける取り組みのホームページへの公開について (2024 年 7～9 月)
2024 年 10 月 28 日	審議	1	2025 年度新入生学修到達度測定 WEB テストの実施について
		2	2025 年度以降のシラバスにおける「授業の方法」の表記について
	報告	1	教育 DX 推進センター委員会小委員会委員について
		2	学修ポートフォリオシステム 客観評価レーダーチャート推移の可視化結果に基づく検証・改善について
		3	2024 年度 GPS-Academic の受検率及び受検期間の延長について
		4	2025 年度学部新入生・3 年生対象 TOEIC-IP テストの実施について
		5	2024 年度前期授業改善のためのアンケート集計結果について
		6	各学部・研究科・教養教育研究院 FD 活動報告
	要旨	1	2024 年度学習相談室実施要項 富士見地区の後期開室時間の変更について
		2	教育 DX 推進センターにおける取り組みのホームページへの公開について (2024 年 10 月)
2024 年 11 月 25 日	審議	1	2025 年度学習相談室の実施及び ES の補充について
		2	学修ポートフォリオシステムの改善検討について
		3	2025 年度シラバス作成要項について
	報告	1	学修状況アンケート (2024 年度第 2 回実施分) の実施結果について
		2	GPS-Academic 実施結果の探索的な集計と今後の活用策について
		3	学修ポートフォリオシステムの意義浸透等を図る方策 (学修習慣の定着に関するセミナー) の実施について
		4	学修ポートフォリオシステムにおける各学科独自データ(2024 年度後期分)の掲載内容調査及び GAKUEN への登録について
		5	「INFOSS 情報倫理 2024」の受講状況について
		6	2024 年度卒業予定者対象アンケート実施について
		7	2023 年度授業改善のためのアンケート結果に基づく授業外学修時間の状況について
		8	各学部・研究科・教養教育研究院 FD 活動報告
		9	DX 部門分科会報告
	要旨	1	2024 年度前期学修ポートフォリオシステムの活用状況について
		2	2023 年度卒業予定者対象アンケート結果の検証について
2024 年 12 月 23 日	審議	1	「INFOSS 情報倫理」の受講実施について
		2	2025 年度新入生対象「学習実態調査」の実施について
	報告	1	2024 年度英語教授法セミナーの実施報告について
		2	2024 年度学生参画 FD 実施報告

日時			議題
2024 年 12 月 23 日 (続き)	報告	3	2024 年度卒業生アンケート結果及び課題について
		4	2024 年度 GPS-Academic 実施結果報告
		5	東京理科大学 TA ハンドブック作成及び指導補助者（補助 TA 等）研修の実施把握について
		6	2025 年度学部 3 年生対象の TOEIC-IP テスト実施の周知について
		7	第 39 回 FD セミナー開催報告
		8	2025 年度シラバスに関する FD 実施状況、点検・整備状況の調査について
		9	各学部・研究科・教養教育研究院 FD 活動報告
	要旨	1	2025 年度学部新入生・3 年生対象 TOEIC-IP テスト実施について
		2	2025 年度シラバス作成要項（英訳版）の作成について
		3	2023 年度「授業改善のためのアンケート」結果に基づく 2024 年度後期学部選定授業の授業参観実施報告
		4	教育 DX 推進センターにおける取り組みのホームページへの公開について（2024 年 11 月）
2025 年 1 月 27 日	審議	1	2025 年度ロジカルライティング講座の実施について
		2	2025 年度学習相談室 ES の採用について
	報告	1	2025 年度新入生学修到達度測定 WEB テストについて
		2	学修状況アンケート（2024 年度第 3 回実施分）の実施結果について
		3	授業 TA 研修の 2025 年度実施について
		4	2024 年度 進路先企業対象アンケート結果及び課題について
		5	学修ポートフォリオシステムの意義浸透等を図る方策（学修習慣の定着に関するセミナー）の実施について
		6	第 40 回 FD セミナーの開催について
		7	各学部・研究科・教養教育研究院 FD 活動報告
		8	DX 部門分科会報告
	要旨	1	2025 年度「履修申告期間」「履修申告確認・変更期間」「履修取下げ期間」について
		2	TA ハンドブックの作成について
		3	「INFOSS 情報倫理 2024」の受講状況について（再報告）
		4	2025 年度学習相談室の開室日程について
		5	2024 年度前期学修ポートフォリオシステムの活用状況について（再報告）
		6	2024 年度後期（在学生）、入学時（新入生）における学修ポートフォリオシステムの活用状況の確認について
		7	学修ポートフォリオシステム 客観評価レーダーチャート推移の可視化結果に基づく検証・改善について

日時			議題
2025 年 3 月 24 日	審議	1	教育 DX 推進センターTL 部門 2024 年度振り返り及び2025 年度の計画について
		2	2025 年度学修状況アンケートの実施について
		3	2025 年度授業改善のためのアンケート実施要項の改定について
	報告	1	2025 年度教育用ソフトウェアを活用するためのセミナー等への補助について
		2	2025 年度「学部等 FD 研修推進経費」に基づく取組の募集について
		3	2025 年度 GPS-Academic の実施調査について（依頼）
		4	学修ポートフォリオシステムに係る分析・検証結果について
		5	2025 年度前期 教育 DX 推進センター関連会議の開催日程
		6	各学部・研究科・教養教育研究院 FD 活動報告
		7	DX 部門分科会報告
	要旨	1	剽窃チェックシステム「Feedback Studio」、アンケートシステム「Qualtrics」の活用について
		2	2024 年度教育用ソフトウェアを活用するためのセミナー開催報告
		3	「INFOSS 情報倫理 2025」の周知について
		4	2025 年度ロジカルライティング講座の実施について
		5	2025 年度 TOEIC-IP テストの実施について
		6	2025 年度新任教員向け FD プログラム詳細について

4-2 DX 部門の活動報告

4-2-1 教育 DX 推進小委員会

小委員会委員

期間	2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日まで
委員	◎佐伯昌之 ○渡辺雄貴 鈴木克彦

◎は委員長、○は副委員長を表す。

活動報告

教育 DX 推進小委員会は、大学教育の在り方や、新たな教育手法の開発等、教育 DX 推進に係る検討を中心に活動している。主な活動内容は以下のとおり。

大学教育の在り方の検討

「大学教育の在り方（仮称）」検討の方向性（目標）を検討した結果、今後、「大学が推奨する教育モデル例を明文化し、本学の大学教育の在り方を提示する」こととした。

新たな教育方法の開発・導入、ガイドライン作成（動画コンテンツを活用した授業設計等）

教員が一般的な授業の設計を理論に基づいて行えることを目指し、「授業設計ガイドライン（総論編）」の動画を周知した。教員は簡単な確認テストを受験し、結果に応じて、各授業設計に関するトピック動画（2023 年度新任教員向けの FD プログラム動画を 1～2 分に分割した動画）が、すぐにフィードバックされる。

確認テスト・動画  <https://letus.ed.tus.ac.jp/course/view.php?id=173848>（LETUS・学内限定）

教育活動への ICT 導入・活用に係る企画・実施支援【Qualtrics】

Web アンケート・分析ツール「Qualtrics（クアルトリクス）」を活用し、2021 年度から学修状況アンケートを導入している。本年度も当初の予定どおり 3 回実施した。

■ 目的 学生の学修特性の早期かつ定期的な把握、学生一人ひとりの学修特性に応じたきめ細やかな学修支援

■ 実施時期 (1) 2024 年 5 月、9 月、11 月の 3 回
(2) まず、(1) の各回において全学生対象の「アンケート①」を実施し、その後、①の回答内容から自動的に抽出した対象者に「アンケート②」を実施

■ 対象者 大学院生を含む全学生（創域理工学部・創域理工学研究科は独自の取組みを実施）

■ 実施方法 Qualtrics により実施

■ 設問内容 <https://www.tus.ac.jp/fd/publication/>
 (リンク内 DX 部門分科会 学修状況アンケートまたは別冊資料集 P.17 参照)

■ 学生への フィードバック まず、回答内容から自動的に、相談先を紹介するメッセージを表示する。
 その後、回答内容から自動的に抽出した対象者に対し、フィードバックフローに基づき、各学部・学科、よろず相談室、保健管理センターが連携して個別に連絡を取り、適切な対応を行う。

実施結果

単位：名

実施回	アンケート①		アンケート②				
	回答		回答		対応状況		
	対象	回答者	対象	回答者	対応不要	要対応	
						学修・進路	体調・メンタル等
第1回	13,927	1,180	106	34			
第2回	13,927	792	67	24			
第3回	13,927	621	49	19			
延べ数	-	2,593	222	77			

※灰色網掛け部分は非公開

▶ 教育活動への ICT 導入・活用に係る企画・実施支援【Feedback Studio】

2020 年度に採択された「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン（文部科学省）」を契機として、2021 年度から剽窃チェックシステム「Turnitin Feedback Studio」を導入している。同システムに基づく成績評価の精緻化を継続して実現するため、「各学科等で少なくとも 1 授業は活用する」という方針としており、併せて、2024 年度も引き続き積極的な活用を推奨することとした。

関連項目 [P.42 教授方法支援小委員会「ICT の新技術活用に係る周知や講習会等の啓発活動」](#)

▶ 新たな教育方法の開発・ガイドライン作成（教育 DX を導入した教育手法の開発）【項目反応理論を用いた「学修到達度測定 WEB テスト」の開発】

■ 新入生学修到達度測定 WEB テスト

項目反応理論を用いた「学修到達度測定 WEB テスト」を、新入生を対象に実施し、統計学の専門家によるテスト結果の分析を行った。

また、2025 年度以降の継続実施のため、数学、物理、化学の 3 科目において新学習指導要領を踏まえた追加問題作成を行った。

【2024 年度実施概要】

○ 対 象 2024 年度学部全新生（1 年生）

- 目的 全新生の学修到達度を共通のテストにより測定することで、入試形態に拠らない入学時の各教科の理解度や学習傾向を把握し、各学部における学修指導に活用する
- 活用事例 学生の個別指導への反映、クラス分け、補習科目への参加の促し、退学者・休学者等の傾向分析、カリキュラム改革への反映、全学における教育活動の検証・改善等
- 実施科目 数学、物理、化学（試験時間：各 50 分）
- 実施方法 オンライン（LETUS）※集団受験又は個別受験のいずれかを各学科にて選定
- 実施期間 2024 年 4 月 2 日～10 日（期間内で各学科にて設定）
- 受験者数 数学：3,864 名、物理：2,470 名、化学：1,037 名

■ 活用促進方策の検討

全学的に利用を拡大する場合、システムの操作性や統計専門人材の不足が課題となっているが、2024 年度はテスト結果の分析を基にシステム改善を行った。

▶ 教育のアウトカム（可視化）手法の開発（学修ポートフォリオ等）

■ 学修ポートフォリオの更なる意義浸透を図る資料の作成

学修ポートフォリオシステムでできることの概要を掲載した、同システムの[意義浸透を図るチラシ（P.25）](#)を学生に周知した。

■ 客観評価レーダーチャートの精度向上に向けた検討（他学部他学科科目の取扱いの検討）

学修ポートフォリオシステムの達成度の算出における「他学部他学科履修科目」について、各学科の「他学部他学科科目の取扱い」の登録内容等が 2025 年度入学生分に対して問題なく反映されていることを確認した。

関連項目 [P.21 学修支援小委員会「学修ポートフォリオシステムの活用支援」](#)

■ 学修ポートフォリオシステムの更なる改善の検討

学修ポートフォリオシステムが学生と教員の双方が活用しやすいシステムとするため、2025 年度以降に新たな機能を導入することとした。

4-2-2 教学 IR 小委員会

小委員会委員

期間	2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日まで
委員	◎大浦弘樹 ○池口徹 桂田浩一

◎は委員長、○は副委員長を表す。

活動報告

教学 IR 小委員会は、TL 部門で実施する各種アンケートや教学データ等を基にした教育分析・効果検証・改善支援を中心に活動している。主な活動内容は以下のとおり。

個別最適な「学修支援システム」の構築

■ 個別最適な「学修支援システム」の構築

前年度までの、高パフォーマンス学生の要因分析や GPA の予測変化に係る分析を踏まえ、分析内容と目的を再検討した。

検討の結果、要因を把握しやすい可能性があり、また教員の需要が高いとみられる「退学・休学となりそうな学生の早期発見」に取り組むこととした。

■ 教学データの可視化ツールの検証

学生にフィードバックするにあたり、学生がどのような情報を求めているかを調査するため、学生ヒアリングを実施した。ヒアリング結果をもとに、学生の学修意欲の向上を目的とした「学生が求める既存の教学データの可視化」を検討した。検討の結果、学生への個別フィードバック実施体制に課題があることが明らかになった。

可視化  <https://portal.tus.ac.jp/centis/node/13221> (CENTIS・学内限定 DX 部門 教学 IR 小委員会参照)

■ マニュアルの整備・閲覧権限の検討

何を可視化するか、どのツールでどのように可視化するかの検討に注力した。

TL 部門で実施した各種アンケート調査や学生情報等を基にした教育分析・効果検証・改善支援

■ 学習実態調査の結果分析

例年 4 月に学部新入生を対象に実施している「学習実態調査」の結果分析や精査を行った。

また、TL 部門と協力し、集計結果に 2019 年度からの過去データを新たに追加して経年比較が可能なダッシュボードとした。ダッシュボードは前年に引き続き、学部学科等を各自で絞り込んで表示できる形式で共有している。

この他、卒業予定者対象アンケートとのクロス集計を試行実施した。

関連項目  [P.35 教育支援小委員会「学習実態調査」](#)

■ 卒業予定者対象アンケートの結果分析

例年、卒業を控えた学部生を対象に実施している「卒業予定者対象アンケート」の結果分析や過年度との比較、実施内容の精査を行った。

また、TL 部門と協力し、2023 年度に続いて全学的に WEB 実施とし、集計結果速報と未回答者リストを教職員がリアルタイムで確認・分析できる体制を整えた。

関連項目  [P.37 教育支援小委員会「卒業予定者対象アンケート」](#)

■ 学修ポートフォリオシステムの入力内容の検証

学修ポートフォリオシステムの教育的効果を検証する一助とするために、①記述の有無、②記述文字数、③記述内容の 3 項目について、累積 GPA との関係性を分析した。基礎データとしたのは、各学生の「入学時の目標」及び 1 年生から 3 年生までの「振り返り・次期の目標」の記述内容である。

分析の結果、全ての学年で「振り返り・次期の目標」を記述している学生が、記述していない学生と比べて有意に GPA 平均が高いことが確認されたほか、全ての学年で「振り返り・次期の目標」への記述の文字数と、累積 GPA の間に弱い相関があることが確認できた。また、GPA が高い学生は学修に対する前向きな用語を用いる傾向があり、英語力に関する記述も見られた。

調査・分析結果  <https://portal.tus.ac.jp/centis/node/19764> (CENTIS・学内限定)

関連項目  [P.21 学修支援小委員会「学修ポートフォリオシステムの活用支援」](#)

■ 授業改善のためのアンケート等を踏まえた授業外学修時間の検証

例年、前年度までのアンケート結果を集計し、傾向把握を行っている。昨年度に引き続き、過去数年分の蓄積データを基に授業外学修時間の推移を確認するとともに、科目区分別、授業種別、科目履修学年別に加え、授業実施形態別でも集計し、検証を行った。また、オンライン授業の本格導入前、全面実施中、ハイフレックス型授業や対面授業が中心になった時期を引き続き比較、検証した。

今後も、本学において十分な授業外学修時間が確保されるよう状況の観察を続けるとともに、さまざまな切り口での分析を検討していく。

分析・検証結果  <https://portal.tus.ac.jp/centis/node/19764> (CENTIS・学内限定)

関連項目  [P.36 教育支援小委員会「授業改善のためのアンケート」](#)

4-3 TL 部門の活動報告

4-3-1 学修支援小委員会

小委員会委員

期間	2024 年 4 月 1 日から 9 月 30 日まで	2024 年 10 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日まで
委員	◎西野達哉 ○鈴木克彦 佐竹彰治 塚本良道	◎西野達哉 ○鈴木克彦 佐竹彰治 石塚正基

◎は委員長、○は副委員長を表す。

活動報告

学修支援小委員会は、学習相談室や入学前学習支援等、学生の学修を支援する取組みを中心に活動している。主な活動内容は以下のとおり。

ICT ツール（CLASS、LETUS 等）の利用・活用方法の支援

本小委員会では、各学生が本学の各種 ICT ツールを活用できるようになるための支援活動を行っている。

関連項目 [P.42 教授方法支援小委員会「ICT の新技術活用に係る周知や講習会等の啓発活動」](#)

情報倫理教育（INFOSS 情報倫理）

情報セキュリティに関する基本的な知識を習得し、さらに継続的な教育を実施することで、情報セキュリティに関する一人ひとりの意識・行動を変え、組織的にそのルールを守る風土を作ることが目的として、2018 年度から、e-learning による情報セキュリティ教育「INFOSS 情報倫理」を実施している。

2024 年度も学部新入生を重点対象として実施した。

学修ポートフォリオシステムの活用支援

■ 学修ポートフォリオシステムとは

学修ポートフォリオシステムは「学修ポートフォリオ」と「TUS ルーブリック」により構成している。各機能の概要やイメージ図は以下のとおり。

○学修ポートフォリオ

学生が定期的に確認した学修成果やプロセスを示す資料を継続的に蓄積する機能のこと。TUS ルーブリックに基づく評価レーダーチャートと、学生自身による振り返り・目標の文章及び成果物を蓄積している。

○TUS ルーブリック

卒業までに学修・習得することが期待される能力（評価項目）と達成度を記した一覧表であり、各学科の卒業認定・学位授与の方針における記載内容を評価項目のかたちに分解する形式で作成している。

学生の学修成果は、TUS ルーブリックに基づき、学生自身が入学時から当該学期までの達成度を入力する「自己評価」と、学生が取得した単位、成績等から自動算出される「客観評価」の2つの形式で把握・測定するとともに、レーダーチャートにより可視化している。

参考📖 TUS ルーブリック、評価項目と科目の対応一覧 https://www.tus.ac.jp/fd/ict_tusrubric/

TUS ルーブリック イメージ図

各学科の卒業認定・学位授与の方針



分りやすく
分解

TUSルーブリック

卒業までに学修・習得することが期待される能力（**評価項目**）と**達成度**を記した一覧表。
各科目がルーブリックのどの評価項目とつながるかを示す対応表（**評価項目と科目の対応一覧**）と併せて、履修計画の立案等に役立てる。

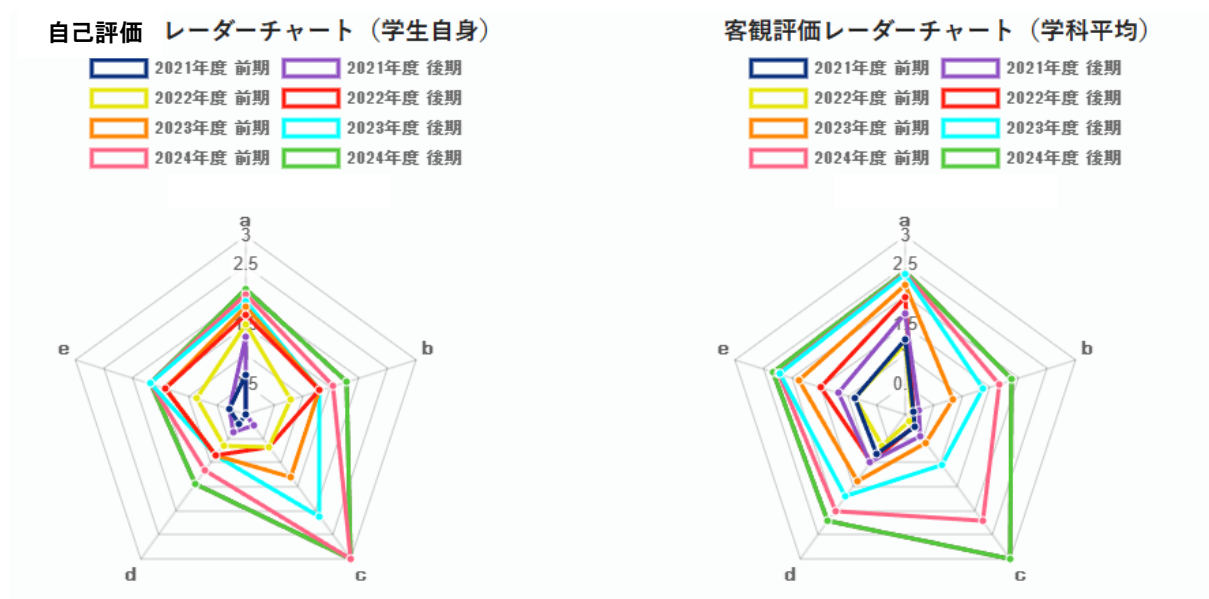
TUS ルーブリックの例：理学部第一部 物理学科

評価項目		ルーブリックによるレベル評価						
記号	名称	0	0.5	1	1.5	2	2.5	3
a	基礎学力	基本的な物理法則と数学の手法を身につけていない。	0と1の間	基本的な物理法則と数学の手法を身につけている。	1と2の間	基本的な物理法則と数学の手法を身につけ、活用できる。	2と3の間	基本的な物理法則と数学の手法を深く理解し、様々な場面で応用できる。
b	専門学力（古典物理学）	解析力学、電磁気学など古典的な物理学に関する高度な専門知識、数学的能力を身につけていない。	0と1の間	解析力学、電磁気学など古典的な物理学に関する高度な専門知識、数学的能力を身につけている。	1と2の間	解析力学、電磁気学など古典的な物理学に関する高度な専門知識、数学的能力を身につけ、活用できる。	2と3の間	解析力学、電磁気学など古典的な物理学に関する高度な専門知識、数学的知識を深く理解し、様々な場面で応用できる。
c	専門学力（現代物理学）	量子力学、統計力学など現代物理学に関する高度な専門知識、数学的能力を身につけていない。	0と1の間	量子力学、統計力学など現代物理学に関する高度な専門知識、数学的能力を身につけている。	1と2の間	量子力学、統計力学など現代物理学に関する高度な専門知識、数学的能力を身につけ、活用できる。	2と3の間	量子力学、統計力学など現代物理学に関する高度な専門知識、数学的知識を深く理解し、様々な場面で応用できる。
d	問題発見、解決能力	論理的思考方法と実験技術等の実践的能力を身につけていない。問題を発見し目標を設定することができない。	0と1の間	論理的思考方法と実験技術などの実践的能力を身につけており、問題を発見し達成目標を設定できる。若干の課題はあるものの報告書をまとめ、プレゼンテーションできる能力を身につけている。	1と2の間	論理的思考方法と実験技術などの実践的能力を身につけ、活用できる。達成目標を設定し計画を立てて問題解決を実行でき、結果を破綻なく報告書にまとめ、プレゼンテーションできる能力を身につけている。	2と3の間	論理的思考方法と実験技術などの実践的能力を十分に身につけている。問題発見、解決を実行し、結果の検証、評価を正しく行うことができる。結果を報告書に論理的にまとめ、説得力のあるプレゼンテーションを行うことができる。
e	教養	一般教養を身につけていない。	0と1の間	一般教養を身につけている。	1と2の間	一般教養を身につけ、科学技術の役割と責任を自覚している。	2と3の間	一般教養を十分に身につけ、科学技術と責任を深く理解しており、物理学を通じ社会へ貢献することができる。
f	語学（英語）	英語でコミュニケーションをとるための言語表現力と基礎的知識を身につけていない。	0と1の間	英語での言語表現力と基礎知識を身につけ、英語で日常的なコミュニケーションができる。	1と2の間	英語での言語表現力と基礎的知識を身につけており、英語で発表したり意見を述べることができる。	2と3の間	優れた英語表現力、基礎的知識を十分に身につけ、活用できる。英語を用いて議論することができる。

達成レベルの目安を 0～3 まで 0.5 刻みで表示

卒業認定・学位授与の方針を分解した評価項目

学修ポートフォリオシステム 客観評価レーダーチャート画面



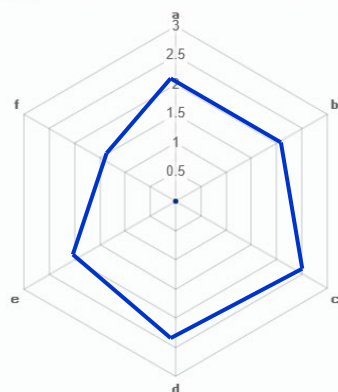
学修ポートフォリオシステム ルーブリックによる達成レベルの自己評価レーダーチャート画面

理学部第一部 物理学科(2018年度～入学生適用)

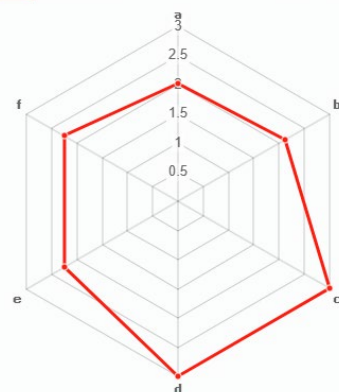
	評価項目	評価項目説明	ルーブリックによる達成レベル評価						
			0.0	0.5	1.0	1.5	2.0	2.5	3.0
a	基礎学力	基本的な物理法則に関する知識と物理学を記述するために必要な基礎的な数学的手法を身につけていない。	0と1の間		基本的な物理法則と数学的手法を身につけている。	1と2の間	基本的な物理法則と数学的手法を身につけ、活用できる。	2と3の間	基本的な物理法則と数学的手法を深く理解し様々な場面で活用できる。
b	専門学力(古典物理学)	解析力学、電磁気学など古典的な物理学に関する高度な専門知識と物理現象をモデル化し数学的に記述する能力を身につけていない。	0と1の間		解析力学、電磁気学など古典的な物理学に関する高度な専門知識、数学的能力を身につけている。	1と2の間	解析力学、電磁気学など古典的な物理学に関する高度な専門知識、数学的能力を身につけ、活用できる。	2と3の間	解析力学、電磁気学など古典的な物理学に関する高度な専門知識、数学的知識を深く理解し、様々な場面で活用できる。
c	専門学力(現代物理学)	量子力学、統計力学など現代物理学に関する高度な専門知識と物理現象をモデル化し数学的に記述する能力を身につけていない。	0と1の間		量子力学、統計力学など現代物理学に関する高度な専門知識、数学的能力を身につけている。	1と2の間	量子力学、統計力学など現代物理学に関する高度な専門知識、数学的能力を身につけ、活用できる。	2と3の間	量子力学、統計力学など現代物理学に関する高度な専門知識、数学的知識を深く理解し、様々な場面で活用できる。
d	問題発見、解決能力	実験技術、情報処理、データ解析等の実践的能力と論理的思考方法を身につけている。この論理的思考方法と実験技術等を用いて、問題発見し達成目標を定め、結果を報告書にまとめ、プレゼンテーションで発表することができる。	0と1の間		論理的思考方法と実験技術などの実践的能力を身につけており、問題発見し達成目標を設定できる。若干の瑕疵はあるものの報告書にまとめ、プレゼンテーションで発表することができる。	1と2の間	論理的思考方法と実験技術などの実践的能力を身につけ、活用できる。達成目標を設定し計画を立てて問題解決を実行でき、結果を破綻なく報告書にまとめ、プレゼンテーションで発表することができる。	2と3の間	論理的思考方法と実験技術などの実践的能力を十分に身につけている。問題発見、解決を実行し、結果の検証、評価を正しく行うことができる。結果を報告書に論理的にまとめ、説明力のあるプレゼンテーションを行うことができる。
e	教養	科学技術の役割と責任を自覚し、物理学を通じて真に豊かな社会の実現に取り組んでいくことができる教養を身につけている。	0と1の間		一般教養を身につけている。	1と2の間	一般教養を身につけ、科学技術の役割と責任を自覚している。	2と3の間	一般教養を十分に身につけ、科学技術と責任を深く理解しており、物理学を通じて社会へ貢献することができる。
f	語学(英語)	英語を用いてコミュニケーションをとるための言語表現力と基礎的知識を身につけていない。	0と1の間		英語での言語表現力と基礎知識を身につけ、英語で日常的なコミュニケーションができる。	1と2の間	英語での言語表現力と基礎的知識を身につけており、英語で発表したり意見を述べることができる。	2と3の間	優れた英語表現力、基礎的知識を十分に身につけ、活用できる。英語を用いて議論することができる。

○ チャートを表示

自己評価レーダーチャート(入学から対象学期まで)



客観評価レーダーチャート(入学から対象学期まで)



学修ポートフォリオシステム レーダーチャートの学年ごとの推移例

学年	1年生	2年生	3年生	4年生
評価 レーダーチャート				
今期の振り返り	英語の資格の取得などの目標を決めて取り組めばよかった。	今期は1限の授業に出席できず、授業内容を把握できない部分があった。	自分は理解しているつもりでも、他者にうまく説明できない部分があった。	卒業研究を納得のいく形で発表でき、教授からも褒めてもらった。
次の半期の目標	毎日少しずつ英語と力学と電磁気を自習する。	出席をして、専門科目の深い理解に努めたい。	プレゼンテーション、レポートを細かく作ってきたい。	

■ 学修ポートフォリオシステムの活用（これまで）

学修ポートフォリオへの学修成果の蓄積は、TUS ルーブリックの客観評価レーダーチャートを除き、学生自身が定期的に行うこととしている。具体的には、半期に一度、自身の学修成果を構成する要素である成績評価を踏まえ、TUS ルーブリックに基づく自己評価を行うとともに、半期の振り返りを文章で蓄積している。

蓄積された学修成果は、各学部・学科において、TUS ルーブリックにより卒業認定・学位授与の方針に明示した学修成果の達成状況を把握することで、達成状況に基づく卒業認定・学位授与の方針、教育課程等の見直しに活用しているほか、客観評価と自己評価の内容を踏まえた学修指導に活用している。

なお、同システムについては、2018 年度に教育開発センター（当時）で実施した検証、東京理科大学大学教育再生加速プログラム評価委員会からの指摘、学生視点での検証結果により、「教職員・学生に対する意義浸透が十分でない」といった課題が浮き彫りになったことから、「システム改修（「入力率の動機づけとなる学科独自データの掲載機能」、「履修計画に基づく客観評価レーダーチャート表示機能」等）」、「入力率の目標値設定」、「客観評価レーダーチャート推移の可視化による教育改善等への活用」により課題解消に向けた検討を進めてきた背景がある。

■ 学修ポートフォリオシステムの活用（2024 年度）

2024 年度は、これまでの検討内容等を踏まえ、以下のことを実施した。

- 入力率の目標値（全学平均）を 50%に設定
- 客観評価レーダーチャート推移の可視化結果に基づく検証（卒業時に「達成度が 1.8（プロット点最大値の 60%）未満の評価項目がある」等）
- DX 部門 教学 IR 小委員会とともに、学修ポートフォリオシステムの入力内容の検証
- DX 部門 教育 DX 推進小委員会とともに、本システム意義浸透等を図る方策「学修習慣の

定着に関するセミナー」を実施

- 2022 年 9 月に LETUS から CLASS に機能移管したことに伴い、マニュアル等の整備を行い、学修ポートフォリオシステムの概要を掲載
- 意義浸透を図るためのチラシを配付して周知

関連項目  [P.18 教育 DX 推進小委員会](#)

[「教育のアウトカム（可視化）手法の開発（学修ポートフォリオ等）」](#)

[P.20 教学 IR 小委員会「学修ポートフォリオシステムの入力内容の検証」](#)



学びのPDCAサイクル

主体的な学びで学修の質を向上



よくある質問

- Q 学修ポートフォリオシステムの中の評価やレーダーチャート、振り返り、目標の情報は卒業要件に関係ありますか？
A 関係ありません。所属している学科の卒業要件は学修簿に記載されているとおりです。ですが、目標等の入力を行っている学生群は、行っていない学生群よりGPA平均が高いという分析結果も出ています。
- Q 学修ポートフォリオシステムは自分の大学生活にどのような意味があり、どのように活用すればよいのですか？
A 学修ポートフォリオにより、「主体的な学びのサイクル」を構築し、学修の質を向上することができます。また、TUSループリックにより、「卒業時に習得が期待される能力の達成度」という観点で、就職活動など様々な場面において大学で学修した成果を説明できる材料になります。

学年	入力内容	2021 年度		2022 年度		2023 年度		2024 年度
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期
1 年生	入学時の目標	71.4		59.7		65.4		74.6
2 年生	半期 振り返り	55.3	33.8	36.4	29.9	38.7	37.1	40.0
3 年生		36.8	29.1	23.6	25.8	26.9	31.3	31.6
4 年生		36.6	21.7	21.5	15.4	24.3	24.4	27.2
		17.8		11.6		11.0		13.4

※学生が単位、成績等を取得した時期の年度学期、学年欄に、その学修成果に基づく振り返りを入力した割合を記載。振り返りの入力期間は翌学期の前半。

(例：「2023 年度後期、1 年生」の入力率は、2023 年度の 1 年生が後期の成績等に基づく振り返りを入力した割合。振り返りの入力期間は 2024 年 3～7 月。)

※入力率は 2025 年 1 月 9 日時点

▶ 学習相談室

学習相談室は、初年次に学生の学びの関心を高め、学習する習慣を身につけてもらうことを目的に設置している。学習意欲の高い優秀な学生を ES (Educational Supporter) とし、大学での学習において基礎となる数学、物理、化学、生物の各科目について、学習方法に関するアドバイスや学習の際に生じた疑問に対するアドバイスを行っている。2024 年度は次のとおり実施した。

■ 各校舎における開室方法・科目・曜日・開室時間

開室日程 2024 年 4 月 26 日～12 月 22 日

開室方法 原則対面（オンラインでの利用希望者は事前申し込み方法を CLASS に掲示）

【神楽坂地区】 週 2 日（火・金）

火		金	
14:40～16:10	18:00～19:30	14:40～16:10	18:00～19:30
数学	数学	数学	数学
物理	物理	物理	物理
化学	-	-	化学

【富士見地区】 週 2 日（月・木）

月	木
11:30～13:00	16:20～17:50
数学	数学

【葛飾地区】 週2日（火・金）

火		金	
14:40～16:10	18:00～19:30	14:40～16:10	18:00～19:30
数学	数学	数学	数学
物理	物理	物理	物理
-	化学	-	-
-	-	-	生物

【野田地区】 週2日（月・木）

月		木	
16:20～18:20	18:00～20:00	16:20～18:20	18:00～20:00
数学	数学	数学	数学
物理	物理	物理	物理
化学	化学	化学	化学

■ 利用者数（延べ）

単位：名

校舎・科目		4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	合計
神楽坂	数学	14	41	27	22	5	8	13	9	139
	物理	9	41	40	24	10	30	19	14	187
	化学	6	11	14	13	5	6	4	3	62
富士見	数学	1	3	0	1	1	4	2	2	14
野 田	数学	4	13	17	28	7	9	7	11	96
	物理	6	10	20	18	3	7	4	7	75
	化学	1	10	11	8	3	3	5	7	48
葛 飾	数学	1	15	7	1	1	0	0	1	26
	物理	1	8	10	8	2	8	6	5	48
	化学	0	2	2	1	0	0	0	0	5
	生物	0	4	1	2	0	1	1	1	10
計		43	158	149	126	37	76	61	60	710

参考☞ 過去3年間の利用者数（延べ）

2021年度：258名 2022年度：254名 2023年度：542名

■ ES の内訳 (34 名)

校舎	科目	所属	学年・人数
神楽坂	数学	理学部第一部 数学科	B4 . 2
		理学部第二部 数学科	B4 . 1
		理学研究科 応用数学専攻	M1 . 1
	物理	理学部第一部 物理学科	B4 . 1
		理学研究科 物理学専攻	M1 . 1
			D3 . 2
	化学	理学部第二部 化学科	B4 . 1
		理学研究科 化学専攻	M2 . 1
富士見	数学	経営学部 国際デザイン経営学科	B4 . 1
		経営学部 ビジネスエコノミクス学科	B4 . 1
葛飾	数学	理学部一部 応用物理学科	B4 . 1
		先進工学部 マテリアル創成工学科	B4 . 1
		先進工学研究科 電子システム工学専攻	M2 . 2
	物理	理学部第一部 応用物理学科	B4 . 2
		先進工学研究科 物理工学専攻	M1 . 2
	化学	工学研究科 工業化学専攻	M1 . 1
	生物	先進工学研究科 生命システム工学専攻	M2 . 1
野田	数学	創域理工学研究科 数理科学専攻	M2 . 1
			M1 . 1
		創域理工学研究科 情報計算科学専攻	M2 . 2
	物理	創域理工学研究科 先端物理学専攻	M2 . 1
		創域理工学研究科 社会基盤工学専攻	M2 . 1
		創域理工学研究科 電気電子情報工学専攻	M1 . 1
		創域理工学研究科 先端物理学専攻	D1 . 1
	化学	創域理工学部 生命生物科学科	B4 . 1
		薬学研究科 薬科学専攻	M2 . 1
		創域理工学研究科 先端化学専攻	M2 . 2

B：学部生

M：大学院生（修士課程）

D：大学院生（博士後期課程）

■ ES 事前研修

新規採用の ES に対して、事前研修を実施している。2024 年度の研修項目は次のとおり。

- 総括責任者（学修支援小委員会委員長）による業務内容や心構えの講義
- 外部講師による対人コミュニケーション研修
- ES 経験者による体験談・質疑応答
- センター事務局による事務連絡

■ 業務報告

「相談者人数」、「相談内容」、「相談への対応」の報告を義務としている。

■ 学習相談室責任者

ES だけでは困難な対応が生じた場合は、各地区、科目ごとに決められた科目担当責任者に相談し、指示を仰ぐこととしている。また、ES の業務報告を定期的に確認し、報告書を作成している。各責任者の一覧は下表のとおり。

※表の上段は 2023 年 11 月～2024 年 10 月、下段は 2024 年 11 月～2025 年 10 月の任期

		所属	名前
総括責任者	学修支援小委員会委員長	先進工学部 生命システム工学科	西野 達哉
		先進工学部 生命システム工学科	西野 達哉
神楽坂	神楽坂地区総括責任者	理学部第二部 化学科	佐竹 彰治
		理学部第一部 応用化学科	福井 康祐
	科目担当責任者【数学】	理学部第二部 数学科	齊藤 功
		理学部第一部 数学科	田中 視英子
	科目担当責任者【物理】	理学部第二部 物理学科	永田 祐吾
		理学部第一部 物理学科	佐中 薫
	科目担当責任者【化学】	理学部第二部 化学科	佐竹 彰治
		理学部第一部 応用化学科	福井 康祐
富士見	富士見地区総括責任者	経営学部 ビジネスエコノミクス学科	家田 雅志
		経営学部 国際デザイン経営学科	高島 健太郎
	科目担当責任者【数学】	経営学部 経営学科	井出野 尚
		経営学部 ビジネスエコノミクス学科	野口 怜
野田	野田地区総括責任者	薬学部 薬学科	野口 耕司
		創域理工学部 先端物理学科	石塚 正基
	科目担当責任者【数学】	創域理工学部 経営システム工学科	原田 拓
		創域理工学部 数理科学科	相木 雅次
	科目担当責任者【物理】	創域理工学部 電気電子情報工学科	山本 隆彦
		創域理工学部 機械航空宇宙工学科	朝倉 巧

		所属	名前
野田	科目担当責任者【化学】	創域理工学部 先端化学科	近藤 剛史
		創域理工学部 生命生物科学科	前澤 創
葛飾	葛飾地区総括責任者	先進工学部 生命システム工学科	西野 達哉
		工学部 電気工学科	吉田 孝博
	科目担当責任者【数学】	先進工学部 電子システム工学科	藤代 博記
		工学部 情報工学科	岡留 有哉
	科目担当責任者【物理】	先進工学部 物理工学科	中嶋 宇史
		工学部 機械工学科	井上 遼
	科目担当責任者【化学】	工学部 工業化学科	今堀 龍志
		工学部 工業化学科	伊村 芳郎
	科目担当責任者【生物】	先進工学部 生命システム工学科	西野 達哉
		先進工学部 生命システム工学科	西野 達哉

■ 2024 年度ポスター

基礎科目の学習を先輩がサポートします



新入生の強い味方になる **学習相談室**

神楽坂キャンパス 神楽坂校舎／富士校舎 野田キャンパス 葛飾キャンパス

新しい環境で頑張る新入生の皆さんを先輩がサポート！
学習上の疑問や不安は学習相談室で解決しましょう！

東京理科大学の各学部・学科では、担任制やティーチング・アシスタント（TA）の活用、知識クラスの開講やe-Learningシステムなどさまざまな学習支援を行っています。

さらに多岐にわたる学習支援を実施するため、全学制的バックアップ体制のもと、各キャンパスに「学習相談室」を設置しています。

新入生の皆さんの学習上の疑問や不安を解消し、大学の学習成績を高めるため、一人ひとりのニーズに合わせて多岐にわたる学習相談を実施しますので、積極的に利用してください。

学習相談室は、入学式（2学期）からの支援を受け付けています。

東京理科大学
Tokyo University of Science

スタッフと支援内容

学習相談室では、専門のスタッフ（ES: Educational Supporter）が開室時間に常駐し、大学での学習に際しての悩みや「数学」「物理」「化学」「生物」の各科目について、学習方法に関するアドバイスや、学習の進捗に合わせたアドバイスを行っています。また、授業を受けて、不明だった点に関する相談を受け付けています。

学部2年生以上からの履修で、専門課程で受講したESが、新入生（一人ひとりの）の相談に対して、ともに考え、学習を支援しますので、気軽に利用してください。

利用について

- ハイブリックス（対面とオンラインの併用）で実施します。
- 新入生が主な対象ですが、2年生以上も利用できます。利用は無料です。
- 所属する学部・学科に関係なく、どのキャンパスの学習相談室でも利用できます。
- 開室日時、利用方法の案内、各キャンパスのe-Learning（学習支援システム）に掲載します。
- 学習以外の（入学準備、学生生活、将来の進路等）の相談先として「よさず相談室」が設けられます。

開室曜日/科目/曜日/時間

神楽坂キャンパス

神楽坂校舎／1号館11階 図書館内多目的室B 富士校舎／3階 F302ゼミ室

数学・物理 化学	火曜・金曜 14:40～16:10 18:00～19:30	数学 月・火・水 11:30～13:00 16:20～17:50
-------------	-------------------------------------	---

野田キャンパス

記念図書館2階 共同研究室

数学・物理 化学	月曜・水曜 16:20～20:00
-------------	----------------------

葛飾キャンパス

図書館ホール1階 学習相談室

数学・物理 化学・生物	火曜・金曜 14:40～16:10 18:00～19:30
----------------	-------------------------------------

利用者の声

学習相談室でも、私の疑問点に合わせてアドバイスを受けられました！
（理学部1年1号）

安全だと感じにくい質問でも、気軽に質問しやすかったです。
（工学部1年1号）

対面・オンラインのどちらも受けられるので、良かったです。
（理学部2年1号）

大学の授業についていけるか不安でしたが、学習相談室を利用したことで、自信が持てました。
（理学部3年1号）

新入生の強い味方になる **学習相談室**

東京理科大学 東京理科大学 東京理科大学（事務局：学習相談室）
〒152-8501 東京都港区六本木1-3-1
TEL: 03-4229-6119 E-mail: ts@admn.tus.ac.jp

▶ ロジカルライティング講座

ロジカルライティング講座は、新入生を主な対象とし、文章作成に必要な知識技能を段階的に身につけることを目的に実施している。2024 年度は以下のとおり実施した。

■ 実施目標

- ・与えられた情報を鵜呑みにせず、複数の視点から深く考える思考法を学ぶ
- ・課題を発見し、解決するための思考を深める
- ・「文章の書き方」を押さえ、研究論文やレポート作成に向けた土台を固める
- ・「個人」としてのアウトプットのみならず、「チーム」としてのアウトプット方法を学ぶ

■ 実施日時、実施方法

神楽坂（対面実施）	野田（対面実施）	葛飾（対面実施）
4月20日（土） 10時～17時10分	5月11日（土） 10時～17時10分	5月18日（土） 10時～17時10分

■ 対象者、定員、受講料

- 対象者 2024年度1年生（2年生以上の学生や大学院生も受講可能）
- 定 員 各回80名
- 受講料 1,000円 ※テキスト費の一部として

■ 受講者数

神楽坂	野田	葛飾	計
26名	19名	37名	82名

■ 2024年度ポスター

**学部1年生向け
ロジカルライティング講座**

「文章を書くことが苦手…」
そんな不安はありませんか？

Critical Thinking
Logical Writing

「ロジカルライティング」のスキルは、
レポート課題や、今後社会で活躍するためにも求められます。

根拠のある文章作成や、批判的な思考の仕方を
1日完結型の講座で学ぶことができます。
他学科の仲間と、ロジライスキルを身に付けよう！

会場・日時	会場	日にち	時間
※3回の講座内容は 全て同じです	神楽坂キャンパス	4月20日（土）	10:00～17:10 ※1日完結型
	野田キャンパス	5月11日（土）	
	葛飾キャンパス	5月18日（土）	

申込み 4月11日（木）から申込開始

対象者 2024年度1年生（2年生以上や大学院生も受講可能）

定 員 各回80名（先着順）

受講料 1,000円（テキスト費の一部として）

講座のお申込み・受講料納入方法などの詳細は
入学後にCLASS*の「掲示」でお知らせします。（*学内システム）

東京理科大学 教育DX推進センター（事務局：学務部学務課）
Mail: fd@admin.tus.ac.jp

▶ 入学前学習支援

入学後、大学の授業をスムーズに受講できるように準備する（基礎学力を確かなものにする）ことを目的として、「学習課題」と「入学前学習支援講座」を実施している。

それぞれが連携・補完し合いながら相乗的に機能することで、高等学校までの基礎的知識を身につけさせ、大学の学習に適応できる準備をすることにより、入学者は不安を取り除いた状態で大学の授業に臨める効果が期待できる。

2025 年度入学者向けに、以下のとおり実施した。

■ 学習課題

早期合格者（12 月末日までに合格発表が行われる者）を対象として、合格発表から入学前学習支援講座開講までの期間に、入学予定者の学習意欲を継続させることを目的としている。

実施時期	合格発表～1 月 31 日
対象	学校推薦型選抜（指定校制）、総合型選抜（英語資格検定＋特定教科評価・理学部第二部・女子）、帰国生入学者選抜、外国人留学生入学試験Ⅰ期及び国際バカロレア入学者選抜Ⅰ期による入学予定者
課題内容 [全員必須]	問題集（数学）：解答ノートの提出及び振り返りアンケートへの回答 読 書 課 題：図書を読み、要約と自分の考えをまとめた原稿用紙（3 枚程度）を提出

■ 入学前学習支援講座（通信制・通学制）

対象の入試方式による入学予定者が、入学後、大学の授業をスムーズに受講できるように準備する（基礎学力を確かなものにする）ことを目的としている。

○ 通信制講座

実施時期	12 月下旬～3 月下旬
対象	学校推薦型選抜（指定校制）、総合型選抜（英語資格検定＋特定教科評価・理学部第二部・女子）、帰国生入学者選抜、外国人留学生入学試験、社会人特別選抜及び国際バカロレア入学者選抜による入学予定者
開講科目	数学・物理・化学・生物
受講費用	18,700 円（1 科目あたり）

○ 通学制講座

実施時期・場 所	3 月 21 日～27 日 神楽坂キャンパス 3 月 24 日～28 日 野田キャンパス
対象	通信制講座と同様

開講科目	数学・物理・化学
受講費用	1,100 円（1 科目あたり。テキスト代、傷害保険費を含む）

○ 通学制講座責任者（任期：2024 年 10 月～2025 年 9 月）

総括責任者	学修支援小委員会	先進工学部 生命システム工学科	西野 達哉
地区総括責任者	神楽坂地区	理学部第一部 応用数学科	胡 艶楠
	野田地区	先進工学部 生命システム工学科	西野 達哉
科目担当責任者	数学	理学部第一部 応用数学科	胡 艶楠
	物理	理学部第一部 物理学科	佐中 薫
	化学	理学部第一部 化学科	森 貴治

▶ プレ FD

プレ FD とは、「今後大学教員（Faculty）になることを志望している博士後期課程及び博士課程（以下「博士課程」という。）の学生を対象に、大学教員として学識を教授するために必要な能力を培うための機会」のことを指す。

本学では、各研究室における研究活動や TA 業務等を通じて、プレ FD に関する機会の提供を行っている。

また、2020 年度からは学内で実施する教員向けセミナーの参加対象者を博士課程の学生も対象として拡げ、CLASS から募集を行っている。なお、博士課程の学生を対象とした JST の委託事業「次世代研究者挑戦的研究プログラム」の選抜学生に向けても、教員向けセミナーの周知対象として幅広く募集を行い積極的な参加を促した。

▶ TA ハンドブックの作成・配付

「TA ハンドブック」は、大学教育において質の保証・向上が求められている状況の中で、教育の一端を担っている TA（Teaching Assistant）の質を担保することの重要性に鑑み、TA をより効率的かつ効果的に運用することを目的に作成している。

PDF データで配付し、各研究科において TA への研修等で活用するよう周知している。あわせて、2024 年度より導入された授業 TA に関する説明も新たに加え、学生への周知を図っている。

▶ 授業 TA 研修

「*授業 TA 研修」は、「授業 TA」を主な対象とし、授業の一部を担当するうえで必要な事項を身につけることを目的に、2024 年度から開始し、以下のとおり実施した。

*授業 TA：十分な教育効果を上げることができると認められる場合に、授業を担当する教員の指導計画に基づき、授業の一部を担当する TA（2022 年 10 月の大学設置基準改正に基づき、本学では 2024 年度から導入）

■ 目的

- ・授業 TA が授業の一部を担当するうえで身に付けるべき事項を修得すること

■ 対象

- ・必須対象者：授業 TA（2024 年度前期・後期共通）
- ・任意対象者：プレ FD として大学院生も受講可（TA 以外も受講可）

■ 実施日時

- 日時：2024 年 4 月 4 日（木）12：00～13：30
- 場所：神楽坂キャンパス（対面形式）
- 内容：本センターで着任初年度の全新任教員を対象に実施している「新任教員向け FD プログラム」からの抜粋を基本とする
- 方法：①【事前】動画視聴及びワークシート作成
②【研修】ディスカッションを含む対面形式の研修
③【事後】レポートの提出（レポート合格を以て受講完了とする）

■ 受講者数

- ・研修参加者：21 名（うち「授業 TA」17 名）
- ・受講完了者：34 名（うち「授業 TA」23 名）

4-3-2 教育支援小委員会

小委員会委員

期間	2024 年 4 月 1 日から 9 月 30 日まで	2024 年 10 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日まで
委員	◎野口耕司 ○大浦弘樹 中村和晃 高島健太郎	◎野口耕司 ○大浦弘樹 吉田孝博 山田昌弘

◎は委員長、○は副委員長を表す。

活動報告

教育支援小委員会は、各種アンケート等、学部・学科、研究科・専攻の教育を改善することを主眼とした取組みを中心に活動している。主な活動内容は以下のとおり。

学習実態調査

全新生の学修傾向・学修行動を早期に把握することで、各学部における学修指導、全学における教育活動の検証・改善に活用することを目的に実施している。

2024 年度は以下のとおり実施した。

実施結果や設問  <https://www.tus.ac.jp/fd/publication/> (別冊資料集 P.21 参照)

関連項目  [P.19 教学 IR 小委員会](#)

[「TL 部門で実施した各種アンケート調査や学生情報等を基にした教育分析・効果検証・改善支援」](#)

■ 実施概要

- 実施方法 オンライン (Qualtrics) による実施
- 実施期間 2024 年 4 月 1 日～24 日
- 対象者 2024 年度 学部新入生
- 設問数 全 8 問 (択一式 8 問)
- 回答率 69.4% (回答者 2,733 名／対象者 3,938 名)

■ 主な変更点

- ・入学時点での状況の確認及び 5 月に実施する「学修状況アンケート」とのすみ分けをより明確にするため、実施期間を短縮

TOEIC-IP テスト

■ 新入生対象 TOEIC-IP テスト

実用英語教育の充実を目的として、2016 年度に従来のアセスメントテスト (英語科目) の受講から TOEIC-IP テストの全学実施に移行した。

例年、全学部・学科の新入生を対象に 4 月に実施し、スコアは学生の英語能力の把握やクラス

分け等に活用している。

各学科で「対面」又は「オンライン」のいずれかの方法を選定して実施した。また、実施可能であれば学科内で対面とオンラインとが混在することを認めた。

■ 学部3年生対象 TOEIC-IP テスト

学生の英語能力の伸長を測定することを目的として、全学部・学科で2018年度から学部3年終了時に実施している。2021年度からは、実施時期を学部3年生開始時とした。

各学科で「対面」又は「オンライン」のいずれかの方法を選定して実施した。また、実施可能であれば学科内で対面とオンラインとが混在することを認めた。

実施結果を入学時の結果と比較することで、英語力の伸長度測定、学生の実用英語力の把握のほか、学生自身による英語学習の意識づけや大学院進学や就職活動等における指標として活用している。

▶ 授業改善のためのアンケート

各学部・学科及び研究科・専攻の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき立てられた授業計画（Plan）の実施（Do）状況について、学生からの意見を聴取し、その意見をもとに点検・分析（Check）を行い、今後の授業改善に取り組む（Action）ための組織的なPDCAサイクルを確立し、教育の充実を図ることを目的に実施している。2024年度は次のとおり実施した。

実施結果や設問  <https://www.tus.ac.jp/fd/publication/>（別冊資料集 P.43 参照）

■ 実施概要

- 実施方式 CLASS（Web）により実施
- 実施時期 前期、後期の各1回（期末）〔年2回〕
希望によっては、前期、後期の中間時期〔年2回〕の実施も可能。
- 対象科目 各学部及び研究科の全科目
- 実施科目 原則として、学部は全科目において毎年度実施する。特にセンターが授業外学修時間の検証において重点対象とする学部1年次必修科目（選択科目含）は毎年度必須とする。
研究科は1専攻1科目以上で実施する。
ただし、卒業研究、集中講義、実技科目、少人数（10名未満）授業、その他の類する科目等は任意とする。

■ 設問項目

- 共通設問 13問
- 学部・学科及び研究科・専攻の
共通独自設問 最大10問（任意）
- 回答方法 4段階評価（択一式）と自由記述による設問

■ 集計・公開

実施科目すべての集計結果を教員・学生ともに CLASS で公開している。

ただし、自由記述式設問の結果の閲覧は、担当教員のみ限定している。

■ 学生へのフィードバック

担当教員は、学生の意見・要望に対して、CLASS から「担当教員の所見」及び「改善に向けた今後の方針」の2種類のコメントを入力する。

○ 担当教員の所見

アンケート結果（自由記述を含む）に対する担当教員の意見・感想等

○ 改善に向けた今後の方針

アンケート結果（自由記述を含む）を受けて改善した（する予定の）内容等

■ 点検・分析

アンケート結果をもとに、各学部等の FD 幹事会で組織的な点検・分析を行うほか、センターにおいても統計的な点検・分析を行う。

なお、2024 年度から新たに授業実施形態の情報も付与することにより各学部における点検・分析に活用できるようにした。また、回答率の向上を目的に回答者へリマインド画面が表示されるようにシステム改修を行った。

関連項目 [P.19 教学 IR 小委員会](#)

[「TL 部門で実施した各種アンケート調査や学生情報等を基にした教育分析・効果検証・改善支援」](#)

▶ 卒業予定者対象アンケート

本学における教育内容の更なる質的向上・保証・改善に資することや、各学部・学科のポリシーに基づいてカリキュラムが編成されているかの確認、また、それにより必要な知識・能力を身に付けることができたかの確認（学生の学修成果の確認）等を目的に、卒業予定の学生を対象に 2013 年度から実施している。

これにより、教育における PDCA サイクルの C（Check：学生の学修成果やカリキュラムの評価）を実現している。

実施結果や設問 <https://www.tus.ac.jp/fd/publication/>（別冊資料集 P.64 参照）

■ 実施概要

○ 実施形式 Qualtrics を用いた WEB 形式

○ 実施時期 2024 年 11 月 30 日～2025 年 3 月 18 日（学位記・修了証書授与式の挙日）

○ 回 答 率 78.3%（回答数 2,789 名／卒業者数 3,562 名）

■ 設問

○ 共通設問 14 問（択一式 13 問、記述式 1 問）

- 学科独自設問（希望学科のみ追加設定） 学科により異なる

■ 主な変更点

- 回答学生の負担軽減のため、文言修正および設問の見直し

■ 2023 年度実施結果の点検・分析、アンケートを踏まえた改善

アンケート結果をもとに、各学部等の FD 幹事会で組織的な点検・分析を行うほか、センターにおいても統計的な点検・分析を行った。

また、アンケート結果を取りまとめ、センターホームページにおいて広く公開した。

関連項目 [P.19 教学 IR 小委員会](#)

[「TL 部門で実施した各種アンケート調査や学生情報等を基にした教育分析・効果検証・改善支援」](#)

▶ 学生参画 FD

本学の教育内容に関する具体的な課題を顕在化し、教育改善に向けた取組みの更なる質向上を実現することを目的に、2020 年度から、教育内容に関するアンケート結果で顕著な傾向が見られる事項について意見聴取している。

■ 実施概要

- 対 象 者 修士課程 1 年生のうち、前年度に本学学部を卒業した者
- 対 象 人 数 各研究科から 1 名程度（各研究科からの選出）
- 意見聴取者 教育 DX 推進センター長、教育 DX 推進センター長が指名した者
- 実 施 日 時 2024 年 10 月 29 日 12 時 30 分～14 時
- 実 施 方 法 Zoom

■ 意見聴取内容

主に以下の内容を意見聴取し、実施結果はセンター委員会 TL 部門分科会で共有した。

- 卒業認定・学位授与方針（DP）
- 学修ポートフォリオシステム
- 「異文化理解・国際性」に関する能力について
- コロナ禍後の教育（授業）の在り方について

▶ FD ポートフォリオ

学部・学科、研究科・専攻、教養教育研究院それぞれの FD 活動状況を学内で共有することを目的として、年に 1 回、FD ポートフォリオを作成・更新している。

更新時期は 6～7 月頃、内容は「前年度 FD 活動の振り返り」、今年度「FD 活動の方針」、「FD 活動の計画」（前・後期）とし、各学部等から提出された「FD 活動記録」とともに CENTIS に掲載している。

なお、2019 年から各学部等の負担を考慮して、年 2 回の更新頻度を年 1 回とした。

▶ 教育用ソフトウェア予算の補助

本学における ICT 教育の更なる推進を図ることを目的に、2018 年度から情報教育センターの業務を引継ぐかたちで、学部、研究科、教養教育研究院から予算要望する教育用ソフトウェアの募集を行い、要望のあったソフトウェアについて予算申請を行った。

2024 年度に補助を決定したソフトウェアは下表のとおり。

統計解析ソフトウェア (SAS)

統計解析ソフトウェア (JMP)

数式処理ソフトウェア (Mathematica)

数値解析ソフトウェア (MATLAB/Simulink)

ChemOffice Professional

Discovery Studio、Materials Studio

TUS English Online

ブルームバーグターミナル

汎用物理シミュレーションソフトウェア COMSOL Multiphysics

DATA PACIFIC e-Learning コンテンツドイツ語文法入門コース

三次元 CAD ソフトウェア Creo Parametric

LabVIEW

Writefull

※予算要望できるソフトウェアは「教育用ソフトウェア予算に関わる取扱要項」において条件を定めている

▶ 教育用ソフトウェアを活用するためのセミナー等への補助

ICT 活用教育推進の施策の 1 つとして教育用ソフトウェアの活用が求められるが、各教員の習熟度に依る部分が多い状況にある。本学における ICT 活用教育の更なる推進を図ることを目的として、教育用ソフトウェアを活用するためのセミナー等への補助を行っている。

■ 募集する取組

- 募集内容 教育用ソフトウェアを活用するためのセミナー等
- 対象者 各学部・研究科等における学生及び教職員
- 実施形態 学科・専攻単位以上で実施する取組
- 補助上限 1 件あたり 30 万円
- その他 正課外の取組であること

■ 採択結果

2 件の応募があり、2 件採択した。

▶ 学部等 FD 研修推進経費 (FD 研修参加への助成)

各学部・研究科・教養教育研究院が独自に実施する FD 研修を財政的に支援することにより、

ボトムアップ型の FD の更なる推進を図ることを目的に、2021 年度から実施している。

■ 募集する取組

- 募集内容 学部等が主体となり推進する FD 研修
 (教育改善を目的とした研修、セミナーや学外者との協議等も含む)
- 実施形態 学科等单位以上で実施する取組
- 対 象 者 実施する単位に所属する全専任教員
- 補助上限 1 件あたり 20 万円

■ 採択結果

2 件の応募があり、2 件採択した。

4-3-3 教授方法支援小委員会

小委員会委員

期間	2024 年 4 月 1 日から 9 月 30 日まで	2024 年 10 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日まで
委員	◎鍋島克輔 ○渡辺雄貴 伊川友活 江夏洋一	◎佐中薫 ○渡辺雄貴 伊川友活 松浦真澄

◎は委員長、○は副委員長を表す。

活動報告

教授方法支援小委員会は、シラバスの点検・改善といった教員個人を対象とした取組みのほか、新任教員向け FD プログラム等、教員の教育意識を向上させる取組みを中心に活動している。主な活動内容は以下のとおり。

ICT ツール（CLASS、LETUS 等）の利用・活用方法の支援

本小委員会では、各教員が本学の各種 ICT ツールを活用できるようになるための支援活動を行っている。

関連項目  [P.18 教育 DX 推進小委員会](#)

[「教育のアウトカム（可視化）手法の開発（学修ポートフォリオ等）」](#)

関連項目  [P.42 教授方法支援小委員会「ICT の新技術活用に係る周知や講習会等の啓発活動」](#)

アクティブ・ラーニングの促進

センターでは、年次計画において「アクティブ・ラーニングの促進」を掲げている。

また、本学が本年度の授業実施方針を示すなかで、一方向型授業ではなく、双方向型授業（アクティブ・ラーニング、反転授業等）を促進することを明記し、「学修者本位の教育」を意識した授業の設計・運営に留意することを目指している。

これに基づき、2024 年度はセンターとして以下の取組みを行った。

- 2024 年 11 月に開催した FD セミナー「新学習指導要領を踏まえた、これからの大学教育の在り方」で学習指導要領の改訂を踏まえ、高校生が身に付けた資質・能力等の変化について紹介した。
- 新任教員向け FD プログラムで、アクティブ・ラーニングを含む授業方法に関するコンテンツを提供した（過年度から継続）。
- 授業設計ガイドライン（総論編）において、アクティブ・ラーニングを含む授業方法に関するコンテンツを提供した。
- シラバスにアクティブ・ラーニングに関する項目を設け、どの授業でどのような方法によりアクティブ・ラーニングが行われているのか可視化した（過年度から継続）。なお 2023 年度

シラバスから、従来のテキスト入力をチェックボックス入力に変更することで、記載内容の標準化と全学の状況把握（集計）を容易にしている。

関連項目🔗 FD セミナー <https://www.tus.ac.jp/fd/reports/39th/>

授業設計ガイドライン🔗 <https://letus.ed.tus.ac.jp/course/view.php?id=173848> (LETUS・学内限定)

▶ シラバスの点検・改善

授業担当教員が作成した当該年度のシラバスの内容・計画が、カリキュラム・ポリシー等に基づいているかどうか、第三者（授業担当以外の教員）が点検してシラバスの作成者にフィードバックすることでシラバスの質向上に向けた改善の取り組みを実施している。

なお、CLASS での公開日は 4 月 1 日としている。

■ シラバス作成要項の作成

センターでは「シラバス作成要項」を作成し、シラバスの役割、作成上の注意、留意事項等を全授業担当教員へ周知することにより、統一的な指針の下でシラバスを作成する体制を整えている。

2025 年度シラバスの作成にあたっては、シラバス項目の精査、登録方法の簡略化、必須項目の設定、記述例の具体化を図った。

■ シラバス作成要項（英語版）の作成

毎年度、英語版の要項を作成している。外国人教員に対しても統一的な指針を伝えることにより、シラバスの質を担保している。

▶ ICT の新技術活用に係る周知や講習会等の啓発活動

ICT の新技術を「実際の授業でどのように活用できるか」という観点から、教育 DX 推進センターホームページに掲載した「私の教育改善」において、活用事例を共有した。

関連項目🔗 私の授業改善 https://www.tus.ac.jp/fd/series_category/my_improvement/

関連項目🔗 [P.17 教育 DX 推進小委員会「教育活動への ICT 導入・活用に係る企画・実施支援」](#)

関連項目🔗 [P.21 学修支援小委員会「ICT ツール（CLASS、LETUS 等）の利用・活用方法の支援」](#)

関連項目🔗 [P.41 教授方法支援小委員会「ICT ツール（CLASS、LETUS 等）の利用・活用方法の支援」](#)

▶ 授業改善のためのアンケート結果に基づく学部選定授業の分析

授業改善のためのアンケート結果を活用し、学生からの評価が高い授業についてその事由を分析・共有し、本学における教育の改善、質の向上に繋げることを目的に、2019 年度から、アンケート結果に基づく学部選定授業の分析を実施している。

2024 年度は、専門家及び希望する教職員による授業参観を実施し、参観後に、授業担当教員、

専門家、及び参観した教職員によるディスカッションを行った。

学期	学部・学科	授業名	教員名	授業参観
前期	創域理工学部 数理科学科	線形代数学 1 A 及び演習	八森 祥隆	6 月 5 日 (水) 2 限
後期	理学部第二部 化学科	基礎物理化学	青木 健一	11 月 13 日 (木) 5 限

参考☞ センターHP https://www.tus.ac.jp/fd/series_category/questionnaire/

▶ 新任教員向け FD プログラム

年次計画（2019 年度～2021 年度）で挙げた「FD 啓発活動における体系化が不十分である」ことの改善及び「本学教員として教育を行う上で必要な能力」を身につけることを目的として、2020 年度から、全学的な新任教員向け FD プログラムを導入している。2024 年度は、2023 年度に引き続き、より効果的かつ効率的なプログラムへと発展させるため、プログラム全体の見直しを行った。対象者は入職初年度の全新任教員、受講期間は 4 月 1 日～6 月 30 日とし、動画・資料閲覧と対面セミナーを組み合わせた反転授業形式で実施した。

【構成】

(1) 動画・資料の閲覧及びワークシートの提出

動画・資料を閲覧し、ワークシートを提出。

【動画】 インストラクショナルデザインの理論に基づく授業設計について

- ①授業の入口（学生の学修についての基礎知識等）
- ②授業の出口（学修目標、成績評価等）
- ③授業の方法（アクティブ・ラーニング等）

【資料】

- ①教員ハンドブック（教育施策全般）
- ②シラバス作成要項
- ③各種システム（CLASS、LETUS 等）利用マニュアル

(2) 対面セミナー（FD セミナー）

「(1) 動画資料の閲覧及びワークシートの提出」にて提出したワークシートを用いて、教育実践につなげられるようグループワークを実施。

▶ 外国語教授法セミナー

全学的な教授法・講義技術の修得機会を提供することを目的として、国際化推進センターと「外国語教授法セミナー」を共催している。2024 年度は以下のとおり実施した。

■ 教室英語実践講座

日時 2024 年 11 月 1 日 17:30～20:30 対面及び Zoom

■ 英語プレゼンテーション・Q&A 実践トレーニング

日時 2024年11月9日、16日 それぞれ 9:00～12:00 オンライン

■ 2024 年度ポスター

専任教員向け

教室英語実践講座

～大学・大学院の授業を英語「で」教えるテクニックを学ぶ～

ハイブリッド形式開催
(対面オンライン)

好評につき
定員追加!

無料

講座概要

基本的な教室英語表現とよく使うフレーズを紹介し、実践的な練習を行います。ノンネイティブの講師が、英語で教えるときに役立ったコツとスキルを取り入れた研修内容です。

日時 11月1日(金) 17:30～20:30

追加枠 対面2名
オンライン2名

申込期間 7月11日(木)～9月30日(月)

申込方法 対面追加枠: [こちら](#)
オンライン追加枠: [こちら](#)

講師 吉中 昌国 よしなか まさくに
京都に生まれ、19歳で渡米。15年間の米国生活を経験。カリフォルニア大学バークレー校大学院で社会学修士号を取得。シリコンバレーで通訳・翻訳に携わる一方で、日本企業の進出をサポートするNGOの会長を務める。現在は株式会社アルクの専属講師として活躍。日本全国の多数の企業と大学で研修を実施している。

国際化推進センター・教育DX推進センター共催

問い合わせ先: 国際支援課
intlexchg@admin.tus.ac.jp

申込期限延長! 参加無料

専任教員向け

英語プレゼンテーション・Q&A 実践トレーニング

国際学会発表や英語講義等で活用できる「英語で要点を効果的に発表するスキル」「他分野の聞き手にもわかりやすい発表を英語で行うスキル」を磨くことのできる講座です。

11月9日(土) 11月16日(土)
[申込はこちら](#) [申込はこちら](#)

日時 【日程】
①11月9日(土)
②11月16日(土)

【時間】
9:00～12:00

【形式】
オンライン

【定員】
各日程5名
※先着順になります。

【申込期間】
①7月11日(木)～10月26日(土)
②7月11日(木)～11月2日(土)

講師 Dr. Joe Hüg
日米会話学院所長
南カリフォルニア大学大学院博士課程修了(Ed.D)
*組織変革とリーダーシップ

※事前課題あり※
自身の研究テーマに係るPPT(10分程度・英語)の提出が必要です。
詳細は参加者に後日連絡します。

国際化推進センター
教育DX推進センター共催

問い合わせ先: 国際支援課
メール: intlexchg@admin.tus.ac.jp
電話: 03-5228-8726

▶ FD セミナー

FD セミナーでは、新任教員を対象とした授業設計に関する内容や ICT の活用事例、対面授業の在り方などをテーマに、以下のとおり本学教職員及び本学博士課程の学生を対象に開催した。

■ 第38回 FD セミナー

- テーマ 新任教員向け FD プログラム ～理論をもとに授業設計を考える～
- 日時 2024年7月22日 13:00～14:30
- 開催方法 対面(神楽坂キャンパス)
- 詳細 https://www.tus.ac.jp/fd/reports/20240722_38th_fd/

■ 第39回 FD セミナー

- テーマ 新学習指導要領を踏まえた、これからの大学教育の在り方
- 日時 2024年11月25日 13:00～14:30
- 開催方法 ハイフレックス
- 詳細 <https://www.tus.ac.jp/fd/reports/39th/>

■ 第40回 FD セミナー

- テーマ 自己調整学習能力を育成する支援とは
- 日時 2025年3月24日 15:00~16:30
- 開催方法 ハイフレックス
- 詳細 <https://www.tus.ac.jp/fd/reports/40th/>

▶ ホームページの管理・更新

センターでは、本学におけるFD活動の取組みをホームページから発信している。主にイベント開催のお知らせや活動状況の報告を行っており、定期的に管理・更新を行っている。

ホームページの全面リニューアルを実施した2019年度以降も、活動状況に応じてページ・レイアウトの見直しや機能の増設に取り組んでいる。

参考 センターHP <https://www.tus.ac.jp/fd/>



関連規程

5-1 東京理科大学教育支援機構規程

○東京理科大学教育支援機構規程

平成 23 年 11 月 10 日規程第 82 号
改正 令和 6 年 3 月 26 日規程第 60 号

(趣旨)

第 1 条 この規程は、東京理科大学学則(昭和 24 年学則第 1 号)第 62 条第 4 項の規定に基づき、東京理科大学教育支援機構(以下「機構」という。)に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第 2 条 機構は、全学的な教育方針の策定並びに教育施策及び教育課程の企画を行うことで、東京理科大学(以下「本学」という。)の学長(以下「学長」という。)の教育に係る政策の決定及び推進を支援するとともに、各学部及び研究科における教育の充実に寄与すること、また、本学における学修・教育活動の支援、デジタル技術を活用した教育への変革による質的転換並びに理数系分野の教育方法及び教育指導方法に関する教育研究とその実践及び成果の発信を通じて、我が国における科学技術知識の普及の進展に寄与することを目的とする。

(センター)

第 3 条 機構に、次に掲げるセンター(以下「センター」という。)を置く。

- (1) 教育 DX 推進センター
- (2) 教職教育センター
- (3) 理数教育研究センター

2 センターに関する事項は、この規程に定めるもののほか、別に定める。

(機構長)

第 4 条 機構に、東京理科大学教育支援機構長(以下「機構長」という。)を置き、機構長は、本学の学長の命を受けて、機構の運営に関する事項を掌理する。

2 機構長は、本学の副学長のうちから学長が決定し、理事長に申し出て、理事長が委嘱する。

(センター長)

第 5 条 センターに、それぞれセンターの長(以下「センター長」という。)を置き、センター長は、機構長の命を受けて、センターに関する事項を掌理する。

2 センター長の資格、任期等については、別に定める。

(会議)

第 6 条 機構に、機構の運営に関する事項を審議するため、教育支援機構会議(以下「会議」という。)を置く。

2 会議は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育方針の策定に関する事項
- (2) 教育施策及び教育課程の企画に関する事項
- (3) 教育に関する全学的な調整に関する事項
- (4) 図書館の教育的活用に係る方針に関する事項
- (5) センターの設置及び改廃に関する事項
- (6) センターの事業計画に関する事項
- (7) 機構及びセンターの人事に関する事項
- (8) 機構及びセンターの予算及び決算に関する事項
- (9) 機構及びセンターに関する諸規程等の制定及び改廃の発議に関する事項
- (10) その他機構及びセンターの管理・運営に関する事項

3 会議は、次に掲げる委員をもって組織し、学長がこれを委嘱する。

- (1) 機構長
- (2) 大学図書館長
- (3) 学務部長
- (4) 副学部長又は学科主任のうちから各学部の学部長が指名する者 各 1 人
- (5) 副院長又はキャンパス教養部長のうちから教養教育研究院の院長が指名する者 1 人
- (6) 各センター長のうちから機構長が指名する者
- (7) 本学の専任教授のうちから学長が指名する者 若干人

4 前項第 7 号に規定する委員の任期は、2 年以内とし、再任を妨げない。ただし、補欠による後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

5 会議は、機構長が招集し、その議長となる。ただし、議長に事故のあるときは、議長があらかじめ指名した委員がその職務を代理する。

6 議長が必要と認めたときは、会議に委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

7 会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、

可否同数のときは、議長の決するところによる。

(小委員会の設置)

第6条の2 会議の下に、前条第2項に規定する審議事項を専門的に検討するため、必要に応じて、小委員会を設けることができる。

2 小委員会の運営に関して必要な事項は、別に定める。
(本務教員)

第7条 機構に、センターを本務とする専任又は嘱託の教育職員(以下「本務教員」という。)を置くことができる。

2 本務教員は、機構長が会議に諮って学長に推薦し、学長の申出により理事長が委嘱する。

(併任教員)

第8条 センターに、併任の教育職員(以下「併任教員」という。)を置くことができる。

2 併任教員は、本学の専任又は嘱託の教授、准教授、講師及び助教のうちから充てる。

3 併任教員は、センター長が前項の教育職員が所属する学部等の学部長等の同意を得て機構長に申し出、機構長は会議に諮って学長に推薦し、学長の申出により、理事長が委嘱する。

4 併任教員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、嘱託である者については、嘱託としての委嘱期間内とする。

(専門職員)

第9条 機構に、センターを本務とする専任又は嘱託の専門職員(以下「専門職員」という。)を置くことができる。

2 専門職員は、センター長が機構長に申し出、機構長は会議に諮って学長に推薦し、学長の申出により理事長が委嘱する。

(客員教授等)

第10条 センターに、学外の教育研究機関等から招へいする客員教授、客員准教授及び客員研究員(次項において「客員教授等」という。)を置くことができる。

2 客員教授等の資格、選考手続等は、東京理科大学客員教授等規則(昭和53年規則第5号)の定めるところによる。

(受託研究員及び共同研究員)

第11条 センターに、受託研究員及び共同研究員を受け入れることができる。

2 受託研究員及び共同研究員は、学外の教育機関等を本務とする者につき選考するものとし、その手続等は、東京理科大学受託研究員規程(昭和43年規程第7号)及び学校法人東京理科大学共同研究契約取扱規程(平成21年規程第7号)の定めるところによる。

(報告義務)

第12条 センター長は、当該年度における活動経過及び次年度における事業計画を機構長に報告しなければならない。

(事務)

第13条 機構の運営に関する事務は、学務部学務課において処理する。

2 センターの運営に関する事務は、それぞれのセンターに関する規程において定める。

附 則

この規程は、平成23年11月10日から施行し、平成23年10月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

1 この規程は、平成26年1月1日から施行する。

(経過措置)

2 第4条第3項の規定にかかわらず、この規程の施行日以降に初めて就任する教育機構長の任期については、平成26年9月30日までとする。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和6年4月1日から施行する。

5-2

東京理科大学教育 DX 推進センター規程

○東京理科大学教育 DX 推進センター規程

令和 4 年 3 月 16 日規程第 23 号
改正 令和 5 年 3 月 30 日規程第 40 号

(趣旨)

第 1 条 この規程は、東京理科大学教育支援機構規程(平成 23 年規程第 82 号)第 3 条第 2 項の規定に基づき、東京理科大学教育 DX 推進センター(以下「センター」という。)に関し必要な事項を定める。

(定義)

第 2 条 この規程において「教育 DX」とは、デジタル技術を積極的に活用することで、学生の学修活動及び教員の教育活動に変革をもたらすための諸活動をいう。

(目的)

第 3 条 センターは、ICT の活用、ファカルティ・ディベロップメント(以下「FD」という。)活動の推進等により、東京理科大学(以下「本学」という。)の学生の学修支援及び教員の教育支援の充実を図るとともに、本学における教育 DX の推進により、効果的かつ効率的な教育活動による教育の質的転換の実現を図ることで、本学の学生及び教員の学修・教育活動の変革、一層の深化及び好循環を生み出し、学修者本位の教育を実現することを目的とする。

(活動)

第 4 条 センターは、前条の目的を達成するために、次の活動を行う。

- (1) 学生の学修支援に関すること。
- (2) 教員の教育支援に関すること。
- (3) 教育 DX の推進に関すること。
- (4) 教育効果の評価及び新たな教育方法の開発に関すること。
- (5) その他本学の教育活動に関すること。

(センター長)

第 5 条 センターにセンター長を置く。

2 センター長は、東京理科大学教育支援機構長(以下「機構長」という。)の命を受けて、センターに関する事項を掌理する。

3 センター長は、本学の学長(以下「学長」という。)が本学の専任又は嘱託(非常勤扱の者を除く。)の教授のうちから機構長と協議の上選出し、東京理科大学教育

研究会議の議を経て決定し、理事長に申し出て、理事長が委嘱する。

4 センター長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、補欠による任期は、前任者の残任期間とする。(センター委員会)

第 6 条 第 3 条に掲げる目的を達成するため、センター委員会(以下「委員会」という。)を置き、次の事項について審議する。

- (1) センターの活動に関する事項
- (2) センターの予算及び決算に関する事項
- (3) その他センターの運営に関する事項

2 委員会は、次に掲げる委員をもって組織し、学長が委嘱する。

- (1) センター長
- (2) 副学部長又は FD を担当する幹事のうちから各学部の学部長が指名する者 各 1 人
- (3) FD を担当する幹事のうちから教養教育研究院長が指名する者 1 人
- (4) 生命科学研究科の専攻主任
- (5) 教育 DX の推進に関する知見を有する者として学長が指名した者 若干人
- (6) 学務部長

3 前項第 5 号に規定する委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、補欠による委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員会の委員長は、センター長をもってこれに充てる。

5 委員会は委員長が招集し、その議長となる。ただし、委員長に事故のあるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代理する。

(部門)

第 7 条 センターに、第 4 条に規定する活動を実施するために、部門を置く。

(部門長)

第 8 条 前条に規定する部門に、部門長を置く。

2 部門長は、センター長の命を受け、当該部門を代表し、その業務を掌理する。

3 部門長は、第 6 条第 2 項に定める者のうちから、機構長がセンター長と協議の上で指名する。

(分科会)

第 9 条 委員会に、委員会から付託された事項を処理するために、分科会を置く。

2 分科会は、第 6 条第 2 項に定める者のうちから、センター長が指名した者をもって組織する。

3 分科会に関して必要な事項は、別に定める。

(意見の聴取)

第 10 条 委員会又は分科会が必要と認めたときは、当該委員会又は分科会における委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(小委員会の設置)

第 11 条 委員会又は分科会に、第 4 条に規定する活動に係る具体的事項を実施するため、小委員会を置くことができる。

2 小委員会に関して必要な事項は、別に定める。

(事務処理)

第 12 条 センターに関する事務は、学務部学務課が統括する。

2 センターに関する事務の一部は、学務部学長事務課 大学評価・IR 室、教務部教務課及び情報システム部情報システム課において処理する。

3 学部、大学院及び教養教育研究院の FD 活動に関する事務は、別表に掲げる部署において処理する。

附 則

(施行期日)

1 この規程は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

(廃止規程)

2 東京理科大学教育開発センター規程(平成 19 年規程第 172 号)は、廃止する

附 則

この規程は、令和 4 年 7 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

別表(第 12 条第 3 項関係)

学部・研究科	担当事務課等
理学部第一部 理学研究科	教務部理学事務課
理学部第二部	教務部理学事務課理学部二部事務室
薬学部 薬学研究科	野田統括部薬学事務課
工学部 工学研究科	葛飾統括部工学事務課
創域理工学部 創域理工学研究科	野田統括部創域理工学事務課
先進工学部 先進工学研究科	葛飾統括部先進工学事務課
経営学部 経営学研究科	教務部経営学事務課及び教務部経営学事務課専門職大学院室
教養教育研究院	教務部教務課教養教育研究院事務室
生命科学研究科	野田統括部薬学事務課生命研事務室



センター委員会委員一覧

* 「選出区分」は東京理科大学教育 DX 推進センター規程による。

* ◎は委員長を、○は部門長を、それぞれ表す。

【2024 年 4 月 1 日から 9 月 30 日まで】

所 属	職名	氏 名	任期	該当条項	参加会議
創域理工学部 情報計算科学科	教授	◎滝本 宗宏	2023 年 10 月 1 日 ～ 2025 年 9 月 30 日	第 6 条 第 2 項 第 1 号	教育 DX 推進センター委員会、 DX 部門分科会、 TL 部門分科会
理学部第一部 応用数学科	准教授	鍋島 克輔	2023 年 10 月 1 日 ～ 2024 年 9 月 30 日	第 6 条 第 2 項 第 2 号	教育 DX 推進センター委員会、 TL 部門分科会
理学部第二部 化学科	教授	佐竹 彰治	2023 年 10 月 1 日 ～ 2024 年 9 月 30 日	第 6 条 第 2 項 第 2 号	
薬学部 薬学科	教授	野口 耕司	2023 年 10 月 1 日 ～ 2024 年 9 月 30 日	第 6 条 第 2 項 第 2 号	
工学部 情報工学科	准教授	中村 和晃	2023 年 10 月 1 日 ～ 2024 年 9 月 30 日	第 6 条 第 2 項 第 2 号	
創域理工学部 社会基盤工学科	教授	塚本 良道	2023 年 10 月 1 日 ～ 2024 年 9 月 30 日	第 6 条 第 2 項 第 2 号	
先進工学部 生命システム工学科	教授	西野 達哉	2023 年 10 月 1 日 ～ 2024 年 9 月 30 日	第 6 条 第 2 項 第 2 号	
経営学部 国際デザイン経営学 科	講師	高島 健太郎	2023 年 10 月 1 日 ～ 2024 年 9 月 30 日	第 6 条 第 2 項 第 2 号	
研究推進機構 生命医科学研究所	教授	伊川 友活	2023 年 10 月 1 日 ～ 2024 年 9 月 30 日	第 6 条 第 2 項 第 4 号	
教養教育研究院 北海道・長万部キャンパス教養部	講師	江夏 洋一	2023 年 10 月 1 日 ～ 2024 年 9 月 30 日	第 6 条 第 2 項 第 3 号	

所 属	職名	氏 名	任期	該当条項	参加会議
教育支援機構 教職教育センター	教授	○渡辺 雄貴	2023年10月1日 ～ 2025年9月30日	第6条 第2項 第5号	教育 DX 推進センター委員会、 DX 部門分科会、 TL 部門分科会
教育支援機構 教職教育センター	准教授	大浦 弘樹	2023年10月1日 ～ 2025年9月30日	第6条 第2項 第5号	
理学部第一部 物理学科	教授	鈴木 克彦	2023年10月1日 ～ 2025年9月30日	第6条 第2項 第5号	
創域理工学部 社会基盤工学科	教授	○佐伯 昌之	2023年10月1日 ～ 2025年9月30日	第6条 第2項 第5号	教育 DX 推進センター委員会、 DX 部門分科会
工学部 情報工学科	教授	池口 徹	2023年10月1日 ～ 2025年9月30日	第6条 第2項 第5号	
創域理工学部 情報計算科学科	教授	桂田 浩一	2023年10月1日 ～ 2025年9月30日	第6条 第2項 第5号	
事務総局	学務部長	市川 英朗	2023年10月1日 ～ 2024年9月30日	第6条 第2項 第6号	教育 DX 推進センター委員会、 DX 部門分科会、 TL 部門分科会

【2024 年 10 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日まで】

所 属	職名	氏 名	任期	該当条項	参加会議
創域理工学部 情報計算科学科	教授	◎滝本 宗宏	2023年10月1日 ～ 2025年9月30日	第6条 第2項 第1号	教育 DX 推進センター委員会、 DX 部門分科会、 TL 部門分科会
理学部第一部 物理学科	准教授	佐中 薫	2024年10月1日 ～ 2025年9月30日	第6条 第2項 第2号	教育 DX 推進センター委員会、 TL 部門分科会
理学部第二部 化学科	教授	佐竹 彰治	2024年10月1日 ～ 2025年9月30日	第6条 第2項 第2号	
薬学部 薬学科	教授	野口 耕司	2024年10月1日 ～ 2025年9月30日	第6条 第2項 第2号	
工学部 電気工学科	教授	吉田 孝博	2024年10月1日 ～ 2025年9月30日	第6条 第2項 第2号	

所 属	職名	氏 名	任期	該当条項	参加会議
創域理工学部 先端物理学科	教授	石塚 正基	2024 年 10 月 1 日 ～ 2025 年 9 月 30 日	第 6 条 第 2 項 第 2 号	教育 DX 推進センター委員会、 TL 部門分科会
先進工学部 生命システム工学科	教授	西野 達哉	2024 年 10 月 1 日 ～ 2025 年 9 月 30 日	第 6 条 第 2 項 第 2 号	
経営学部 経営学科	准教授	山田 昌弘	2024 年 10 月 1 日 ～ 2025 年 9 月 30 日	第 6 条 第 2 項 第 2 号	
研究推進機構 生命医科学研究所	教授	伊川 友活	2024 年 10 月 1 日 ～ 2025 年 9 月 30 日	第 6 条 第 2 項 第 4 号	
教養教育研究院 葛飾キャンパス教養 部	教授	松浦 真澄	2024 年 10 月 1 日 ～ 2025 年 9 月 30 日	第 6 条 第 2 項 第 3 号	
教育支援機構 教職教育センター	教授	○渡辺 雄貴	2023 年 10 月 1 日 ～ 2025 年 9 月 30 日	第 6 条 第 2 項 第 5 号	教育 DX 推進センター委員会、 DX 部門分科会、 TL 部門分科会
教育支援機構 教職教育センター	准教授	大浦 弘樹	2023 年 10 月 1 日 ～ 2025 年 9 月 30 日	第 6 条 第 2 項 第 5 号	
理学部第一部 物理学科	教授	鈴木 克彦	2023 年 10 月 1 日 ～ 2025 年 9 月 30 日	第 6 条 第 2 項 第 5 号	
創域理工学部 社会基盤工学科	教授	○佐伯 昌之	2023 年 10 月 1 日 ～ 2025 年 9 月 30 日	第 6 条 第 2 項 第 5 号	教育 DX 推進センター委員会、 DX 部門分科会
工学部 情報工学科	教授	池口 徹	2023 年 10 月 1 日 ～ 2025 年 9 月 30 日	第 6 条 第 2 項 第 5 号	
創域理工学部 情報計算科学科	教授	桂田 浩一	2023 年 10 月 1 日 ～ 2025 年 9 月 30 日	第 6 条 第 2 項 第 5 号	
事務総局	学務部長	市川 英朗	2024 年 10 月 1 日 ～ 2025 年 9 月 30 日	第 6 条 第 2 項 第 6 号	教育 DX 推進センター委員会、 DX 部門分科会、 TL 部門分科会

東京理科大学 教育支援機構 教育 DX 推進センター 2024 年度 活動報告書
発行：2025 年 7 月

〒162-8601 東京都新宿区神楽坂 1-3
編集：東京理科大学 教育支援機構 教育 DX 推進センター
HP：<https://www.tus.ac.jp/fd/>



教育支援機構 教育 DX 推進センター

2024 年度活動報告書

資料集

➤ 学校法人東京理科大学 中期計画 2026（2022～2026 年度）	2
➤ 学修状況アンケート	17
➤ 学習実態調査（新入生対象アンケート）	21
➤ 授業改善のためのアンケート	43
➤ 卒業予定者対象アンケート	64

学校法人東京理科大学 中期計画 2026
(2022～2026 年度)

2022 年 3 月 策定

【 目 次 】

1. はじめに	2
2. TUS VISION 150	2
3. 中期計画 2021（2019～2021 年度）とその振り返り	3
4. 現在の社会情勢と大学が向き合う課題の整理	5
5. 本学の歴史と教育研究の特色の分析	5
6. 本学発展の基本戦略	7
7. 中期計画 2026 の具体的な内容	7
8. 本学で継続的に取り組む重要事項	1 3
9. おわりに	1 4

1. はじめに

東京理科大学は 1881 年に創立し、2021 年に創立 140 周年を迎えたが、さらに 10 年後の創立 150 周年のあるべき姿を示した「TUS VISION 150」の下、より一層の発展に向け、2022～2026 年度の 5 年間で実施する施策として「中期計画 2026」を策定した。本書では、先ず長期ビジョン「TUS VISION 150」をあらためて述べた上で、「中期計画 2026」の前段で実施した「中期計画 2021」とその振り返りについて示した。次に、現在の社会の変化や多様化する大学への要請に応えるために、社会情勢とそれに基づく大学が有する課題を整理し、さらに本学の歴史と教育及び研究の強み・弱みを分析し、本学の伝統や長所短所を踏まえて実施すべき課題を基にした本学発展のための基本戦略を提起した。その後、「中期計画 2026」の具体的な課題と取り組みについて概要を記した。「TUS VISION 150」の最初のマイルストーンとなった「中期計画 2021」に続き、次のマイルストーンとなる 5 年後の「中期計画 2026」の目標の達成に向けて本書に示す取り組みを着実に進め、「TUS VISION 150」の実現を確実なものとしていく。

2. TUS VISION 150

現在、世界は急速にグローバル化し、産業やビジネスは国境を越えて展開されている。その一方、深刻な環境破壊の広がりも指摘されており、その解決には地球規模での取り組みが必要とされている。このような時代にあって、本学では、創設時に掲げられた「理学の普及を以て国運発展の基礎とする」という建学の精神を、さらに広く世界に展開するために、英語では“*Building a better future with Science*”と表現している。技術革新の原動力となりうる人材の育成、高度な教育研究及びその成果の創出を通して「科学技術を以てより良い未来を拓く」、その使命感を持ち、地球規模の課題に取り組み、科学技術の発展に寄与し、国際社会に貢献する大学であり続けることが、21 名の創設者たちの熱き想いを引き継ぎ、本学の存在意義を高めることにつながると確信している。

本学は、2031 年に創立 150 周年を迎えるが、その時点での本学のあるべき姿を示したものが、以下に示す「TUS VISION 150」（2017 年度制定）である。ここでは、「日本の発展を支えてきた理科大」から「世界の未来を拓く TUS」へ発展することを宣言している。

TUS VISION 150 ～2031 年(創立 150 周年)の理科大の姿～

- 日本の先進技術を駆使しイノベーション創出に貢献する多くの人材を育成
- 科学技術、経営、教育の分野で世界レベルのリーダーとして活躍できる人材を供給
- 人類への貢献をめざし、高い実践力と忍耐力を持ってたゆみなく課題の解決に挑む人材を育む環境
- 基礎研究から応用研究まで幅広い分野に亘って世界をリードする研究拠点
- 学際的コミュニティの中で多様性をもった自由闊達な議論を求め、世界各国から人材が集う拠点
- 世界のいたる所で社会に貢献する理窓会メンバーである校友の強固なネットワークの中核

本学が「世界の未来を拓く TUS」へ発展するために、持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）に代表される世界的な課題に果敢に取り組み、その研究の中でイノベーション創出の意欲と能力を兼ね備えた人材、世界で活躍できる人材を育成する教育研究の場を実現していく。そのための不断の取り組みにより、10 年後には本学が強みとする科学技術分野において世界に冠たる研究拠点として認知されるとともに、研究を通じて世界の持続的な発展に貢献することを目指す。この取り組み

みを通じて、世界中から広く学生や研究者が集い、また世界のいずれでも活躍できる能力を習得し得る大学を実現する。同時に、学生、教職員、同窓生等すべての大学関係者が、より一層の「愛校心」と「誇り」を抱くことができるような施策、社会からの大きな期待に常に応えることができるような施策を、強力に進めて行く。

3. 中期計画 2021 (2019～2021 年度) とその振り返り

「TUS VISION 150」の実現に向けたマイルストーンとして、2019 年度から 2021 年度の間に実行すべき施策を「中期計画 2021」としてまとめたが、そこでは教学系と法人系に分けて計画を策定し、その実現に向けて協力しながら施策を実行してきた。その主な取り組みと成果を振り返った上で、引き続き取り組むべき課題を表 1 のとおりまとめた。「中期計画 2021」については、概ねその目標を達成できたものと考えているが、今後も継続して取り組むべき課題、新型コロナウイルス感染症の世界的蔓延等により、計画を策定した時にはまったく想定していなかった新たな課題も発生している。

表 1 中期計画 2021 での主な取り組みと成果・今後に向けた課題

教学系			
カテゴリー	取り組み	主な成果	課題
教育	グローバル人材育成のための教育プログラムの開発・推進	「TUS くさび形教養教育カリキュラム」と「CEFR に基づく英語能力達成度測定」を導入した。	新実力主義を体現する教育の一層の発展（SDGs 関連科目の開講等）
	特色ある理工系教育プログラムの実施	「データサイエンス教育プログラム」を全学的に整備した。また、コロナ禍への対応を含め教育 DX を推進した。	DX に対応した新しい教育スタイルの確立 データサイエンス教育のさらなる充実
	教育の質保証に向けた方策の充実	学長及び大学質保証推進委員会を中心とする内部質保証の推進を担う全学的な組織を整備した。機関別認証評価を受審し、内部質保証体制が特記すべき優れた事項の「長所」との評価を得た。	教育の質の継続的な改善
	教育の質向上のための教育課程の整備	科目ナンバリングを全学導入し、教育課程の体系性の理解促進と国際通用性を高めた。	教育課程の継続的な見直しと改善
研究	研究における世界的プレゼンスの向上	特徴的研究を発掘・育成するため、宇宙・水等の特定のテーマを重点的に支援した。海外への積極的なプレス発信を実施した。	社会課題に対応した研究の拠点化 外部機関との連携強化 国内外へのさらなる情報発信の強化
	外部資金獲得の増加	申請書のアドバイス制度等を充実させ、約 40 億円の外部資金を獲得した。また、社会連携講座制度を創設した。	社会連携・社会貢献のさらなる推進と活性化
	世界に通用する多様な研究人材の育成・獲得	「特別研究期間制度」を試行的に導入した。また、若手研究者研修制度を整備した。	研究時間確保のための業務の効率化や見直し、特別研究期間制度の拡大等の研究環境の整備

	研究環境・支援体制の整備	共同利用研究機器の戦略的運営や研究戦略・産学連携センターの機能強化に向けた検討を行った。	継続的な検討の実施
学生支援	学生支援体制の充実	学生カルテシステムの充実を図った。各種相談のオンライン化を進めた。	学生個々のニーズに対応した支援体制の構築
	多様な学生への支援策の充実	バリアフリー化を進めた。留学生に対する入国支援や新型コロナウイルス対策として奨学金制度を整備した。	キャンパスライフの質的向上に向けた支援 課外活動の充実を通じた人材育成の支援
国際化推進	学生の国際化	留学生増員に向け、広報活動等を充実させた。	学生の国際競争力を高めるための学修プログラムの確立
	教員の国際化	在外研究員制度を改善し、より利用しやすいものとした。	さらなる在外研究派遣人数増加に向けた支援
	教育研究環境の国際化	オンラインでインターナショナルラウンジを利用できるよう整備した。	海外教育研究機関との交流のさらなる推進
法人系			
カテゴリー	取り組み	主な成果	課題
	高い専門性と倫理観、優れた人間性を育む教育の推進	大学の「教育」への取り組みに対して、「特別教育研究費」を配分する支援を行った。	人間性を育む観点での「課外活動」への支援
	総合研究院・研究センターの機能強化による理科大ならではの研究拠点形成	理科大ならではの研究の推進と活性化を目的として、大学と協働して、総合研究院における各部門の支援を行った。	神楽坂、葛飾キャンパスにおける研究拠点形成のスペース確保
	新産業創生のための本学発ベンチャー支援の推進	起業希望の学生に対して、TEICの活動を中心に各種支援を行った。	起業意欲醸成のための取り組みの拡充
	次世代を見据えた教育カリキュラム編成と教育研究環境の充実	これからの時代に即した学部・学科再編計画を推進した。また、野田の新7号館及び新実験棟の竣工、各地区の通信ネットワークや映像・音響機器の強化等、施設・設備の充実を実現した。	教育研究環境のさらなる充実を目的とした各キャンパスの再構築、スマートキャンパスの実現
	本学が目指すグローバル化の推進とグローバルマインドの涵養	外国人留学生数の拡大、日本人学生の留学プログラムの拡充を実現した。	世界で活躍する人材支援、大学の認知度向上のための施策の実施
	本学の教育研究理念に共鳴する質の高い学生の確保	本学への入学意欲の高い指定校・公募制推薦入学者を安定して確保した。また、優秀な学生の進学を促すことを目的に奨学金給付対象者の拡充、2種類の冠奨学金を創設した。	高大連携の強化による勉学に強い意欲を持つ優秀な学生の継続的な確保
	リカレント教育の充実による社会人再教育	建築学科夜間主社会人コースの設置に加え、オープンカレッジ、理学部第二部長期	社会貢献・社会連携につながるリカレント教育のさらなる

	育の場の提供	修学制度、薬学研究科社会人学生コースの充実を実現した。	る充実
	財務基盤の継続的強化による教育研究環境のさらなる充実	収益構造の見直しに取り組み、運用に資する特定資産の積み増しと施設設備の充実に資する財務基盤の強化を実現した。	収益力強化に資する収入の多様化と財務基盤の安定強化

4. 現在の社会情勢と大学が向き合う課題の整理

現在の世界情勢に目を向けると、地球環境保護の観点から、SDGs やカーボンニュートラル達成のためのソリューションが求められている。また、情報化社会の加速的な進展に伴い、データサイエンスやその応用が積極的に進められており、当該分野の教育及び人材育成への要望も一層高まっている。国内では、我が国の経済力に陰りが見えて久しく、研究・技術力の低下も顕在化している。また、少子高齢化の急速な進展に伴う様々な社会問題も深刻になり、あらゆる分野でのイノベーション創出が強く求められている。一方で、科学技術の基本構造として、真理の探究やディシプリンの深化に加えて、新しい価値の創造への要望が高まる中で、社会の発展に寄与することが大学にも強く求められている。さらに、科学技術の進歩や研究分野の展開の速度は日に日に増しており、現在の科学技術を支えることとともに、次の科学技術を創造することへの期待が高まっている。また、社会の変化に伴い社会が求める人材も大きく変化し、理工系人材の活躍の場も従来の技術系企業にとどまらず、非技術系企業を含めた幅広い分野での活躍が期待されている。これらを踏まえて人材育成とイノベーションを担う最高学府である大学における教育研究の在り方を考える時、上記の課題は、本学のみならず多くの大学が共通して向き合う課題である。しかし、問題解決に向けた取り組みはそれぞれの大学で異なるはずであり、そこに本学の「建学の精神」と理工系総合大学である本学ならではの「強み」を活かすべきと考える。

では、本学の教育研究の「強み」とは何か。その対にある「弱み」も含めてあらためて考えるにあたり、創設者たちの想いにも触れながら確認したい。

5. 本学の歴史と教育研究の特色の分析

本学は、1881 年、東京大学物理学科の卒業生を中心とした 21 名の青年たちによって、「東京物理学講習所」として創設された。創設者たちは、国や藩からの手厚い支援により最先端の教育を受けたことに並々ならぬ恩義を感じており、国家の近代化を進めるために理学は必要な学問であると信じ、自らの報恩の証を「理学の普及」という形で残すため行動を起こしたのである。

以来、「理学の普及を以て国運発展の基礎とする」を建学の精神とし、東京物理学校を経て、我が国随一の理工系総合大学へと発展してきた。その間、戦前の師範学校や中等学校、戦後の中学・高校に数多くの優れた理数系教員を輩出し、我が国の教育に大きな貢献を果たした。また、高度経済成長期以降は、数多くの優秀な技術者や研究者を輩出し、「技術立国日本」の発展にも貢献している。

本学の教育方針は「**実力主義**」であり、この伝統に根差した確かな教育により、「学生を鍛える大学」として定評を得ている。「**実力主義**」については、「真に実力を身に付けた学生を卒業させる」という考えのもとで学年進級にあたり厳しい関門制度を敷いているが、単に進級が難しく卒業に要する年数が長い大学と捉えられかねない面もあったため、2020 年度に「未来を拓く実力」として次のように再定義するとともに、2021 年度には英語表記についても、“*Achieving Excellence*”という表現を制定し、本学の目指している教育に関する考え方を今の時代に即して明確に発信できる形とした。

「未来を拓く実力」とは ～新実力主義～

1. 幅広い教養、正しい倫理観を備え、人々や社会が求めることに対して使命感を持って応え、**世界の発展・持続に率先して貢献する高い志とノブレスオブリージュの精神**
2. 高い専門性とともに、その構築で培った論理的思考力とエビデンスにもとづく**科学的思考力**
3. グローバルで高度に専門化した社会において、多様な人々と積極的に交わり、専門分野の壁を越えて**共創できる力**
4. 自然や変化する社会の中から新たな問題を感じ、独自の視点で物事を捉え、柔軟な思考によって**新しい学問領域やイノベーションを創出する力**

研究面に関し、「自然・人間・社会とこれらの調和的発展のための科学と技術の創造 ～*Innovation in Science and Technology for Sustainable Development*～」を教育研究理念に掲げる本学では、他大学と比べ充実した教育研究費を配分することで教員の自由な発想に基づく多様な研究活動を支援しており、その結果として「研究力の高い私学」としての定評を得ている。その一方で、国内での理工系総合大学としての知名度は高いものの、人文社会系学部や医学部を有する大規模総合大学と比較すると、ブランド力をさらに向上させる必要がある。また、留学生比率や外国籍教員数などの指標からも、国際性の観点での評価は高いとは言えず、その改善が急がれる。図1は、2019年5月に「東京理科大学アドバイザリー委員会」¹において本学で今後検討すべき課題として外部有識者に指摘されたものである。これらはいずれも的を射たものであり、一部、例えば「重点研究分野の強化」や「データサイエンス教育・研究」等については改善に向けた取り組みを進めているが、最重要項目として中央に位置付けられている「理科大らしい特徴の構築・発信」と「シンボリックな施策」については、取り組みが十分には進められていない。

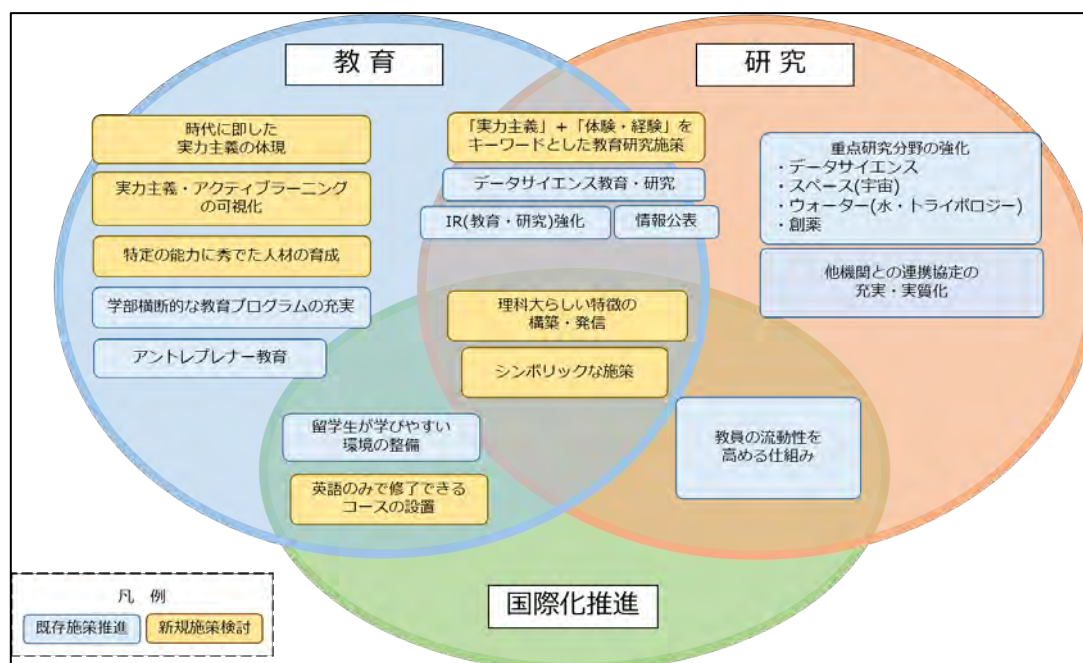


図1 外部有識者から指摘された本学で今後検討すべき課題 (2019年5月)

¹ 本学の大学運営に対し、多角的な視点から外部有識者に助言いただき、本学の強み・弱みを再認識し、今後の施策に活かすため、2018年10月に学長の下に設置。

6. 本学発展の基本戦略

これらを踏まえた上で、本学のさらなる発展に向けた次期中期計画（2022～2026 年度）を策定するにあたっては、単に課題に対応するだけでなく、時代の変化や大学に対する社会の要請にも目を向け、これまで述べた本学の伝統や強みを活かす取り組みとすべきである。そして最も重要なのは、ビジョンを明確にするとともに、それを理事会及び教職員で共有し、組織一丸となって取り組むことである。図2は、「TUS VISION 150」のマイルストーンである「中期計画 2026」の位置付けと主要な取り組みを図式化したものである。これまでに述べた内容を踏まえ、「実力主義」を継承・発展させ教育改革を行うことで、「社会を牽引するグローバル人材」を育成し、強みである「研究力」をさらに強化するための環境整備に取り組むことで、「人類・地球に資するモノやコト」を創出し、「世界の未来を拓く TUS」として貢献していく。また、理科大らしい特徴を構築・発信し、このような取り組みを行っている大学としての認知を高めることで、存在価値を揺るぎないものとし、学生や同窓生、教職員をはじめ、すべての本学の関係者の誇りにつなげていきたい。その実現に向けた種々の取り組みについて、次章に述べる。

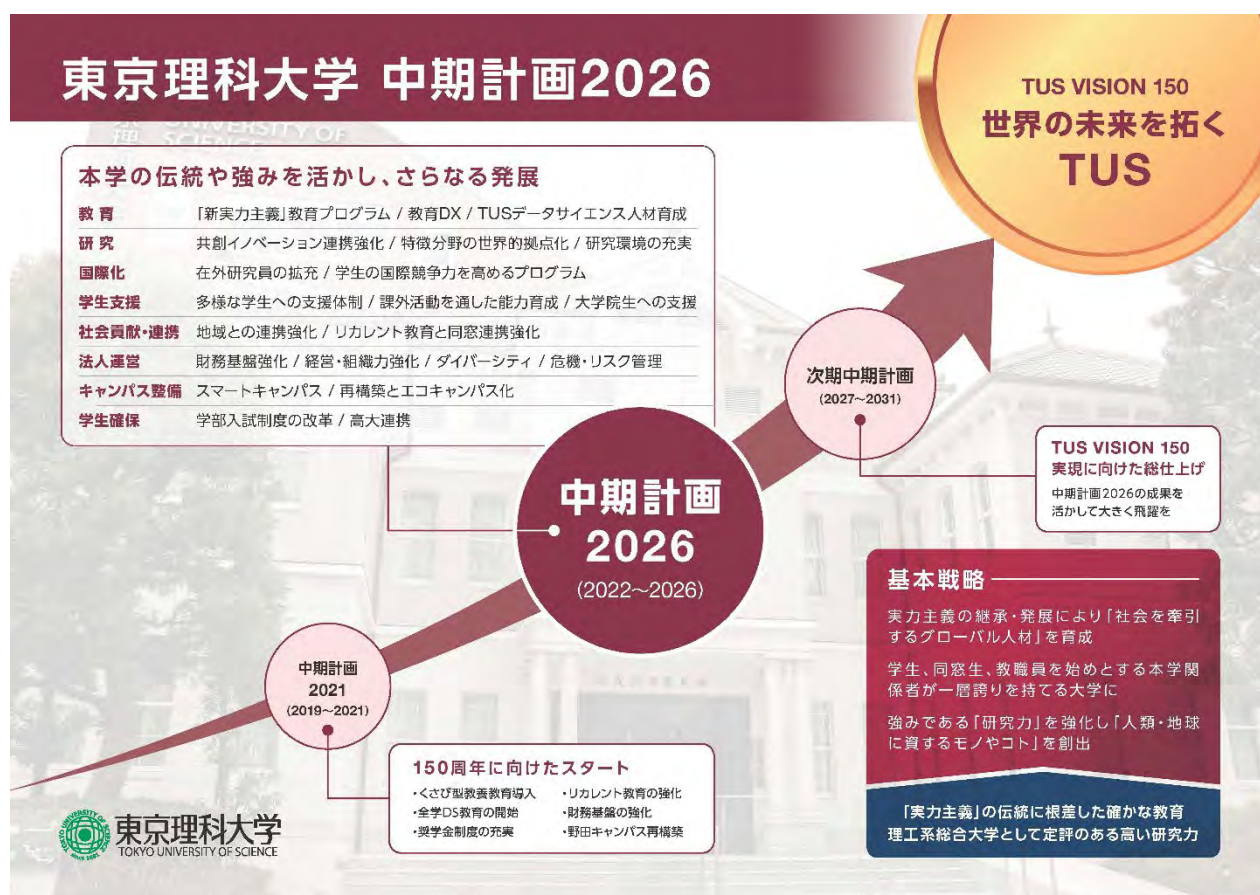


図2 「TUS VISION 150」の実現に向けた「中期計画 2026」の位置付けと主要な取り組み

7. 中期計画 2026 の具体的な内容

「TUS VISION 150」の実現や新たに発生した様々な課題解決に向けた次期中期計画(中期計画 2026)について、表2にその概要を示す。表2は①教育、②研究、③国際化、④学生支援、⑤社会貢献・連携、⑥法人運営、⑦キャンパス整備、⑧学生確保の8つのカテゴリーに分けて、今後5年間に全学で重点的かつ優先的に取り組むべき項目を示している。それぞれの内容について以下に概説する。

表 2 中期計画 2026 の概要

番号	カテゴリー	課題
①	教育	1. 世界の未来を拓く人材育成のための「新実力主義」教育プログラムの確立 2. 学びの質的転換を達成するための教育 DX の推進 3. 社会を牽引する TUS データサイエンス人材の育成
②	研究	1. 共創によるイノベーション創出を促進するための外部機関との連携強化 2. 特徴ある研究分野の世界的拠点化 3. 研究力向上のための研究環境・支援体制のさらなる充実と人材育成
③	国際化	1. 教員のグローバル化を促進するための在外研究員制度の拡充 2. 学生の国際競争力を高めるプログラム整備
④	学生支援	1. 多様な学生への個別最適化した支援体制の確立 2. 課外活動を通じたリーダーシップと挑戦力の育成 3. 大学院学生への支援の拡充
⑤	社会貢献・連携	1. キャンパスと地域との連携強化 2. リカレント教育支援と同窓との連携強化
⑥	法人運営	1. 財政基盤の強化 2. 経営・組織力の強化 3. 教職員のダイバーシティを拡充するための就労環境の改善 4. 危機管理体制の強化及びリスク管理意識の向上
⑦	キャンパス整備	1. スマートキャンパスの実現 2. キャンパス再構築及びエコキャンパス化の推進
⑧	学生確保	1. 学部入試制度の改革 2. 高大連携の推進

① 教育

新型コロナウイルス感染症禍でオンライン化とデジタルシフトの波が急激に世界を変えはじめたことで、社会はさらに複雑化している。また、地球環境の悪化や資源の枯渇、一定の周期で繰り返されるパンデミックなどについては長期的・継続的な対応が求められている。このような困難な時代に社会を牽引しさまざまな問題の解決に果敢に挑戦する人材を育成するため、以下の3つの項目に重点的に取り組む。

①-1 世界の未来を拓く人材育成のための「新実力主義」教育プログラムの確立

実力主義の再定義で掲げた資質・能力を育むため、学部から大学院にかけて効果的に編成された専門教育や教養教育カリキュラムの確立に加え、科学に根差したグローバル・コモンズ保全に関する教育を実施する。また、創設者たちの想いや矜持を伝える自校教育を充実させ、社会貢献に対する意識を高めるとともに、イノベーション力や共創力を高める領域横断型教育、デザインシンキング、システムシンキング等を涵養するための教育プログラムも整備する。

①-2 学びの質的転換を達成するための教育 DX の推進

デジタルシフトが急速に進む中、2022 年度からスタートする教育 DX を担う全学組織「教育 DX 推進センター」(TUS-CTLT)が中心となり、教育の在り方の検討と新しい教育方法の開発を進める。さらにこれらと並行して、AI を活用した個別最適化による自律学修システム、最先端デジタル技術を活用した効果的学修・教授法、学修到達度測定 WEB テストを整備する。

①-3 社会を牽引する TUS データサイエンス人材の育成

データサイエンス教育は広く行われているが、本学では、既存理論・方法を活用する人材だけでなく、データサイエンスの新たな応用展開を牽引できる TUS データサイエンス人材の育成も行う。具体的には、国が進める「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」(MDASH)に関し、リテラシーレベル、応用基礎レベルに対応した教育プログラムを整備するとともに、データサイエンスセンター(CDS)が中核となり、データサイエンスの新たな応用展開を牽引する人材育成のためのプログラムを整備する。

② 研究

「自然・人間・社会の調和的発展のための科学と技術の創造」を教育研究理念に掲げる本学にとって、世界の持続的発展に資する研究を推進することは重要な責務である。そこで、以下の3つの項目に重点的に取り組み、研究力向上に向けて研究環境をさらに充実させるとともに、他機関とも協力し社会課題に対応した先進的研究を推進できる体制を構築する。

②-1 共創によるイノベーション創出を促進するための外部機関との連携強化

これまでも良好な協力関係を築いてきた理化学研究所、産業技術総合研究所、物質・材料研究機構、国立がん研究センター等の研究機関との人材交流や共同研究をより円滑に進めるとともに、人材育成も含めた産業界との連携を強化するため、クロスアポイントメント制度の構築や兼職基準の見直しを行う。併せて、機関共創による大型研究プロジェクトの獲得にも取り組み、組織間の教育研究を一元的に企画・支援する体制を構築する。また、海外の大学や研究機関との交流を促進するため、オンラインを活用した招へい教員制度を整える。

②-2 特徴ある研究分野の世界的拠点化

本学で行われている特徴ある研究分野を組織化し、他にはない独自の研究センター等とすることで、世界から研究者が集う研究拠点を目指す。具体的な候補として、「宇宙進出のための先端技術」を中核とするスペースシステム創造研究センター、「水の科学」に取り組むウォーターフロンティア研究センター、「カーボンニュートラル」の実現に貢献するエネルギー・環境に関する研究拠点、次世代の医薬品として期待されている「核酸医薬」に関する研究拠点等を想定するとともに、新たな研究分野の開拓に挑戦していく。

②-3 研究力向上のための研究環境・支援体制のさらなる充実と人材育成

教員にとって、優れた研究を推進するのに最も必要なものは、研究時間の確保である。そこで、「研究時間の創出」のため、学部学科等の運営業務の効率化の推進や授業科目数・時間の見直し等を行うことで、研究に専念できる時間を増加させる。また、現在試行的に運用している「特別研究期間制度」

を確立し、大きな発展の見込まれる教員について、授業時間や管理運営業務の負担を一定期間削減し研究に専念できるようにする。また、研究戦略・産学連携センターをはじめとする研究支援体制の機能強化を図る。さらに、優秀な研究者や博士人材の育成支援を行うことで研究大学としてのプレゼンスの向上を目指す。

③ 国際化

新実力主義で掲げた、「グローバルな社会において多様な人々と交わり共創できる力」を高めるために、以下の2つの項目に重点的に取り組む。

③-1 教員のグローバル化を促進するための在外研究員制度の拡充

教員にとって、在外研究は単に研究を推進するだけでなく、海外研究者との親交を深め、世界の研究をリードする研究者の人的ネットワークにアクセスする意味でも非常に重要である。懸案であった派遣期間中の卒業研究や大学院生の指導について、リモートでの指導が可能となってきたこともあり、若手教員の派遣数の増加に向けて、現在の在外研究員制度を拡充する。

③-2 学生の国際競争力を高めるプログラム整備

英語での成果発表の場は、学生にとって自らの国際競争力を高める非常に良い機会となる。修士課程や博士後期課程の学生に対しては、現在も国際会議発表に伴う経費支援を実施しているが、学部生も含めて英語でプレゼンテーションする機会を創出し、その能力開発を進める。そのために、海外大学との連携協定やオンライン学修プログラム等を活用し、英語プレゼンテーション指導のプログラム等を整備する。

④ 学生支援

多様な学生を受け入れ、全学生のキャンパスライフの質的向上を目指すとともに、次世代を担う指導者の人材を育成するため、以下の3つの項目に重点的に取り組む。

④-1 多様な学生への個別最適化した支援体制の確立

個々の学生の状況を常に把握し、適切な指導やアドバイスができるようにするため、現在運用している学生カルテシステムを学修ポートフォリオシステムと連携し、分散する学生情報の一元管理を行う。加えて、保健管理センターの機能を充実させるとともに、大学院生を含むメンタルヘルスの問題に対応する精神科医やカウンセラー等を適切に配置し、個別最適化した支援体制を確立する。また、基礎教育のサポートを行う学習相談室とは別に、学習を含む生活全般について学生同士が支え合い、有意義に学生生活を送れるよう、学生相互のピア・サポート活動を推進する。

④-2 課外活動を通したリーダーシップと挑戦力の育成

学生にとって、課外活動に参加し様々な経験を積むことは、コミュニケーション能力、企画力や実践力等を高めるのに効果的である。また、科学技術の普及に関わる課外活動は、本学の建学の精神にも通ずるもので、本学ならではの社会貢献ともなる。そこで、多様な学生が課外活動に参加する機会を増やすため、地域交流、社会貢献に関する活動や理科大ならではの課外活動等への参加の場を創出することで、学生の人間的成長や創造力・挑戦力の醸成を促進する体制を構築する。

④-3 大学院学生への支援の拡充

本学が社会から評価されている「研究の理科大」を発展させ、その存在を「世界の未来を拓く TUS」としてグローバルに展開していくためには、多くの優秀な大学院生が研究を通じて高度かつ専門性の高い教育を、充実した環境の中で受けることが重要となる。本学で学部教育を受けた優秀な学生の大学院への進学者数をさらに増加させるとともに、世界から理科大大学院での教育研究を希望する留学生数の増加も図る。そのために、給付型奨学金の創設・拡充などの経済的支援をさらに充実させ、広報を強化するとともに、博士の早期修了コースの可能性について検討する。また、スキルアップ・キャリア形成・就職への支援も強化していく。

⑤ 社会貢献・連携

本学の建学の精神に表している通り、科学に基づいた教育研究を通じて、社会をより良くしていくことが本学の使命である。世界と地域の両面から社会の課題を考え、その解決に貢献するためには、本学の教育研究力を活かした活動や防災・減災活動を通して、地域や国際社会と強固なネットワークを構築することが重要となる。そのために必要な学生・教職員と卒業生との連携活動も継続して強化していく。地域連携と教育を通じた社会貢献については、以下の2つの項目に重点的に取り組む。

⑤-1 キャンパスと地域との連携強化

本学の教育研究力を活かし、各キャンパスの周辺地域の発展に資する連携活動を推進していく。本学の建学の精神に通じる地域の子どもたちへの科学啓発、本学の研究力に基づいた地域企業への支援を積極的に行うとともに、それに協力する教職員が活動しやすい環境を整える。また、キャンパスと地域・行政が連携した防災・減災活動等へも取り組み、これらの地域との連携活動を通じて、各キャンパスが地域社会の軸となり、その持続的発展に貢献することを目指す。

⑤-2 リカレント教育支援と同窓との連携強化

科学技術の革新の原動力となり、また経営や教育の分野で国際社会に貢献できる人材を育成するため、「再び学ぶ」、「働きながら学ぶ」、「生涯学ぶ」を実現できる場として、オープンカレッジの充実と国際化への対応をさらに進めるとともに、国内外の社会人を対象とした学び直しプログラムを提供する。また、卒業生や学生・教職員が相互及び地域・国際社会に向けて積極的に情報発信・交換する場をキャンパスやオンライン上に構築する。これらを通じて本学の多くの関係者が地域・国際社会に貢献することで本学に対する社会からの信頼を高め、併せて学生や卒業生の誇り及び愛校心を醸成する一助とする。

⑥ 法人運営

本学の建学の精神を受け継ぎ、教育研究理念を実践していくためには、大学の永続的な発展を担う財政基盤を盤石なものとしていくとともに、経営力及び組織の強化を実現する必要がある。また教職員が安心して活動できる環境を構築することは、本学に誇りを持ち、愛校心をさらに深めるために重要となる。そのために以下の4つの項目に重点的に取り組む。

⑥-1 財政基盤の強化

東京23区内の定員抑制により学納金収入の増加が見込み難いこと、また、私立大学等経常費補助

金も漸減傾向にあることから、財務体質を改善・強化し、適切な財務運営を行う。加えて、将来事業（キャンパスの再構築、大型研究機器・備品の購入等）や奨学金の原資となる安定的な収入源を確保していく必要がある。そのために特定資産を計画的に積み増して運用益を安全に拡大すること、収益事業としてベンチャー企業等向けのインキュベーションルーム（レンタルラボ）の拡充を進めることなどの多様な取り組みにより財政基盤をさらに強化することで、法人及び大学の永続的な発展を実現する。

⑥-2 経営・組織力の強化

様々な社会変動が起きる状況の中では、それらに適切かつ臨機応変に対応することが求められる。そのため、経営に携わる理事の職務を担える人材を継続的に育成する仕組みを確立する。また、経営を支える事務組織における DX の推進による効率と生産性の向上、事務職員の専門性・企画力・管理能力及び国際対応力強化のための研修制度の拡充、人事制度の見直しと適切な新制度の導入を行う。

⑥-3 教職員のダイバーシティを拡充するための就労環境の改善

多様な人材からなる教職員が安心かつ継続して職務に専念できるように、出産、育児、介護、療養等に際して利用可能な支援制度を含む就労環境の整備と研修制度の拡充を行う。また、男女共同参画を推進する視点から、優秀な人材がジェンダーによる区別なく教職員として活躍できるロールモデルを基にした採用方針や人事制度を構築し、ワークライフバランスの調和と組織活性化を図る。

⑥-4 危機管理体制の強化及びリスク管理意識の向上

大規模災害が発生した際には、学生及び教職員等の命を守ることはもちろんのこと、教育研究の継続性を担保しつつ、地域社会にも貢献できる適切な措置を講じる責務がある。そのために、危機管理体制の強化を図り、学生・教職員用防災マニュアルの更新、大規模災害を想定した備品等の整備に取り組む。また、リスク管理のための研修・訓練を実施し、教職員のリスク管理意識の向上、臨機応変に対応できる能力の修得を図る。

⑦ キャンパス整備

本学の学生、教職員が誇りと愛校心を育みながら高度な教育及び研究に専心でき、また、世界中の国々から多様な人材が集って学際的な議論ができる理科大に相応しいキャンパスの整備は、本学のさらなる発展に不可欠である。「世界の未来を拓くTUS」として常に最先端の科学技術を学び、研究し、触れることができるようキャンパスのさらなる充実に向けて、以下の2つの項目に重点的に取り組む。

⑦-1 スマートキャンパスの実現

教育研究の多様化と高度化が求められている現在では、教育研究及び管理業務のDXの推進は必須であり、そのためのIT環境の整備を引き続き推進する。特にキャンパス間の垣根を越えた教育研究及び学生・教職員の交流や課外活動が可能なリアルな場及び仮想環境を整備し、それを国際的な交流にも展開することで「世界の未来を拓くTUS」に発展させていく。さらに、各キャンパスにおける利便性向上のため、キャッシュレス決済の導入などのIT化も推進する。

⑦-2 キャンパス再構築及びエコキャンパス化の推進

各キャンパスの機能と役割の再評価を行いキャンパスの再構築を推進する。神楽坂キャンパスは最先端技術を導入し持続的利用が可能な都市型キャンパスを目指し、リビルディングが容易な計画の立案を進める。葛飾キャンパスは新棟の建設及び講義棟のリニューアルを進める。野田キャンパスでは薬学部の移転を念頭に、世界的な研究拠点となる場を再構築する。さらに北海道・長万部キャンパスを加えた全てのキャンパスにおいて、教育研究分野・地域性を最大限活用できる充実した教育研究環境を提供するとともに、学生と教職員が心地よく交流しキャンパスライフを満喫でき、人生の記憶に残る魅力的な場の整備を進める。その際、各キャンパスの状況を的確に把握し、環境負荷を低減するエコキャンパス化を促進するとともに、カーボンニュートラルを目指した施設・設備の改修や創エネルギー・再生可能エネルギーの利用などの検討を開始する。

⑧ 学生確保

本学の建学の精神ならびに教育研究理念に共鳴し、本学で学びたいという強い意欲を持った志願者を増やしていくために、広報活動をさらに充実させるとともに、社会の要請に応え得る入試制度を導入する。それらを通して、本学の特長である高度かつ専門的な研究を通じて教育を受けることを強く望む優秀な入学者を増加させ、「世界の未来を拓く TUS」を担う学生を育成していく。その実現に向け、以下の2つの項目について重点的に取り組む。

⑧-1 学部入試制度の改革

本学で学びたいと強く考える留学生を含む志願者に対して適切な選抜を実施することは、学習意欲が高く多様・多彩な能力を有する優秀な学生を教育していく上で極めて重要である。そのために従来の入試制度の検証及び入学者の分析等を通じて一般入試・推薦入試の区分及び選抜内容の見直しを行い、本学の幅広い教育研究分野に対して適切に志願できる入試制度として改革していく。さらに、専門分野への意識が高く高度な専門教育を望む志願者に向けて新たな選抜制度の実施を検討する。

⑧-2 高大連携の推進

建学の精神と教育研究理念を正しくかつ深く理解した入学意欲の高い志願者を増加させるため、積極的に高大連携を推進する。そのため、理数教育を重視している高校の教育の高度化や高校生への将来イメージの醸成を促すための取り組みに対して積極的に支援するとともに、それに協力する教職員が活動しやすい環境を整える。その過程で本学の建学の精神と教育研究理念に強く共感及び共鳴する高校に対しては、学校推薦制度の拡充など重点的な連携を推進していく。

8. 本学で継続的に取り組む重要課題

最後に、「中期計画 2026」のカテゴリー別の課題としては組み入れないが、中期計画の5年間の中で継続的に取り組むべき重要な課題を表3にまとめる。本学が「世界の未来を拓く TUS」として広く社会から認知され、かつ本学関係者が「愛校心」と「誇り」をさらに抱けるよう、継続的に取り組む重要課題に「ブランディング強化」を加えた。その一環として、本中期計画中に2031年の本学創立150周年に向けた記念事業を開始する。これらの課題については各年度の年次計画の中で目標、活動指標等を設定し、その解決に向けて着実に取り組んでいく。

表 3 本学で継続的に取り組む重要課題

カテゴリー	課題
教育	1. 教養教育・英語教育の充実 2. キャリア形成のための教育の充実 3. リカレント教育の充実 4. 学修ポートフォリオシステムへの学年 GPA 分布の記載などの活用推進 5. 新しい教育方法の導入検討と研修機会及び授業評価の充実 6. 全学的なカリキュラムの点検・検証・見直し
研究	1. 理科大ならではの独創的・分野横断的研究の戦略的推進 2. 研究支援制度の充実 3. 研究の見える化と研究成果の世界への発信の強化 4. 研究機器センターの戦略的運営
国際化	1. 大学院生の国際会議発表促進 2. 若手研究者国際会議派遣の推進 3. 外国人教員の増員ならびに研究室の国際化の推進
学生支援	1. キャリア支援策の充実 2. 各種奨学金の充実 3. 外国人留学生に対する生活・キャリア支援の充実 4. 障がい者支援の充実
ブランディング強化	1. ブランド力強化のための教育研究組織及び支援体制の整備・改革 2. ブランド発信力の強化 3. 150 周年記念事業の開始
社会貢献・社会連携	1. 新たなベンチャーエコシステムの設置による起業家育成強化 2. 産学公連携やベンチャー支援体制の強化 3. 卒業生と学生・教職員との連携活動の強化
法人運営	1. 外部研究資金獲得の強化 2. 募金活動推進による寄付金増加
キャンパス整備	1. 省エネ対策の強化・徹底 2. 施設・設備の整備・改修
学生確保	オープンキャンパスの充実や入試広報の拡充

9. おわりに

上記の計画のそれぞれの課題については、PDCA サイクルに基づき目標と活動指標を設け、各課題の責任者のもとで半期に 1 度程度、課題達成に向けた取り組みの進捗状況の確認及び実施内容の検証を行う。また、年度ごとの取り組み及び成果については学内外に公表していくこととする。なお、本学は、高等教育機関として、社会に対する説明責任を果たすとともに、その教育の質を向上させる観点から、本計画も含め、今後も積極的に教育研究活動等の情報を公開していく。

「中期計画 2026」について、法人理事及び学長室、各機構、学部・研究科・教養教育研究院、事務総局等に属する全ての教職員が共有し、一体となってその計画の目標達成に向けて不断の努力を着実に重ねることで、「世界の未来を拓く TUS」の実現に繋げていく。

学修状況アンケート 設問内容

1. アンケート①（対象者：全学生）

【アンケートに関する説明】

このアンケートは、学生1人1人の学修や心身の不安等を早期に収集・把握し、必要に応じた支援を行うことを目的としたものです。（年に3回程度、全在学生を対象に実施いたします）

このアンケートでは、学生個人の問題を把握し、必要に応じた支援を行うことを主な目的としていることから、回答状況に応じて追加の調査等を行う場合があります。

Q1. 最近2週間の体調はどうですか？

1. 良好 2. 普通 3. やや不良 4. 不良

Q2. 最近2週間のメンタル面の調子を天気で表すとどれですか？

1. 晴れ 2. 晴れ時々曇り 3. 曇り 4. 曇り時々雨 5. 雨

Q3. 現在、以下のいずれかで不安や、困っていることがありますか。（複数選択可）

1. 学修面 2. 体調面 3. メンタル面 4. 進路 5. 人間関係 6. その他
7. 特にない

【Q3で「7.」以外を選択した場合のみ表示】

Q4. その問題への対処方法

1. 自分で解決できそう 2. 友人や家族に相談している
3. 相談できる人がいたら相談したい

【アンケート①回答後の分岐】

※フィードバック内容はP.3「学修状況アンケート 学生へのフィードバック内容」を参照

事例1：特段の不安や悩みがない場合（Q1～Q3で黒字の選択肢を選択）

⇒フィードバック①を行い、終了。

事例2－1：不安等はあるが、相談は不要と判断した場合

（Q1～Q3で赤字選択肢を選択、かつQ4で「3.」以外を選択）

⇒フィードバック②により、相談窓口等を提示。アンケート終了。

（自発的な相談を促す）

事例2－2：不安等があり、相談が必要と判断した場合（Q4で「3.」を選択）

⇒フィードバック②により、相談窓口等を提示。（自発的な相談を促す）

3週目以降、アンケート②へ。

2. アンケート②（対象者：一部学生）

【アンケートに関する説明】

このアンケートは、先日実施した「学修状況アンケート①」において、「不安等があり、相談できる人がいたら相談したい」を選択した学生を対象に、追加で現状を伺うアンケートです。

このアンケートでは、回答内容に応じ、個別の支援を行います。

支援を行うにあたり、以下のうち必要な関係者と内容を共有いたしますが、共有の範囲は必要最小限とするとともに、記載内容やプライバシーに関する秘密は、固く守られますので、安心して回答してください。

- ・教育 DX 推進センター事務局（本アンケート実施者）
- ・関係教員（所属学科の幹事、担任の教員等）
- ・関係職員（よろず相談室カウンセラー、保健管理センター職員等）

Q1. 前回アンケートで回答のあった不安や困っていることについて、誰かに相談に行きましたか。

1. はい 2. いいえ

Q2. 不安や困っていることは解消しましたか。

1. 全て解消した 2. 一部解消したが解消していないものもある
3. 解消していない

【Q2 で「2.」又は「3.」を選択した場合のみ表示】

Q3. 現在の不安や困っていることはどれに該当しますか。（複数選択可）

1. 学修面 2. 体調面 3. メンタル面 4. 進路 5. 人間関係 6. その他

Q4. ○○（Q3 で選択した不安等）について具体的な相談内容をお書きください。

（記載可能な範囲で問題ありません）

【アンケート②回答後の分岐】

事例 2－2－1：アンケート②回答時には全て解消したと判断した場合

（Q2 で「1.」を選択）

⇒フィードバック②の後、終了。

事例 2－2－2：学科等からの個別対応が必要な場合（Q2 で「2.」又は「3.」を選択）

⇒フィードバック③の後、学科等から個別対応。

以 上

学修状況アンケート 学生へのフィードバック内容

1. フィードバック①：事例1（特段の不安や悩みがない）の場合

回答ありがとうございました。継続して学修を行ってください。

2. フィードバック②：事例2-1（不安等はあるが、相談不要と判断）の場合

事例2-2（不安等があり、相談必要と判断）の場合

事例2-2-1（アンケート②回答時には全て解消したと判断）の
場合

回答ありがとうございました。

本学では、以下のとおり各種事項に対する相談に応じています。

相談を要する事項がある場合、以下を参考に相談に行くようにしてください。

【学修面で疑問や不安があるときは】

- ・各授業に関する質問は、授業担当の教員にしましょう。

※[学習相談室（利用方法はCLASSのお知らせ参照）](#)では、数学・物理・化学・生物に関する質問について、皆さんに身近な立場の学生相談員（ES）に相談することができます。こちらも活用ください。

- ・履修・進級に関する相談は各学科の教務幹事の教員にしましょう。

※各学科の教務幹事が分からない場合は、教員や[各学部事務課](#)へお尋ねください。

- ・[各学部事務課](#)では質問にお答えすることや、相談できる教員等を紹介することも可能です。

【心身に不調を感じたとき、人間関係に不安があるときは】

体調面に関する相談は[保健管理センター](#)、メンタル面や人間関係に関する相談は[学生相談室（よろず相談室）](#)にしましょう。

【進路に不安があるときは】

就職に関する相談は各学科の[就職幹事](#)の教員にしましょう。

[キャリアセンター（就職課／学生・キャリア支援課）](#)でも質問にお答えすることや、進路相談等が可能です。

3. フィードバック③：事例 2-2-2 の場合（学科からの個別対応が必要な場合）

回答ありがとうございました。

回答内容は教育 DX 推進センター事務局で確認し、必要最小限の関係者と内容を共有した後、大学からご連絡いたします。（回答内容やプライバシーに関する秘密は、固く守られます。）

今後の対応等について確認をした後、適切な支援を検討、実施します。

なお、本学では、以下のとおり各種事項に対する相談に応じていますので、至急を要する相談事項等については、上記によらず以下を参考に相談に行くようにしてください。

【学修面で疑問や不安があるときは】

- ・各授業に関する質問は、授業担当の教員にしましょう。

※[学習相談室（利用方法は CLASS のお知らせ参照）](#)では、数学・物理・化学・生物に関する質問について、皆さんに身近な立場の学生相談員（ES）に相談することができます。こちらも活用ください。

- ・履修・進級に関する相談は各学科の教務幹事の教員にしましょう。

※各学科の教務幹事が分からない場合は、教員や[各学部事務課](#)へお尋ねください。

- ・[各学部事務課](#)では質問にお答えすることや、相談できる教員等を紹介することも可能です。

【心身に不調を感じたとき、人間関係に不安があるときは】

体調面に関する相談は[保健管理センター](#)、メンタル面や人間関係に関する相談は[学生相談室（よろず相談室）](#)にしましょう。

【進路に不安があるときは】

就職に関する相談は各学科の[就職幹事](#)の教員にしましょう。

[キャリアセンター（就職課／学生・キャリア支援課）](#)でも質問にお答えすることや進路相談等が可能です。

2024 年度 新入生対象「学習実態調査」(WEB 設問)

- ・このアンケートは、本学に入学した学生の、入学時点での学習傾向・学習行動の把握を目的として実施するものです。
- ・各設問において特に指定のない場合は、回答時点の考えや気持ちを答えてください。
- ・アンケート結果は、本学における教育改善のための分析に活用します。回答は全て統計的に処理され、個人が特定されることや、回答することによって不利益が生じることはありませんので、率直にお答えください。

あなた（アンケート回答者）の学籍番号を半角英数字で記入してください。

設問 1. 本学の志望順位について、あてはまるものを 1 つ選択してください。

- (01) 第一志望
- (02) 第二志望
- (03) 第三志望以下

設問 2. あなたにとって、大学で学ぶ目的（大学進学理由）は何ですか。あてはまるものを最大 3 つまで選択してください。

- (01) 興味や関心のあることを深く追究する
- (02) 様々なことを幅広く学ぶ（教養を身につける）
- (03) 将来の就職に必要な資格や免許を取る
- (04) 将来の就職に役立つ専門知識や技術を身につける
- (05) 社会に出たときに役立つ知識や技術を身につける
- (06) 様々な人と交流したり、いろいろな経験をしたりする
- (07) 大学卒業の学歴を得る
- (08) 家族や高校の先生の期待に応える
- (09) 社会に出るまでの自由な時間を楽しむ
- (10) 進路選択についてじっくり考える
- (11) まだ見つかっていない
- (12) その他（自由記述：50 字まで）

設問 3. 本学の「建学の精神」や、学部・学科の「3つの方針」を知っていますか。

[参考] 本学 HP <https://www.tus.ac.jp/about/university/vision/>

項目\選択肢	1_内容を理解	2_存在は	3_内容も存在
	知っている	知っている	も知らない
(01) 本学の「建学の精神」	☐	☐	☐
(02) 自身の所属する学部・学科の「3つの方針」	☐	☐	☐

設問 4. 所属する学部・学科の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか。 あてはまるものを1つ選択してください。

- (01) 一致している
- (02) 完全に一致はしていないが、興味関心に近い
- (03) 一致していない
- (04) まだ自分の興味関心がわからない
- (05) 所属する学部・学科の学問内容がよくわからない
- (06) その他（自由記述：50字まで）

設問 5. 大学時代にどの程度の英語力を身につけたいと考えていますか。最もあてはまるものを1つ選択してください。

- (01) 英語圏の大学等への留学や、英語を使って仕事をする際に支障がないレベル（多岐にわたる話題を理解し、複雑な内容を明瞭かつ詳細にプレゼンテーション等で表現することができる）
- (02) 英語圏に長期滞在するのに支障がないレベル（身近な社会問題等のニュースを理解し、自分の考えや意見を簡単に説明できる）
- (03) 身の回りの話題に関してやり取りができ、短期の語学留学等で楽しめるレベル（日常生活の身近なことがらについて、支障なくやり取りができる）
- (04) 日常の簡単な質問に答えられるレベル（日常生活のごく簡単な表現を聞き取ることができ、基本的な語句で自分の考え等を伝えられる）
- (05) 英語を積極的に身につけようとは考えていない

設問 6. これから始まる学生生活で、力を入れようと考えていることは何ですか。あてはまるものを最大3つまで選択してください。

- (01) 所属する学部・学科の学問分野に関する学修
- (02) 外国語能力を高めるための学修
- (03) 専門分野や語学に関わらず教養を身につけるための学修
- (04) データサイエンスやプログラミングに関する学修
- (05) 就職に必要な資格や免許を取るための学修／公務員試験に合格するための学修
- (06) 就職を見据えた、企業・学校・官公庁などが実施するインターンシップ
- (07) 大学院に進学するために必要な学修や情報収集
- (08) クラブ・サークル活動
- (09) ボランティア活動など社会貢献
- (10) 友人、先輩、後輩、先生などとの関わり合い（人脈づくり）
- (11) 海外留学
- (12) アルバイトなど、お金を貯めるための活動
- (13) 大学卒業の学歴を得るために最低限必要な学修
- (14) 特別に重点を置かず、ほどほどに組み合わせる
- (15) まだ見つかっていないため、これから考える
- (16) その他（自由記述：50 字まで）

設問 7. 次の項目について、あなたの今の気持ちに最もあてはまる選択肢を、項目ごとに1つずつ選択してください。

項目\選択肢	1_非常に あてはまる	2_やや あてはまる	3_あまり あてはまらない	4_全く あてはまらない
(01) 友人ができるか不安である	☐	☐	☐	☐
(02) 授業についていけるか不安である	☐	☐	☐	☐
(03) 経済的な不安がある	☐	☐	☐	☐
(04) 他の学部・学科に編入したい	☐	☐	☐	☐
(05) 他大学の再受験や、退学を検討している	☐	☐	☐	☐

設問 8. 2023 年 11 月に、学校・塾・予備校の授業以外で、1 日あたり平均で何時間くらい自主学
習をしていましたか。平日・休日ごとにあてはまるものを 1 つ選択してください。(平
日・休日別に平均時間を答えてください)

項目\選択肢	1_平日	2_休日
(01) 0 分以上、1 時間未満	☐	☐
(02) 1 時間以上、2 時間未満	☐	☐
(03) 2 時間以上、3 時間未満	☐	☐
(04) 3 時間以上、4 時間未満	☐	☐
(05) 4 時間以上、5 時間未満	☐	☐
(06) 5 時間以上、6 時間未満	☐	☐
(07) 6 時間以上、7 時間未満	☐	☐
(08) 7 時間以上、8 時間未満	☐	☐
(09) 8 時間以上、9 時間未満	☐	☐
(10) 9 時間以上、10 時間未満	☐	☐
(11) 10 時間以上	☐	☐

以 上

【CTLT-TL】（2019年度～）学部新入生 学習実態調査 実施結果概要

【表示範囲：全教職員】

●経年で大きな変更のない設問については、2019年度から2024年度までの実施結果が表示可能

- ※2019年度は株式会社ベネッセ i キャリアによるアセスメントテストとしてマークシートにより実施（S,K,OSは未実施）
- ※2020年度はコロナ禍のため、実施期間は7月2日～22日
- ※2020～2021年度は、CLASSにより実施
- ※2022年度以降はQualtricsにより実施

●学部・学科名称は、最新の名称で表示

例）理工学部は創域理工学部として表示

【設問及び回答率】

[2019年度](#)（89.3%）／[2020年度](#)（79.8%）／[2021年度](#)（89.4%）／[2022年度](#)（61.9%）／[2023年度](#)（60.3%）／[2024年度](#)（69.4%）

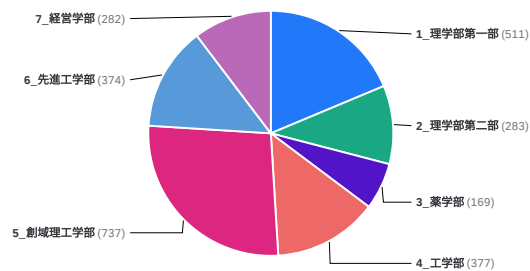
【各学部・学科の回答率】

[2019年度](#)／[2020年度](#)／[2021年度](#)／[2022年度](#)／[2023年度](#)／[2024年度](#)

回答数 17,388 7

回答年度 ↑	数
2019	3,309
2020	2,882
2021	3,560
2022	2,344
2023	2,560
2024	2,733

回答者数の内訳 2,733



学部別回答数 17,388 7

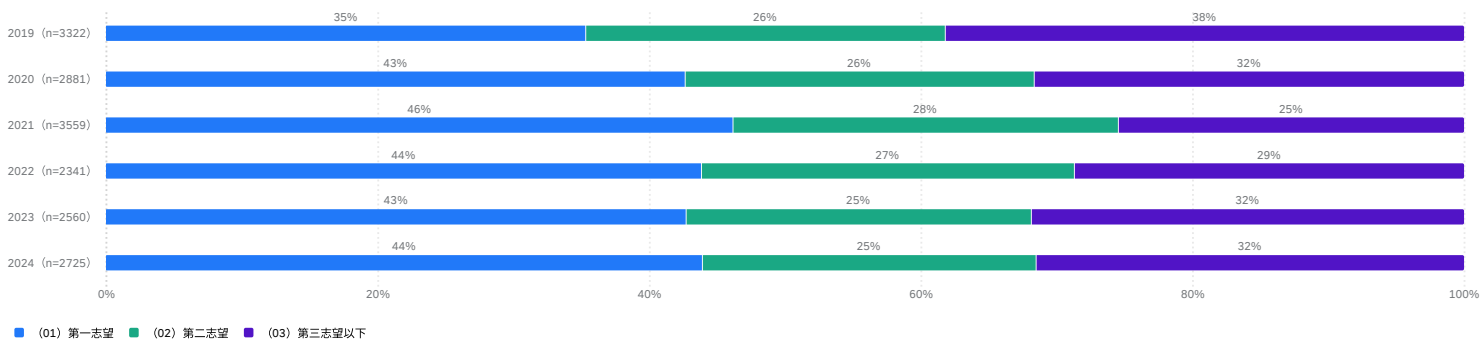
学部 ↑	2019	2020	2021	2022	2023	2024
1_理学部第一部	334	560	684	636	511	511
2_理学部第二部	336	253	250	204	247	283
3_薬学部	173	174	182	127	142	169
4_工学部	514	392	484	294	309	377
5_創域理工学部	1,189	890	1,238	631	734	737
6_先進工学部	325	267	297	201	379	374
7_経営学部	438	346	425	251	238	282

設問1 本学の志望順位について、あてはまるものを1つ選択してください。

※※2019年度以降、共通の設問

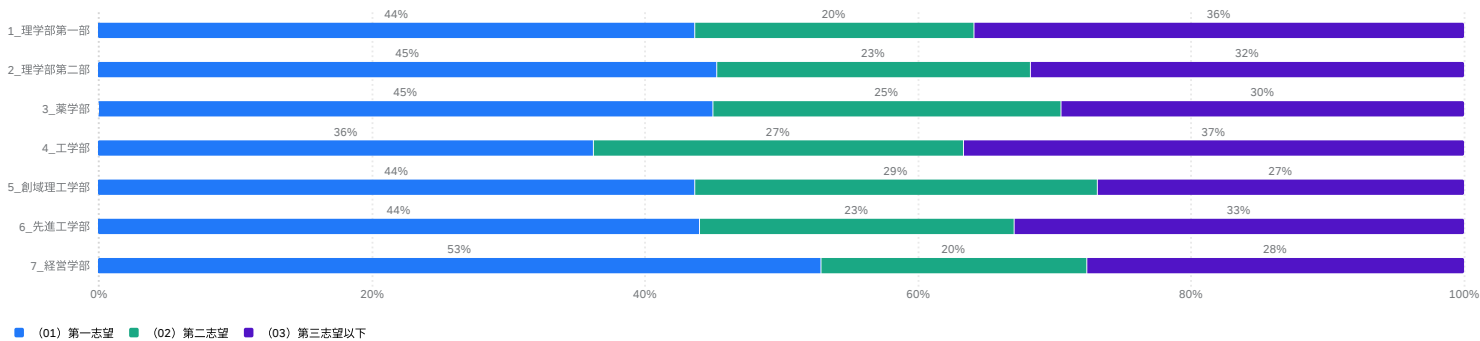
設問1 本学の志望順位について、あてはまるものを1つ選択してください。（全学）

17,375



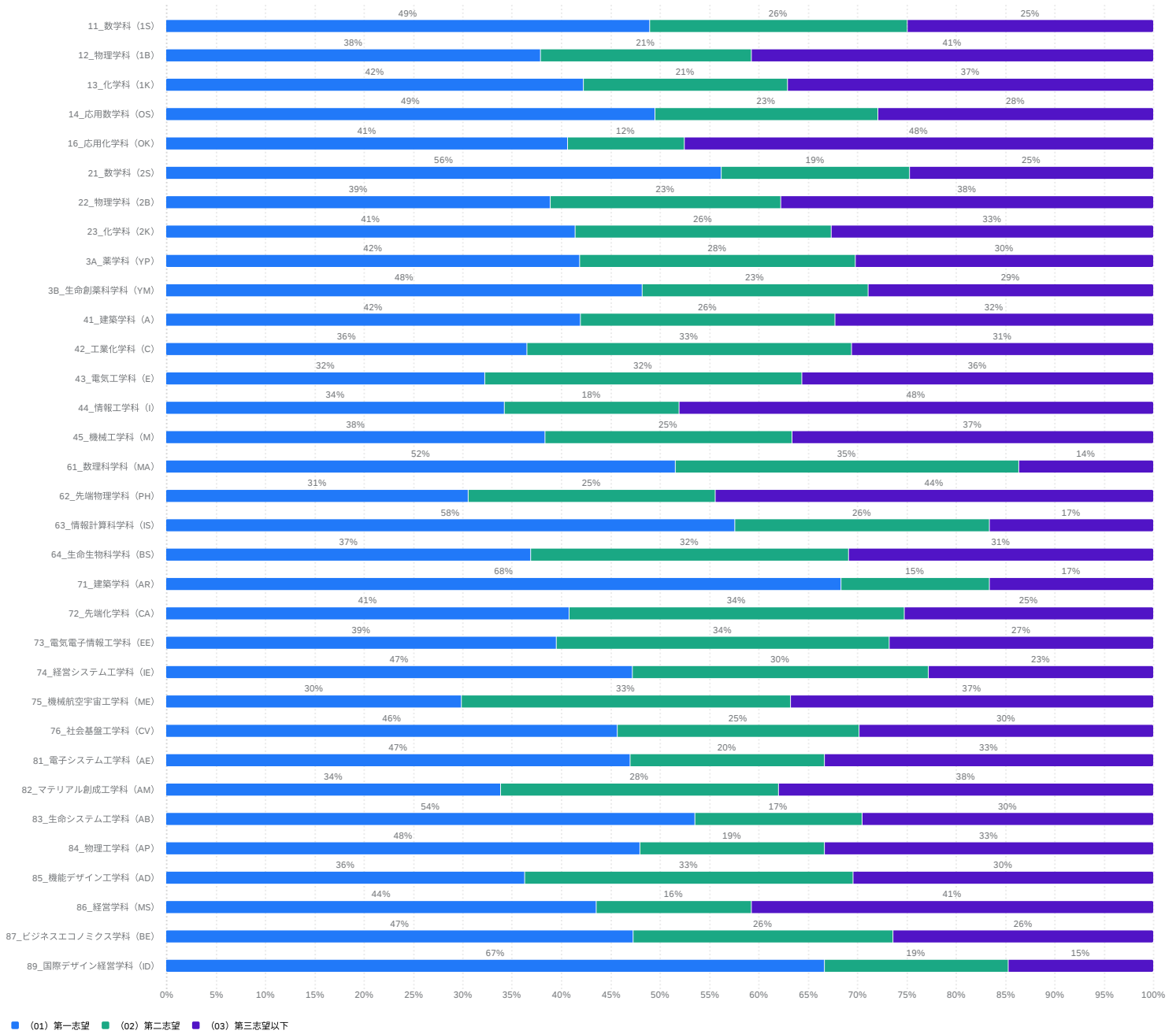
設問1 本学の志望順位について、あてはまるものを1つ選択してください。（学部別比較）

2,725



設問1 本学の志望順位について、あてはまるものを1つ選択してください。（学科別比較）

2,725



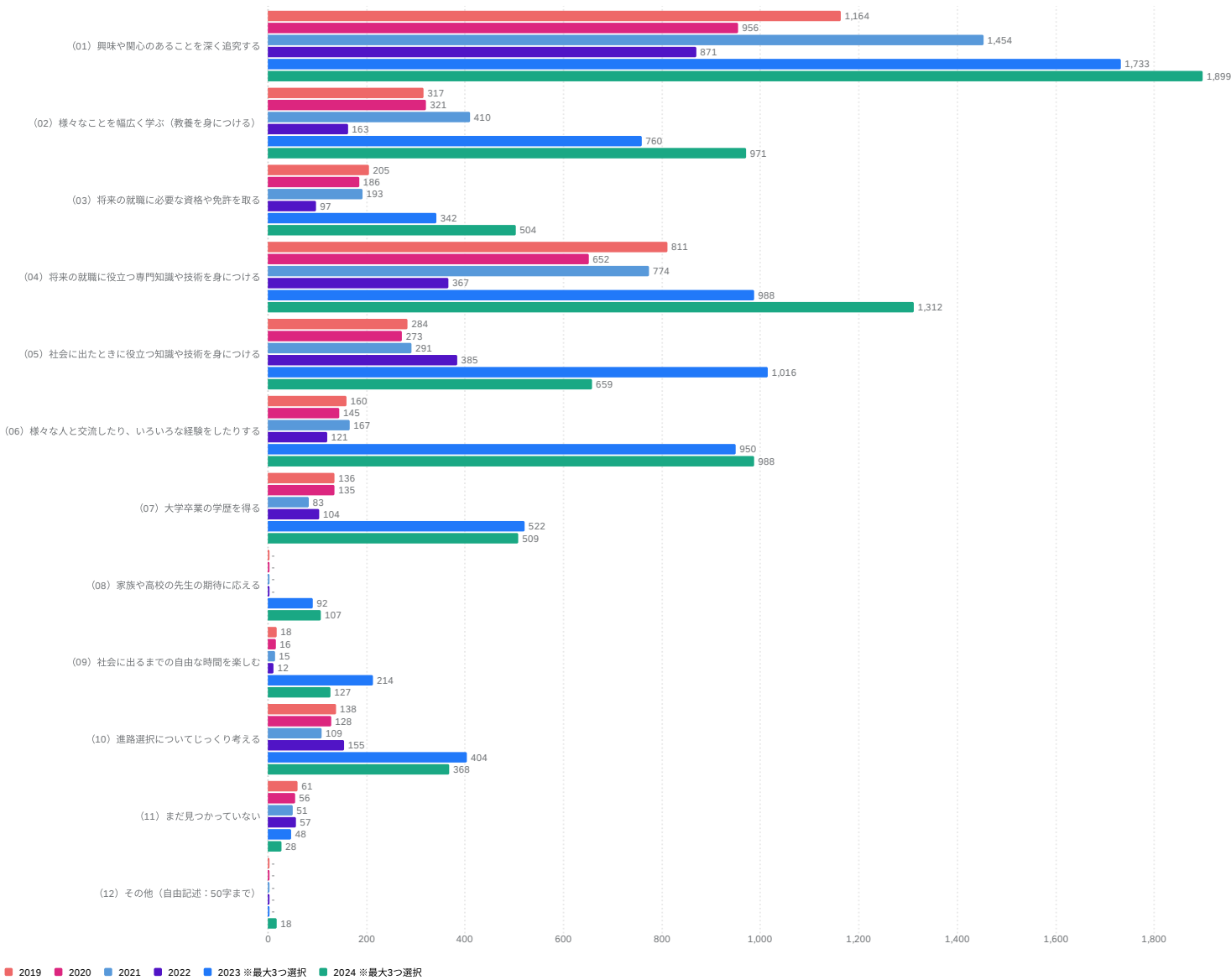
設問2 あなたにとって、大学で学ぶ目的（大学進学理由）は何ですか。あてはまるものを最大3つまで選択してください。

※2022年度以前は「最もあてはまるものを1つ選択」

※選択肢「(08) 家族や高校の先生の期待に応える」は、2023年度から新設

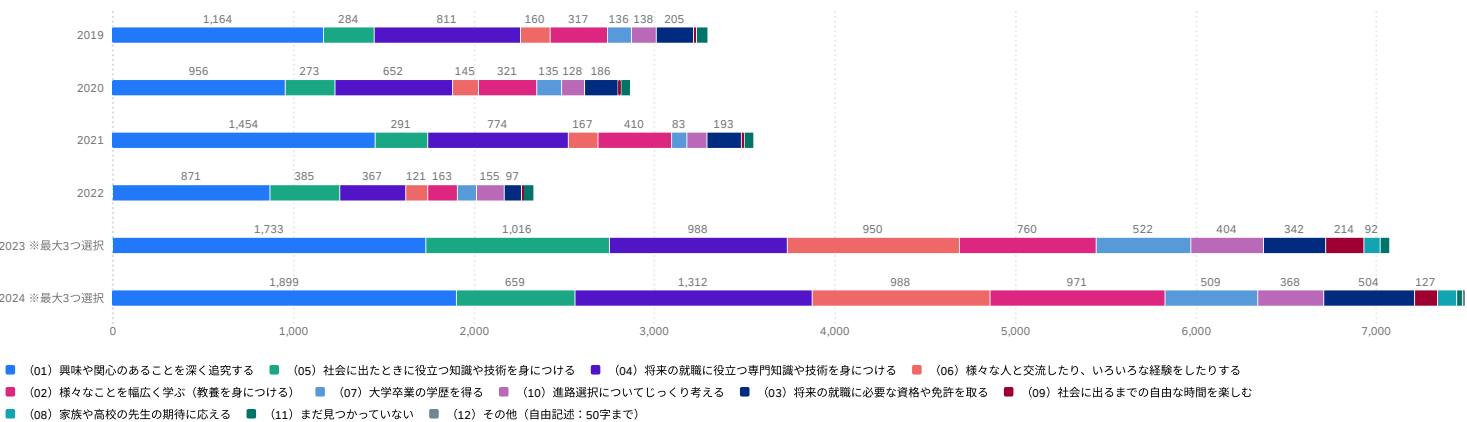
設問2 あなたにとって、大学で学ぶ目的（大学進学理由）は何ですか。あてはまるものを最大3つまで選択してください。（全校）

17,297



設問2 あなたにとって、大学で学ぶ目的（大学進学理由）は何ですか。あてはまるものを最大3つまで選択してください。（全校）

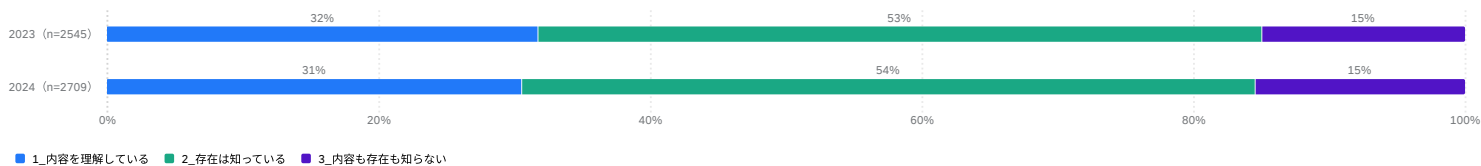
17,297



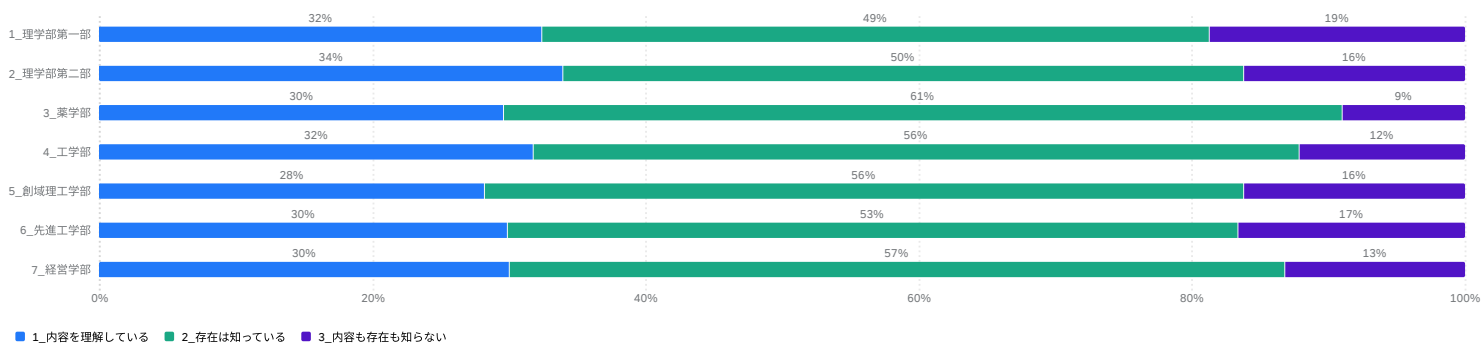
設問3 本学の「建学の精神」や、学部・学科の「3つの方針」を知っていますか。

※2023年から新設

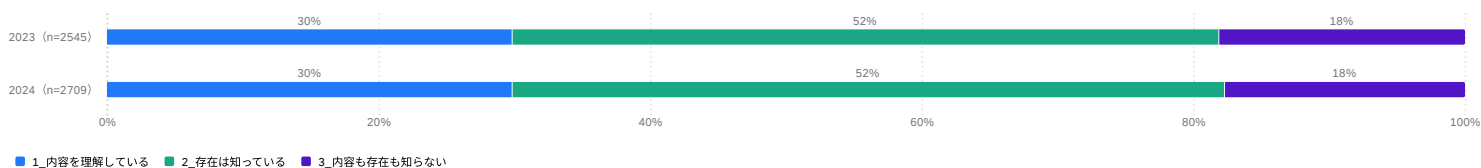
設問3-1 本学の建学の精神（全学）



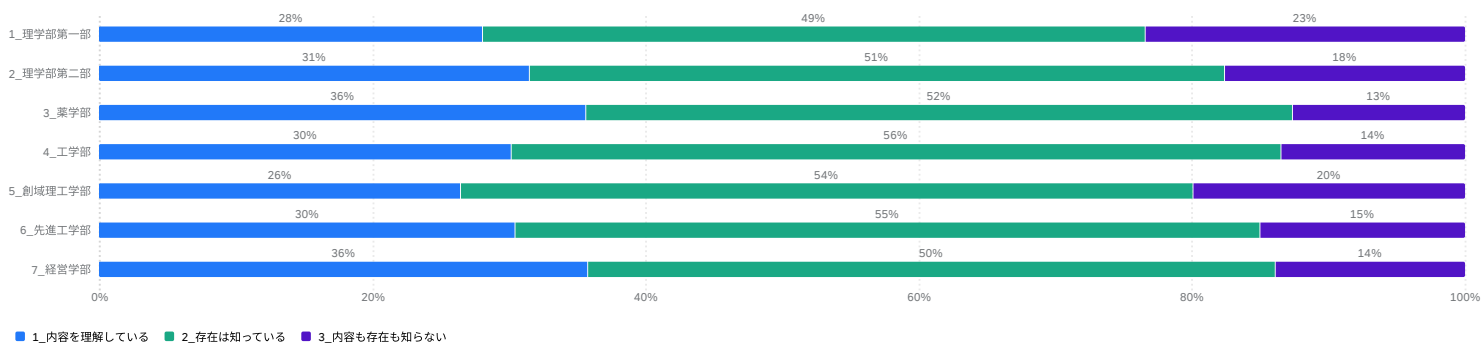
設問3-1 本学の建学の精神（学部別比較）



設問3-2 学部・学科の「3つの方針」（全学）



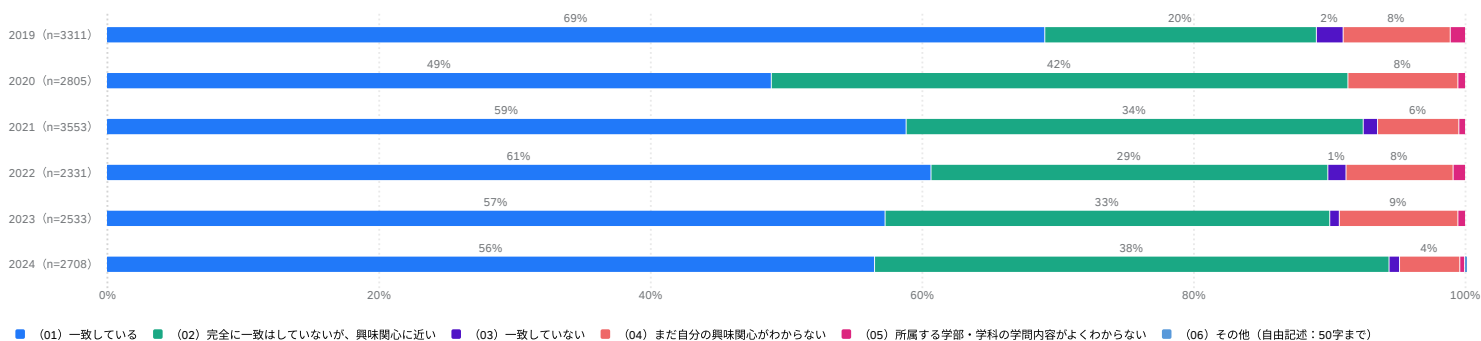
設問3-2 学部・学科の「3つの方針」（学部別比較）



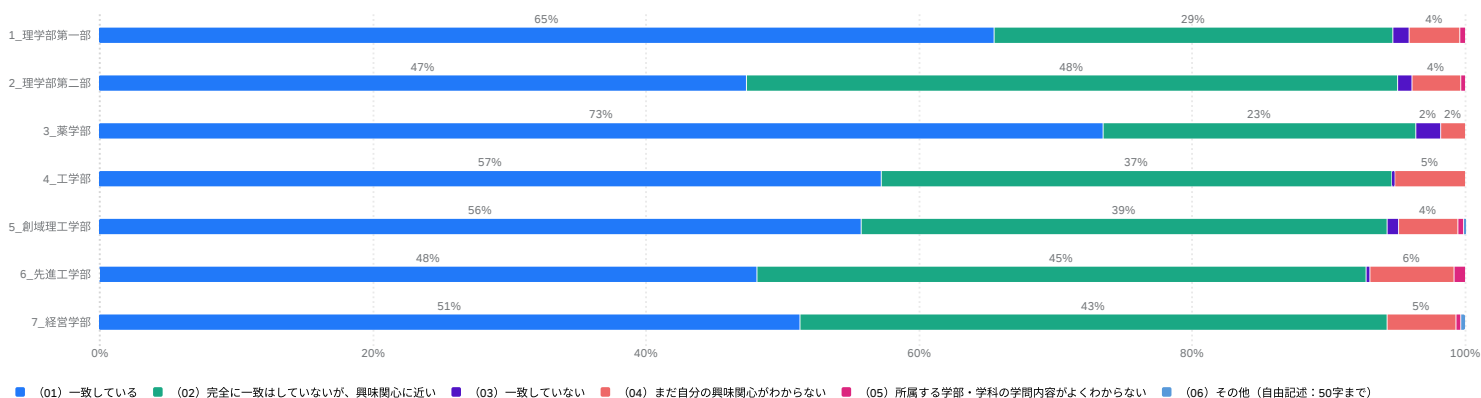
設問4 所属する学部・学科の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか。あてはまるものを1つ選択してください。

※2019年度以降、共通の設問

設問4 所属する学部・学科の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか。あてはまるものを1つ選択してください。（全学）



設問4 所属する学部・学科の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか。あてはまるものを1つ選択してください。（学部別比較） 2,708



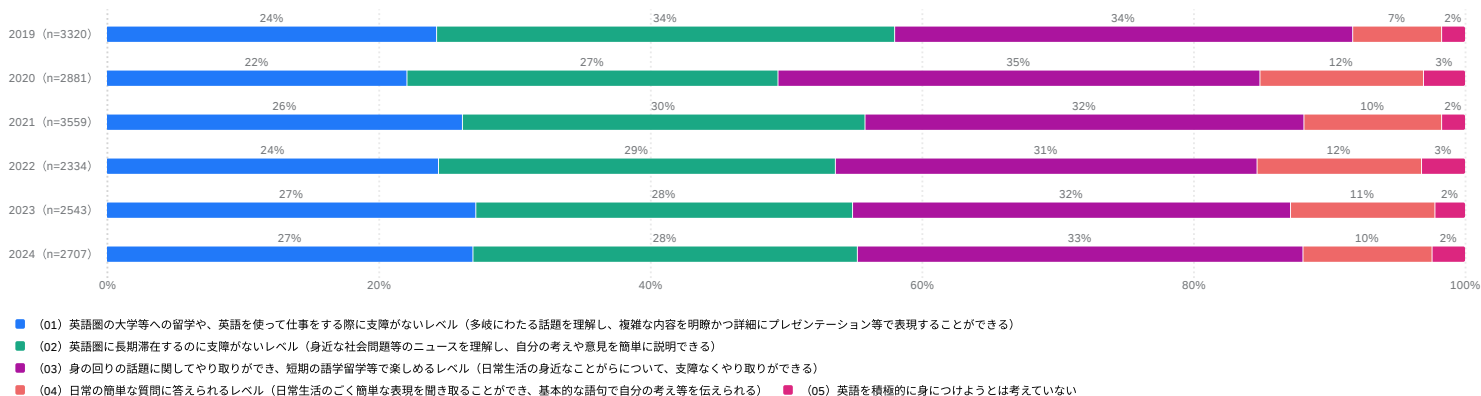
設問4 所属する学部・学科の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか。あてはまるものを1つ選択してください。（学科別比較） 2,708



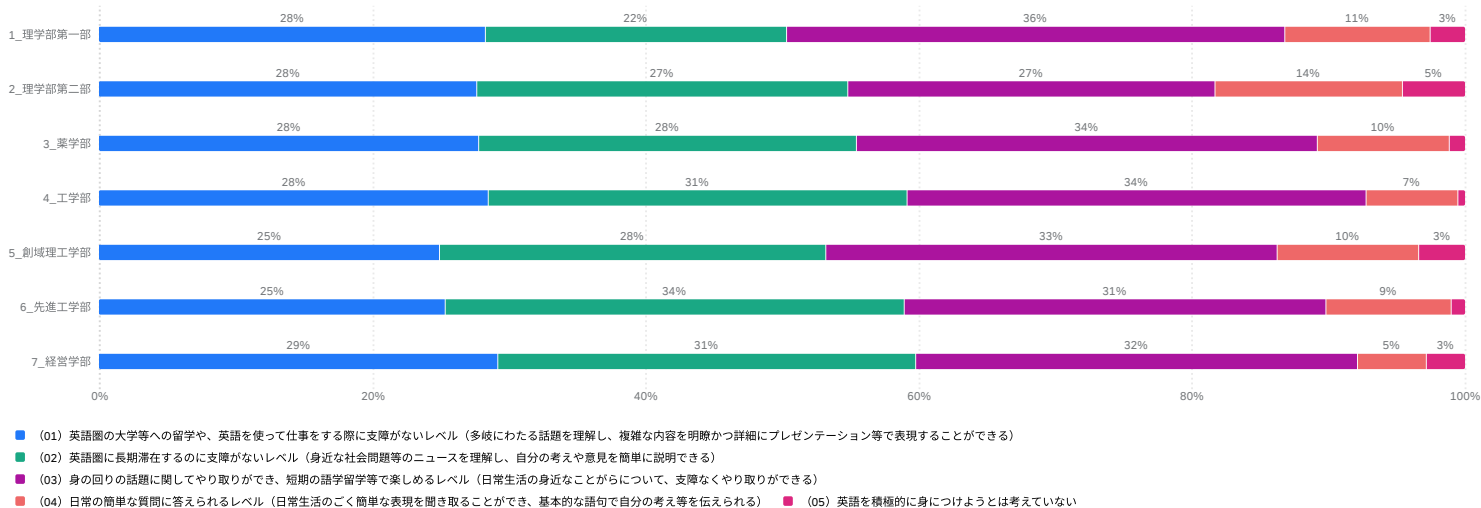
設問5 大学時代にどの程度の英語力を身につけたいと考えていますか。最もあてはまるものを1つ選択してください。

※※2019年度以降、共通の設問

設問5 大学時代にどの程度の英語力を身につけたいと考えていますか。最もあてはまるものを1つ選択してください。（全学） 17,331

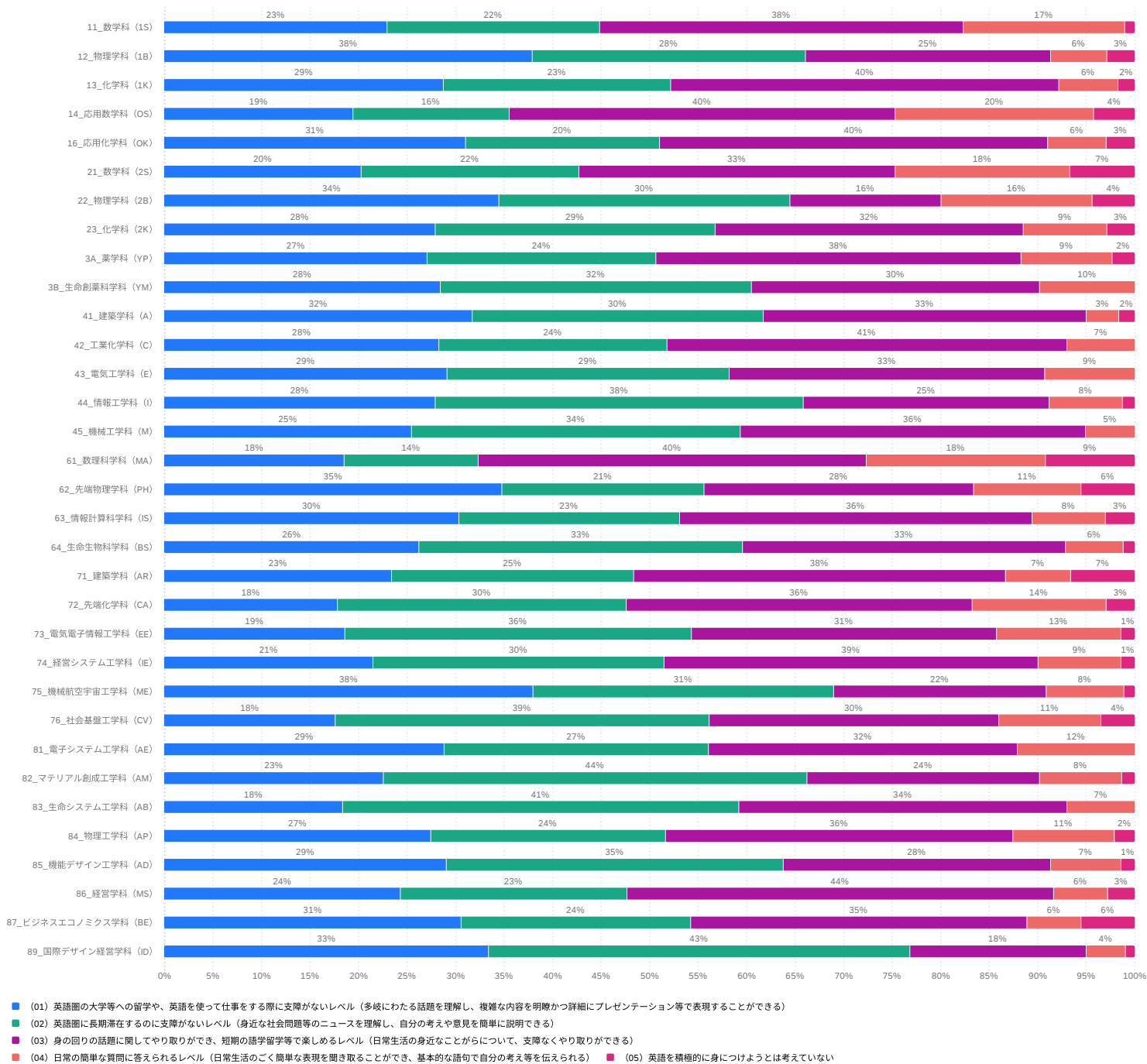


設問5 大学時代にどの程度の英語力を身につけたいと考えていますか。最もあてはまるものを1つ選択してください。（学部別比較） 2,707



設問5 大学時代にどの程度の英語力を身につけたいと考えていますか。最もあてはまるものを1つ選択してください。（学科別比較）

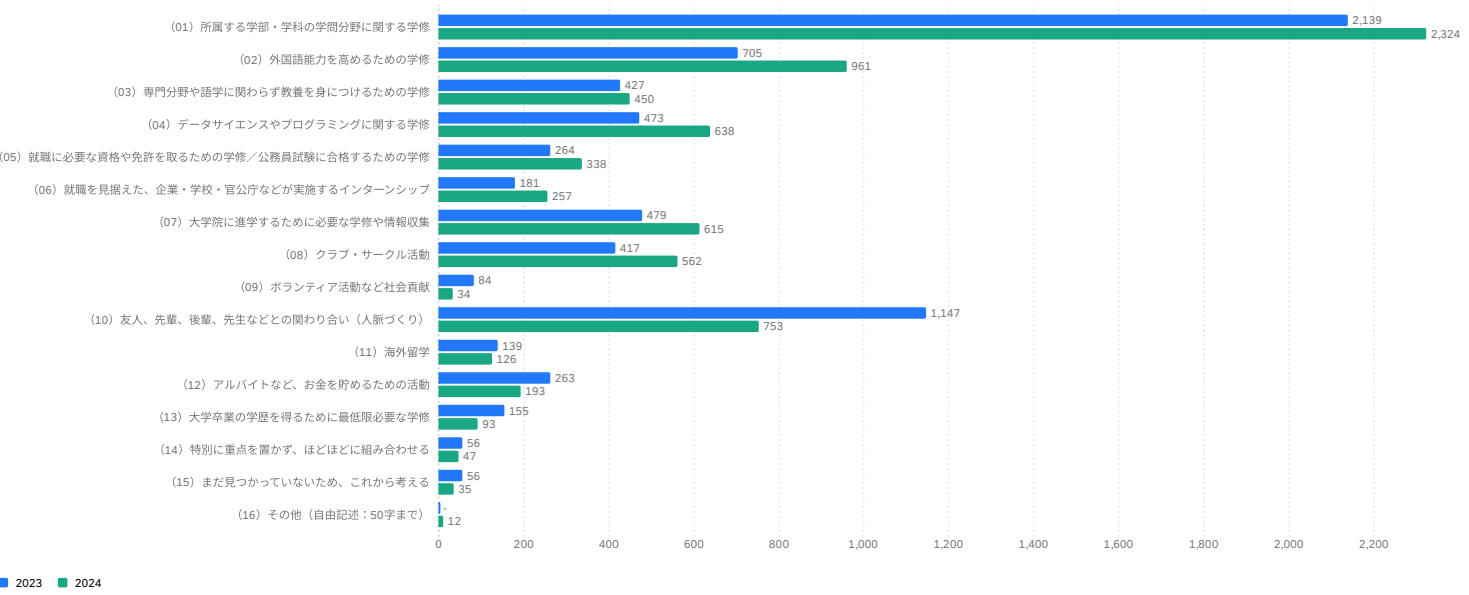
2,707



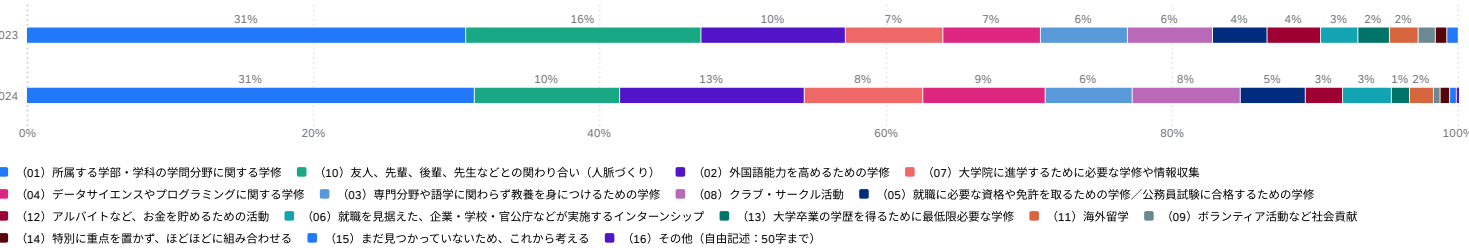
設問6 これから始まる学生生活で、力を入れようと考えていることは何ですか。あてはまるものを最大3つまで選択してください。

※2023年からの設問

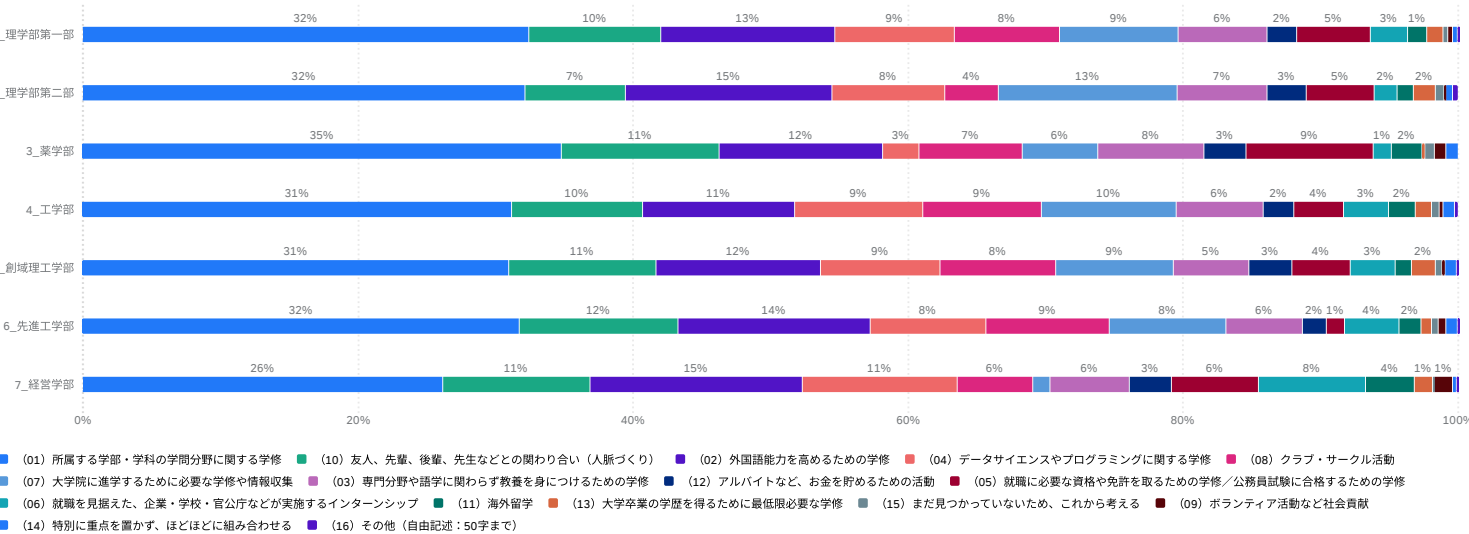
設問6 これから始まる学生生活で、力を入れようと考えていることは何ですか。あてはまるものを最大3つまで選択してください。（全学・回答件数）



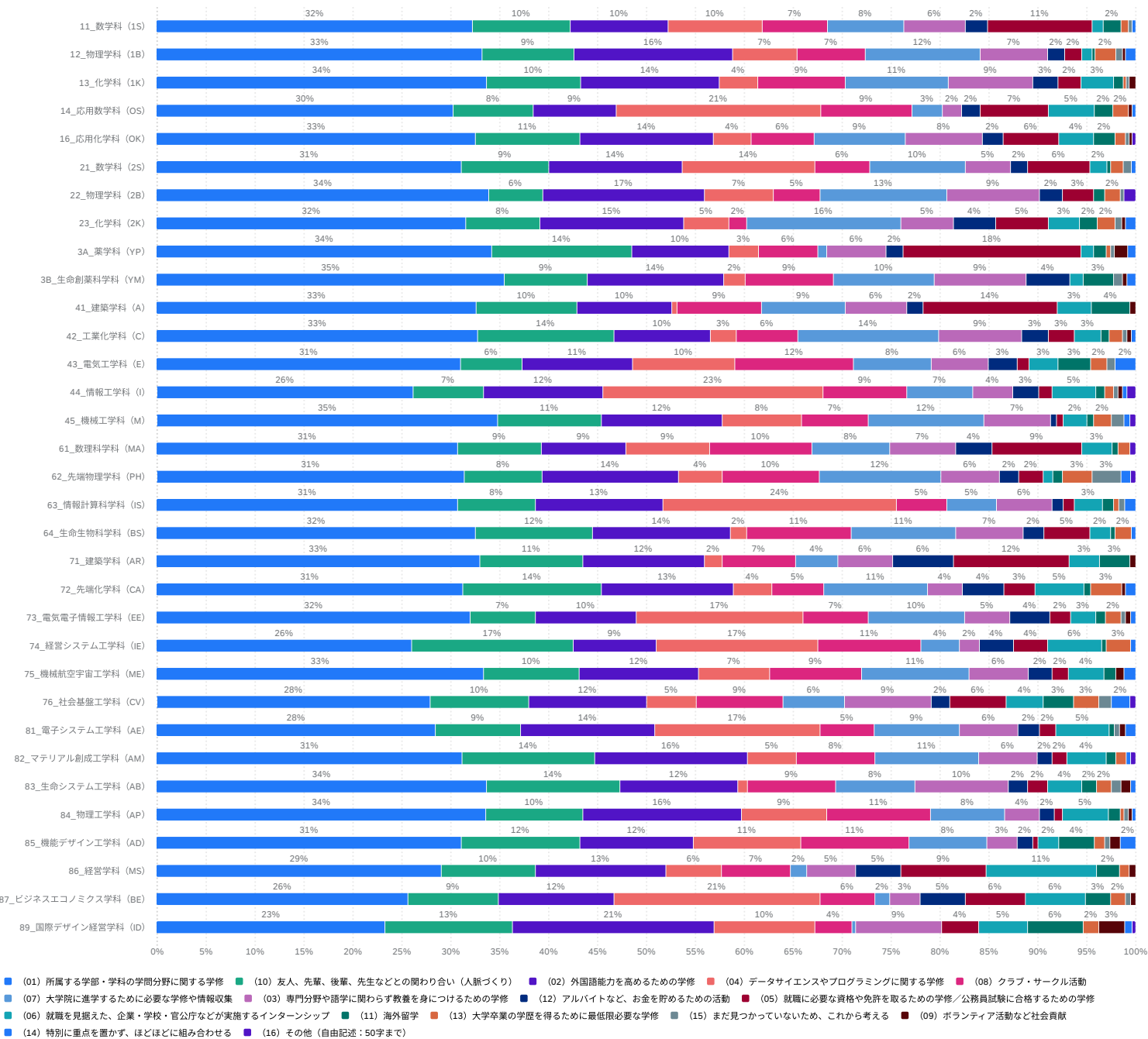
設問6 これから始まる学生生活で、力を入れようと考えていることは何ですか。あてはまるものを最大3つまで選択してください。（全学・回答件数）



設問6 これから始まる学生生活で、力を入れようと考えていることは何ですか。あてはまるものを最大3つまで選択してください。（学部別比較・回答割合）



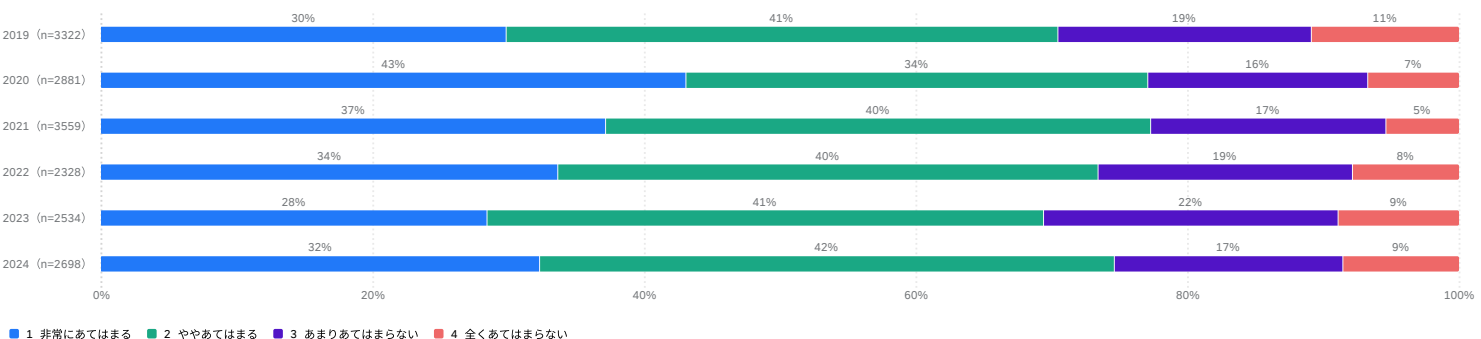
設問6 これから始まる学生生活で、力を入れようと考えていることは何ですか。あてはまるものを最大3つまで選択してください。（学科別比較・回答割合） 2,701



設問7 次の項目について、あなたの今の気持ちに最もあてはまる選択肢を、項目ごとに1つずつ選択してください。

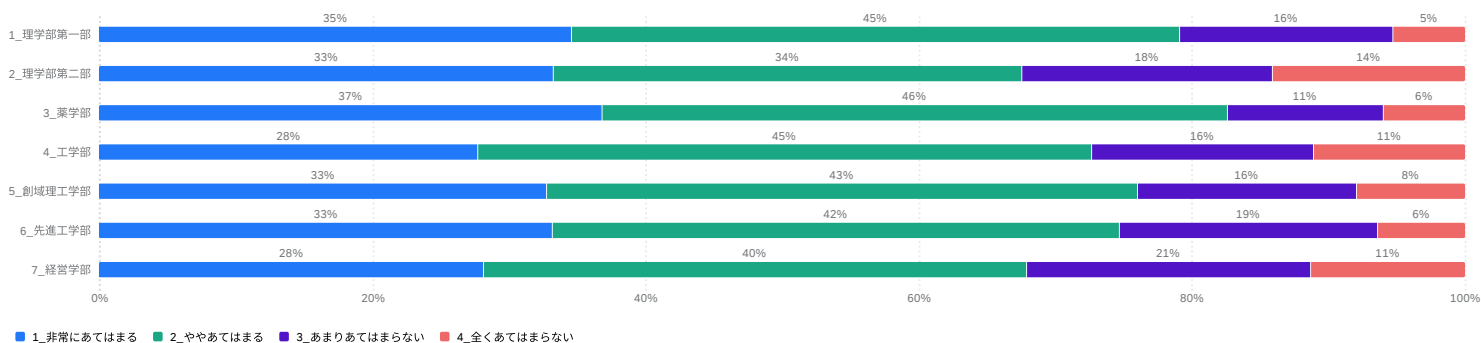
※※2019年度以降、共通の設問

設問7-1 友人ができるか不安である（全学） 17,309 ▽



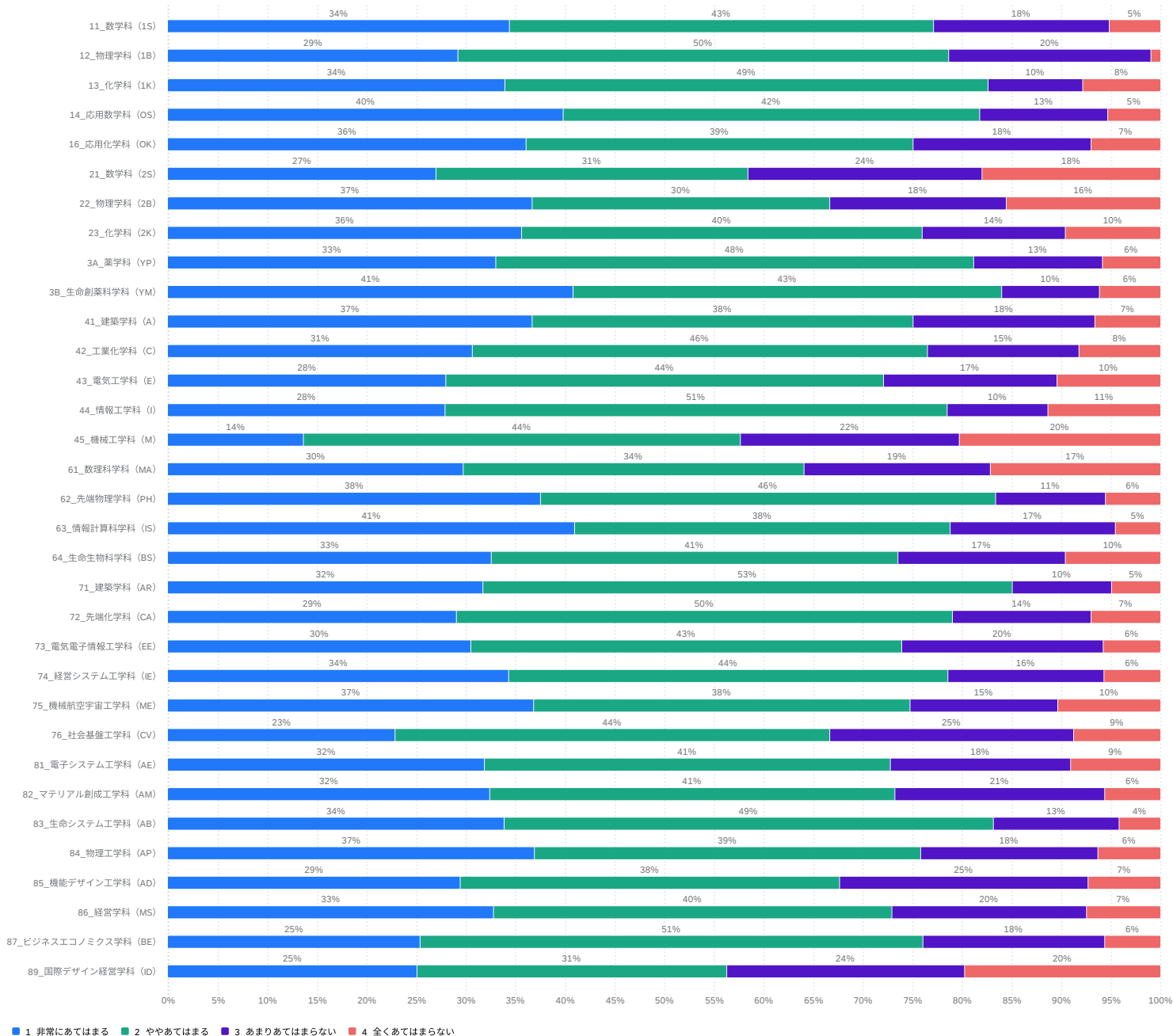
設問7-1 友人ができるか不安である（学部別比較）

2,698

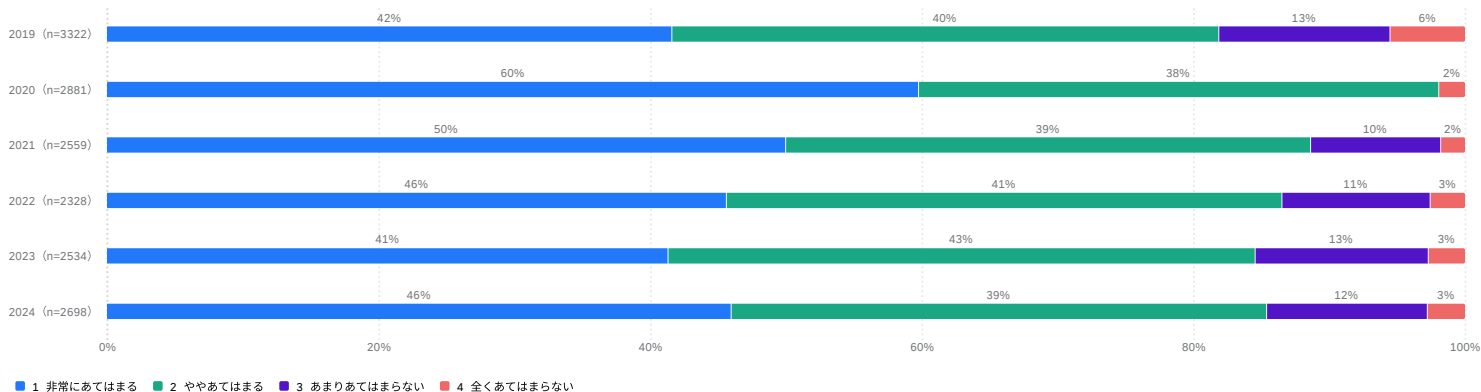


設問7-1 友人ができるか不安である（学科別比較）

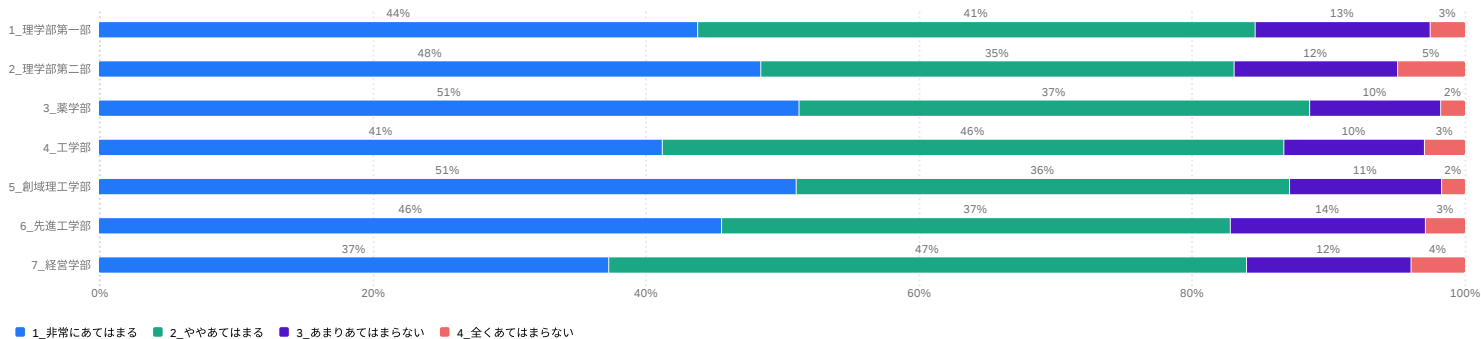
2,698



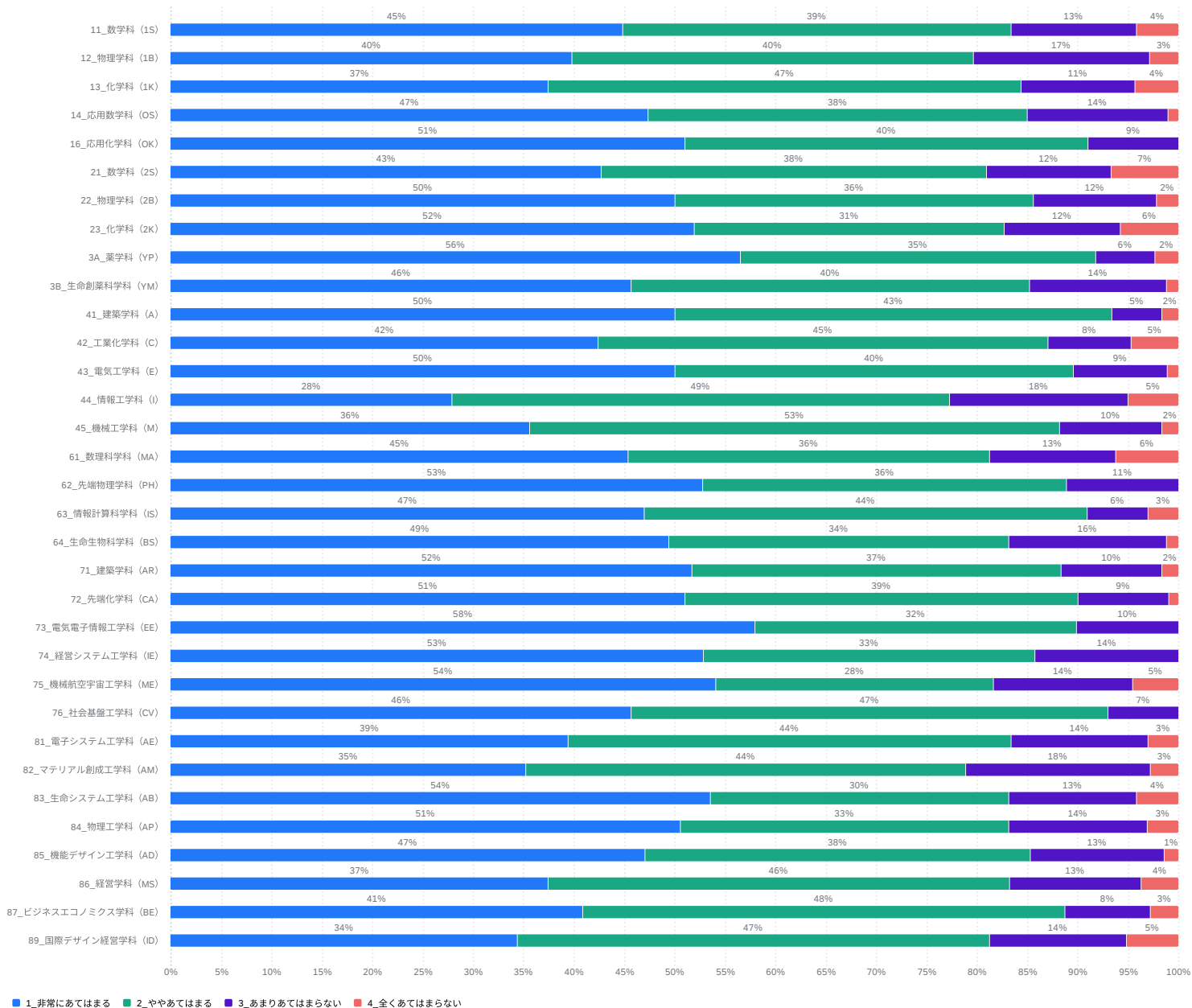
設問7-2 授業についていけるか不安である（全学） 17,309 ▼



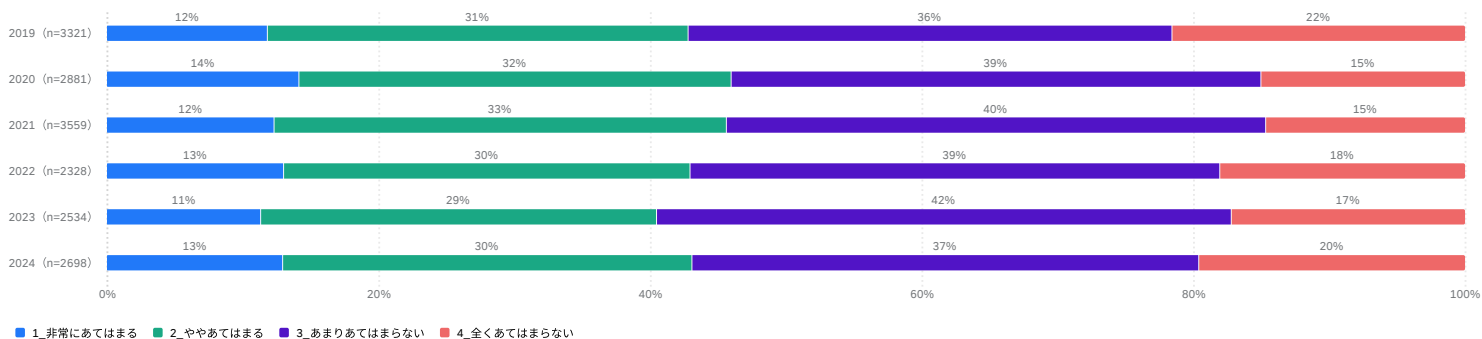
設問7-2 授業についていけるか不安である（学部別比較） 2,698 ▼



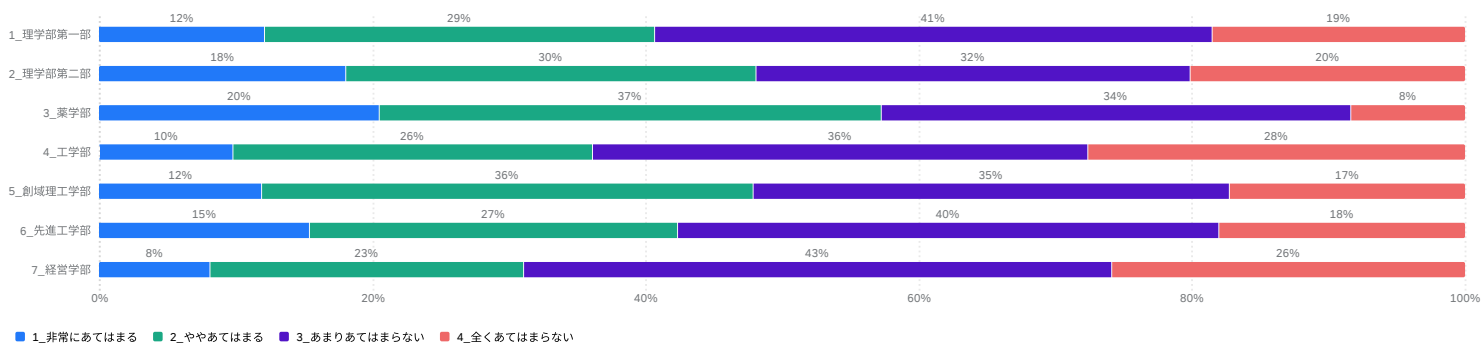
設問7-2 授業についていけるか不安である（学科別比較） 2,698



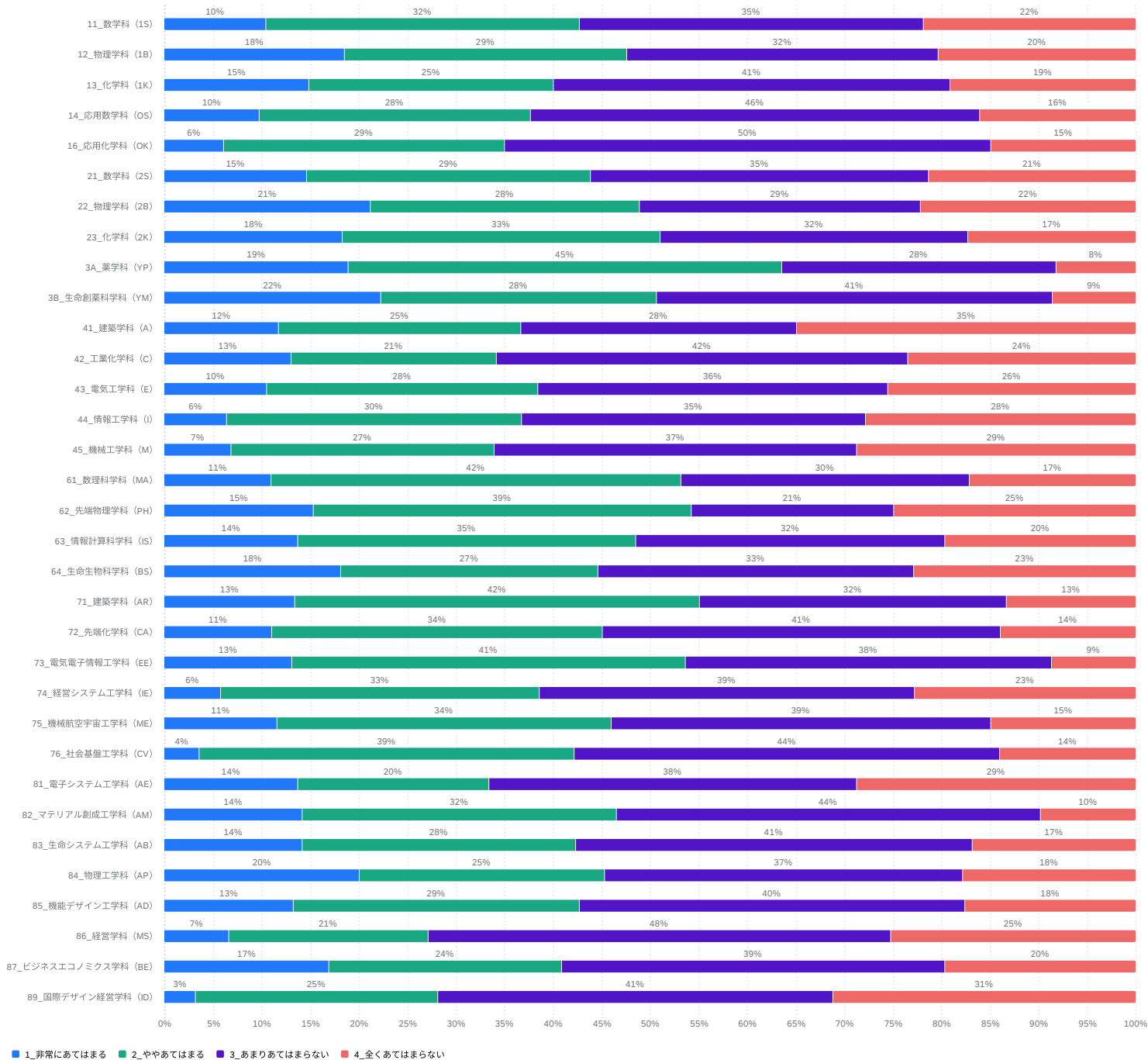
設問7-3 経済的な不安がある（全学） 17,308



設問7-3 経済的な不安がある（学部別比較） 2,698

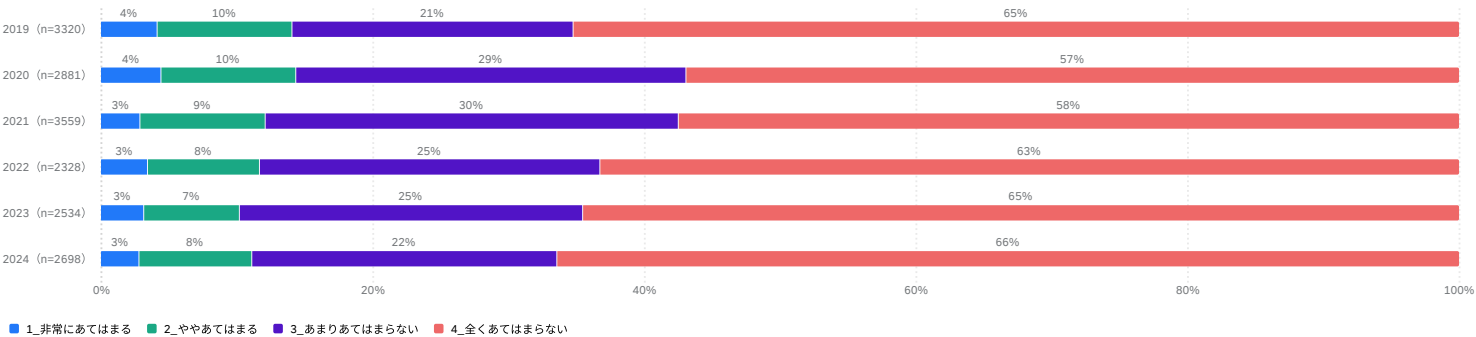


設問7-3 経済的な不安がある（学科別比較） 2,698



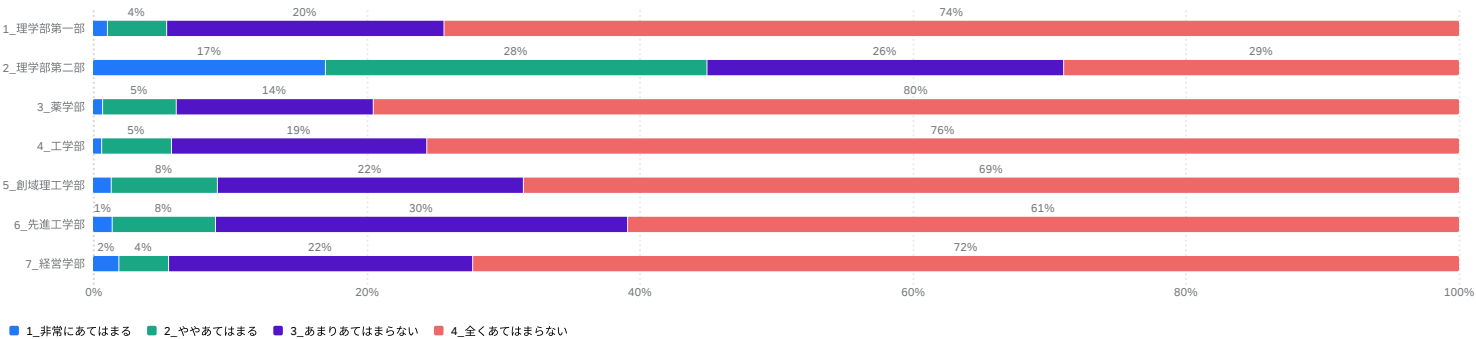
設問7-4 他の学部・学科に編入したい（全学）

17,307

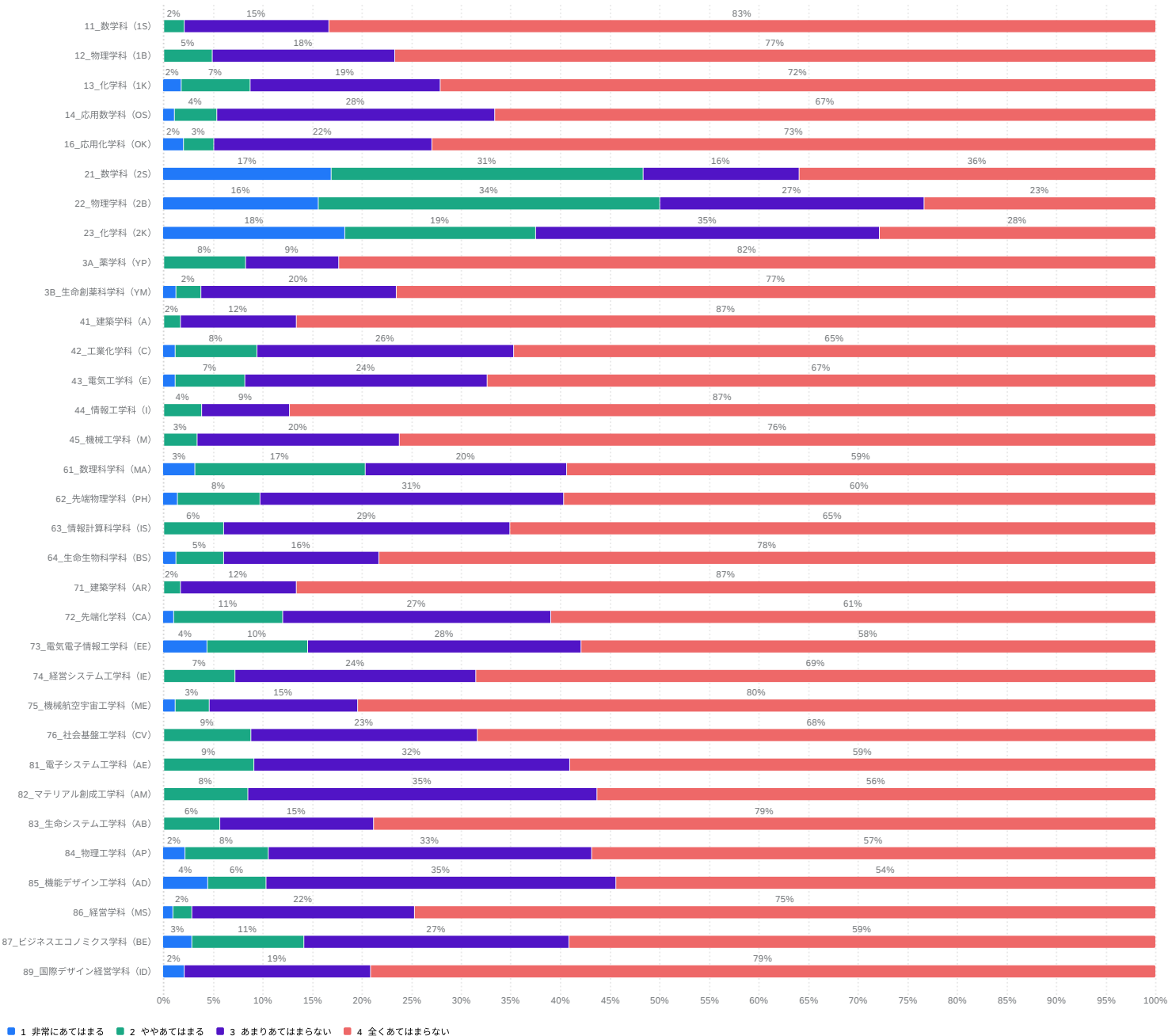


設問7-4 他の学部・学科に編入したい（学部別比較）

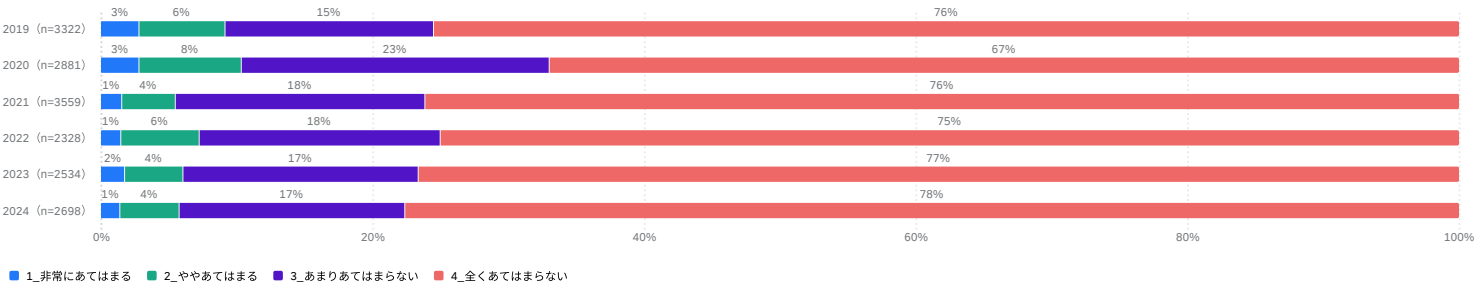
2,698



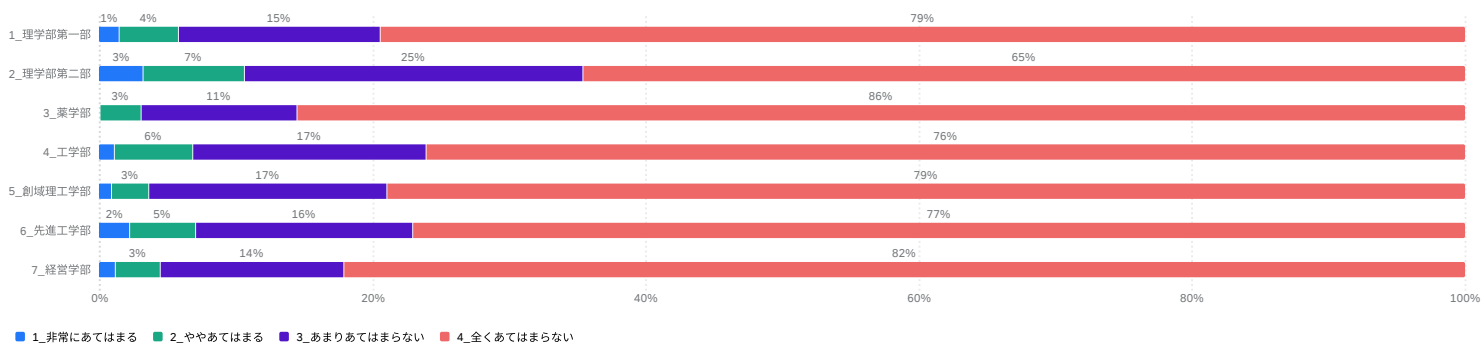
設問7-4 他の学部・学科に編入したい（学科別比較） 2,698



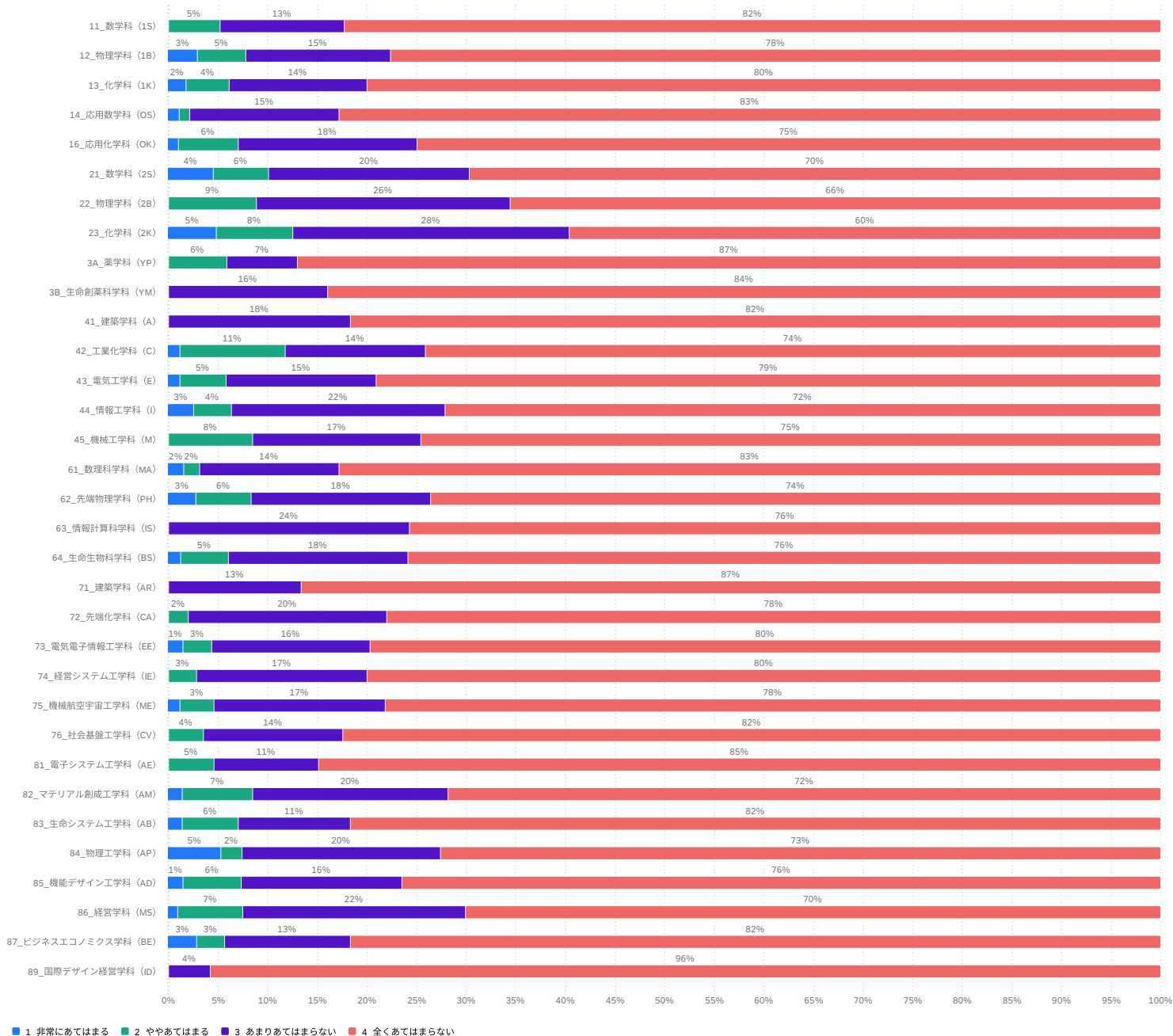
設問7-5 他大学の再受験や、退学を検討している（全学） 17,309 ▾



設問7-5 他大学の再受験や、退学を検討している（学科別比較） 2,698

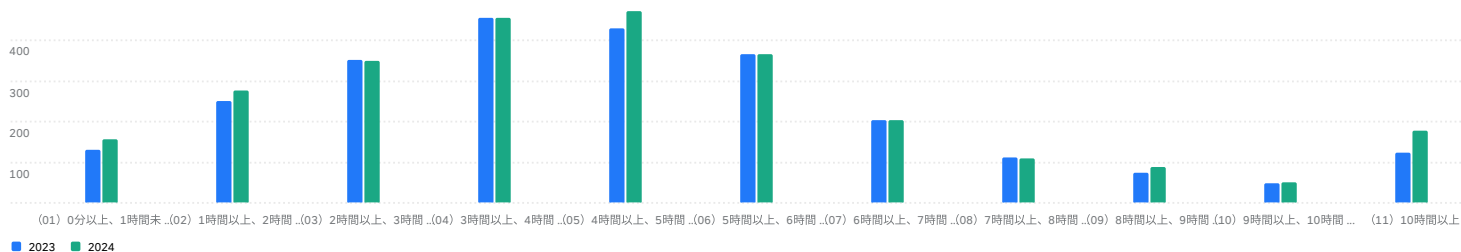


設問7-5 他大学の再受験や、退学を検討している（学科別比較） 2,698

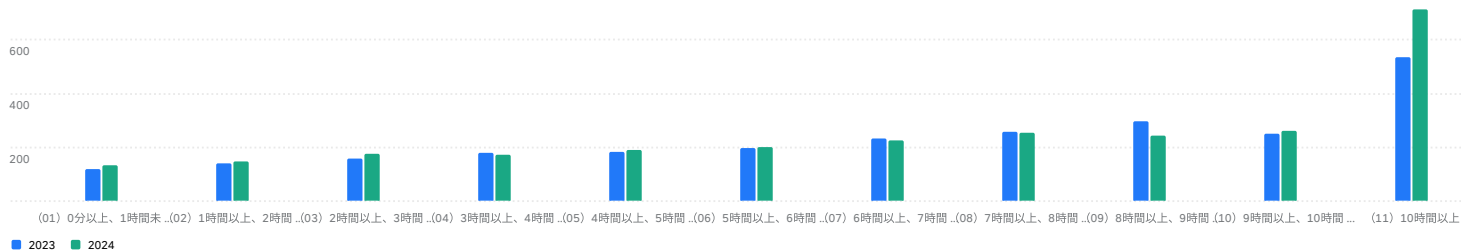


設問8 2022年11月に、学校・塾・予備校の授業以外で、1日あたり平均で何時間くらい自主学習をしていましたか。平日・休日ごとにあてはまるものを1つ選択してください。（平日・休日別に平均時間を答えてください）
※2023年度から「平日」と「休日」とに設問を分離

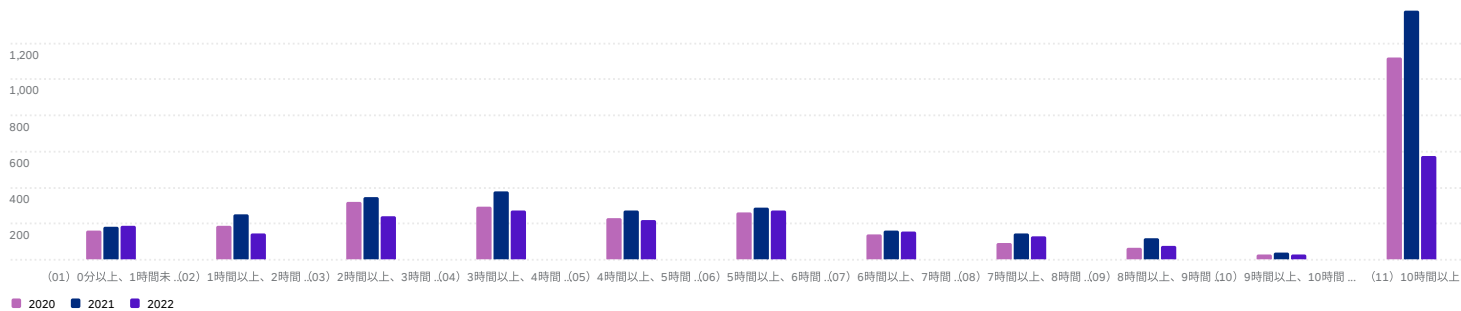
設問8-1《2023年度以降》 平日の自主学習時間 ※2023年度から「平日」と「休日」とに設問を分離 5,231 ① ㍿



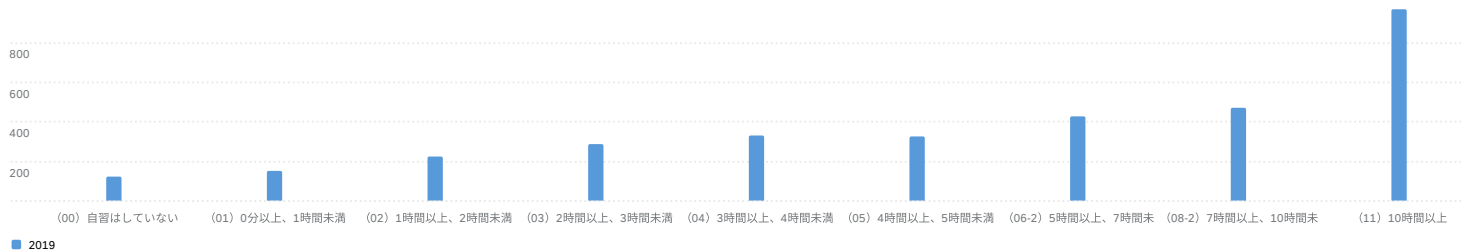
設問8-2《2023年度以降》 休日自主学習時間 ※2023年度から「平日」と「休日」とに設問を分離 5,231 ① ㍿



設問8《2020,2021,2022年度》 高校時代（高校3年生11月頃）、週当たり平均でどの程度自習していましたか（塾や予備校の授業時間を除く） 8,699 ① ㍿



設問8《2019年度》 高校時代を平均すると、あなたは週あたりどのくらい自習をしていましたか（塾や予備校の時間を除く） 3,295 ① ㍿



授業改善のためのアンケート 共通設問

1. この授業は、シラバスに記載された目的に沿って行われていましたか。(一つ選択)
2. この授業の板書、配付資料（パワーポイントや動画等）はわかりやすかったですか。(一つ選択)
3. 教員の講義はわかりやすかったですか。(一つ選択)
4. この授業における教員のフィードバック（質問への対応、テストや課題へのコメント等）は適切だと思いますか。(一つ選択)
5. あなたはこの授業のシラバスに記載された到達目標に到達できたと思いますか。(一つ選択)
6. あなたはこの授業に積極的に取り組むことができましたか。(一つ選択)
7. あなたはこの授業を受けたことで、自分の成長を実感できましたか。(一つ選択)
8. あなたはこの授業に満足しましたか。(一つ選択)
9. あなたはこの授業 1 コマ（90 分）につき、予習・復習（レポート・発表資料作成、図書館やインターネットでの情報収集、ノートや配付資料の復習等を含む）を平均でどの程度行いましたか。
(一つ選択)
7：4 時間以上
6：3 時間以上 4 時間未満
5：2 時間以上 3 時間未満
4：1 時間 30 分以上 2 時間未満
3：1 時間以上 1 時間 30 分未満
2：30 分以上 1 時間未満
1：30 分未満

10. あなたにとってこの授業の難易度はどのように感じましたか。(一つ選択)

- 4 : 難しかった
- 3 : やや難しかった
- 2 : やや易しかった
- 1 : 易しかった

11. あなたはこの授業における不明点や疑問点をどのように解決しましたか。(複数回答可)

- 5 : 友人と相談した
- 4 : 教員へ質問した
- 3 : 自分で調べて解決した
- 2 : 不明点や疑問点があったが、なにもしなかった
- 1 : 不明点や疑問点はなかった

12. この授業の良かった点があれば、記入してください。(400 字以内)

13. この授業の改善してほしい点があれば、記入してください。(400 字以内)

選択肢 (共通設問 9, 10, 11, 12, 13 を除く)

- 4 : 大いにそう思う
- 3 : そう思う
- 2 : そう思わない
- 1 : 全くそう思わない

2024年度前期 授業改善のためのアンケート 集計結果

1. 各学部・研究科における実施科目 (Web方式)

・・・各学部・研究科においてあらかじめ決定したアンケート実施予定科目に対する実施の割合
(注)

- * 履修者数は、2024年8月23日現在。
- * 科目数には、後期開講科目及び履修者ゼロの科目は含まない。
- * 本集計結果には、前期中間時期の集計分も含む。

【参考】

アンケート回答期間	2024年7月5日(金)～2024年8月6日(火)
コメント入力期間	2024年8月7日(水)～2024年9月1日(日)
結果公開期間	2024年9月2日(月)～2026年3月31日(火)

(1) 全体

	実施予定科目数 (a)	実施予定科目に おける実施科目数 (b)	実施予定科目に おける実施率 (b/a)	実施予定科目に おける総履修者数 (c)	回答者数 (d)	回答率 (d/c)
合計	2,721	2,475	90.96%	160,539	35,192	21.92%

(2) 学部別

学部	実施予定科目数 (a)	実施予定科目に おける実施科目数 (b)	実施予定科目に おける実施率 (b/a)	実施予定科目に おける総履修者数 (c)	回答者数 (d)	回答率 (d/c)
理一	462	450	97.40%	25,115	7,140	28.43%
理二	283	271	95.76%	14,085	2,906	20.63%
薬	111	107	96.40%	8,386	3,699	44.11%
工	406	369	90.89%	26,821	3,461	12.90%
創域理工	681	632	92.80%	45,767	9,480	20.71%
先進工	232	221	95.26%	17,103	4,367	25.53%
経営	235	214	91.06%	15,344	2,801	18.25%
合計	2,410	2,264	93.94%	152,621	33,854	22.18%

2024年度前期 授業改善のためのアンケート 集計結果

(3) 学部学科別

学部学科	実施予定科目数 (a)	実施予定科目に おける実施科目数 (b)	実施予定科目に おける実施率 (b/a)	実施予定科目に おける総履修者数 (c)	回答者数 (d)	回答率 (d/c)
理一 教養	244	240	98.36%	10,898	3,154	28.94%
理一 数学	44	41	93.18%	2,152	959	44.56%
理一 物理	34	31	91.18%	2,718	624	22.96%
理一 化学	38	38	100.00%	2,774	1,209	43.58%
理一 応数	43	42	97.67%	2,297	452	19.68%
理一 応物	18	18	100.00%	927	157	16.94%
理一 応化	41	40	97.56%	3,349	585	17.47%
理二 教養	134	127	94.78%	3,993	898	22.49%
理二 数学	64	63	98.44%	3,577	481	13.45%
理二 物理	47	44	93.62%	3,473	655	18.86%
理二 化学	38	37	97.37%	3,042	872	28.67%
薬	36	35	97.22%	4,423	2,037	46.05%
薬 教養	49	47	95.92%	1,699	641	37.73%
薬 薬	19	18	94.74%	1,631	789	48.38%
薬 創薬	7	7	100.00%	633	232	36.65%
工 教養	137	125	91.24%	8,332	1,522	18.27%
工 建築	73	67	91.78%	3,739	588	15.73%
工 工化	50	43	86.00%	3,927	284	7.23%
工 電工	49	44	89.80%	3,273	266	8.13%
工 情工	46	44	95.65%	3,461	577	16.67%
工 機工	51	46	90.20%	4,089	224	5.48%
創域理工 教養	329	301	91.49%	13,911	3,341	24.02%
創域理工 数学	32	30	93.75%	2,122	330	15.55%
創域理工 物理	35	33	94.29%	3,353	627	18.70%
創域理工 情報	29	29	100.00%	2,354	374	15.89%
創域理工 生物	31	31	100.00%	2,756	306	11.10%
創域理工 建築	31	28	90.32%	2,930	350	11.95%
創域理工 先化	26	26	100.00%	2,771	861	31.07%
創域理工 電電	50	49	98.00%	5,023	618	12.30%
創域理工 経営	35	28	80.00%	3,035	222	7.31%
創域理工 機械	42	36	85.71%	3,759	798	21.23%
創域理工 社基	41	41	100.00%	3,753	1,653	44.04%
先進工 教養	49	45	91.84%	1,455	317	21.79%
先進工 電シ工	39	35	89.74%	3,629	787	21.69%
先進工 マテ工	41	39	95.12%	3,456	576	16.67%
先進工 生シ工	37	36	97.30%	3,525	767	21.76%
先進工 物理工	40	40	100.00%	2,585	852	32.96%
先進工 機デ工	26	26	100.00%	2,453	1,068	43.54%
経営 教養	93	83	89.25%	2,906	842	28.97%
経営 経営	56	55	98.21%	5,089	1,071	21.05%
経営 ビジ	50	42	84.00%	4,749	423	8.91%
経営 国デ	36	34	94.44%	2,600	465	17.88%
合計	2,410	2,264	93.94%	152,621	33,854	22.18%

(4) 学部開講科目・授業形態別

授業形態	実施予定科目数 (a)	実施予定科目に おける実施科目数 (b)	実施予定科目に おける実施率 (b/a)	実施予定科目に おける総履修者数 (c)	回答者数 (d)	回答率 (d/c)
講義	2,165	2,034	93.95%	135,468	30,170	22.27%
演習	126	121	96.03%	8,351	2,413	28.89%
実験	90	83	92.22%	6,575	1,015	15.44%
実習	29	26	89.66%	2,227	256	11.50%
実技	0	0	－	0	0	－
卒研	0	0	－	0	0	－
合計	2,410	2,264	93.94%	152,621	33,854	22.18%

2024年度前期 授業改善のためのアンケート 集計結果

(5) 研究科別

研究科	実施予定科目数 (a)	実施予定科目に おける実施科目数 (b)	実施予定科目に おける実施率 (b/a)	実施予定科目に おける総履修者数 (c)	回答者数 (d)	回答率 (d/c)
理研	42	27	64.29%	1,429	62	4.34%
薬研	7	3	42.86%	172	33	19.19%
工研	62	35	56.45%	1,646	158	9.60%
創域理工研	92	50	54.35%	2,983	294	9.86%
先進工研	25	15	60.00%	722	62	8.59%
経営研	80	78	97.50%	929	705	75.89%
生命研	3	3	100.00%	37	24	64.86%
合計	311	211	67.85%	7,918	1,338	16.90%

(6) 研究科専攻別

研究科専攻	実施予定科目数 (a)	実施予定科目に おける実施科目数 (b)	実施予定科目に おける実施率 (b/a)	実施予定科目に おける総履修者数 (c)	回答者数 (d)	回答率 (d/c)
理研 教養	0	0	-	0	0	-
理研 数学	7	3	42.86%	145	4	2.76%
理研 物理	8	6	75.00%	349	13	3.72%
理研 化学	11	6	54.55%	630	14	2.22%
理研 応数	5	4	80.00%	98	8	8.16%
理研 応物	0	0	-	0	0	-
理研 科教	11	8	72.73%	207	23	11.11%
薬研	2	1	50.00%	70	1	1.43%
薬研 教養	5	2	40.00%	102	32	31.37%
工研 教養	19	11	57.89%	371	17	4.58%
工研 建築	10	6	60.00%	200	15	7.50%
工研 工化	3	3	100.00%	222	75	33.78%
工研 電工	12	10	83.33%	388	42	10.82%
工研 経工	0	0	-	0	0	-
工研 情工	11	4	36.36%	254	4	1.57%
工研 機工	7	1	14.29%	211	5	2.37%
創域理工研 教養	25	13	52.00%	763	54	7.08%
創域理工研 数学	7	3	42.86%	124	5	4.03%
創域理工研 物理	4	1	25.00%	106	1	0.94%
創域理工研 情報	6	4	66.67%	223	20	8.97%
創域理工研 生物	1	0	0.00%	21	0	0.00%
創域理工研 建築	6	2	33.33%	148	3	2.03%
創域理工研 先化	7	6	85.71%	245	40	16.33%
創域理工研 電電	9	8	88.89%	526	123	23.38%
創域理工研 経営	5	3	60.00%	87	5	5.75%
創域理工研 機械	9	5	55.56%	413	28	6.78%
創域理工研 社基	11	3	27.27%	292	3	1.03%
創域理工研 火災	2	2	100.00%	35	12	34.29%
先進工研 教養	7	4	57.14%	335	13	3.88%
先進工研 電シ工	8	6	75.00%	163	31	19.02%
先進工研 マテ工	5	0	0.00%	75	0	0.00%
先進工研 生シ工	0	0	-	0	0	-
先進工研 物理工	5	5	100.00%	149	18	12.08%
経営研 教養	0	0	-	0	0	-
経営研 経営	10	9	90.00%	191	21	10.99%
経営研 技経	70	69	98.57%	738	684	92.68%
生命研 教養	0	0	-	0	0	-
生命研 生命	3	3	100.00%	37	24	64.86%
合計	311	211	67.85%	7,918	1,338	16.90%

2024年度前期 授業改善のためのアンケート 集計結果

(7) 研究科開講科目・授業形態別

授業形態	実施予定科目数 (a)	実施予定科目に おける実施科目数 (b)	実施予定科目に おける実施率 (b/a)	実施予定科目に おける総履修者数 (c)	回答者数 (d)	回答率 (d/c)
講義	279	182	65.23%	7,686	1,207	15.70%
演習	32	29	90.63%	232	131	56.47%
実験	0	0	－	0	0	－
実習	0	0	－	0	0	－
実技	0	0	－	0	0	－
卒研	0	0	－	0	0	－
合計	311	211	67.85%	7,918	1,338	16.90%

2. 全授業科目における実施科目 (Web方式)

・・・全授業科目に対する実施の割合

(注)

- * 履修者数は、2024年8月23日現在。
- * 科目数には、後期開講科目及び履修者ゼロの科目は含まない。
- * 本集計結果には、前期中間時期の集計分も含む。

【参考】

アンケート回答期間	2024年7月5日(金)～2024年8月6日(火)
コメント入力期間	2024年8月7日(水)～2024年9月1日(日)
結果公開期間	2024年9月2日(月)～2026年3月31日(火)

(1) 全体

	全授業科目数 (A)	全授業科目に おける実施科目数 (B)	全授業科目に おける実施率 (B/A)
合計	5,251	2,475	47.13%

(2) 学部別

学部	全授業科目数 (A)	全授業科目に おける実施科目数 (B)	全授業科目に おける実施率 (B/A)
理一	685	450	65.69%
理二	385	271	70.39%
薬	298	107	35.91%
工	467	369	79.01%
創域理工	957	632	66.04%
先進工	328	221	67.38%
経営	358	214	59.78%
合計	3,478	2,264	65.09%

(3) 学部学科別

学部学科	全授業科目数 (A)	全授業科目に おける実施科目数 (B)	全授業科目に おける実施率 (B/A)
理一 教養	323	240	74.30%
理一 数学	60	41	68.33%
理一 物理	58	31	53.45%
理一 化学	68	38	55.88%
理一 応数	59	42	71.19%
理一 応物	52	18	34.62%
理一 応化	65	40	61.54%
理二 教養	170	127	74.71%
理二 数学	75	63	84.00%
理二 物理	70	44	62.86%
理二 化学	70	37	52.86%
薬	42	35	83.33%
薬 教養	85	47	55.29%
薬 薬	127	18	14.17%
薬 創薬	44	7	15.91%
工 教養	180	125	69.44%
工 建築	79	67	84.81%
工 工化	53	43	81.13%
工 電工	53	44	83.02%
工 情工	49	44	89.80%
工 機工	53	46	86.79%
創域理工 教養	410	301	73.41%
創域理工 数学	60	30	50.00%
創域理工 物理	49	33	67.35%
創域理工 情報	43	29	67.44%
創域理工 生物	49	31	63.27%
創域理工 建築	55	28	50.91%
創域理工 先化	44	26	59.09%
創域理工 電電	68	49	72.06%
創域理工 経営	61	28	45.90%
創域理工 機械	59	36	61.02%
創域理工 社基	59	41	69.49%
先進工 教養	51	45	88.24%
先進工 電シ工	71	35	49.30%
先進工 マテ工	76	39	51.32%
先進工 生シ工	63	36	57.14%
先進工 物理工	40	40	100.00%
先進工 機デ工	27	26	96.30%
経営 教養	102	83	81.37%
経営 経営	91	55	60.44%
経営 ビジ	86	42	48.84%
経営 国デ	79	34	43.04%
合計	3,478	2,264	65.09%

(4) 学部開講科目・授業形態別

授業形態	全授業科目数 (A)	全授業科目に おける実施科目数 (B)	全授業科目に おける実施率 (B/A)
講義	2,403	2,034	84.64%
演習	244	121	49.59%
実験	136	83	61.03%
実習	51	26	50.98%
実技	92	0	0.00%
卒研	552	0	0.00%
合計	3,478	2,264	65.09%

(5) 研究科別

研究科	全授業科目数 (A)	全授業科目に おける実施科目数 (B)	全授業科目に おける実施率 (B/A)
理研	428	27	6.31%
薬研	214	3	1.40%
工研	100	35	35.00%
創域理工研	539	50	9.28%
先進工研	316	15	4.75%
経営研	128	78	60.94%
生命研	48	3	6.25%
合計	1,773	211	11.90%

(6) 研究科専攻別

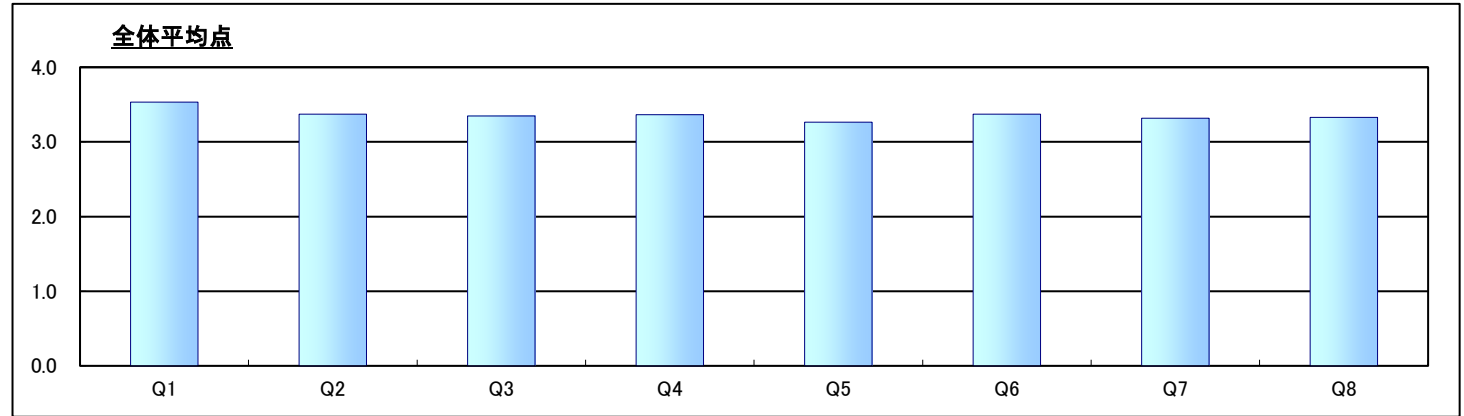
研究科専攻	全授業科目数 (A)	全授業科目に おける実施科目数 (B)	全授業科目に おける実施率 (B/A)
理研 教養	1	0	0.00%
理研 数学	63	3	4.76%
理研 物理	92	6	6.52%
理研 化学	137	6	4.38%
理研 応数	62	4	6.45%
理研 応物	8	0	0.00%
理研 科教	65	8	12.31%
薬研	184	1	0.54%
薬研 教養	30	2	6.67%
工研 教養	19	11	57.89%
工研 建築	19	6	31.58%
工研 工化	7	3	42.86%
工研 電工	15	10	66.67%
工研 経工	0	0	-
工研 情工	26	4	15.38%
工研 機工	14	1	7.14%
創域理工研 教養	50	13	26.00%
創域理工研 数学	45	3	6.67%
創域理工研 物理	39	1	2.56%
創域理工研 情報	29	4	13.79%
創域理工研 生物	68	0	0.00%
創域理工研 建築	62	2	3.23%
創域理工研 先化	31	6	19.35%
創域理工研 電電	84	8	9.52%
創域理工研 経営	32	3	9.38%
創域理工研 機械	44	5	11.36%
創域理工研 社基	40	3	7.50%
創域理工研 火災	15	2	13.33%
先進工研 教養	7	4	57.14%
先進工研 電シ工	97	6	6.19%
先進工研 マテ工	74	0	0.00%
先進工研 生シ工	86	0	0.00%
先進工研 物理工	52	5	9.62%
経営研 教養	0	0	-
経営研 経営	57	9	15.79%
経営研 技経	71	69	97.18%
生命研 教養	2	0	0.00%
生命研 生命	46	3	6.52%
合計	1,773	211	11.90%

(7) 研究科開講科目・授業形態別

授業形態	全授業科目数 (A)	全授業科目に おける実施科目数 (B)	全授業科目に おける実施率 (B/A)
講義	655	182	27.79%
演習	139	29	20.86%
実験	1	0	0.00%
実習	4	0	0.00%
実技	3	0	0.00%
卒研	971	0	0.00%
合計	1,773	211	11.90%

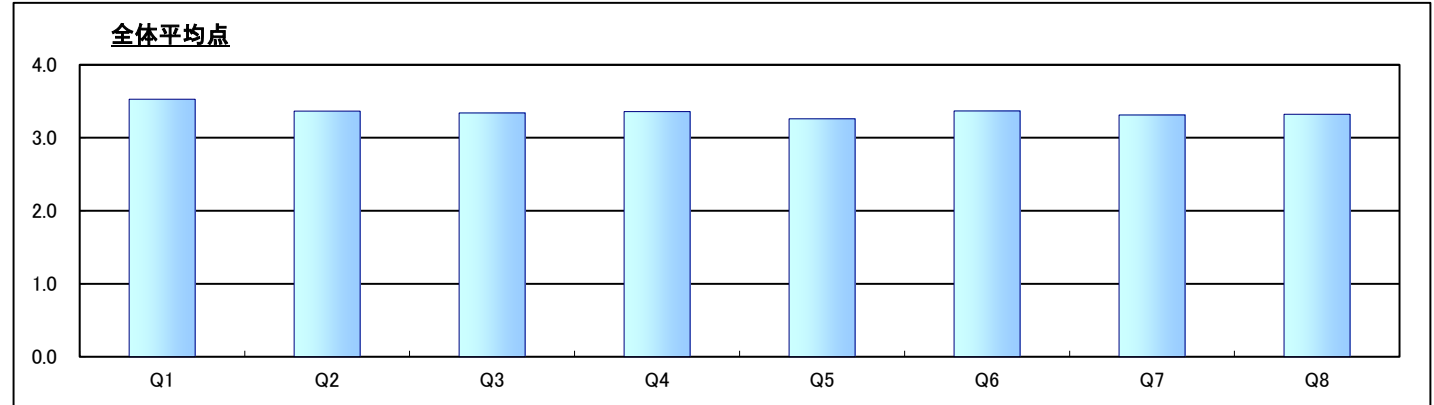
履修者数	160,539
回答者数	35,192

■ 共通設問								
Q	設問文	上段: 回答者数 / 下段: 回答割合 (%)				有効 回答	無効 回答	全体 平均点
		4	3	2	1			
		大いに そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない			
1	この授業は、シラバスに記載された目的に沿って行われていましたか。	20,003	14,229	667	293	35,192	0	3.53
		56.8	40.4	1.9	0.8			
2	この授業の板書、配付資料(パワーポイントや動画等)はわかりやすかったですか。	17,367	14,377	2,603	845	35,192	0	3.37
		49.3	40.9	7.4	2.4			
3	教員の講義はわかりやすかったですか。	16,872	14,590	2,802	928	35,192	0	3.35
		47.9	41.5	8.0	2.6			
4	この授業における教員のフィードバック(質問への対応、テストや課題へのコメント等)は適切だと思いますか。	16,459	15,857	2,112	764	35,192	0	3.36
		46.8	45.1	6.0	2.2			
5	あなたはこの授業のシラバスに記載された到達目標に到達できたと思いますか。	13,299	18,481	2,821	591	35,192	0	3.26
		37.8	52.5	8.0	1.7			
6	あなたはこの授業に積極的に取り組むことができましたか。	16,214	16,289	2,238	451	35,192	0	3.37
		46.1	46.3	6.4	1.3			
7	あなたはこの授業を受けたことで、自分の成長を実感できましたか。	15,091	16,842	2,586	673	35,192	0	3.32
		42.9	47.9	7.3	1.9			
8	あなたはこの授業に満足しましたか。	15,950	15,795	2,496	951	35,192	0	3.33
		45.3	44.9	7.1	2.7			
9	あなたはこの授業 1 コマ(90 分)につき、予習・復習(レポート・発表資料作成、図書館やインターネットでの情報収集、ノートや配付資料の復習等を含む)を平均でどの程度行いましたか。 7:4 時間以上 / 6:3 時間以上 4 時間未満 / 5:2 時間以上 3 時間未満 / 4:1 時間 30 分以上 2 時間未満 / 3:1 時間以上 1 時間 30 分未満 / 2:30 分以上 1 時間未満 / 1:30 分未満	7	6	5	4	35,192	0	-
		1,013	422	990	2,073			
		2.9	1.2	2.8	5.9			
		3	2	1				
		6,029	12,686	11,979				
		17.1	36.0	34.0				
10	あなたにとってこの授業の難易度はどのように感じましたか。 4: 難しかった / 3: やや難しかった / 2: やや易しかった / 1: 易しかった	9,392	18,573	6,058	1,169	35,192	0	-
		26.7	52.8	17.2	3.3			
11	あなたはこの授業における不明点や疑問点をどのように解決しましたか。 (複数回答可) 5: 友人と相談した / 4: 教員へ質問した / 3: 自分で調べて解決した / 2: 不明点や疑問点があったが、なにもしなかった / 1: 不明点や疑問点はなかった	5	4	3	2	35,192	0	-
		22,951	4,598	19,316	745			
		65.2	13.1	54.9	2.1			
		1						
		1,351						
		3.8						



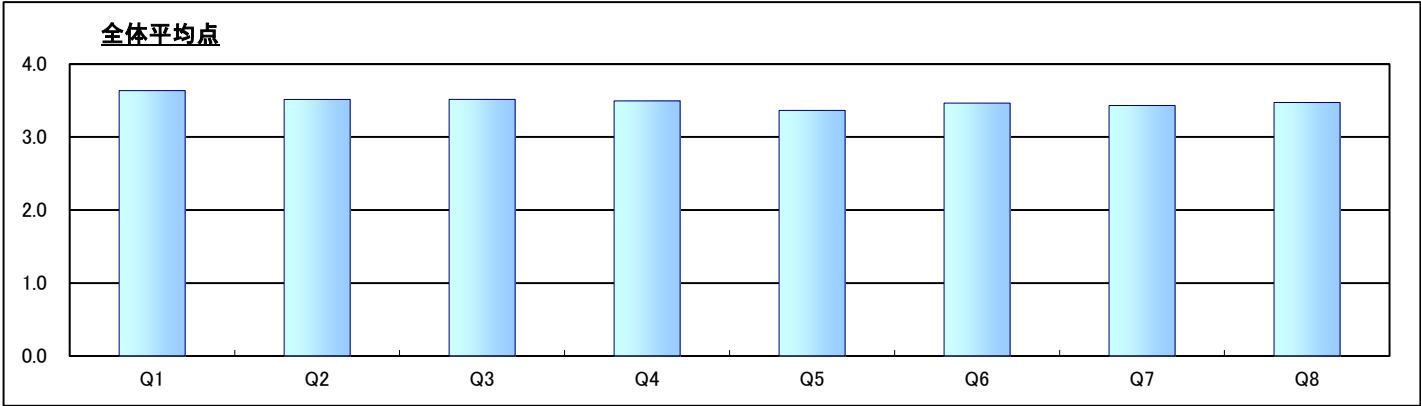
履修者数	152,621
回答者数	33,854

■ 共通設問								
Q	設問文	上段:回答者数／下段:回答割合(%)				有効 回答	無効 回答	全体 平均点
		4	3	2	1			
		大いに そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない			
1	この授業は、シラバスに記載された目的に沿って行われていましたか。	19,135	13,774	653	292	33,854	0	3.53
		56.5	40.7	1.9	0.9			
2	この授業の板書、配付資料(パワーポイントや動画等)はわかりやすかったですか。	16,587	13,894	2,543	830	33,854	0	3.37
		49.0	41.0	7.5	2.5			
3	教員の講義はわかりやすかったですか。	16,100	14,093	2,745	916	33,854	0	3.34
		47.6	41.6	8.1	2.7			
4	この授業における教員のフィードバック(質問への対応、テストや課題へのコメント等)は適切だと思いますか。	15,703	15,351	2,053	747	33,854	0	3.36
		46.4	45.3	6.1	2.2			
5	あなたはこの授業のシラバスに記載された到達目標に到達できたと思いますか。	12,719	17,808	2,742	585	33,854	0	3.26
		37.6	52.6	8.1	1.7			
6	あなたはこの授業に積極的に取り組むことができましたか。	15,519	15,710	2,182	443	33,854	0	3.37
		45.8	46.4	6.4	1.3			
7	あなたはこの授業を受けたことで、自分の成長を実感できましたか。	14,432	16,233	2,526	663	33,854	0	3.31
		42.6	48.0	7.5	2.0			
8	あなたはこの授業に満足しましたか。	15,224	15,261	2,432	937	33,854	0	3.32
		45.0	45.1	7.2	2.8			
9	あなたはこの授業 1 コマ(90 分)につき、予習・復習(レポート・発表資料作成、図書館やインターネットでの情報収集、ノートや配付資料の復習等を含む)を平均でどの程度行いましたか。 7:4 時間以上 / 6:3 時間以上 4 時間未満 / 5:2 時間以上 3 時間未満 / 4:1 時間 30 分以上 2 時間未満 / 3:1 時間以上 1 時間 30 分未満 / 2:30 分以上 1 時間未満 / 1:30 分未満	7	6	5	4	33,854	0	-
		936	382	900	1,946			
		2.8	1.1	2.7	5.7			
		3	2	1				
		5,723	12,259	11,708				
		16.9	36.2	34.6				
10	あなたにとってこの授業の難易度はどのように感じましたか。 4:難しかった / 3:やや難しかった / 2:やや易しかった / 1:易しかった	9,060	17,801	5,849	1,144	33,854	0	-
		26.8	52.6	17.3	3.4			
11	あなたはこの授業における不明点や疑問点をどのように解決しましたか。 (複数回答可) 5:友人と相談した / 4:教員へ質問した / 3:自分で調べて解決した / 2:不明点や疑問点があったが、なにもしなかった / 1:不明点や疑問点はなかった	5	4	3	2	33,854	0	-
		22,269	4,176	18,441	720			
		65.8	12.3	54.5	2.1			
		1						
		1,333						
		3.9						



履修者数	7,918
回答者数	1,338

■ 共通設問								
Q	設問文	上段:回答者数／下段:回答割合(%)				有効 回答	無効 回答	全体 平均点
		4	3	2	1			
		大いに そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない			
1	この授業は、シラバスに記載された目的に沿って行われていましたか。	868	455	14	1	1,338	0	3.64
		64.9	34.0	1.0	0.1			
2	この授業の板書、配付資料(パワーポイントや動画等)はわかりやすかったですか。	780	483	60	15	1,338	0	3.52
		58.3	36.1	4.5	1.1			
3	教員の講義はわかりやすかったですか。	772	497	57	12	1,338	0	3.52
		57.7	37.1	4.3	0.9			
4	この授業における教員のフィードバック(質問への対応、テストや課題へのコメント等)は適切だと思いますか。	756	506	59	17	1,338	0	3.50
		56.5	37.8	4.4	1.3			
5	あなたはこの授業のシラバスに記載された到達目標に到達できたと思いますか。	580	673	79	6	1,338	0	3.37
		43.3	50.3	5.9	0.4			
6	あなたはこの授業に積極的に取り組むことができましたか。	695	579	56	8	1,338	0	3.47
		51.9	43.3	4.2	0.6			
7	あなたはこの授業を受けたことで、自分の成長を実感できましたか。	659	609	60	10	1,338	0	3.43
		49.3	45.5	4.5	0.7			
8	あなたはこの授業に満足しましたか。	726	534	64	14	1,338	0	3.47
		54.3	39.9	4.8	1.0			
9	あなたはこの授業 1 コマ(90 分)につき、予習・復習(レポート・発表資料作成、図書館やインターネットでの情報収集、ノートや配付資料の復習等を含む)を平均でどの程度行いましたか。 7:4 時間以上 / 6:3 時間以上 4 時間未満 / 5:2 時間以上 3 時間未満 / 4:1 時間 30 分以上 2 時間未満 / 3:1 時間以上 1 時間 30 分未満 / 2:30 分以上 1 時間未満 / 1:30 分未満	7	6	5	4	1,338	0	-
		77	40	90	127			
		5.8	3.0	6.7	9.5			
		3	2	1				
		306	427	271				
		22.9	31.9	20.3				
10	あなたにとってこの授業の難易度はどのように感じましたか。 4:難しかった / 3:やや難しかった / 2:やや易しかった / 1:易しかった	332	772	209	25	1,338	0	-
		24.8	57.7	15.6	1.9			
11	あなたはこの授業における不明点や疑問点をどのように解決しましたか。 (複数回答可) 5:友人と相談した / 4:教員へ質問した / 3:自分で調べて解決した / 2:不明点や疑問点があったが、なにもしなかった / 1:不明点や疑問点はなかった	5	4	3	2	1,338	0	-
		682	422	875	25			
		51.0	31.5	65.4	1.9			
		1						
		18						
		1.3						



2024年度後期 授業改善のためのアンケート 集計結果

1. 各学部・研究科における実施科目 (Web方式)

・・・各学部・研究科においてあらかじめ決定したアンケート実施予定科目に対する実施の割合

(注)

- * 履修者数は、2025年1月29日現在。
- * 科目数には、前期開講科目及び履修者ゼロの科目は含まない。
- * 本集計結果には、後期中間時期の集計分も含む。

【参考】

アンケート回答期間	2024年12月9日 (月)～2025年1月26日 (日)
コメント入力期間	2025年1月27日 (月)～2025年2月19日 (水)
結果公開期間	2025年2月20日 (木)～2026年3月31日 (火)

(1) 全体

	実施予定科目数 (a)	実施予定科目に おける実施科目数 (b)	実施予定科目に おける実施率 (b/a)	実施予定科目に おける総履修者数 (c)	回答者数 (d)	回答率 (d/c)
合計	2,582	2,466	95.51%	141,367	31,446	22.24%

(2) 学部別

学部	実施予定科目数 (a)	実施予定科目に おける実施科目数 (b)	実施予定科目に おける実施率 (b/a)	実施予定科目に おける総履修者数 (c)	回答者数 (d)	回答率 (d/c)
理一	418	413	98.80%	22,011	6,099	27.71%
理二	293	282	96.25%	12,825	3,097	24.15%
薬	96	96	100.00%	6,890	2,647	38.42%
工	410	375	91.46%	23,922	3,454	14.44%
創域理工	653	641	98.16%	41,854	9,171	21.91%
先進工	229	220	96.07%	15,225	3,476	22.83%
経営	250	235	94.00%	13,387	2,188	16.34%
合計	2,349	2,262	96.30%	136,114	30,132	22.14%

2024年度後期 授業改善のためのアンケート 集計結果

(3) 学部学科別

学部学科	実施予定科目数 (a)	実施予定科目に おける実施科目数 (b)	実施予定科目に おける実施率 (b/a)	実施予定科目に おける総履修者数 (c)	回答者数 (d)	回答率 (d/c)
理一 教養	216	213	98.61%	9,722	2,695	27.72%
理一 数学	39	39	100.00%	1,853	667	36.00%
理一 物理	31	31	100.00%	2,289	498	21.76%
理一 化学	34	34	100.00%	2,578	924	35.84%
理一 応数	38	38	100.00%	2,132	637	29.88%
理一 応物	25	23	92.00%	728	178	24.45%
理一 応化	35	35	100.00%	2,709	500	18.46%
理二 教養	149	138	92.62%	3,672	976	26.58%
理二 数学	64	64	100.00%	3,423	670	19.57%
理二 物理	43	43	100.00%	2,948	844	28.63%
理二 化学	37	37	100.00%	2,782	607	21.82%
薬	30	30	100.00%	3,752	1,228	32.73%
薬 教養	45	45	100.00%	1,181	640	54.19%
薬 薬	13	13	100.00%	1,169	398	34.05%
薬 創薬	8	8	100.00%	788	381	48.35%
工 教養	128	120	93.75%	6,877	1,309	19.03%
工 建築	75	63	84.00%	3,243	342	10.55%
工 工化	51	51	100.00%	3,879	644	16.60%
工 電工	55	51	92.73%	3,523	341	9.68%
工 情工	46	40	86.96%	2,582	484	18.75%
工 機工	55	50	90.91%	3,818	334	8.75%
創域理工 教養	305	299	98.03%	12,130	3,184	26.25%
創域理工 数学	35	35	100.00%	1,951	276	14.15%
創域理工 物理	36	36	100.00%	3,002	786	26.18%
創域理工 情報	33	33	100.00%	2,594	401	15.46%
創域理工 生物	33	33	100.00%	2,703	316	11.69%
創域理工 建築	25	25	100.00%	2,014	386	19.17%
創域理工 先化	30	30	100.00%	3,004	856	28.50%
創域理工 電電	47	45	95.74%	4,976	767	15.41%
創域理工 経営	34	31	91.18%	2,717	353	12.99%
創域理工 機械	39	38	97.44%	3,872	698	18.03%
創域理工 社基	36	36	100.00%	2,891	1,148	39.71%
先進工 教養	55	51	92.73%	1,522	379	24.90%
先進工 電シ工	34	33	97.06%	3,606	623	17.28%
先進工 マテ工	36	36	100.00%	2,657	583	21.94%
先進工 生シ工	41	38	92.68%	3,006	571	19.00%
先進工 物理工	38	38	100.00%	2,585	756	29.25%
先進工 機デ工	25	24	96.00%	1,849	564	30.50%
経営 教養	102	96	94.12%	3,162	691	21.85%
経営 経営	43	43	100.00%	3,312	677	20.44%
経営 ビジ	51	49	96.08%	4,279	577	13.48%
経営 国デ	54	47	87.04%	2,634	243	9.23%
合計	2,349	2,262	96.30%	136,114	30,132	22.14%

(4) 学部開講科目・授業形態別

授業形態	実施予定科目数 (a)	実施予定科目に おける実施科目数 (b)	実施予定科目に おける実施率 (b/a)	実施予定科目に おける総履修者数 (c)	回答者数 (d)	回答率 (d/c)
講義	2,121	2,038	96.09%	120,009	27,013	22.51%
演習	117	115	98.29%	7,748	1,582	20.42%
実験	85	84	98.82%	6,474	1,172	18.10%
実習	22	22	100.00%	1,802	359	19.92%
実技	4	3	75.00%	81	6	7.41%
卒研	0	0	-	0	0	-
合計	2,349	2,262	96.30%	136,114	30,132	22.14%

2024年度後期 授業改善のためのアンケート 集計結果

(5) 研究科別

研究科	実施予定科目数 (a)	実施予定科目に おける実施科目数 (b)	実施予定科目に おける実施率 (b/a)	実施予定科目に おける総履修者数 (c)	回答者数 (d)	回答率 (d/c)
理研	27	26	96.30%	1,383	188	13.59%
薬研	2	2	100.00%	88	22	25.00%
工研	47	36	76.60%	867	106	12.23%
創域理工研	54	49	90.74%	1,611	221	13.72%
先進工研	23	18	78.26%	453	103	22.74%
経営研	77	72	93.51%	828	655	79.11%
生命研	3	1	33.33%	23	19	82.61%
合計	233	204	87.55%	5,253	1,314	25.01%

(6) 研究科専攻別

研究科専攻	実施予定科目数 (a)	実施予定科目に おける実施科目数 (b)	実施予定科目に おける実施率 (b/a)	実施予定科目に おける総履修者数 (c)	回答者数 (d)	回答率 (d/c)
理研 教養	1	1	100.00%	119	24	20.17%
理研 数学	5	5	100.00%	191	22	11.52%
理研 物理	11	10	90.91%	502	72	14.34%
理研 化学	6	6	100.00%	491	48	9.78%
理研 応数	3	3	100.00%	67	21	31.34%
理研 応物	0	0	－	0	0	－
理研 科教	1	1	100.00%	13	1	7.69%
薬研	2	2	100.00%	88	22	25.00%
薬研 教養	0	0	－	0	0	－
工研 教養	16	10	62.50%	130	23	17.69%
工研 建築	5	4	80.00%	66	8	12.12%
工研 工化	5	5	100.00%	238	26	10.92%
工研 電工	3	3	100.00%	90	11	12.22%
工研 経工	0	0	－	0	0	－
工研 情工	6	6	100.00%	62	21	33.87%
工研 機工	12	8	66.67%	281	17	6.05%
創域理工研 教養	3	3	100.00%	116	13	11.21%
創域理工研 数学	4	4	100.00%	105	10	9.52%
創域理工研 物理	7	7	100.00%	172	35	20.35%
創域理工研 情報	6	6	100.00%	288	60	20.83%
創域理工研 生物	1	1	100.00%	51	9	17.65%
創域理工研 建築	5	4	80.00%	75	6	8.00%
創域理工研 先化	7	6	85.71%	224	18	8.04%
創域理工研 電電	5	4	80.00%	189	23	12.17%
創域理工研 経営	2	2	100.00%	37	6	16.22%
創域理工研 機械	8	7	87.50%	225	20	8.89%
創域理工研 社基	5	4	80.00%	120	15	12.50%
創域理工研 火災	1	1	100.00%	9	6	66.67%
先進工研 教養	6	6	100.00%	143	32	22.38%
先進工研 電シ工	4	4	100.00%	31	9	29.03%
先進工研 マテ工	10	5	50.00%	151	25	16.56%
先進工研 生シ工	0	0	－	0	0	－
先進工研 物理工	3	3	100.00%	128	37	28.91%
経営研 教養	0	0	－	0	0	－
経営研 経営	5	4	80.00%	59	10	16.95%
経営研 技経	72	68	94.44%	769	645	83.88%
生命研 教養	0	0	－	0	0	－
生命研 生命	3	1	33.33%	23	19	82.61%
合計	233	204	87.55%	5,253	1,314	25.01%

2024年度後期 授業改善のためのアンケート 集計結果

(7) 研究科開講科目・授業形態別

授業形態	実施予定科目数 (a)	実施予定科目に おける実施科目数 (b)	実施予定科目に おける実施率 (b/a)	実施予定科目に おける総履修者数 (c)	回答者数 (d)	回答率 (d/c)
講義	193	168	87.05%	4,940	1,098	22.23%
演習	40	36	90.00%	313	216	69.01%
実験	0	0	－	0	0	－
実習	0	0	－	0	0	－
実技	0	0	－	0	0	－
卒研	0	0	－	0	0	－
合計	233	204	87.55%	5,253	1,314	25.01%

2. 全授業科目における実施科目 (Web方式)

・・・全授業科目に対する実施の割合

(注)

- ＊ 履修者数は、2025年1月29日現在。
- ＊ 科目数には、後期開講科目及び履修者ゼロの科目は含まない。
- ＊ 本集計結果には、後期中間時期の集計分も含む。

【参考】

アンケート回答期間	2024年12月9日 (月)～2025年1月26日 (日)
コメント入力期間	2025年1月27日 (月)～2025年2月19日 (水)
結果公開期間	2025年2月20日 (木)～2026年3月31日 (火)

(1) 全体

	全授業科目数 (A)	全授業科目に おける実施科目数 (B)	全授業科目に おける実施率 (B/A)
合計	5,012	2,466	49.20%

(2) 学部別

学部	全授業科目数 (A)	全授業科目に おける実施科目数 (B)	全授業科目に おける実施率 (B/A)
理一	644	413	64.13%
理二	382	282	73.82%
薬	282	96	34.04%
工	472	375	79.45%
創域理工	948	641	67.62%
先進工	290	220	75.86%
経営	361	235	65.10%
合計	3,379	2,262	66.94%

(3) 学部学科別

学部学科	全授業科目数 (A)	全授業科目に おける実施科目数 (B)	全授業科目に おける実施率 (B/A)
理一 教養	298	213	71.48%
理一 数学	59	39	66.10%
理一 物理	54	31	57.41%
理一 化学	64	34	53.13%
理一 応数	57	38	66.67%
理一 応物	53	23	43.40%
理一 応化	59	35	59.32%
理二 教養	169	138	81.66%
理二 数学	78	64	82.05%
理二 物理	66	43	65.15%
理二 化学	69	37	53.62%
薬	37	30	81.08%
薬 教養	83	45	54.22%
薬 薬	117	13	11.11%
薬 創薬	45	8	17.78%
工 教養	171	120	70.18%
工 建築	80	63	78.75%
工 工化	54	51	94.44%
工 電工	58	51	87.93%
工 情工	51	40	78.43%
工 機工	58	50	86.21%
創域理工 教養	404	299	74.01%
創域理工 数学	61	35	57.38%
創域理工 物理	51	36	70.59%
創域理工 情報	49	33	67.35%
創域理工 生物	47	33	70.21%
創域理工 建築	47	25	53.19%
創域理工 先化	48	30	62.50%
創域理工 電電	70	45	64.29%
創域理工 経営	60	31	51.67%
創域理工 機械	56	38	67.86%
創域理工 社基	55	36	65.45%
先進工 教養	57	51	89.47%
先進工 電シ工	50	33	66.00%
先進工 マテ工	53	36	67.92%
先進工 生シ工	66	38	57.58%
先進工 物理工	38	38	100.00%
先進工 機デ工	26	24	92.31%
経営 教養	106	96	90.57%
経営 経営	83	43	51.81%
経営 ビジ	87	49	56.32%
経営 国デ	85	47	55.29%
合計	3,379	2,262	66.94%

(4) 学部開講科目・授業形態別

授業形態	全授業科目数 (A)	全授業科目に おける実施科目数 (B)	全授業科目に おける実施率 (B/A)
講義	2,369	2,038	86.03%
演習	221	115	52.04%
実験	119	84	70.59%
実習	42	22	52.38%
実技	94	3	3.19%
卒研	534	0	0.00%
合計	3,379	2,262	66.94%

(5) 研究科別

研究科	全授業科目数 (A)	全授業科目に おける実施科目数 (B)	全授業科目に おける実施率 (B/A)
理研	414	26	6.28%
薬研	199	2	1.01%
工研	76	36	47.37%
創域理工研	482	49	10.17%
先進工研	313	18	5.75%
経営研	117	72	61.54%
生命研	32	1	3.13%
合計	1,633	204	12.49%

(6) 研究科専攻別

研究科専攻	全授業科目数 (A)	全授業科目に おける実施科目数 (B)	全授業科目に おける実施率 (B/A)
理研 教養	1	1	100.00%
理研 数学	59	5	8.47%
理研 物理	95	10	10.53%
理研 化学	127	6	4.72%
理研 応数	64	3	4.69%
理研 応物	7	0	0.00%
理研 科教	61	1	1.64%
薬研	192	2	1.04%
薬研 教養	7	0	0.00%
工研 教養	16	10	62.50%
工研 建築	11	4	36.36%
工研 工化	9	5	55.56%
工研 電工	6	3	50.00%
工研 経工	0	0	-
工研 情工	17	6	35.29%
工研 機工	17	8	47.06%
創域理工研 教養	17	3	17.65%
創域理工研 数学	44	4	9.09%
創域理工研 物理	39	7	17.95%
創域理工研 情報	28	6	21.43%
創域理工研 生物	63	1	1.59%
創域理工研 建築	54	4	7.41%
創域理工研 先化	30	6	20.00%
創域理工研 電電	81	4	4.94%
創域理工研 経営	28	2	7.14%
創域理工研 機械	47	7	14.89%
創域理工研 社基	34	4	11.76%
創域理工研 火災	17	1	5.88%
先進工研 教養	6	6	100.00%
先進工研 電シ工	94	4	4.26%
先進工研 マテ工	78	5	6.41%
先進工研 生シ工	85	0	0.00%
先進工研 物理工	50	3	6.00%
経営研 教養	0	0	-
経営研 経営	44	4	9.09%
経営研 技経	73	68	93.15%
生命研 教養	0	0	-
生命研 生命	32	1	3.13%
合計	1,633	204	12.49%

(7) 研究科開講科目・授業形態別

授業形態	全授業科目数 (A)	全授業科目に おける実施科目数 (B)	全授業科目に おける実施率 (B/A)
講義	416	168	40.38%
演習	247	36	14.57%
実験	0	0	－
実習	3	0	0.00%
実技	2	0	0.00%
卒研	965	0	0.00%
合計	1,633	204	12.49%

2024 年度 卒業予定者対象アンケート調査＜全学共通版＞

このアンケート調査は、今後の東京理科大学における教育内容のさらなる改善、質的向上・保証に資することや、各学部・学科の方針（ポリシー）に基づいて編成されたカリキュラムにより必要な知識・能力を身に付けることができたかなど、学修成果の確認を目的として、卒業を間近に控えた皆さん（今年度4年生〔薬学部薬学科は6年生〕）に対して行うものです。ご協力をお願いいたします。

＜個人情報の取扱いについて＞

- ・ 回答内容（個人情報）は、本学における学修成果の確認、教育改善のための分析に活用します。
- ・ 本調査の回答はすべて統計的に処理しますので、個人が特定されることや、それによって不利益が生じることはありません。
- ・ 集計結果は、教育 DX 推進センターHP 等で公開する予定です。
 - 過去の実施結果 <https://www.tus.ac.jp/fd/publication/>

＜問合せ先＞

教育 DX 推進センター事務局（学務部 学務課）

以下の問 1～14 の内容について、当てはまるものを選ぶ、または、自由記述欄に記入してください。

1. 方針（ポリシー）について

問 1 所属する学部学科の方針（卒業認定・学位授与の方針 [ディプロマ・ポリシー]、教育課程編成・実施の方針 [カリキュラム・ポリシー]）を知っていますか？

- ① ポリシーの存在を知っていて、内容も知っている
- ② ポリシーの存在は知っているが、内容は知らない
- ③ ポリシーの存在を知らない

問 2 問 1 で①を選んだ方にお聞きします。

所属する学部学科では、ポリシーで示されている達成目標に必要な授業や環境が用意されていたと思いますか？

- ① そう思う
- ② ややそう思う
- ③ あまりそう思わない
- ④ そう思わない
- ⑤ わからない

2. 学修時間について

問3 授業1コマ(90分)あたり、予習・復習を平均でどの程度行いましたか？

自身が最も学修に時間を費やしていたと考える時期の平均学修時間について、以下の※1に記載の年次・区分ごとに、最も当てはまるものを1つずつ選んでください。

(5、6年次は「⑧履修していない、在籍していない」を選択した状態をデフォルトに設定しています。

薬学部薬学科の学生は、最も当てはまるものを改めて選んでください)

- ① 30分未満
- ② 30分以上 60分未満
- ③ 60分以上 90分未満
- ④ 90分以上 120分未満
- ⑤ 120分以上 150分未満
- ⑥ 150分以上 180分未満
- ⑦ 180分以上
- ⑧ 履修していない、在籍していない

※1 1～4年次(薬学部薬学科は5、6年次を含む)の各年次における平均学修時間について、以下の〔1〕～〔5〕ごとに、最も当てはまるものを1つずつ選んでください。

〔1〕 一般教養科目 (外国語科目を除く)

〔2〕 英語科目

〔3〕 英語以外の外国語科目

〔4〕 専門科目・基礎科目 講義・演習

〔5〕 専門科目・基礎科目 実験・実習

※2 予習・復習には、レポート・発表資料作成、図書館やインターネットでの情報収集、ノートや配付資料の復習、試験期間前の試験勉強を含みます。

※3 大学では、期待する水準の資質・能力を学生が身に付けるためには、一定の学修時間が必要と考えています。想定に対し、実際に予習・復習に費やした時間や学年ごとの傾向を確認し、今後の教育改善に役立てるための設問です。

3. カリキュラムについて

問4 所属する学部学科の教育内容・カリキュラム（講義、実験・実習、研究室など）に、総合するとどの程度満足していますか？

- ① とても満足している
- ② 満足している
- ③ あまり満足していない
- ④ まったく満足していない

問5 所属する学部学科の教育内容・カリキュラムについて、以下の区分・項目ごとに最も当てはまるものを1つずつ選んでください。

区分			項目	①	②	③	④	⑤
1. 一般教養科目 (外国語科目を除く)			A. 興味・関心のある科目が多い B. 成長を実感できる科目が多い C. 熱心に取り組んだ D. 授業内容に満足した科目が多い	かなり当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	全く当てはまらない	履修していない
2. 外国語科目	(1) 英語科目	A. 興味・関心のある科目が多い B. 成長を実感できる科目が多い C. 熱心に取り組んだ D. 授業内容に満足した科目が多い						
		A. 興味・関心のある科目が多い B. 成長を実感できる科目が多い C. 熱心に取り組んだ D. 授業内容に満足した科目が多い						
		A. 興味・関心のある科目が多い B. 成長を実感できる科目が多い C. 熱心に取り組んだ D. 授業内容に満足した科目が多い						
		A. 興味・関心のある科目が多い B. 成長を実感できる科目が多い C. 熱心に取り組んだ D. 授業内容に満足した科目が多い						
	(2) 英語以外の外国語科目	A. 興味・関心のある科目が多い B. 成長を実感できる科目が多い C. 熱心に取り組んだ D. 授業内容に満足した科目が多い						
		A. 興味・関心のある科目が多い B. 成長を実感できる科目が多い C. 熱心に取り組んだ D. 授業内容に満足した科目が多い						
		A. 興味・関心のある科目が多い B. 成長を実感できる科目が多い C. 熱心に取り組んだ D. 授業内容に満足した科目が多い						
		A. 興味・関心のある科目が多い B. 成長を実感できる科目が多い C. 熱心に取り組んだ D. 授業内容に満足した科目が多い						
3. 専門科目・基礎科目	1年次	(1) 講義・演習	A. 興味・関心のある科目が多い B. 成長を実感できる科目が多い C. 熱心に取り組んだ D. 授業内容に満足した科目が多い					
			A. 興味・関心のある科目が多い B. 成長を実感できる科目が多い C. 熱心に取り組んだ D. 授業内容に満足した科目が多い					
			A. 興味・関心のある科目が多い B. 成長を実感できる科目が多い C. 熱心に取り組んだ D. 授業内容に満足した科目が多い					
			A. 興味・関心のある科目が多い B. 成長を実感できる科目が多い C. 熱心に取り組んだ D. 授業内容に満足した科目が多い					
	2年次	(1) 講義・演習	A. 興味・関心のある科目が多い B. 成長を実感できる科目が多い C. 熱心に取り組んだ D. 授業内容に満足した科目が多い					
			A. 興味・関心のある科目が多い B. 成長を実感できる科目が多い C. 熱心に取り組んだ D. 授業内容に満足した科目が多い					
			A. 興味・関心のある科目が多い B. 成長を実感できる科目が多い C. 熱心に取り組んだ D. 授業内容に満足した科目が多い					
			A. 興味・関心のある科目が多い B. 成長を実感できる科目が多い C. 熱心に取り組んだ D. 授業内容に満足した科目が多い					
		(2) 実験・実習	A. 興味・関心のある科目が多い B. 成長を実感できる科目が多い C. 熱心に取り組んだ D. 授業内容に満足した科目が多い					
			A. 興味・関心のある科目が多い B. 成長を実感できる科目が多い C. 熱心に取り組んだ D. 授業内容に満足した科目が多い					
			A. 興味・関心のある科目が多い B. 成長を実感できる科目が多い C. 熱心に取り組んだ D. 授業内容に満足した科目が多い					
			A. 興味・関心のある科目が多い B. 成長を実感できる科目が多い C. 熱心に取り組んだ D. 授業内容に満足した科目が多い					

区分			項目	①	②	③	④	⑤
3. 専門科目・基礎科目	3・4年次 ※1	(1) 講義・演習	A. 興味・関心のある科目が多い	かなり当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	全く当てはまらない	履修していない
			B. 成長を実感できる科目が多い					
			C. 熱心に取り組んだ					
			D. 授業内容に満足した科目が多い					
		(2) 実験・実習	A. 興味・関心のある科目が多い					
			B. 成長を実感できる科目が多い					
			C. 熱心に取り組んだ					
			D. 授業内容に満足した科目が多い					
4. 卒業研究（ゼミ）		A. 興味・関心が持てる						
		B. 成長を実感できる						
		C. 熱心に取り組んでいる						
		D. 授業内容に満足した科目が多い						
5. 教職課程に関する科目 ※2		A. 興味・関心のある科目が多い						
		B. 成長を実感できる科目が多い						
		C. 熱心に取り組んだ						
		D. 授業内容に満足した科目が多い						

※1 薬学部薬学科の学生は、「3・4年次」を「3・4・5・6年次」と読み替えてください。

※2 「⑤履修していない」を選択した状態をデフォルトに設定しています。教職課程を履修した学生は、最も当てはまるものを改めて選んでください。

問6 本学での学びや経験で、力を入れたことは何ですか？当てはまるものをすべて選んでください（複数回答可）。

- ① 大学での学び
- ② 資格取得のための学び
- ③ 留学
- ④ クラブ・サークル活動
- ⑤ ボランティア活動
- ⑥ 友人との関係
- ⑦ アルバイト
- ⑧ その他（自由記述）
- ⑨ 特になし

問7 本学の教育を受けて、卒業認定・学位授与の方針〔ディプロマ・ポリシー〕に定める学修目標（能力）はどの程度身に付きましたか？

以下の区分ごとに、最も当てはまるものを1つずつ選んでください。

卒業認定・学位授与の方針〔ディプロマ・ポリシー〕 <https://www.tus.ac.jp/about/faculty/policy/>

- ① 身に付いた
- ② やや身に付いた
- ③ あまり身に付いていない
- ④ まったく身に付いていない

【区分】

- 01 自然・人間・社会に係る幅広い教養を修得し、専門分野の枠を超えて横断的にものごとを俯瞰できる能力
- 02 専門分野に応じた基礎学力と、その上に立つ専門知識
- 03 修得した専門知識や教養をもとに、自ら課題を発見し、解決する能力
- 04 修得した専門知識や教養をもとに、論理的・批判的に思考し、積極的な姿勢で判断し、行動する能力
- 05 修得した専門知識や教養をもとに、他者とコミュニケーションをとり、国際的な視野を持って活躍できる能力
- 06 修得した専門知識や教養をもとに、専門分野に応じたキャリアを形成し、自己を管理する能力

4. 東京理科大学への満足度

(1) 教員

問8 教員に対して、どの程度満足していますか？

以下の区分ごとに最も当てはまるものを1つずつ選んでください。

- ① とても満足している
- ② 満足している
- ③ あまり満足していない
- ④ まったく満足していない

【区分】

- 01 教員とのかかわり
- 02 教員の熱意
- 03 教員の就職・進学支援
- 04 教員の学修支援

(2) 支援制度・設備

問9 本学が提供する支援制度・設備（奨学金、図書館など）に、総合するとどの程度満足していますか？

- ① とても満足している
- ② 満足している
- ③ あまり満足していない
- ④ まったく満足していない

問10 本学が提供する支援制度・設備（奨学金、図書館など）に、どの程度満足していますか？_

以下の区分ごとに最も当てはまるものを1つずつ選んでください。

※「⑤特になし・利用していない」を選択した状態をデフォルトに設定しています。当てはまるものを選択してください。

- ① とても満足している
- ② 満足している
- ③ あまり満足していない
- ④ まったく満足していない
- ⑤ 特になし・利用していない

【区分】

- 01 奨学金制度
- 02 図書館
- 03 生協
- 04 学生食堂
- 05 講義室
- 06 研究室
- 07 体育館・トレーニングルーム
- 08 IT環境（学内無線 LAN 等）

(3) 事務の窓口

問 11 事務の窓口（履修、課外活動など）に、総合するとどの程度満足していますか？

- ① とても満足している
- ② 満足している
- ③ あまり満足していない
- ④ まったく満足していない

問 12 事務の窓口について、以下の区分ごとに最も当てはまるものを1つずつ選んでください。

※「⑤特になし・利用していない」を選択した状態をデフォルトに設定しています。当てはまるものを選択してください。

- ① とても満足している
- ② 満足している
- ③ あまり満足していない
- ④ まったく満足していない
- ⑤ 特になし・利用していない

【区分】

- 01 教務（履修、成績、試験等）
- 02 教務以外（証明書発行、住所変更の届出等）
- 03 教職教育センター
- 04 国際交流（海外留学等）
- 05 課外活動（部活、サークル等）
- 06 奨学金
- 07 体調不良等（保健管理センター）
- 08 留学生に対する支援等（留学生支援室）
- 09 身体やこころの悩み等（よろず相談室）
- 10 進路・就職活動
- 11 セミナーハウス、研修センター
- 12 学費・実験実習等の支払い、振込用紙再発行
- 13 学内のシステム（CLASS や LETUS 等）
- 14 IT 環境（学内無線 LAN 等）
- 15 図書館

(4) 総合

問 13 総合すると、本学にどの程度満足していますか？

- ① とても満足している
- ② 満足している
- ③ あまり満足していない
- ④ まったく満足していない

問 14 本学の教育、支援制度・設備、事務の窓口に関して、印象に残っている良かった点や改善すべき点などを具体的に、自由記述欄に記入してください。

- | | | | |
|---------------|-------|------------|--------|
| ① 教育の | 良かった点 | ② 教育の | 改善すべき点 |
| ③ 支援制度・設備の | 良かった点 | ④ 支援制度・設備の | 改善すべき点 |
| ⑤ 事務の窓口の | 良かった点 | ⑥ 事務の窓口の | 改善すべき点 |
| ⑦ 150 周年記念事業の | アイデア | | |

全学共通設問は以上で終了です。ご協力ありがとうございました。

学科独自アンケートを実施している学科の学生は、引き続きアンケートに回答してください。

▼ フィルタ ▼ 実施年度: 2024 ▼

2019年度～2024年度
卒業予定者対象アンケート
集計結果

【目次】

- 0. 2019-2024 卒業予定者対象アンケート集計結果
- 1-1. 【問1】方針（ポリシー）について
- 1-2. 【問2】方針（ポリシー）について
- 2-2. 【問3】学修時間について_年次・科目・区分／年度比較
- 2-3. 【問3】学修時間について_年次／科目比較
- 3-1. 【問4】カリキュラムについて_総合
- 3-2. 【問5】カリキュラムについて_科目別
- 3-3. 【問6】カリキュラムについて_力を入れたこと
- 3-4. 【問7】カリキュラムについて_DP達成度
- 4-1. 【問8】東京理科大学への満足度_(1)教員
- 4-2. 【問9】東京理科大学への満足度_(2)支援制度・設備_総合
- 4-3. 【問10】東京理科大学への満足度_(2)支援制度・設備_区分ごと
- 4-4. 【問11】東京理科大学への満足度_(3)事務窓口_総合
- 4-5. 【問12】東京理科大学への満足度_(3)事務窓口_区分ごと
- 4-6. 【問13】東京理科大学への満足度_(4)総合

【回答率】

2024年度 (78.3%)

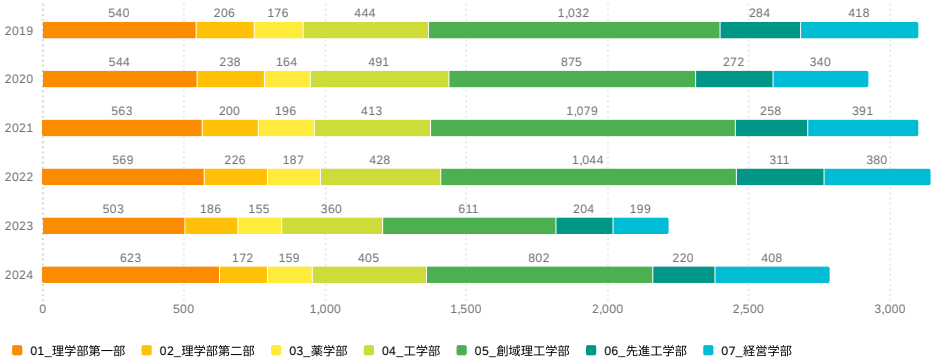
2019年度 (85.2%) / 2020年度 (82.1%) /
2021年度 (86.0%) / 2022年度 (90.5%) /
2023年度 (69.4%)

【設問】

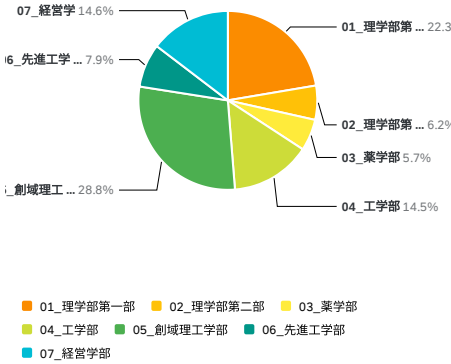
2024年度

2019年度 / 2020年度 / 2021年度 / 2022年度 /
2023年度

回答者数_推移 17,276 ▼



回答者_学部別 2,789



回答者_学部別>学科別 17,276 ▼

学部>学科	2019	2020	2021	2022	2023	2024
理学部第一部	540	544	563	569	503	623
理学部第二部	206	238	200	226	186	172
薬学部	176	164	196	187	155	159
工学部	444	491	413	428	360	405
創域理工学部	1,032	875	1,079	1,044	611	802
先進工学部	284	272	258	311	204	220
経営学部	418	340	391	380	199	408
合計	3,100	2,924	3,100	3,145	2,218	2,789

回答者数_学科別 17,240 ▼

Q7_2 - 学科	2019	2020	2021	2022	2023	2024
11_数学科	96	89	95	95	93	92
12_物理学科	98	96	91	108	71	104
13_化学科	94	89	96	90	94	123
14_応用数学科	89	100	116	78	118	108

Q7_2 - 学科	2019	2020	2021	2022	2023	2024
15_応用物理学科	83	98	112	113	89	100
16_応用化学科	80	72	53	85	38	96
21_数学科	93	81	97	93	82	64
22_物理学科	49	70	53	60	36	48
23_化学科	64	87	50	73	68	60
3A_薬学科	93	89	103	97	77	72
3B_生命創薬科学科	83	75	93	90	78	87
41_建築学科	73	121	60	74	20	62
42_工業化学科	70	115	96	102	73	78
43_電気工学科	104	80	94	71	85	108
45_機械工学科	102	91	82	104	85	54
46_情報工学科	67	77	80	77	87	91
4A_建築学科 夜間主社会人コース	-	-	-	-	10	12
61_数理科学科	57	25	100	91	30	92
62_先端物理学科	86	79	117	85	55	68
63_情報計算科学科	95	74	82	98	94	106
64_生命生物科学科	64	96	86	116	25	33
71_建築学科	108	97	118	106	54	31
72_先端化学科	114	110	114	131	86	117
73_電気電子情報工学科	179	145	180	137	121	155
74_経営システム工学科	66	54	67	66	41	27
75_機械航空宇宙工学科	148	90	123	100	20	54
76_社会基盤工学科	115	105	92	114	85	119
81_電子システム工学科	85	84	89	89	60	82
82_マテリアル創成工学科	113	93	84	114	60	48
83_生命システム工学科	86	95	85	108	84	90
86_経営学科	316	228	256	263	122	136
87_ビジネスエコノミクス学科	102	112	135	117	77	120
89_国際デザイン経営学科	-	-	-	-	-	152
合計	3,072	2,917	3,099	3,145	2,218	2,789

フィルタ 実施年度: 2024

1. 方針（ポリシー）について

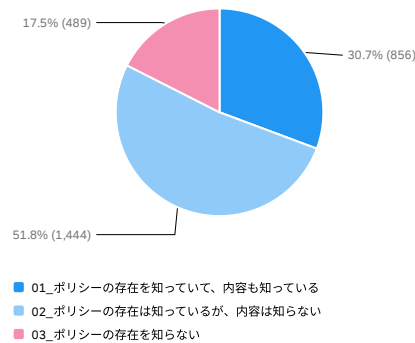
【問1】所属する学部学科の方針（卒業認定・学位授与の方針〔ディプロマ・ポリシー〕、教育課程編成・実施の方針〔カリキュラム・ポリシー〕）を知っていますか？

【問1】肯定的回答割合
2,789 ①

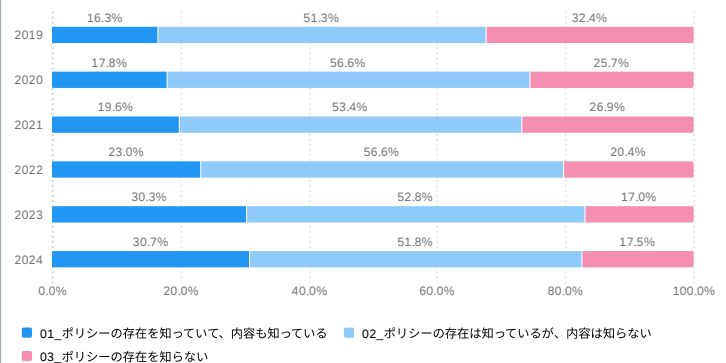
82.5%

▼ -0.5% vs
2023年度 (83.0%)
▲ +4.1% vs
2022年度 (78.4%)

【問1】回答割合 2,789



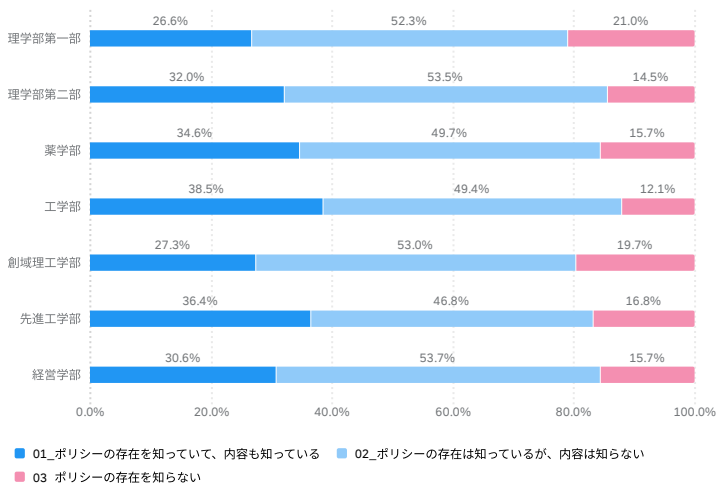
【問1】年度別 17,175



【問1】学部別 2,789

学部＞学科	01_ポリシーの存在を知っていて、内容も知っている	02_ポリシーの存在は知っているが、内容は知らない	03_ポリシーの存在を知らない	合計
理学部第一部	166	326	131	623
理学部第二部	55	92	25	172
薬学部	55	79	25	159
工学部	156	200	49	405
創域理工学部	219	425	158	802
先進工学部	80	103	37	220
経営学部	125	219	64	408
合計	856	1,444	489	

【問1】学部別 2,789



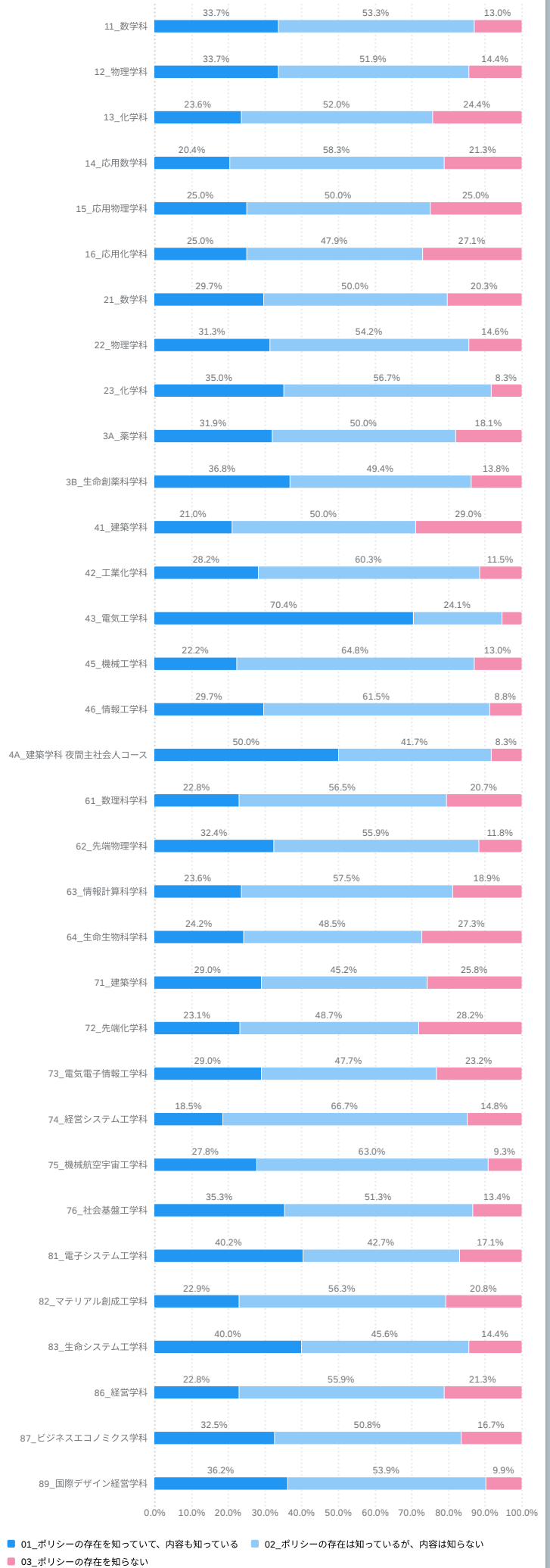
【問1】学科別

2,789

Q7_2 - 学科	01_ポリシーの存在を知っていて、内容も知っている	02_ポリシーの存在は知っているが、内容は知らない	03_ポリシーの存在を知らない	合計
11_数学科	31	49	12	92
12_物理学科	35	54	15	104
13_化学科	29	64	30	123
14_応用数学科	22	63	23	108
15_応用物理学科	25	50	25	100
16_応用化学科	24	46	26	96
21_数学科	19	32	13	64
22_物理学科	15	26	7	48
23_化学科	21	34	5	60
3A_薬学科	23	36	13	72
3B_生命創薬科学科	32	43	12	87
41_建築学科	13	31	18	62
42_工業化学科	22	47	9	78
43_電気工学科	76	26	6	108
45_機械工学科	12	35	7	54
46_情報工学科	27	56	8	91
4A_建築学科 夜間主社会人コース	6	5	1	12
61_数理科学科	21	52	19	92
62_先端物理学科	22	38	8	68
63_情報計算科学科	25	61	20	106
64_生命生物科学科	8	16	9	33
71_建築学科	9	14	8	31
72_先端化学科	27	57	33	117
73_電気電子情報工学科	45	74	36	155
74_経営システム工学科	5	18	4	27
75_機械航空宇宙工学科	15	34	5	54
76_社会基盤工学科	42	61	16	119
81_電子システム工学科	33	35	14	82
82_マテリアル創成工学科	11	27	10	48
83_生命システム工学科	36	41	13	90
86_経営学科	31	76	29	136
87_ビジネスエコノミクス学科	39	61	20	120
89_国際デザイン経営学科	55	82	15	152
合計	856	1,444	489	

【問1】学科別

2,789



▼ フィルタ ▼ 実施年度: 2024 ▼

1. 方針（ポリシー）について

【問2】問1で①を選んだ方にお聞きします。所属する学部学科では、ポリシーに示されている目標達成に必要な授業や環境が用意されていたと思いますか？

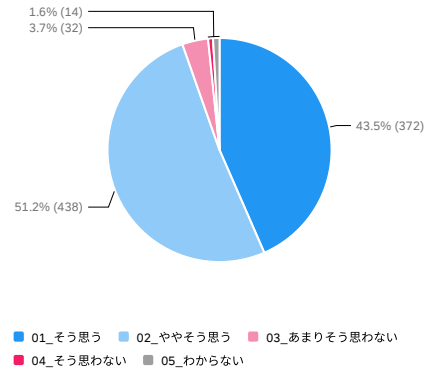
【問2】肯定的回答割合
856 ① ▼

94.6%

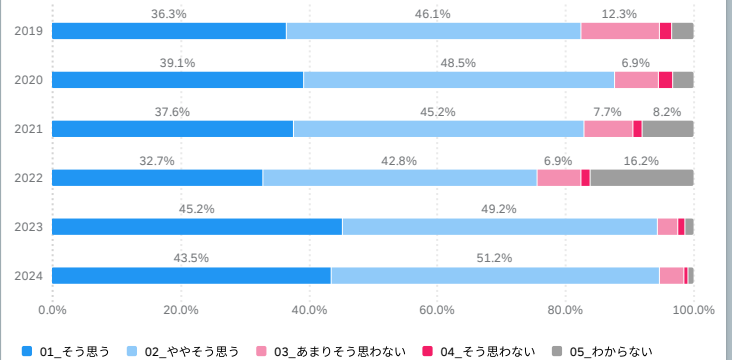
▲ +0.3% vs
問2_割合2023 (94.3%)

▲ +19.1% vs
問2_割合2022 (75.5%)

【問2】回答割合 856



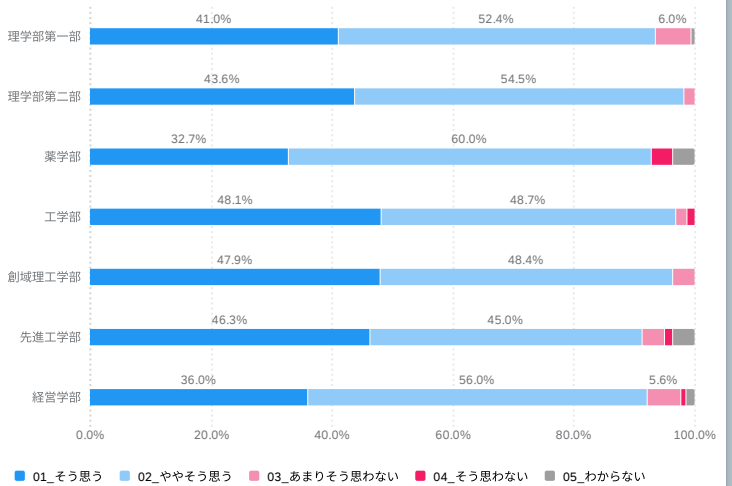
【問2】年度別 5,614 ▼



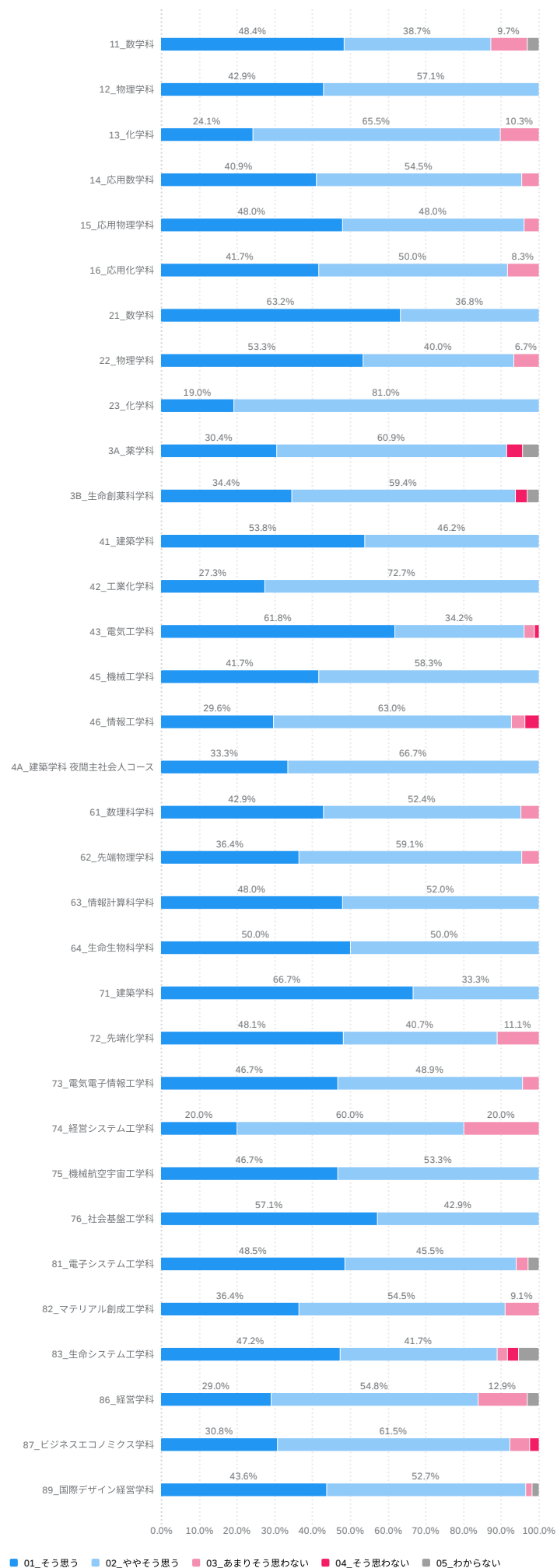
【問2】学部別 856

学部＞学科	01_そう思う	02_ややそう思う	03_あまりそう思わない	04_そう思わない	05_わからない	合計
理学部第一部	68	87	10	-	1	166
理学部第二部	24	30	1	-	-	55
薬学部	18	33	-	2	2	55
工学部	75	76	3	2	-	156
創域理工学部	105	106	8	-	-	219
先進工学部	37	36	3	1	3	80
経営学部	45	70	7	1	2	125
合計	372	438	32	6	8	

【問2】学部別 856



学科	01_そう思う	02_ややそう思う	03_あまりそう思わない	04_そう思わない	05_わからない	合計
数学科	15	12	3	-	1	31
物理学科	15	20	-	-	-	35
化学科	7	19	3	-	-	29
応用数学科	9	12	1	-	-	22
応用物理学科	12	12	1	-	-	25
応用化学科	10	12	2	-	-	24
数学科	12	7	-	-	-	19
物理学科	8	6	1	-	-	15
化学科	4	17	-	-	-	21
薬学科	7	14	-	1	1	23
生命創薬科学科	11	19	-	1	1	32
建築学科	7	6	-	-	-	13
工業化学科	6	16	-	-	-	22
電気工学科	47	26	2	1	-	76
機械工学科	5	7	-	-	-	12
情報工学科	8	17	1	1	-	27
建築学科 夜間主社会人コース	2	4	-	-	-	6
数理科学科	9	11	1	-	-	21
先端物理学科	8	13	1	-	-	22
情報計算科学科	12	13	-	-	-	25
生命生物科学科	4	4	-	-	-	8
建築学科	6	3	-	-	-	9
先端化学科	13	11	3	-	-	27
電気電子情報工学科	21	22	2	-	-	45
経営システム工学科	1	3	1	-	-	5
機械航空宇宙工学科	7	8	-	-	-	15
社会基盤工学科	24	18	-	-	-	42
電子システム工学科	16	15	1	-	1	33
マテリアル創成工学科	4	6	1	-	-	11
生命システム工学科	17	15	1	1	2	36
経営学科	9	17	4	-	1	31
ビジネスエコンミクス学科	12	24	2	1	-	39
国際デザイン経営学科	24	29	1	-	1	55
合計	372	438	32	6	8	



【CTLT-TL】2024年度卒業予定者対象アンケートー2019～2024ー / 2-1. 【問3】学修時間について_年次／年度比較

▼ フィルタ ▼ 実施年度: 2024 ▼

2. 学修時間について

【問3】

授業1コマ(90分)あたり、予習・復習を平均どの程度行いましたか？

自身が最も学修に時間を費やしたと考える時期の平均学修時間について、以下の※1に記載の年次・区分ごとに、最も当てはまるものを1つずつ選んでください。

※1 1～4年次（薬学部薬学科は5，6年次を含む）の各年次における平均学修時間について、以下の〔1〕～〔5〕ごとに、最も当てはまるものを1つずつ選んでください。

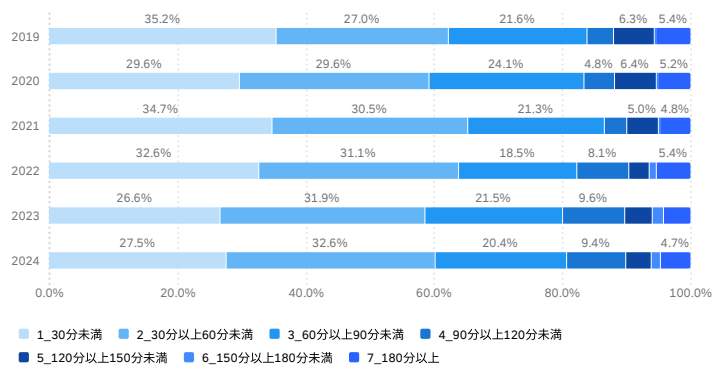
- 〔1〕 一般教養科目（外国語科目を除く）
- 〔2〕 英語科目
- 〔3〕 英語以外の外国語科目
- 〔4〕 専門科目・基礎科目 講義・演習
- 〔5〕 専門科目・基礎科目 実験・実習

※2 予習・復習には、レポート・発表資料作成。図書館やインターネットでの情報収集、ノートや配付資料の復習、試験期間前の試験勉強を含みます。

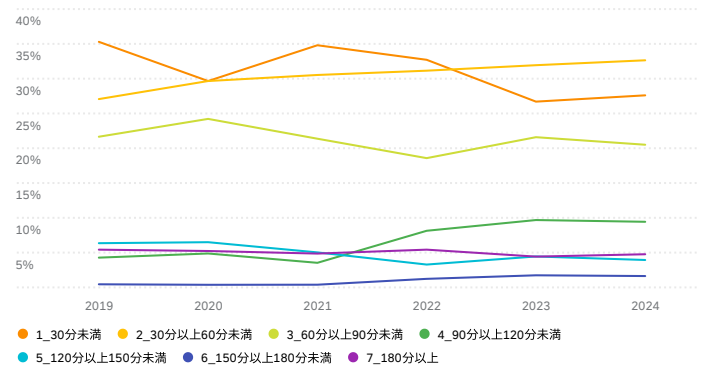
※「履修していない、在籍していない」と回答した学生は母数に含めず算出しています。

【問3】学修時間（年度別）

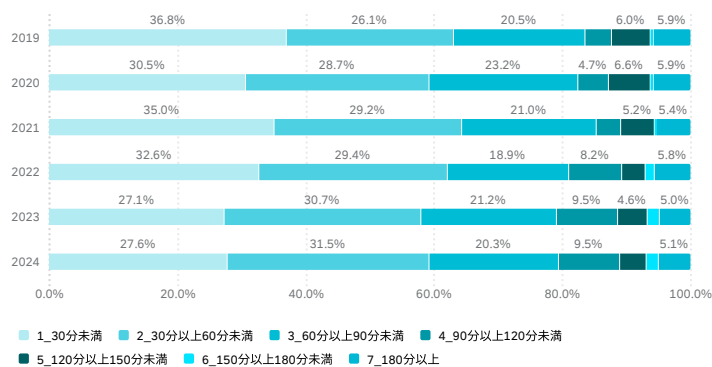
【問3】1年次_年度別 17,085 ▼



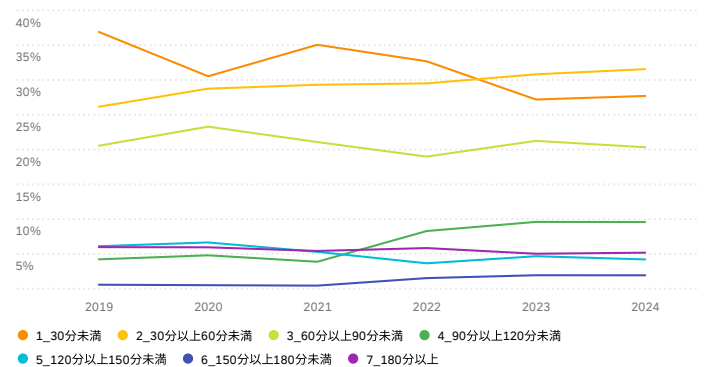
【問3】1年次_年度別 17,085 ▼



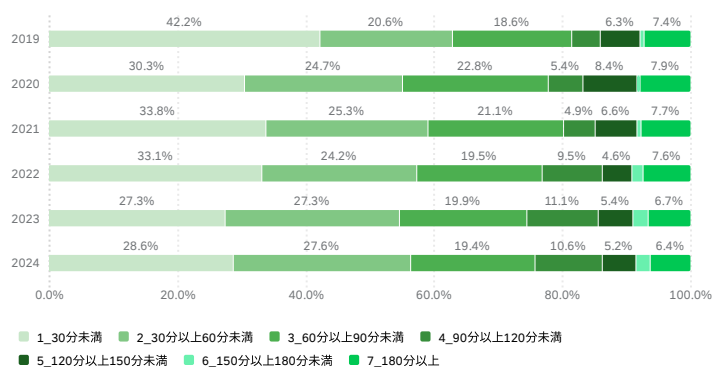
【問3】2年次_年度別 17,163 ▼



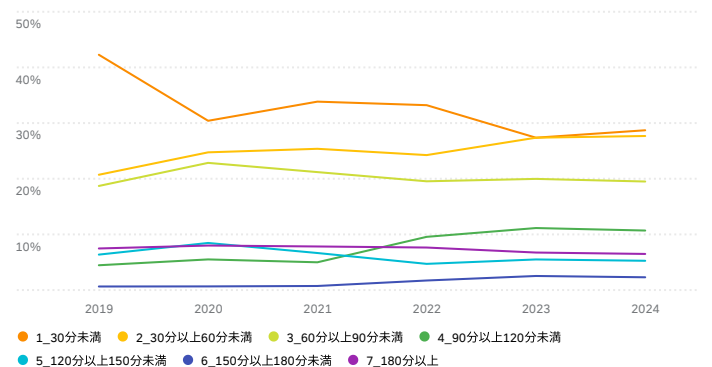
【問3】2年次_年度別 17,163 ▼



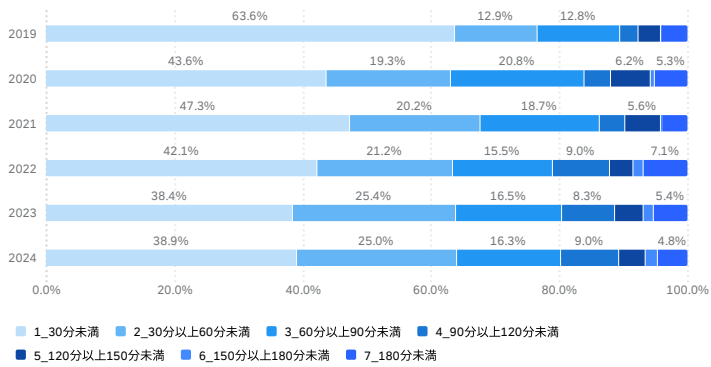
【問3】3年次_年度別 17,156 ▼



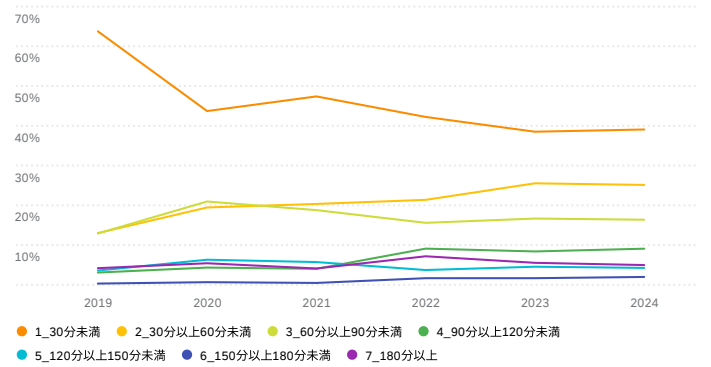
【問3】3年次_年度別 17,156 ▼



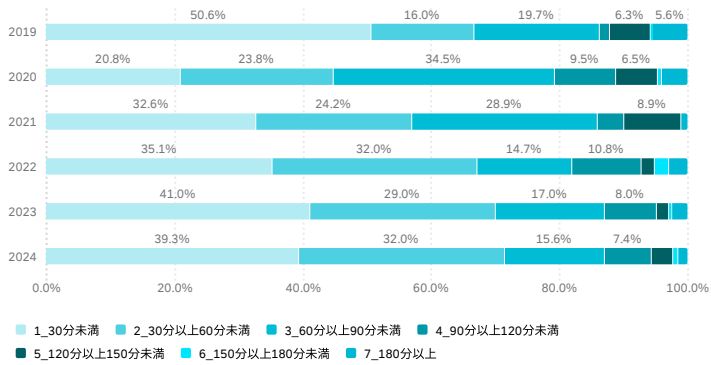
【問3】4年次_年度別 12,887 ▼



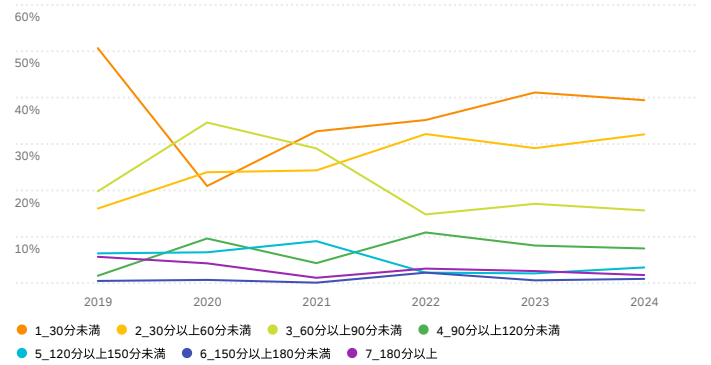
【問3】4年次_年度別 12,887 ▼



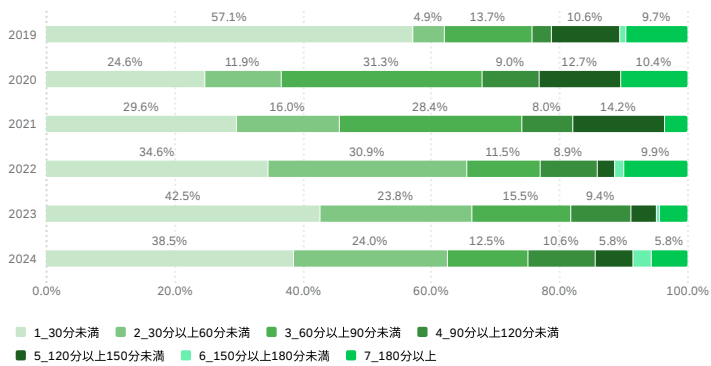
【問3】5年次_年度別 499 ▼



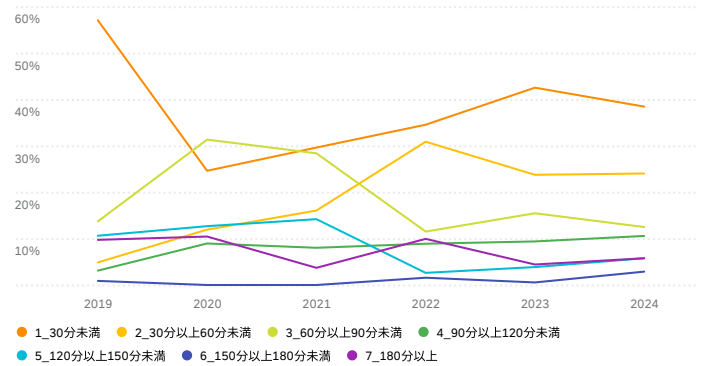
【問3】5年次_年度別 499 ▼



【問3】6年次_年度別 482 ▼



【問3】6年次_年度別 482 ▼



【CTLT-TL】2024年度卒業予定者対象アンケート ―2019～2024― / 2-2. 【問3】学修時間について_年次・科目・区分／年度比較

▼ フィルタ ▼ 実施年度: 2024 ▼

2. 学修時間について

【問3】

授業1コマ(90分)あたり、予習・復習を平均どの程度行いましたか？

自身が最も学修に時間を費やしたと考える時期の平均学修時間について、以下の※1に記載の年次・区分ごとに、最も当てはまるものを1つずつ選んでください。

※1 1～4年次（薬学部薬学科は5，6年次を含む）の各年次における平均学修時間について、以下の〔1〕～〔5〕ごとに、最も当てはまるものを1つずつ選んでください。

〔1〕一般教養科目（外国語科目を除く）

〔2〕英語科目

〔3〕英語以外の外国語科目

〔4〕専門科目・基礎科目 講義・演習

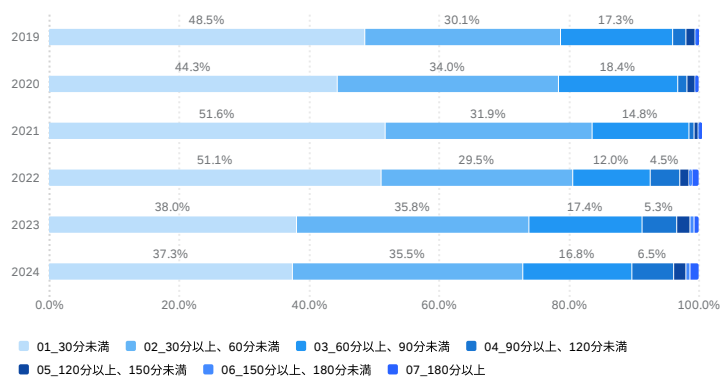
〔5〕専門科目・基礎科目 実験・実習

※2 予習・復習には、レポート・発表資料作成。図書館やインターネットでの情報収集、ノートや配付資料の復習、試験期間前の試験勉強を含みます。

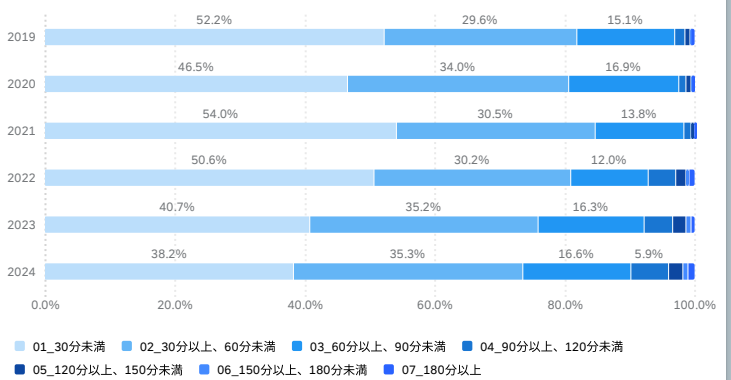
※「履修していない、在籍していない」と回答した学生は母数に含めず算出しています。

【問3】学修時間（一般教養科目／年度別）

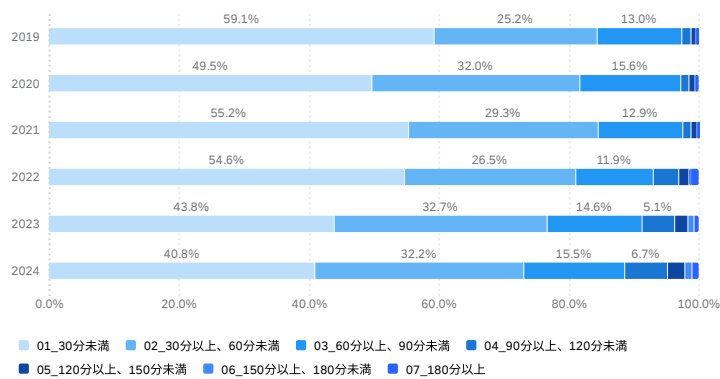
【問3】1年次_一般教養科目_年度別 16,982 ▼



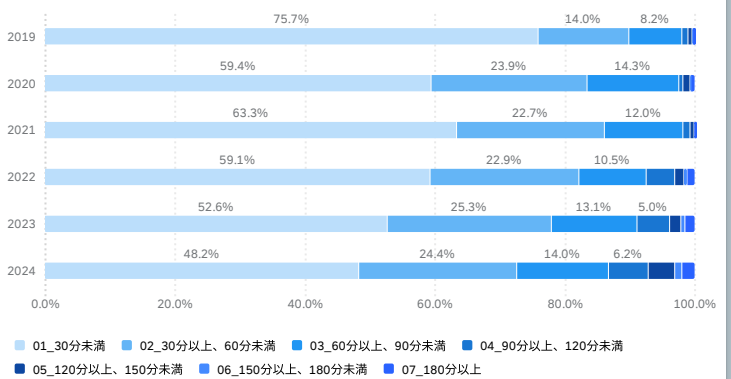
【問3】2年次_一般教養科目_年度別 16,455 ▼



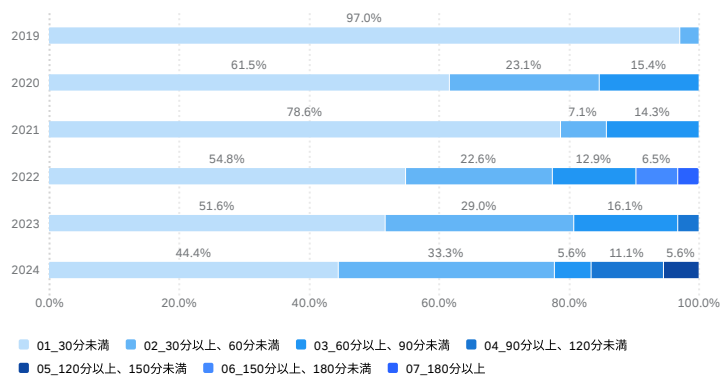
【問3】3年次_一般教養科目_年度別 13,603 ▼



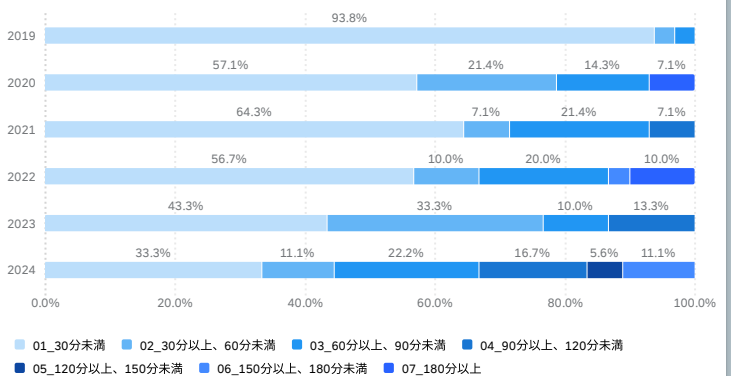
【問3】4年次_一般教養科目_年度別 8,127 ▼



【問3】5年次_一般教養科目_年度別 140 ▼

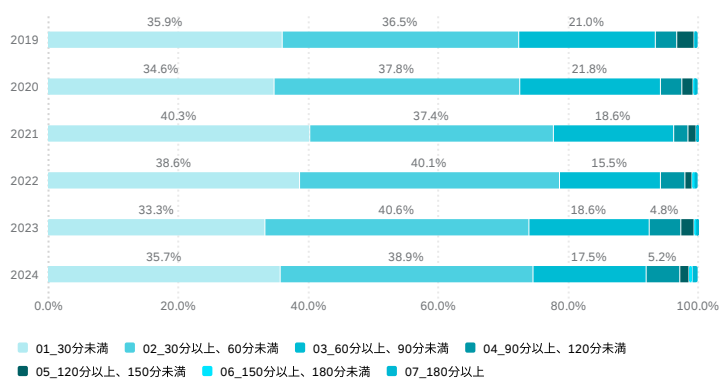


【問3】6年次_一般教養科目_年度別 138 ▼

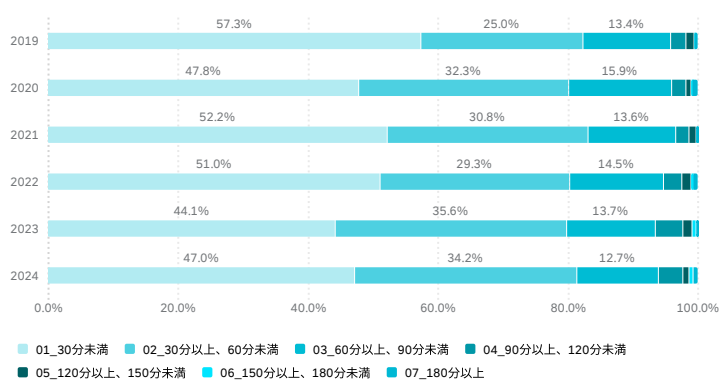


【問3】学修時間（英語科目／年度別）

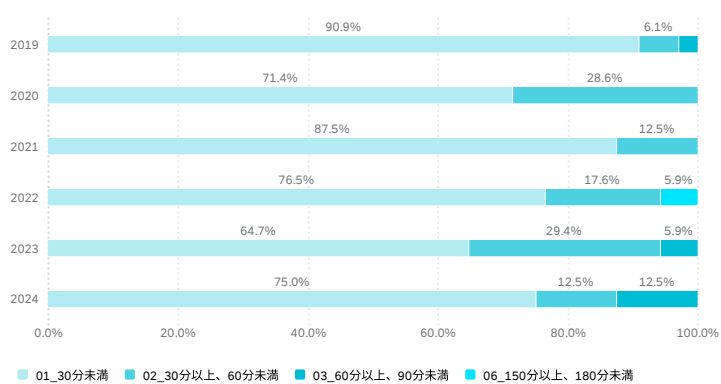
【問3】1年次_英語科目_年度別 16,988



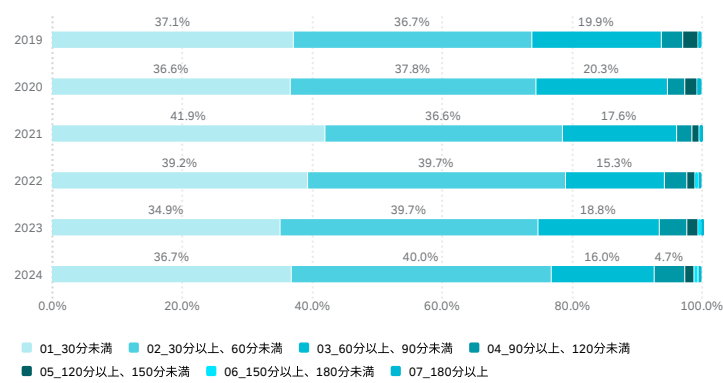
【問3】3年次_英語科目_年度別 9,921



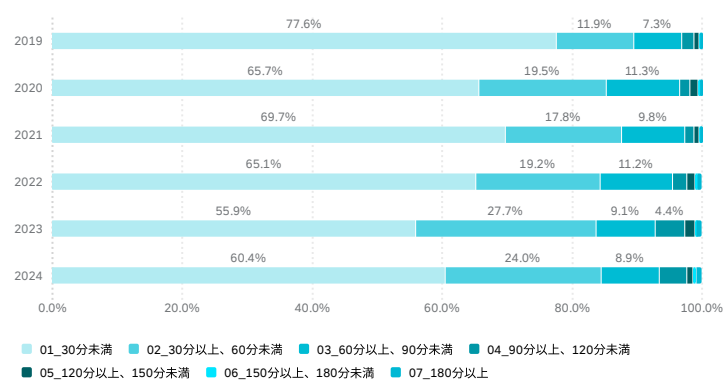
【問3】5年次_英語科目_年度別 90



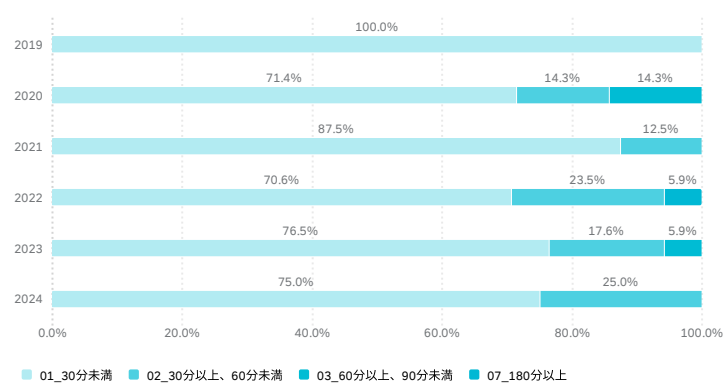
【問3】2年次_英語科目_年度別 16,756



【問3】4年次_英語科目_年度別 5,805

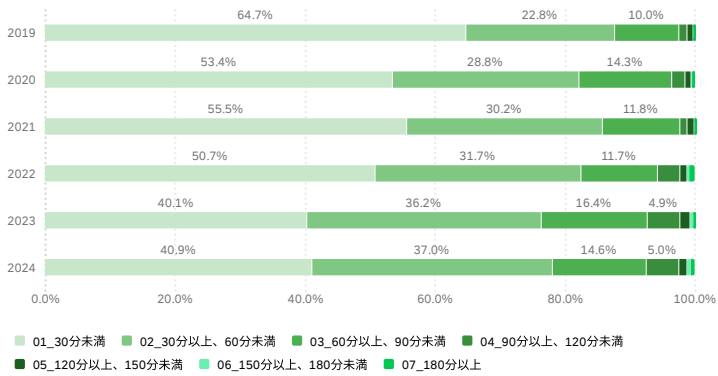


【問3】6年次_英語科目_年度別 90

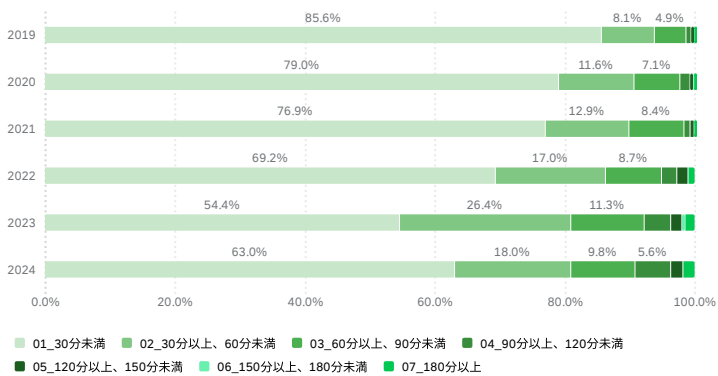


【問3】学修時間（英語以外の外国語科目／年度別）

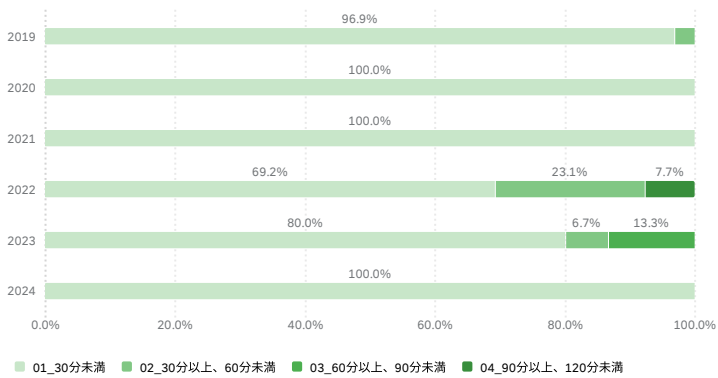
【問3】1年次_英語以外の外国語科目_年度別 9,281 下向き三角



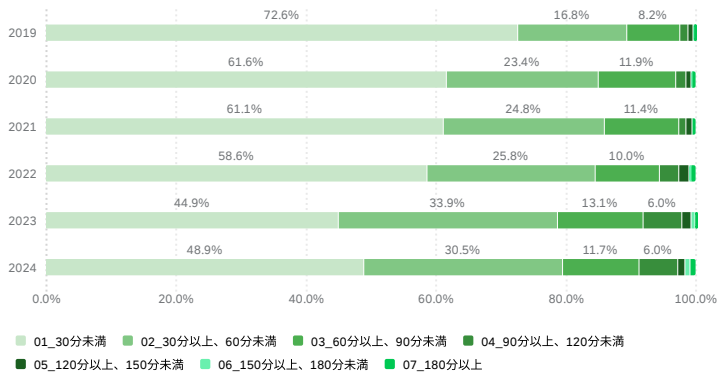
【問3】3年次_英語以外の外国語科目_年度別 4,540 下向き三角



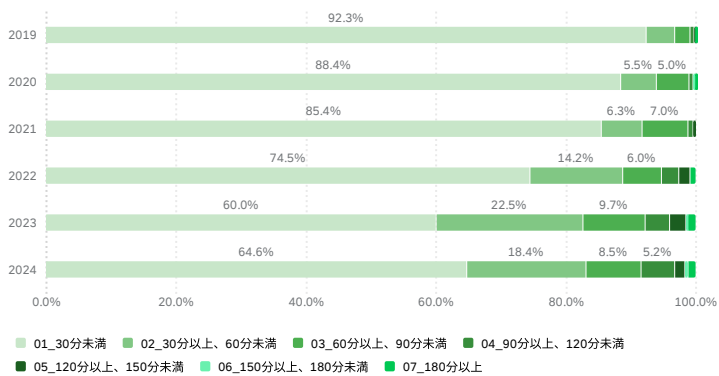
【問3】5年次_英語以外の外国語科目_年度別 80 下向き三角



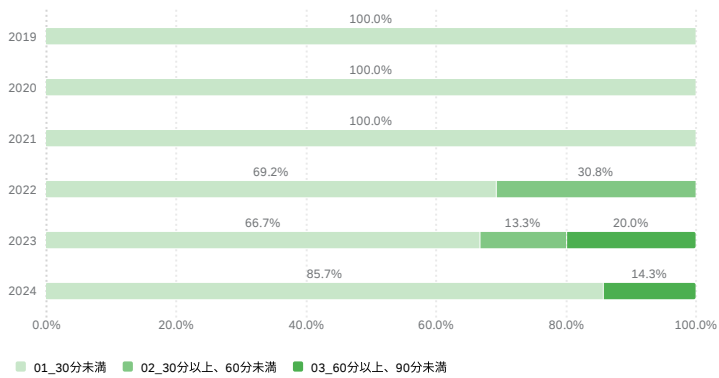
【問3】2年次_英語以外の外国語科目_年度別 6,572 下向き三角



【問3】4年次_英語以外の外国語科目_年度別 3,795 下向き三角

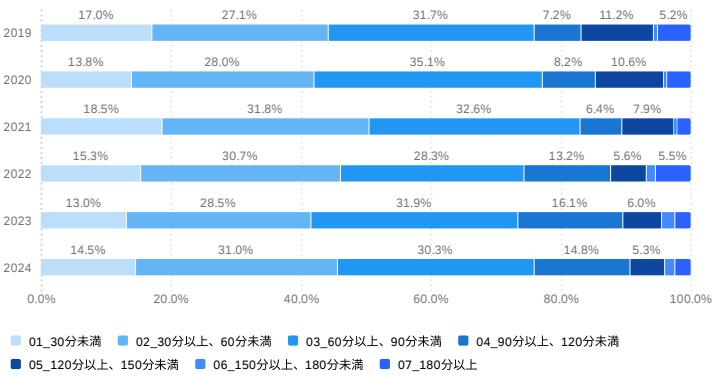


【問3】6年次_英語以外の外国語科目_年度別 80 下向き三角

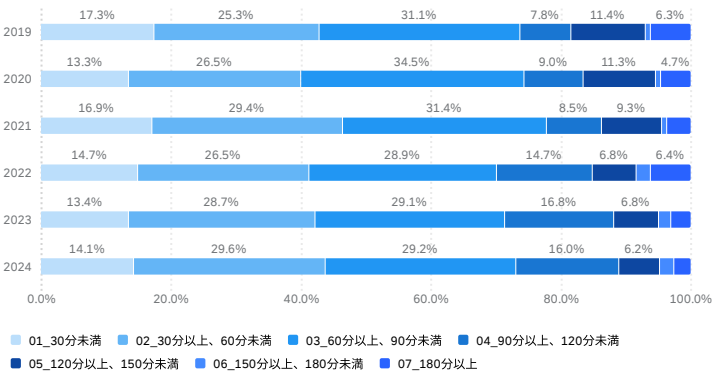


【問3】学修時間（講義・演習／年度別）

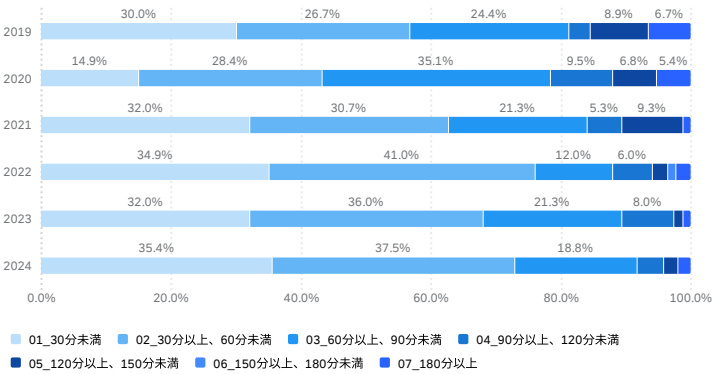
【問3】1年次_講義・演習_年度別 16,937



【問3】3年次_講義・演習_年度別 16,936

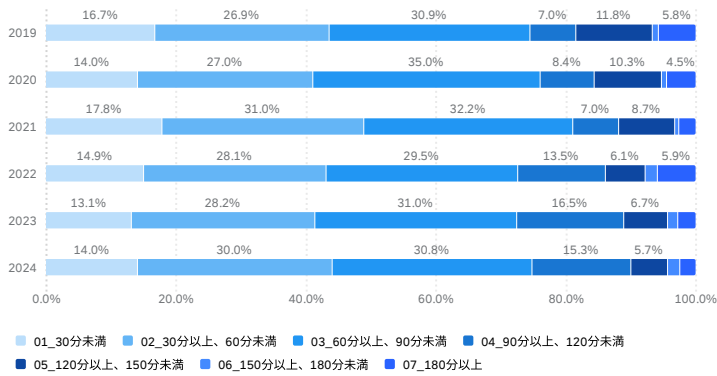


【問3】5年次_講義・演習_年度別 445

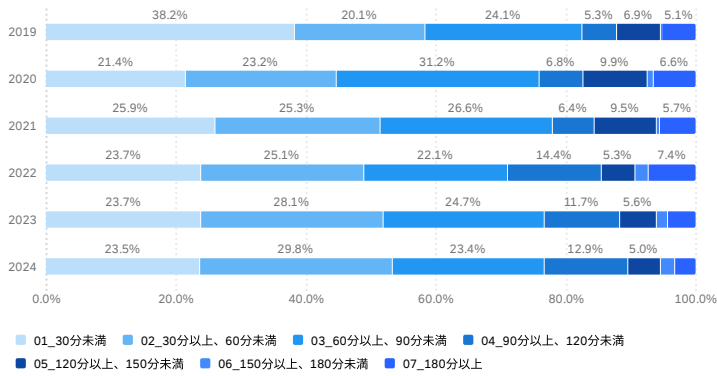


【問3】6年次_講義・演習_年度別 464

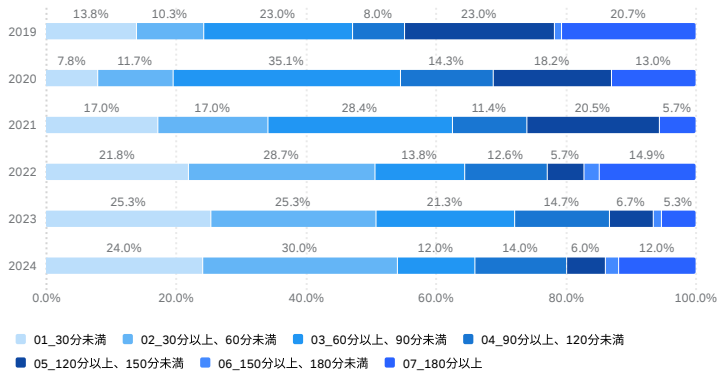
【問3】2年次_講義・演習_年度別 17,035



【問3】4年次_講義・演習_年度別 11,310

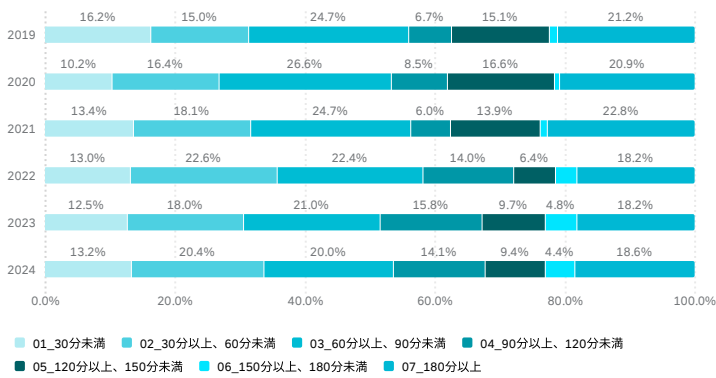


【問3】6年次_講義・演習_年度別 464

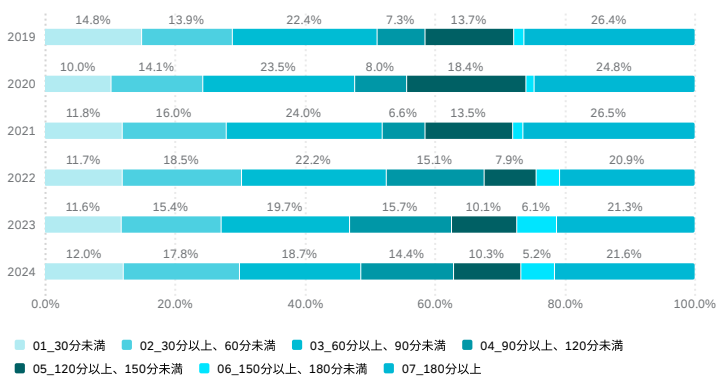


【問3】学修時間（実験・実習／年度別）

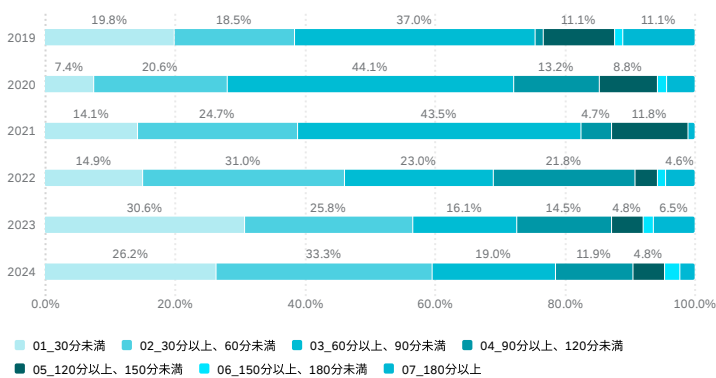
【問3】1年次_実験・実習_年度別 13,997 ▼



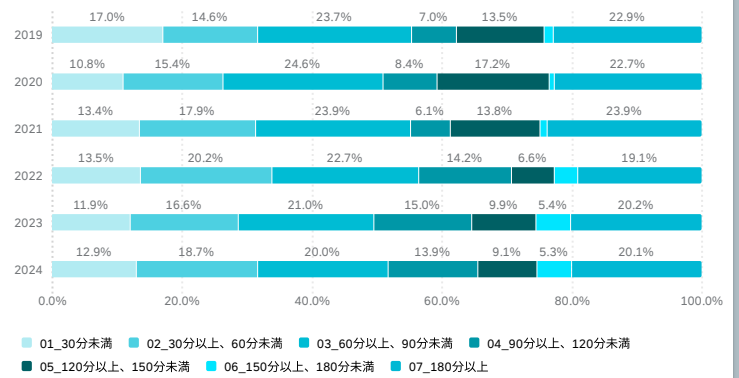
【問3】3年次_実験・実習_年度別 14,172 ▼



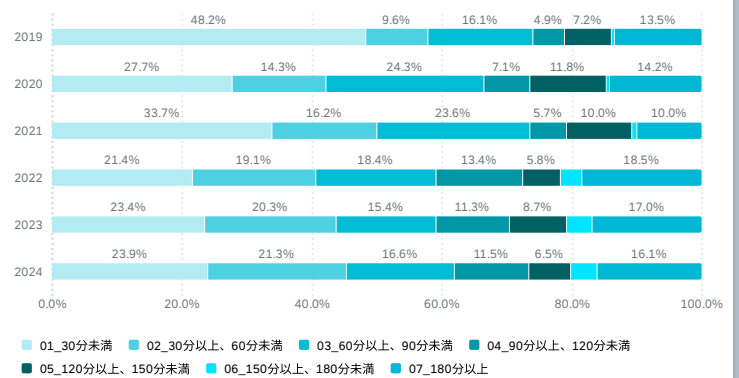
【問3】5年次_実験・実習_年度別 425 ▼



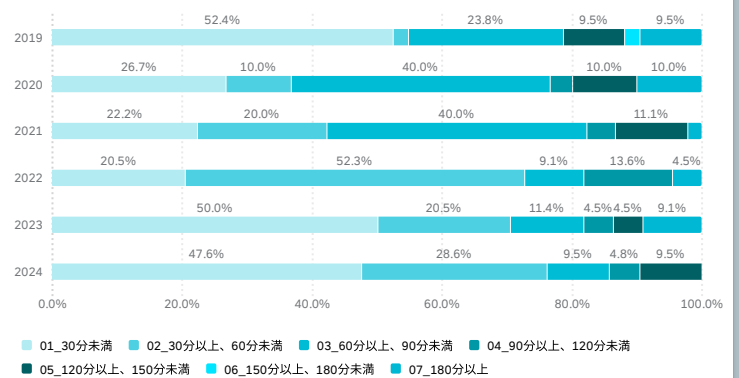
【問3】2年次_実験・実習_年度別 13,770 ▼



【問3】4年次_実験・実習_年度別 7,228 ▼



【問3】6年次_実験・実習_年度別 226 ▼



【CTLT-TL】2024年度卒業予定者対象アンケートー2019～2024ー / 2-3. 【問3】学修時間について_年次／科目比較

▼ フィルタ ▼ 実施年度: 2024 ▼

2. 学修時間について

【問3】

授業1コマ（90分）あたり、予習・復習を平均どの程度行いましたか？

自身が最も学修に時間を費やしたと考える時期の平均学修時間について、以下の※1に記載の年次・区分ごとに、最も当てはまるものを1つずつ選んでください。

※1 1～4年次（薬学部薬学科は5，6年次を含む）の各年次における平均学修時間について、以下の〔1〕～〔5〕ごとに、最も当てはまるものを1つずつ選んでください。

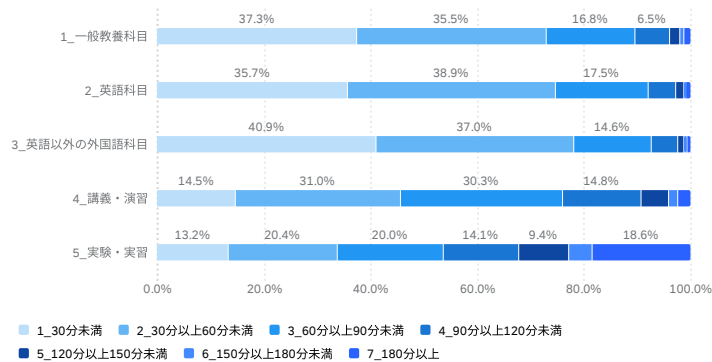
- 〔1〕一般教養科目（外国語科目を除く）
- 〔2〕英語科目
- 〔3〕英語以外の外国語科目
- 〔4〕専門科目・基礎科目 講義・演習
- 〔5〕専門科目・基礎科目 実験・実習

※2 予習・復習には、レポート・発表資料作成。図書館やインターネットでの情報収集、ノートや配付資料の復習、試験期間前の試験勉強を含みます。

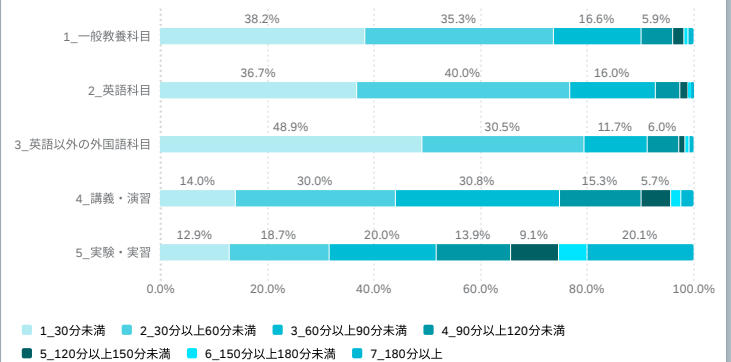
※「履修していない、在籍していない」と回答した学生は母数に含めず算出しています。

【問3】学修時間（年次／授業科目別）

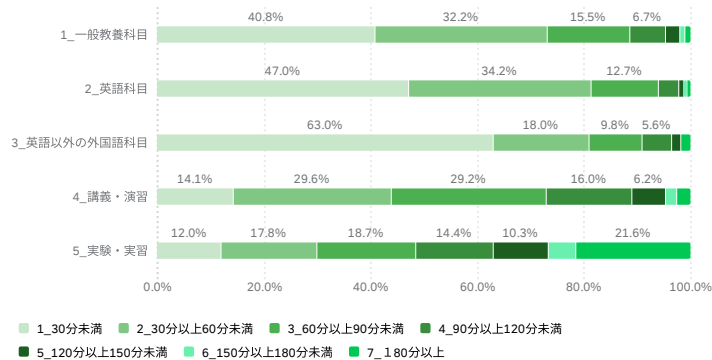
【問3】1年次 2,762



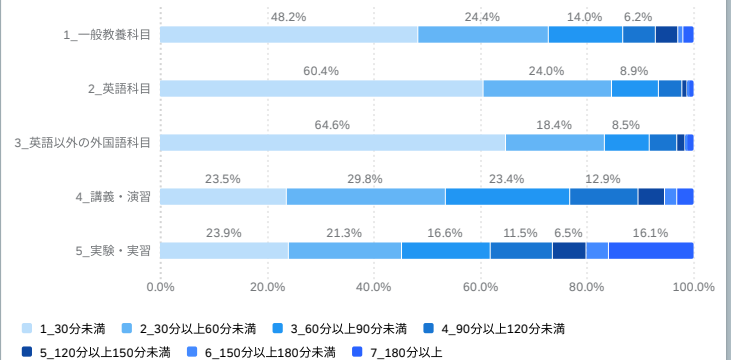
【問3】2年次 2,787



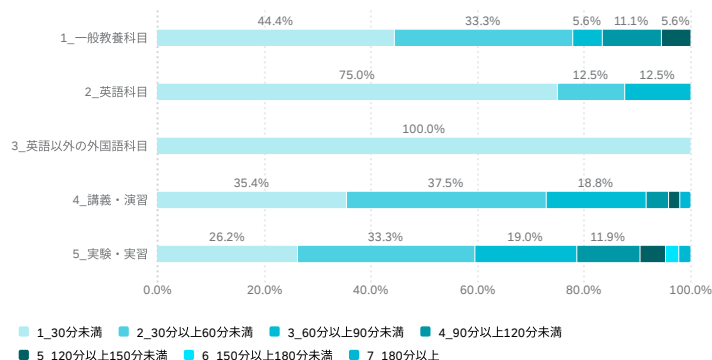
【問3】3年次 2,782



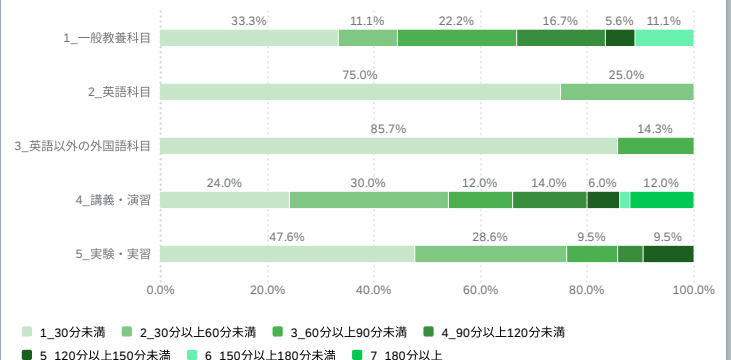
【問3】4年次 2,275



【問3】5年次 57



【問3】6年次 56



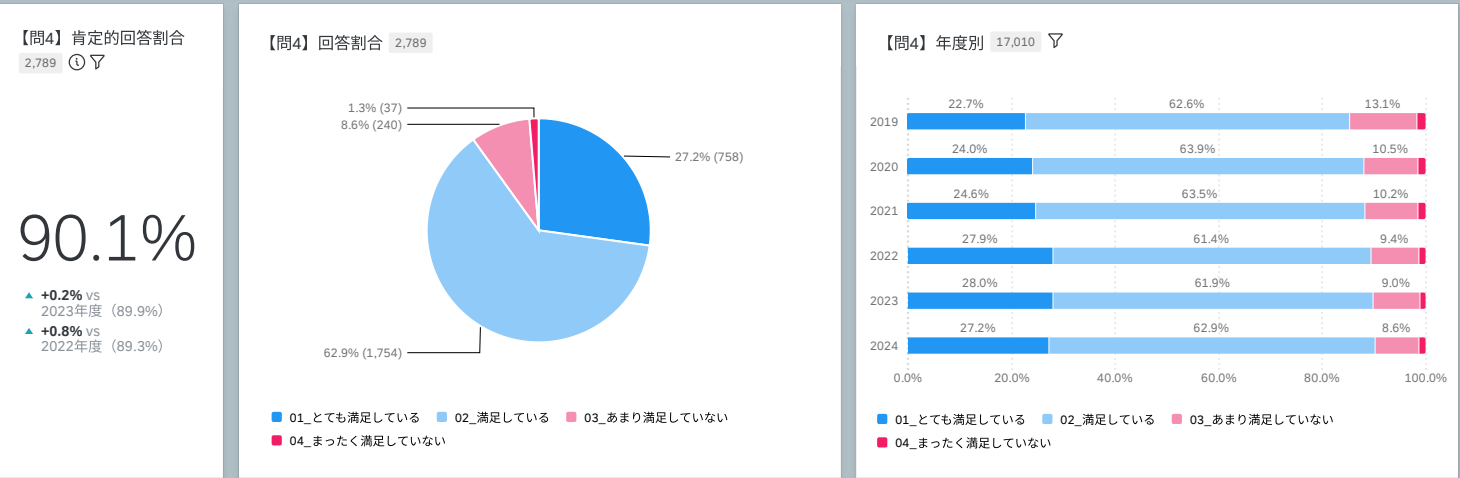
▼ フィルタ ▼ 実施年度: 2024 ▼

3. カリキュラムについて

【問4】所属する学部学科が提供する教育やカリキュラム（講義、実験・実習、研究室など）に、総合するとどの程度満足していますか？

※「履修していない、在籍していない」と回答した学生は母数に含めず算出しています。

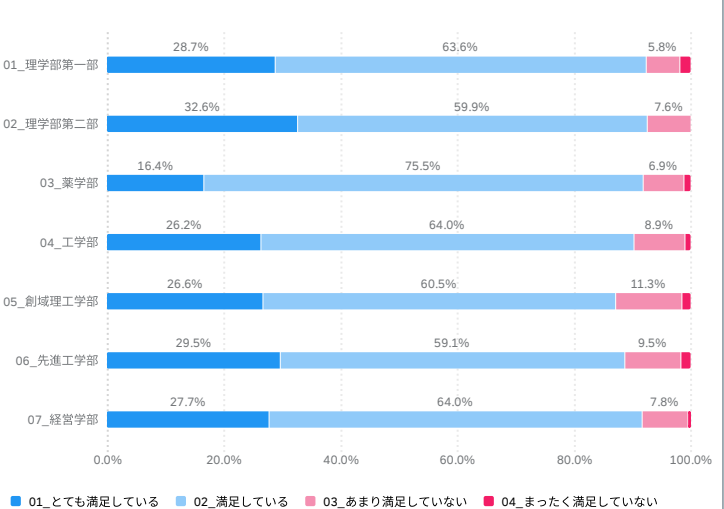
※薬学部薬学科の学生は「3,4年次」を「3,4,5,6年次」と読み替えて回答しています。



問4 学部別 2,789

学部＞学科	01_とても満足している	02_満足している	03_あまり満足していない	04_まったく満足していない	合計
理学部第一部	179	396	36	12	623
理学部第二部	56	103	13	-	172
薬学部	26	120	11	2	159
工学部	106	259	36	4	405
創域理工学部	213	485	91	13	802
先進工学部	65	130	21	4	220
経営学部	113	261	32	2	408
合計	758	1,754	240	37	

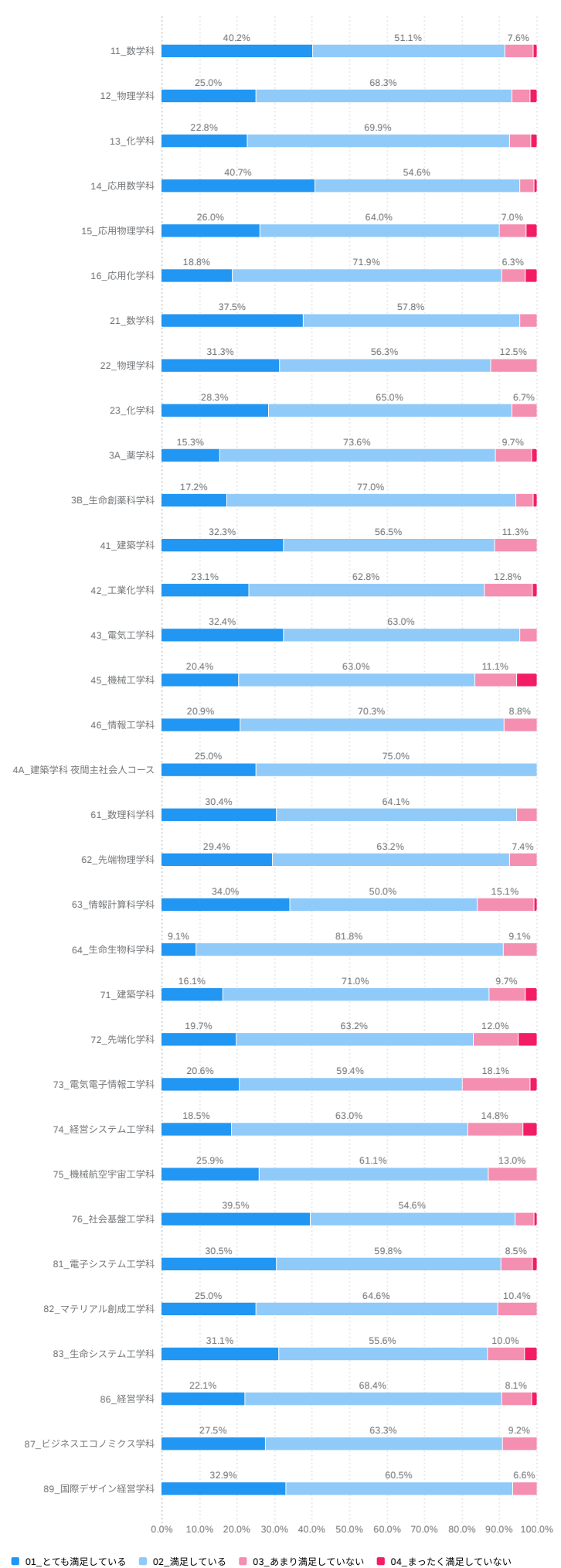
問4 教育カリキュラム満足度（学部別） 2,789



問4 学科別 2,789

Q7_2 - 学科	01_とても満足している	02_満足している	03_あまり満足していない	04_まったく満足していない	合計
11_数学科	37	47	7	1	92
12_物理学科	26	71	5	2	104
13_化学科	28	86	7	2	123
14_応用数学科	44	59	4	1	108
15_応用物理学科	26	64	7	3	100
16_応用化学科	18	69	6	3	96
21_数学科	24	37	3	-	64
22_物理学科	15	27	6	-	48
23_化学科	17	39	4	-	60
3A_薬学科	11	53	7	1	72
3B_生命創薬科学科	15	67	4	1	87
41_建築学科	20	35	7	-	62
42_工業化学科	18	49	10	1	78
43_電気工学科	35	68	5	-	108
45_機械工学科	11	34	6	3	54
46_情報工学科	19	64	8	-	91
4A_建築学科 夜間主社会人コース	3	9	-	-	12
61_数理科学科	28	59	5	-	92
62_先端物理学科	20	43	5	-	68
63_情報計算科学科	36	53	16	1	106
64_生命生物科学科	3	27	3	-	33
71_建築学科	5	22	3	1	31
72_先端化学科	23	74	14	6	117
73_電気電子情報工学科	32	92	28	3	155
74_経営システム工学科	5	17	4	1	27
75_機械航空宇宙工学科	14	33	7	-	54
76_社会基盤工学科	47	65	6	1	119
81_電子システム工学科	25	49	7	1	82
82_マテリアル創成工学科	12	31	5	-	48
83_生命システム工学科	28	50	9	3	90
86_経営学科	30	93	11	2	136
87_ビジネスエコノミクス学科	33	76	11	-	120
89_国際デザイン経営学科	50	92	10	-	152
合計	758	1,754	240	37	

問4 教育カリキュラム満足度 (学科別) 2,789



▼ フィルタ ▼ 実施年度: 2024 ▼

3. カリキュラムについて

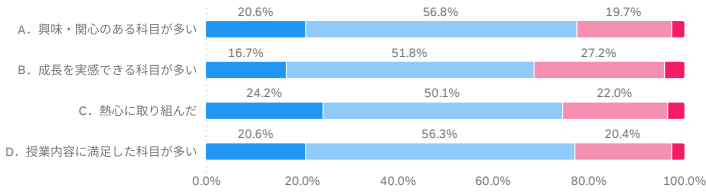
【問5】所属する学部学科の教育内容・カリキュラムについて、最も当てはまるものを1つずつ選んでください。

※「履修していない、在籍していない」と回答した学生は母数に含めず算出しています。

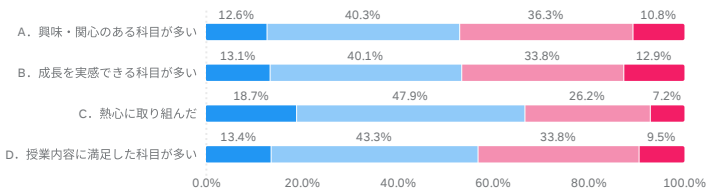
※薬学部薬学科の学生は「3,4年次」を「3,4,5,6年次」と読み替えてください。

【問5】2024年度

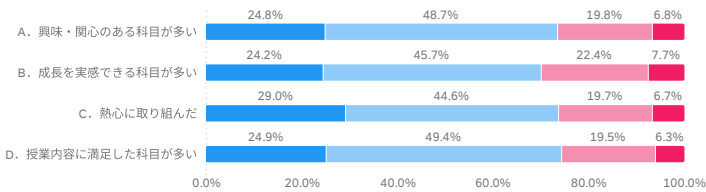
【問5】2024年度_一般教養科目 2,773 ▼



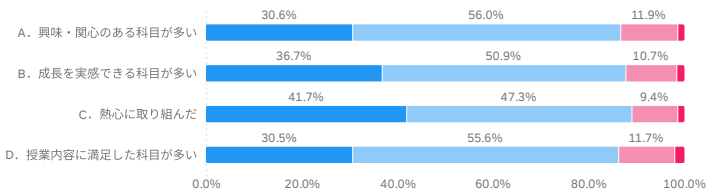
【問5】2024年度_2. 外国語科目（1）英語科目 2,760 ▼



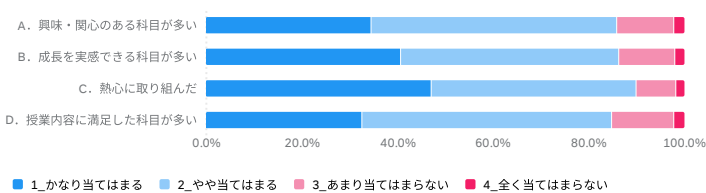
【問5】2024年度_2. 外国語科目（2）英語以外の外国語科目 1,453 ▼



【問5】2024年度_3. 専門科目・基礎科目_1年次（1）講義・演習 2,757 ▼



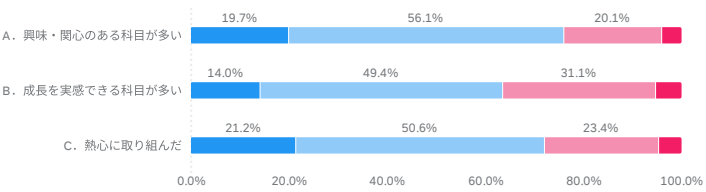
【問5】2024年度_3. 専門科目・基礎科目_1年次（2）実験・実習 2,250 ▼



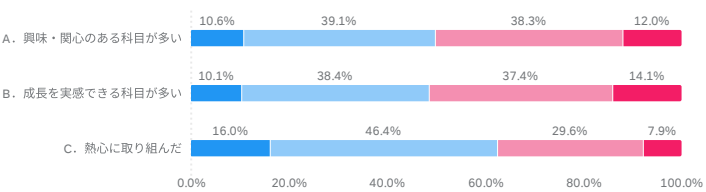
1_かなり当てはまる 2_やや当てはまる 3_あまり当てはまらない 4_全く当てはまらない

【問5】2023年度

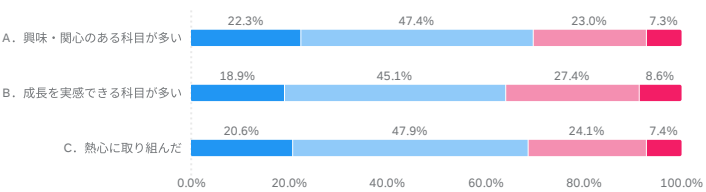
【問5】2023年度_一般教養科目 2,199 ▼



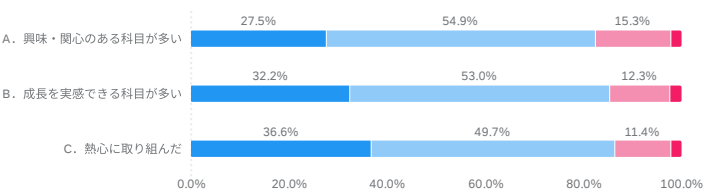
【問5】2023年度_2. 外国語科目（1）英語科目 2,193 ▼



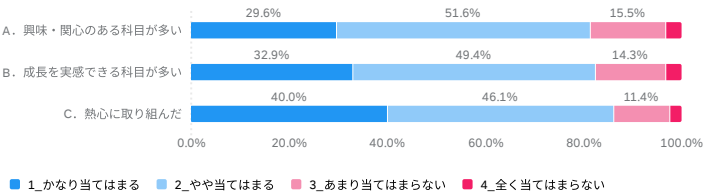
【問5】2023年度_2. 外国語科目（2）英語以外の外国語科目 1,354 ▼



【問5】2023年度_3. 専門科目・基礎科目_1年次（1）講義・演習 2,193 ▼

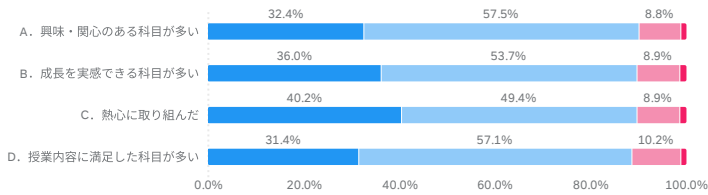


【問5】2023年度_3. 専門科目・基礎科目_1年次（2）実験・実習 1,940 ▼

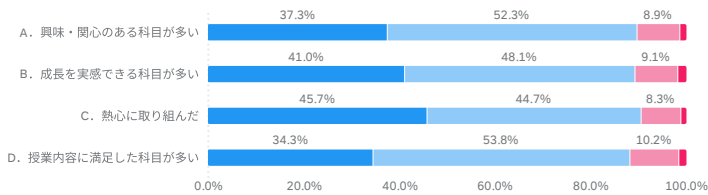


1_かなり当てはまる 2_やや当てはまる 3_あまり当てはまらない 4_全く当てはまらない

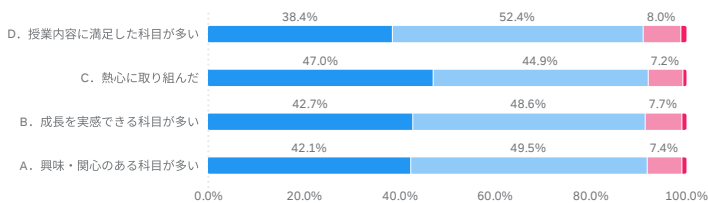
【問5】2024年度_3．専門科目・基礎科目_2年次（1）講義・演習 2,776 ▼



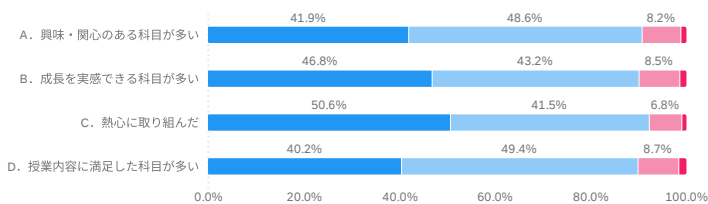
【問5】2024年度_3．専門科目・基礎科目_2年次（2）実験・実習 2,239 ▼



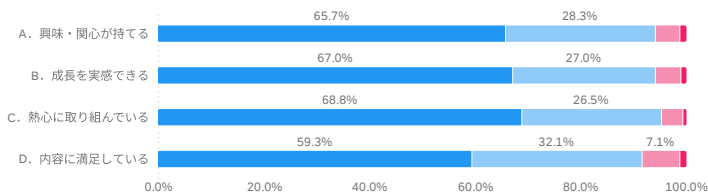
【問5】2024年度_3．専門科目・基礎科目_3・4年次（1）講義・演習 2,764 ▼



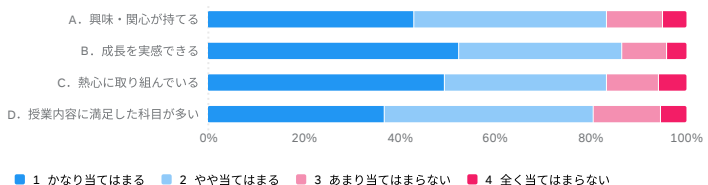
【問5】2024年度_3．専門科目・基礎科目_3・4年次（2）実験・実習 2,244 ▼



【問5】2024年度_4．卒業研究（ゼミ） 2,738 ▼

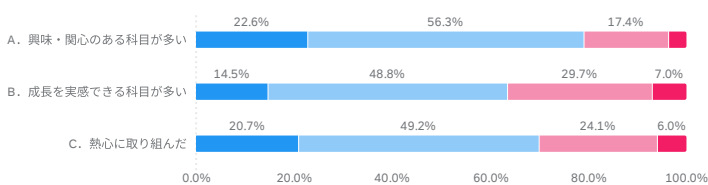


【問5】2024年度_5．教職課程に関する科目 238 ▼

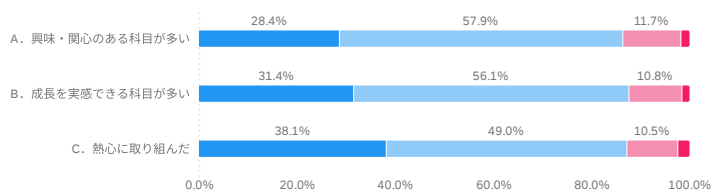


【問5】2022年度

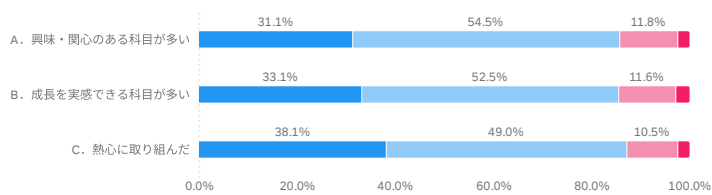
【問5】2022年度_一般教養科目 3,123 ▼



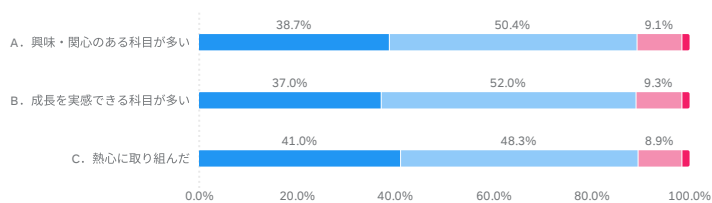
【問5】2023年度_3．専門科目・基礎科目_2年次（1）講義・演習 2,204 ▼



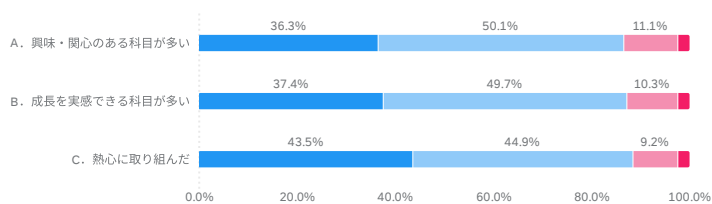
【問5】2023年度_3．専門科目・基礎科目_2年次（2）実験・実習 1,904 ▼



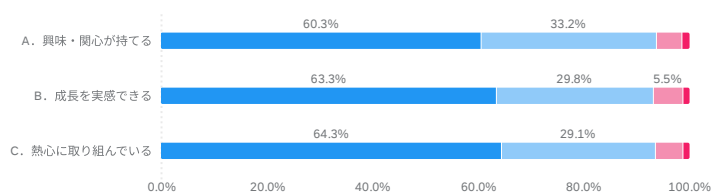
【問5】2023年度_3．専門科目・基礎科目_3・4年次（1）講義・演習 2,199 ▼



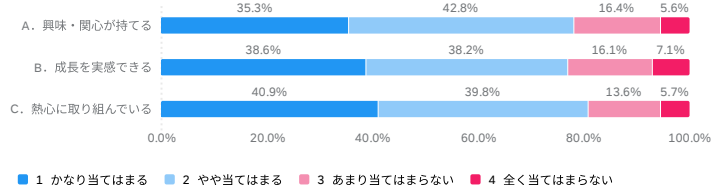
【問5】2023年度_3．専門科目・基礎科目_3・4年次（2）実験・実習 1,923 ▼



【問5】2023年度_4．卒業研究（ゼミ） 2,182 ▼

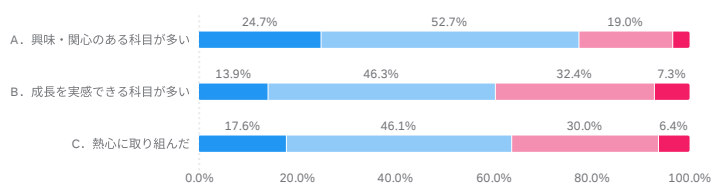


【問5】2023年度_5．教職課程に関する科目 271 ▼

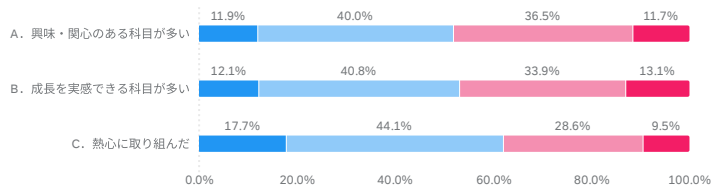


【問5】2021年度

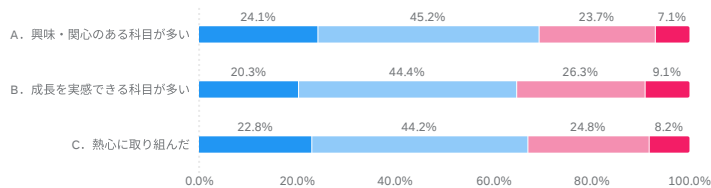
【問5】2021年度_一般教養科目 3,080 ▼



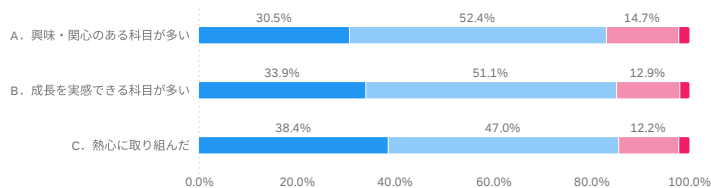
【問5】2022年度_2．外国語科目（1）英語科目 3,101 ▾



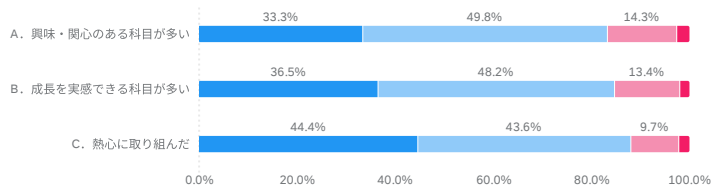
【問5】2022年度_2．外国語科目（2）英語以外の外国語科目 1,749 ▾



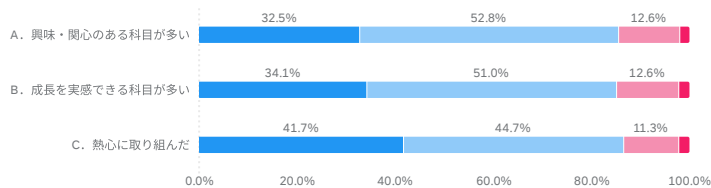
【問5】2022年度_3．専門科目・基礎科目_1年次（1）講義・演習 3,116 ▾



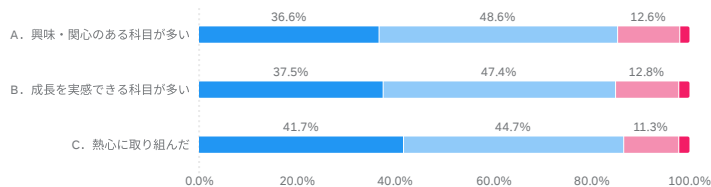
【問5】2022年度_3．専門科目・基礎科目_1年次（2）実験・実習 2,663 ▾



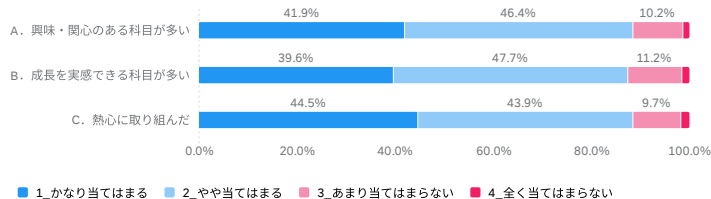
【問5】2022年度_3．専門科目・基礎科目_2年次（1）講義・演習 3,120 ▾



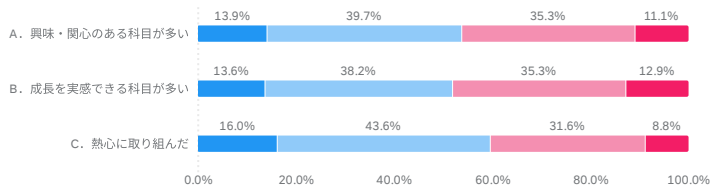
【問5】2022年度_3．専門科目・基礎科目_2年次（2）実験・実習 2,621 ▾



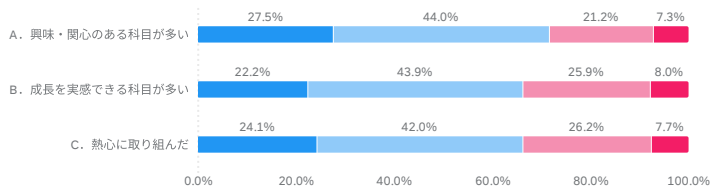
【問5】2022年度_3．専門科目・基礎科目_3・4年次（1）講義・演習 3,116 ▾



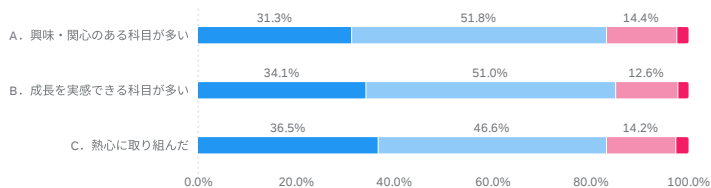
【問5】2021年度_2．外国語科目（1）英語科目 3,068 ▾



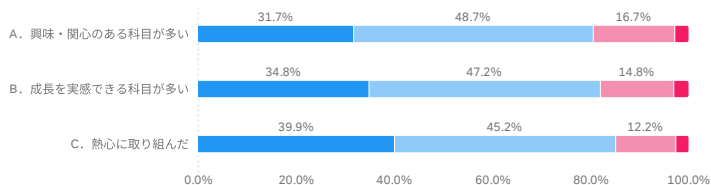
【問5】2021年度_2．外国語科目（2）英語以外の外国語科目 1,660 ▾



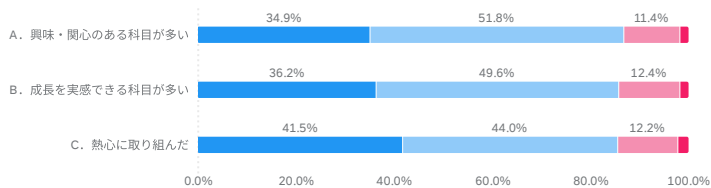
【問5】2021年度_3．専門科目・基礎科目_1年次（1）講義・演習 3,076 ▾



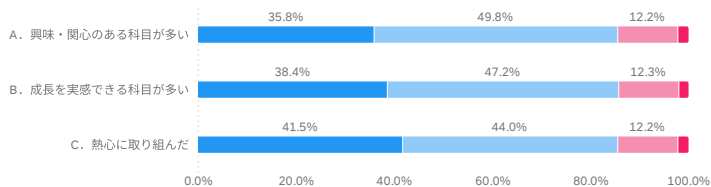
【問5】2021年度_3．専門科目・基礎科目_1年次（2）実験・実習 2,529 ▾



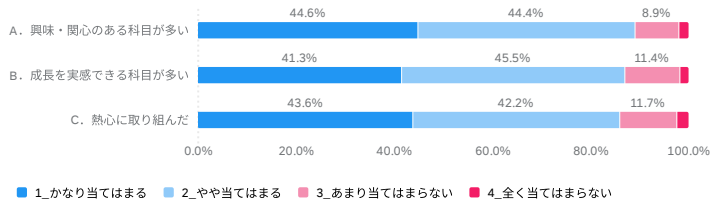
【問5】2021年度_3．専門科目・基礎科目_2年次（1）講義・演習 3,087 ▾



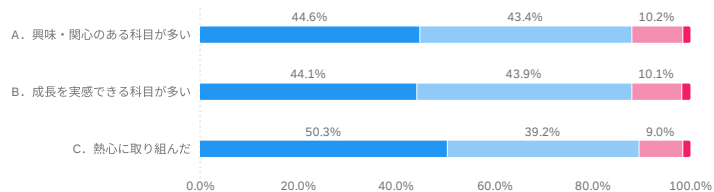
【問5】2021年度_3．専門科目・基礎科目_2年次（2）実験・実習 2,475 ▾



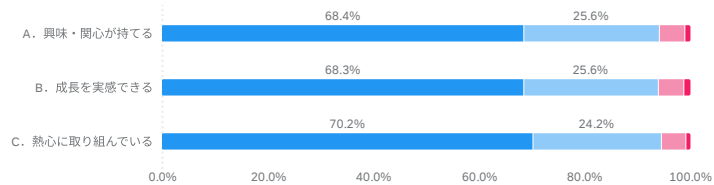
【問5】2021年度_3．専門科目・基礎科目_3・4年次（1）講義・演習 3,074 ▾



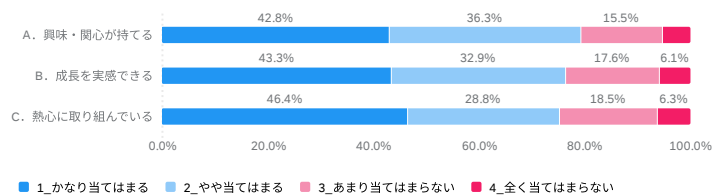
【問5】2022年度_3．専門科目・基礎科目_3・4年次（2）実験・実習 2,672 ▼



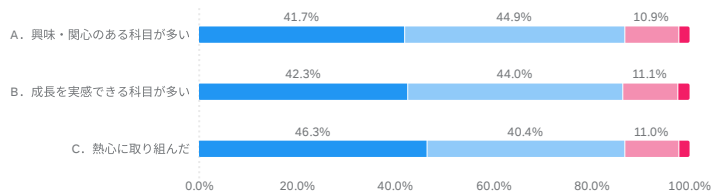
【問5】2022年度_4．卒業研究（ゼミ） 3,102 ▼



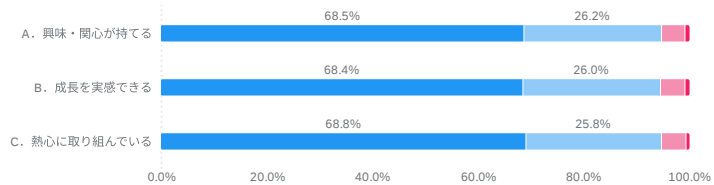
【問5】2022年度_5．教職課程に関する科目 523 ▼



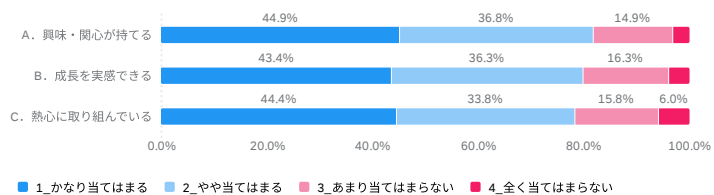
【問5】2021年度_3．専門科目・基礎科目_3・4年次（2）実験・実習 2,535 ▼



【問5】2021年度_4．卒業研究（ゼミ） 3,079 ▼



【問5】2021年度_5．教職課程に関する科目 357 ▼

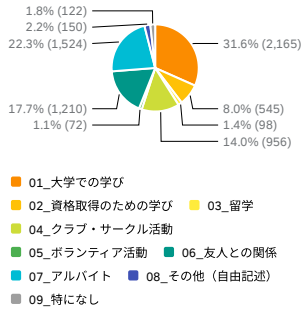


▼ フィルタ ▼ 実施年度: 2024 ▼

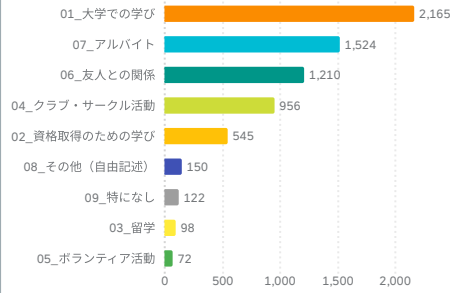
3. カリキュラムについて

【問6】本学での学びや経験で、力を入れたことは何ですか？当てはまるものをすべて選んでください（複数回答可）。

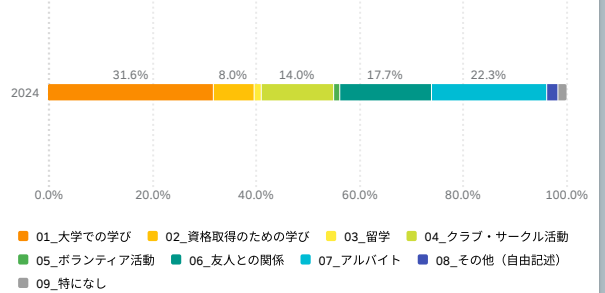
【問6】力を入れたこと 2,789



【問6】力を入れたこと 2,789



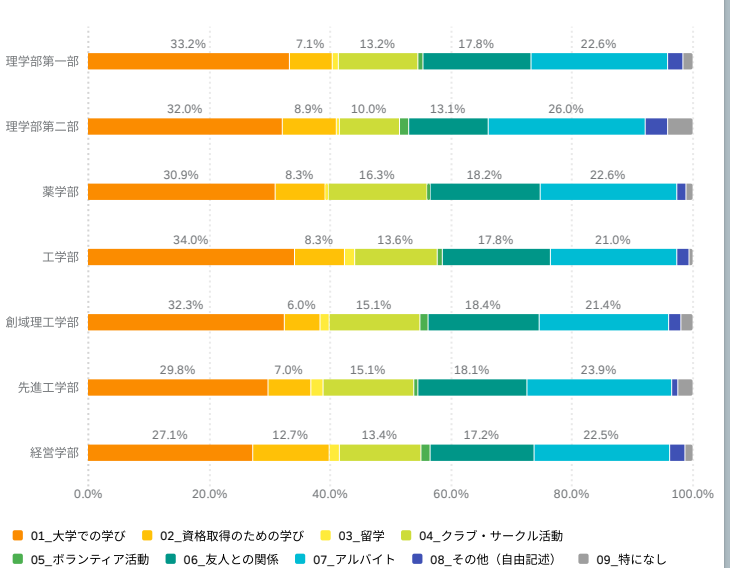
【問6】力を入れたこと_年度別 2,789 ▼



問6 力を入れたこと_学部＞学科 2,789

学部 >学 科	01_大学 での学び	02_資 格取得 のため の学び	03_留 学	04_ク ラブ・ サーク ル活動	05_ボ ランテ ィア活 動	06_友人 との関 係	07_アル バイト	08_そ の他 (自由 記述)	09_特 になし
理学 部第 一部	489	104	17	194	11	263	333	37	26
理学 部第 二部	122	34	2	38	6	50	99	14	16
薬学 部	127	34	2	67	2	75	93	6	5
工学 部	336	82	17	134	9	176	207	19	7
創域 理工 学部	646	119	31	301	25	368	427	42	40
先進 工学 部	158	37	11	80	3	96	127	6	13
経営 学部	287	135	18	142	16	182	238	26	15
合計	2,165	545	98	956	72	1,210	1,524	150	122

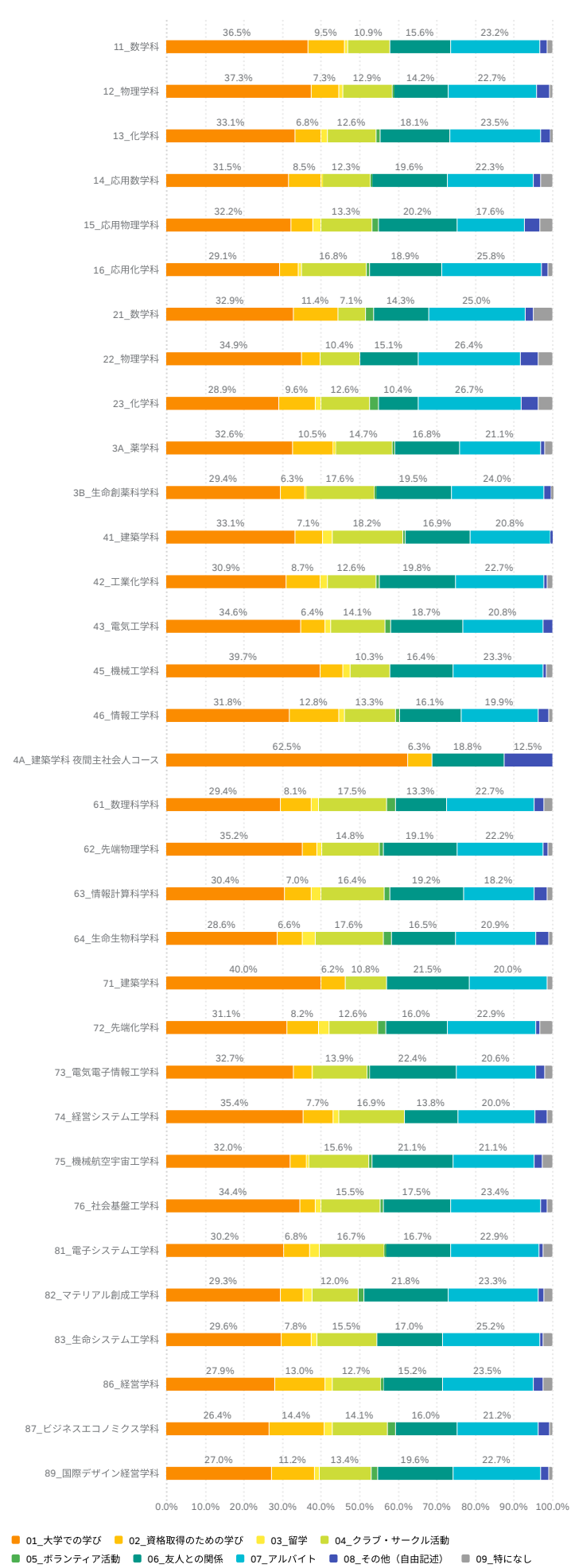
問6 学部＞学科 2,789



問6 力を入れたこと_学科別 2,789

学科	01_大学 での学び	02_資格 取得の ための学 び	03_留 学	04_ク ラブ・ サーク ル活動	05_ボ ラン ティア 活動	06_友人 との関係	07_アル バイト	08_そ の他 (自由 記述)	09_特 になし
数学科	77	20	2	23	-	33	49	4	3
物理学科	87	17	2	30	1	33	53	8	2
化学科	97	20	5	37	3	53	69	7	2
応用数学科	82	22	1	32	1	51	58	5	8
応用物理学科	75	13	5	31	4	47	41	9	8
応用化学科	71	12	2	41	2	46	63	4	3
数学科	46	16	-	10	3	20	35	3	7
物理学科	37	5	-	11	-	16	28	5	4
化学科	39	13	2	17	3	14	36	6	5
薬学科	62	20	1	28	1	32	40	2	4
生命創薬科学科	65	14	1	39	1	43	53	4	1
建築学科	51	11	4	28	1	26	32	1	-
工業化学科	64	18	4	26	2	41	47	2	3
電気工学科	98	18	4	40	4	53	59	7	-
機械工学科	46	7	2	12	-	19	27	1	2
情報工学科	67	27	3	28	2	34	42	6	2
建築学科 夜間主社会人コース	10	1	-	-	-	3	-	2	-
数理科学科	62	17	4	37	5	28	48	5	5
先端物理学科	57	6	2	24	2	31	36	2	2
情報計算科学科	87	20	7	47	4	55	52	10	4
生命生物科学科	26	6	3	16	2	15	19	3	1
建築学科	26	4	-	7	-	14	13	-	1
先端化学科	91	24	8	37	6	47	67	3	10
電気電子情報工学科	127	19	1	54	3	87	80	9	8
経営システム工学科	23	5	1	11	-	9	13	2	1
機械航空宇宙工学科	47	6	1	23	1	31	31	3	4
社会基盤工学科	100	12	4	45	2	51	68	5	4

問6 学科別 2,789



学科	01_大学 での学び	02_資 格取得 のため の学び	03_留 学	04_ク ラブ・ サーク ル活動	05_ボ ランテ ィア活 動	06_友人 との関係	07_アル バイト	08_そ の他 (自由 記述)	09_特 になし
電子 シス テム 工学 科	58	13	5	32	1	32	44	2	5
マテ リア ル創 成工 学科	39	8	3	16	2	29	31	2	3
生命 シス テム 工学 科	61	16	3	32	-	35	52	2	5
経営 学科	88	41	6	40	2	48	74	8	8
ビジ ネス エコ ノミ クス 学科	86	47	7	46	7	52	69	9	3
国際 デザ イン 経営 学科	113	47	5	56	7	82	95	9	4
合計	2,165	545	98	956	72	1,210	1,524	150	122

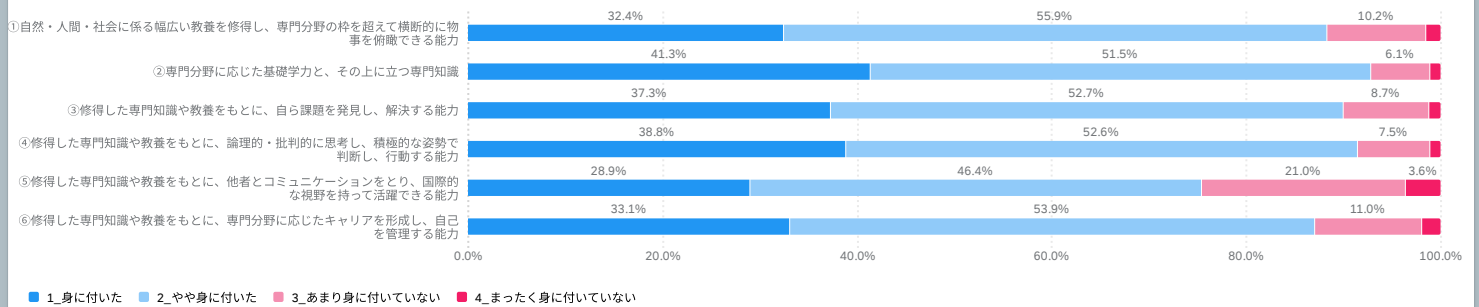
【CTLT-TL】2024年度卒業予定者対象アンケートー2019～2024ー / 3-4_【問7】カリキュラムについて_DP達成度

▼ フィルタ ▼ 実施年度: 2024 ▼

3. カリキュラムについて

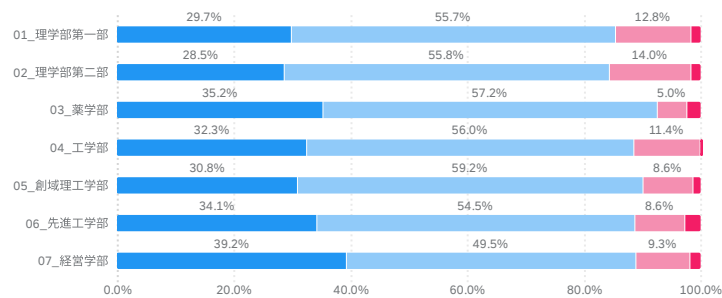
【問7】本学で教育を受けて、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定める学修目標（能力）はどの程度身に付きましたか？

【問7】DP達成度_総合 2,789

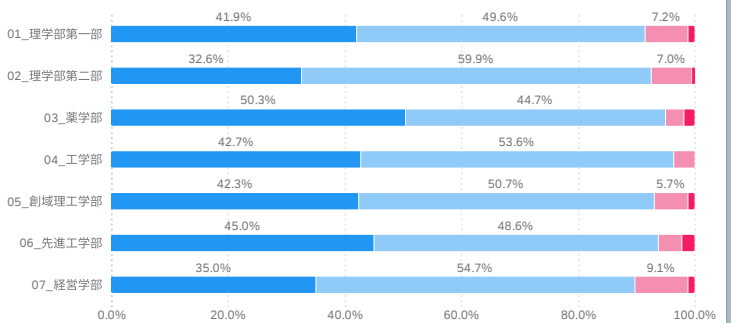


【問7】DP達成度_学部別

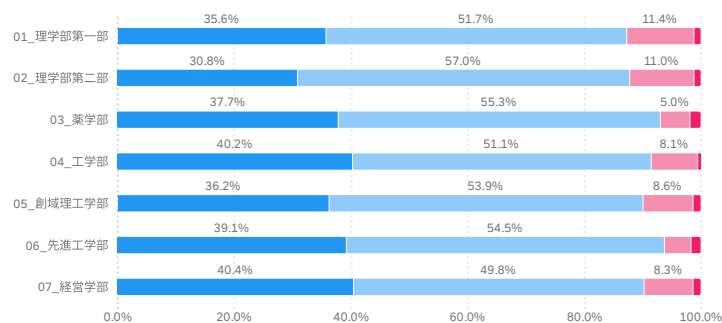
①自然・人間・社会に係る幅広い教養を修得し、専門分野の枠を超えて横断的にものごとを俯瞰できる能力_学部別 2,789



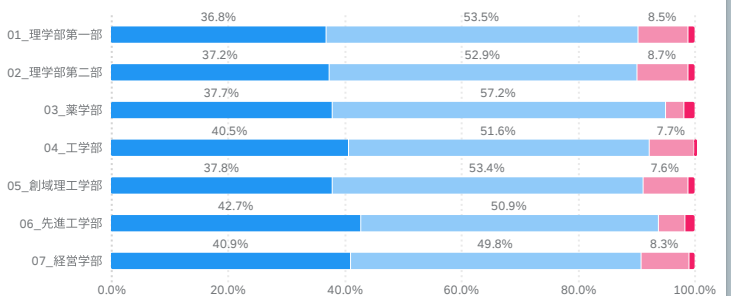
②専門分野に応じた基礎学力と、その上に立つ専門知識_学部別 2,789



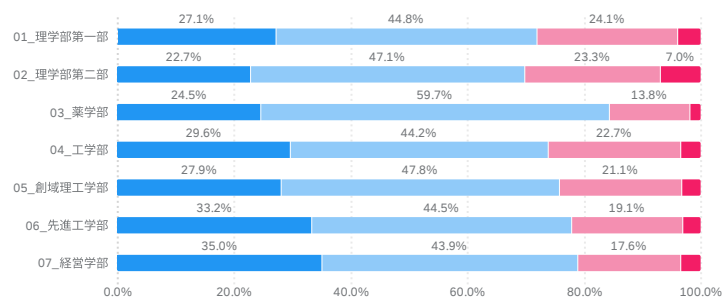
③修得した専門知識や教養をもとに、自ら課題を発見し、解決する能力_学部別 2,789



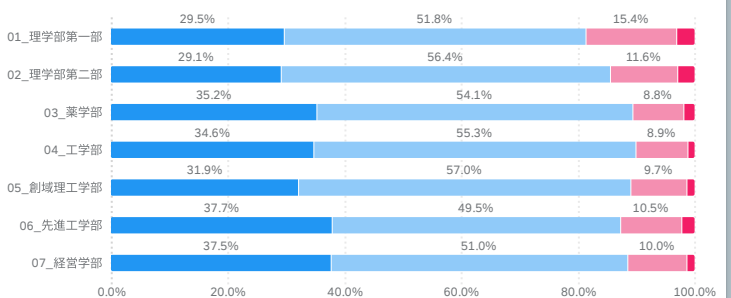
④修得した専門知識や教養をもとに、論理的・批判的に思考し、積極的な姿勢で判断し、行動する能力_学部別 2,789



⑤修得した専門知識や教養をもとに、他者とコミュニケーションをとり、国際的な視野を持って活躍できる能力_学部別 2,789



⑥修得した専門知識や教養をもとに、専門分野に応じたキャリアを形成し、自己を管理する能力_学部別 2,789



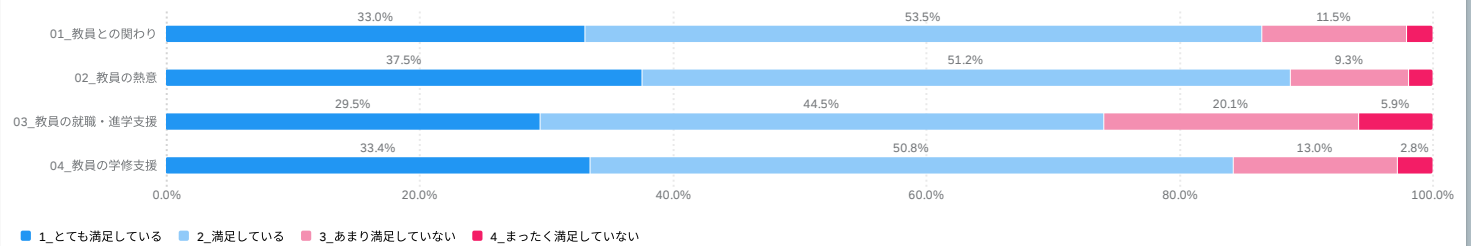
【CTLT-TL】2024年度卒業予定者対象アンケートー2019～2024ー / 4-1_【問8】東京理科大学への満足度_(1)教員

▼ フィルタ ▼ 実施年度: 2024 ▼

4. 東京理科大学への満足度 (1) 教員

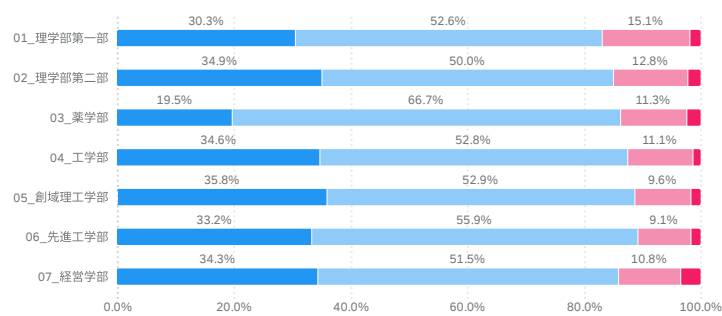
【問8】教員に対してどの程度満足していますか？

【問8】教員満足度_総合 2,789

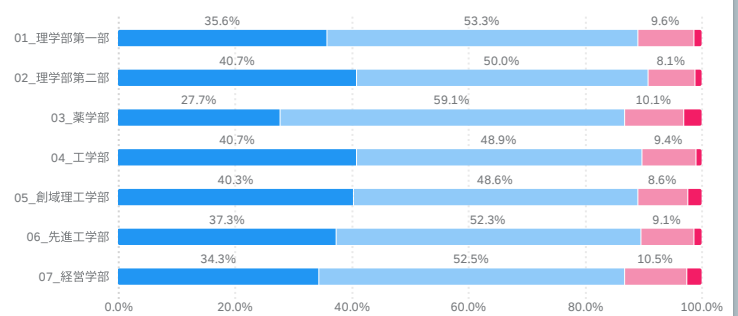


【問8】教員満足度_学部別

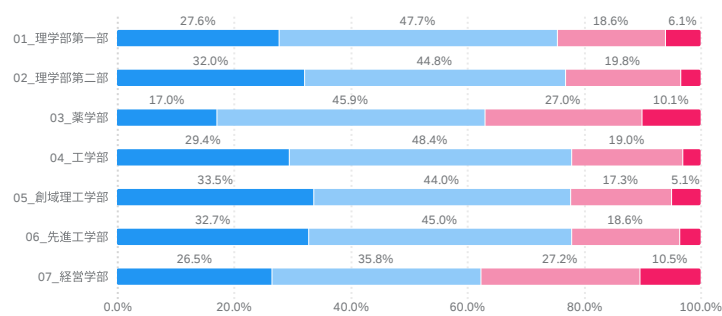
①教員との関わり_学部別 2,789



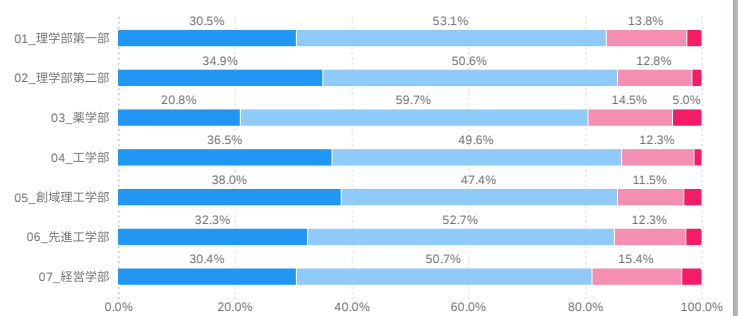
②教員の熱意_学部別 2,789



③教員の就職・進学支援_学部別 2,789



④教員の学修支援_学部別 2,789



▼ フィルタ ▼ 実施年度: 2024 ▼

4. 東京理科大学への満足度 (2) 支援制度・設備_総合

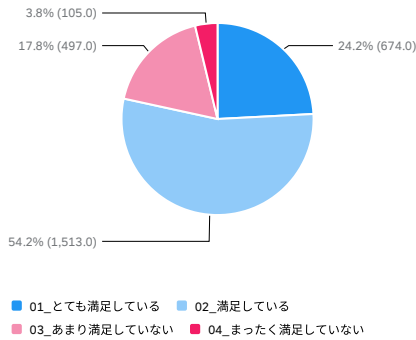
【問9】 本学が提供する支援制度・設備（奨学金、図書館など）に、総合するとどの程度どの程度満足していますか？

問9 肯定的回答割合
2,789 ① ▼

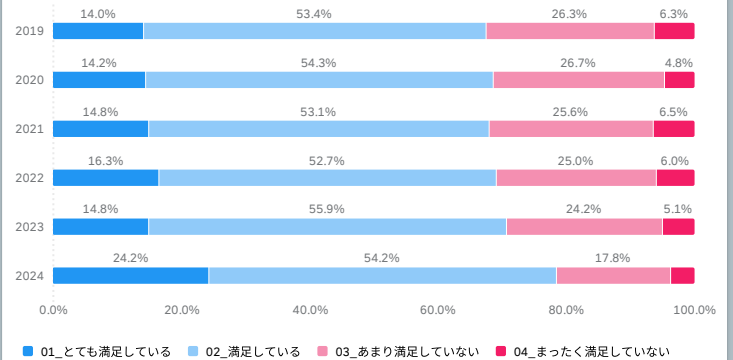
78.4%

▲ +7.8% vs
2023年度 (70.6%)
▲ +9.4% vs
2022年度 (69.0%)

問9 支援制度・設備_総合満足度 2,789



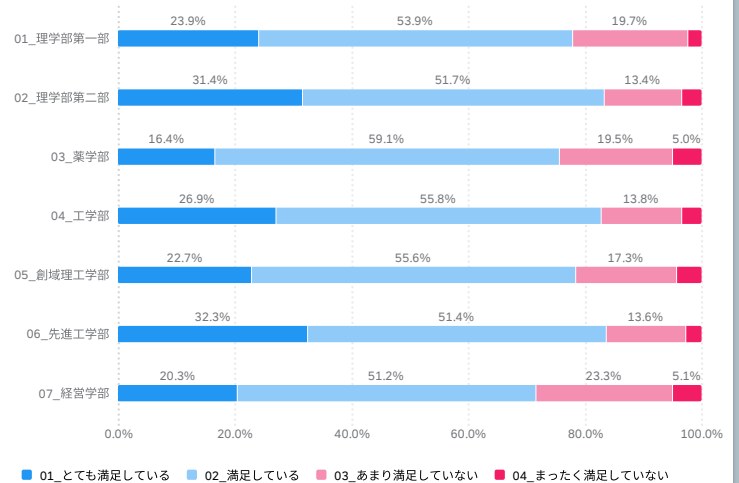
問9 支援制度・設備_総合満足度_年度別 16,271 ▼



問9 学部別 2,789

学部＞学科	01_とても満足している	02_満足している	03_あまり満足していない	04_まったく満足していない
理学部第一部	149	336	123	15
理学部第二部	54	89	23	6
薬学部	26	94	31	8
工学部	109	226	56	14
創域理工学部	182	446	139	35
先進工学部	71	113	30	6
経営学部	83	209	95	21
合計	674	1,513	497	105

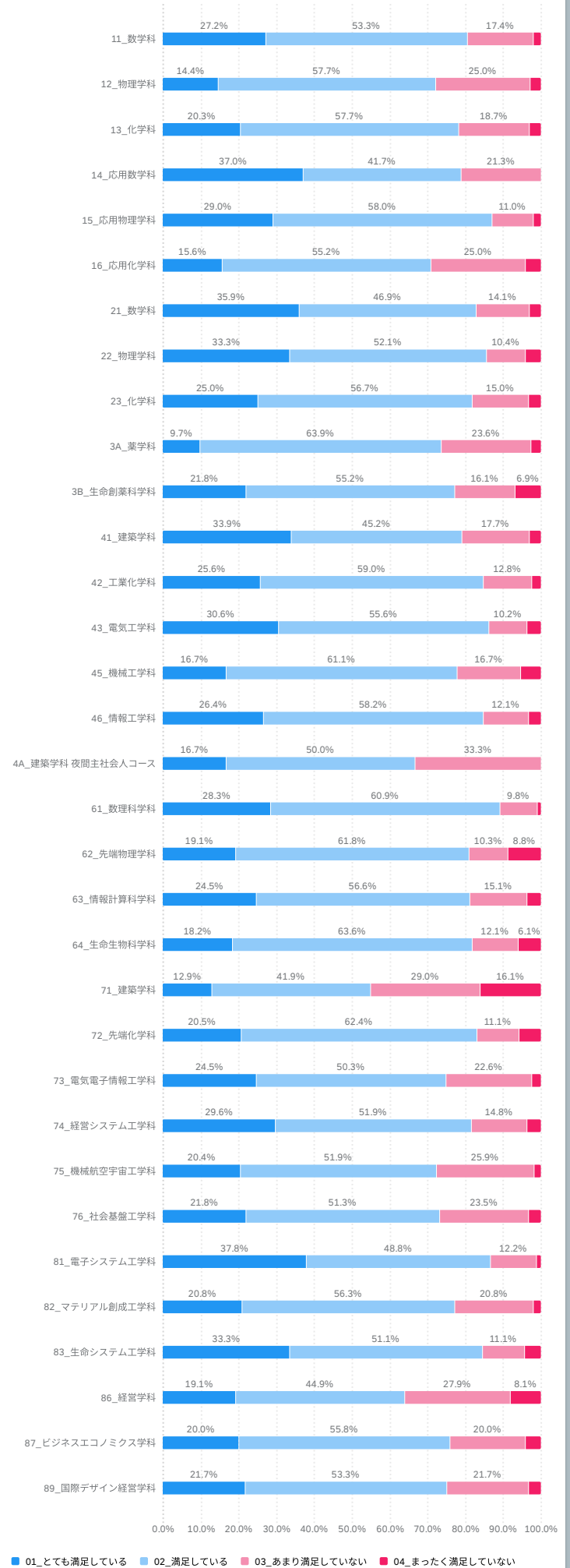
問9 支援制度・設備満足度 (学部別) 2,789



問9 学科別 2,789

Q7_2 - 学科	01_とても満足している	02_満足している	03_あまり満足していない	04_まったく満足していない	合計
11_数学科	25	49	16	2	92
12_物理学科	15	60	26	3	104
13_化学科	25	71	23	4	123
14_応用数学科	40	45	23	-	108
15_応用物理学科	29	58	11	2	100
16_応用化学科	15	53	24	4	96
21_数学科	23	30	9	2	64
22_物理学科	16	25	5	2	48
23_化学科	15	34	9	2	60
3A_薬学科	7	46	17	2	72
3B_生命創薬科学科	19	48	14	6	87
41_建築学科	21	28	11	2	62
42_工業化学科	20	46	10	2	78
43_電気工学科	33	60	11	4	108
46_情報工学科	24	53	11	3	91
4A_建築学科 夜間主社会人コース	2	6	4	-	12
61_数理科学科	26	56	9	1	92
62_先端物理学科	13	42	7	6	68
63_情報計算科学科	26	60	16	4	106
64_生命生物科学科	6	21	4	2	33
71_建築学科	4	13	9	5	31
72_先端化学科	24	73	13	7	117
73_電気電子情報工学科	38	78	35	4	155
74_経営システム工学科	8	14	4	1	27
75_機械航空宇宙工学科	11	28	14	1	54
76_社会基盤工学科	26	61	28	4	119
81_電子システム工学科	31	40	10	1	82
82_マテリアル創成工学科	10	27	10	1	48
83_生命システム工学科	30	46	10	4	90
86_経営学科	26	61	38	11	136
87_ビジネスエコンミクス学科	24	67	24	5	120
89_国際デザイン経営学科	33	81	33	5	152
合計	674	1,513	497	105	

問9 支援制度・設備満足度（学科別） 2,789



▼ フィルタ ▼ 実施年度: 2024 ▼

4. 東京理科大学への満足度 (2) 支援制度・設備_区分ごと

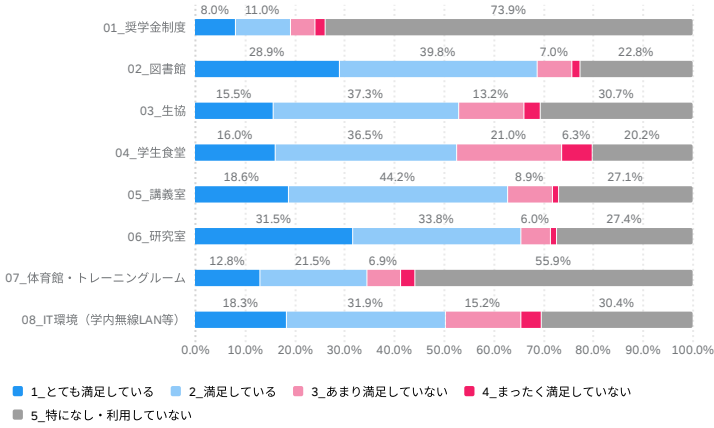
【問10】 本学が提供する支援制度・設備（奨学金、図書館など）にどの程度満足していますか？

以下の区分ごとに最も当てはまるものを1つずつ選んでください。

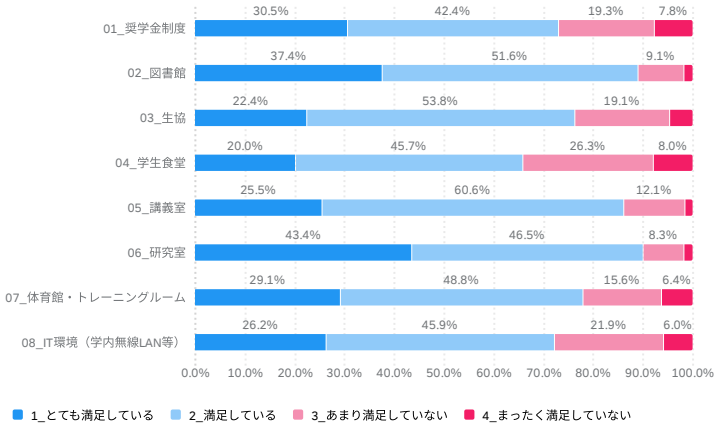
【区分】 ①奨学金制度 ②図書館 ③生協 ④学生食堂 ⑤講義室 ⑥研究室 ⑦体育館・トレーニングルーム ⑧IT環境（学内無線LAN等）

2024年度

【問10】 支援制度・設備_満足度 2,789



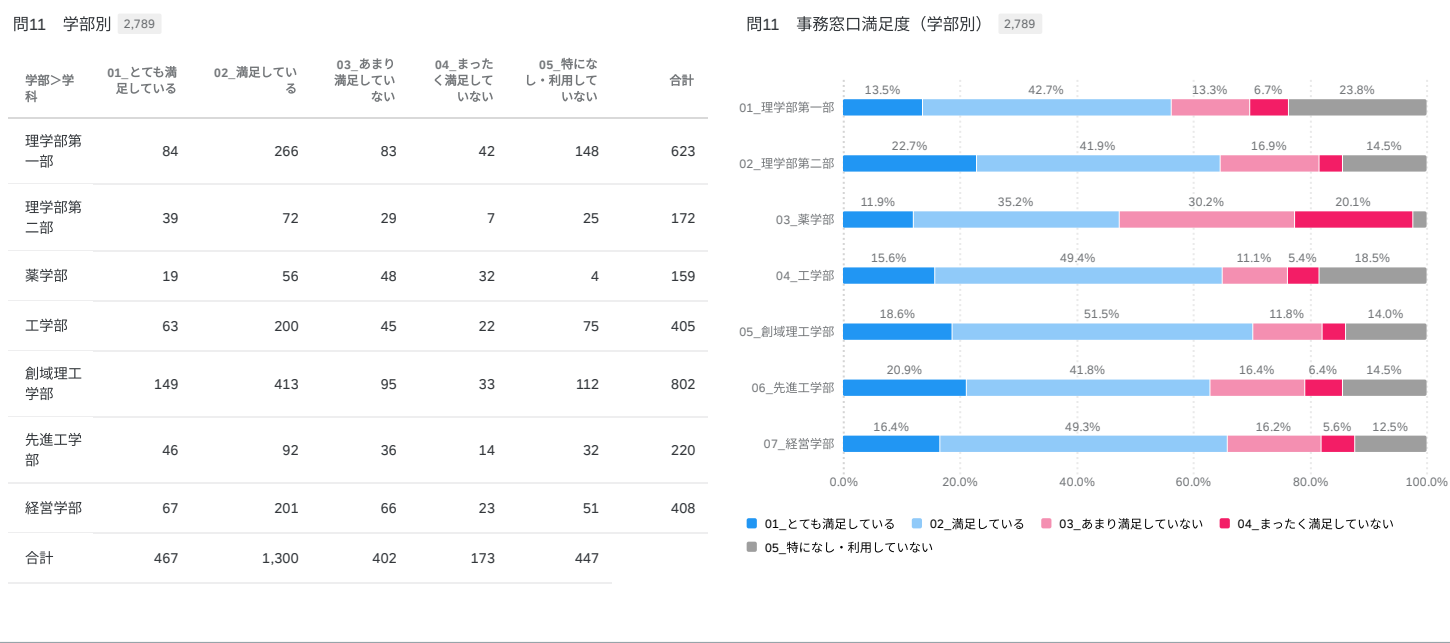
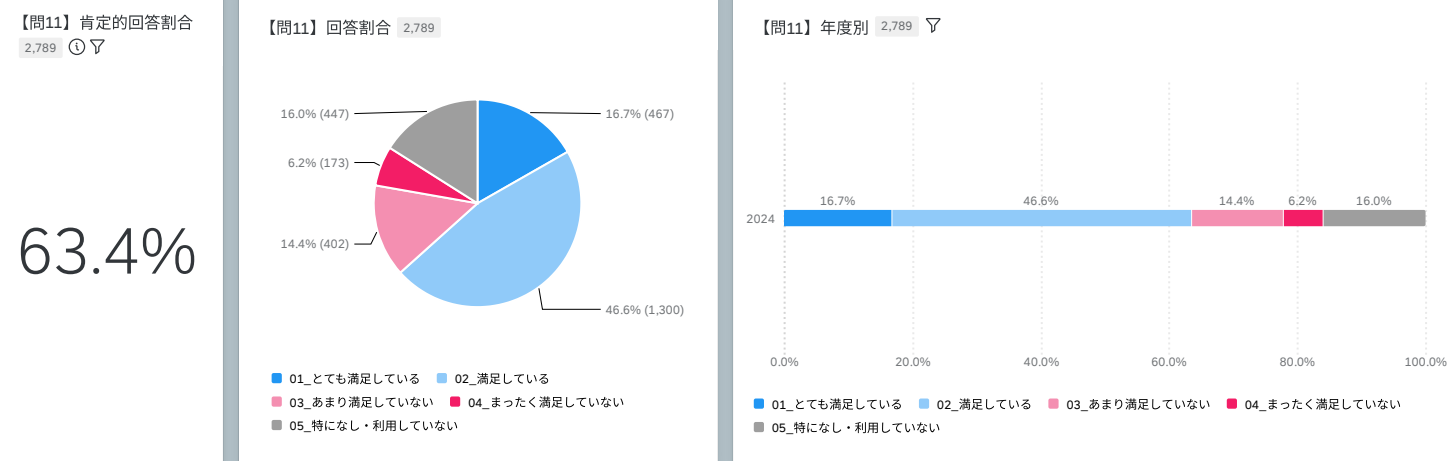
【問10】 支援制度・設備_満足度_「特になし・利用していない」を除く 2,471



▼ フィルタ ▼ 実施年度: 2024 ▼

4. 東京理科大学への満足度 (3) 事務窓口_総合

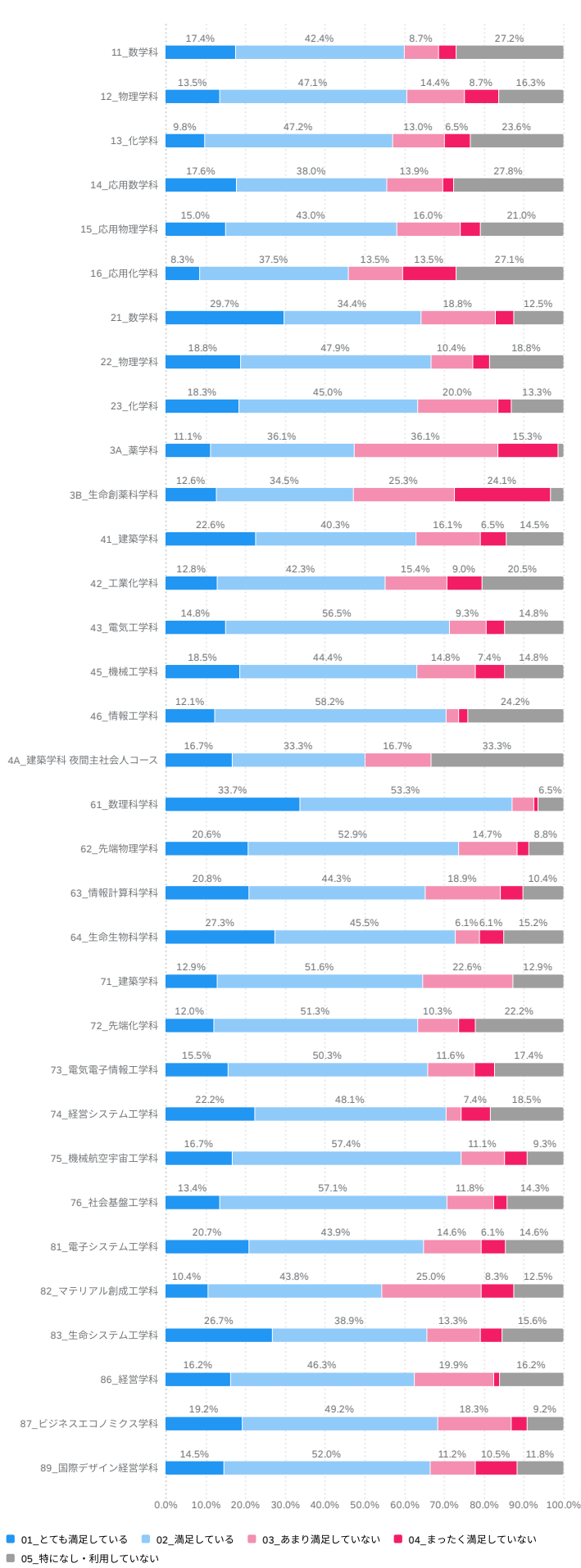
【問11】事務窓口（履修、課外活動等）に、総合するとどの程度満足していますか？



問11 学科別 2,789

Q7_2 - 学科	01_とても満足している	02_満足している	03_あまり満足していない	04_まったく満足していない	05_特になし・利用していない	合計
数学科	16	39	8	4	25	92
物理学科	14	49	15	9	17	104
化学科	12	58	16	8	29	123
応用数学科	19	41	15	3	30	108
応用物理学科	15	43	16	5	21	100
応用化学科	8	36	13	13	26	96
数学科	19	22	12	3	8	64
物理学科	9	23	5	2	9	48
化学科	11	27	12	2	8	60
薬学科	8	26	26	11	1	72
生命創薬科学科	11	30	22	21	3	87
建築学科	14	25	10	4	9	62
工業化学科	10	33	12	7	16	78
電気工学科	16	61	10	5	16	108
機械工学科	10	24	8	4	8	54
情報工学科	11	53	3	2	22	91
建築学科 夜間主社会人コース	2	4	2	-	4	12
数理科学科	31	49	5	1	6	92
先端物理学科	14	36	10	2	6	68
情報計算科学科	22	47	20	6	11	106
生命生物科学科	9	15	2	2	5	33
建築学科	4	16	7	-	4	31
先端化学科	14	60	12	5	26	117
電気電子情報工学科	24	78	18	8	27	155
経営システム工学科	6	13	1	2	5	27
機械航空宇宙工学科	9	31	6	3	5	54
社会基盤工学科	16	68	14	4	17	119
電子システム工学科	17	36	12	5	12	82
マテリアル創成工学科	5	21	12	4	6	48
生命システム工学科	24	35	12	5	14	90
経営学科	22	63	27	2	22	136
ビジネスエコノミクス学科	23	59	22	5	11	120
国際デザイン経営学科	22	79	17	16	18	152
合計	467	1,300	402	173	447	

問11 事務窓口満足度（学科別） 2,789



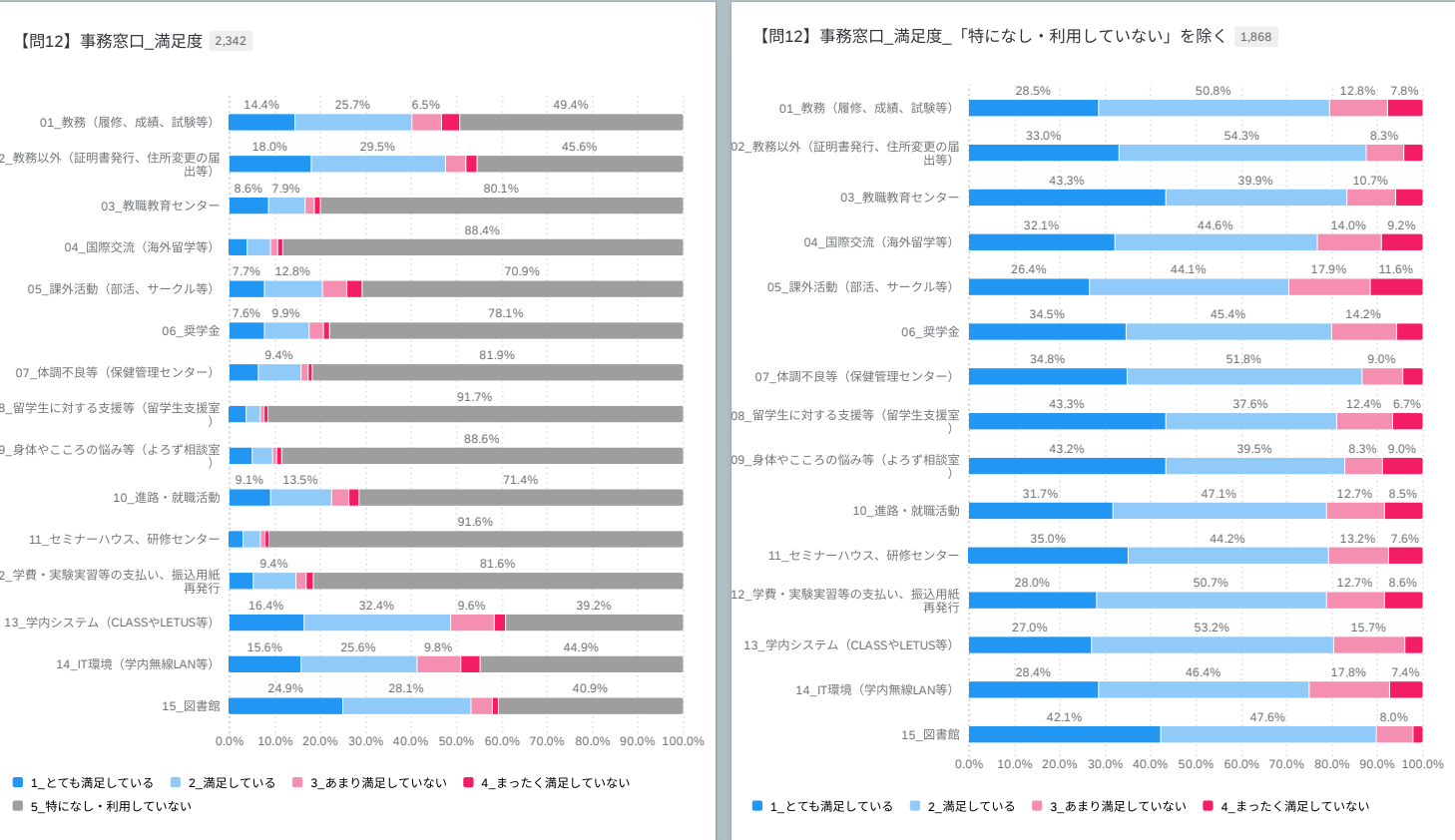
▼ フィルタ ▼ 実施年度: 2024 ▼

4. 東京理科大学への満足度 (3) 事務窓口_区分ごと

【問12】事務の窓口について、以下の区分ごとに最も当てはまるものを1つずつ選んでください。

【区分】①教務（履修、成績、試験等）②教務以外（証明書発行、住所変更の届出等）③教職教育センター④国際交流（海外留学等）⑤課外活動（部活、サークル）⑥奨学金⑦体調不良等（保健管理センター）⑧留学生に対する支援等（留学生支援室）⑨身体やこころの悩み等（よろず相談室）⑩進路・就職活動⑪セミナーハウス、研修センター⑫学費・実験実習等の支払い、振込用紙再発行⑬学内システム（CLASSやLETUS等）⑭IT環境（学内無線LAN等）⑮図書館

2024年度



▼ フィルタ ▼ 実施年度: 2024 ▼

4. 東京理科大学への満足度 (4) 総合

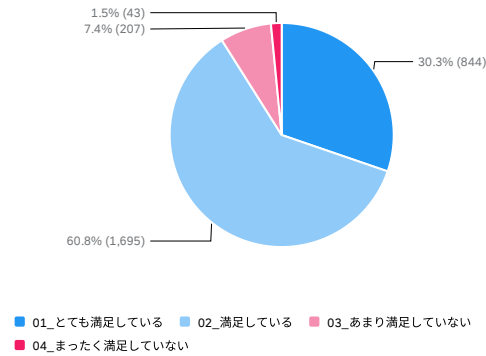
【問13】総合すると本学にどの程度満足していますか？

【問13】肯定的回答割合
2,789 ① ▼

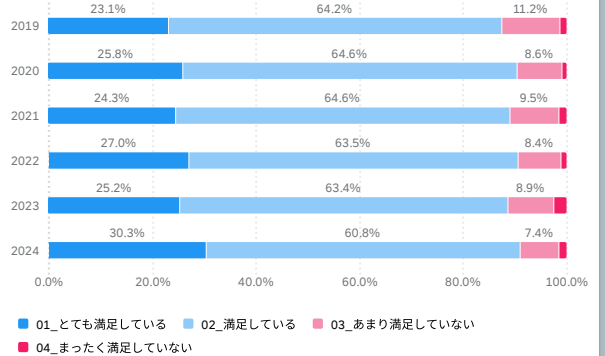
91.0%

▲ +2.4% vs
2023年度 (88.6%)
▲ +0.6% vs
2022年度 (90.5%)

【問13】回答割合 2,789



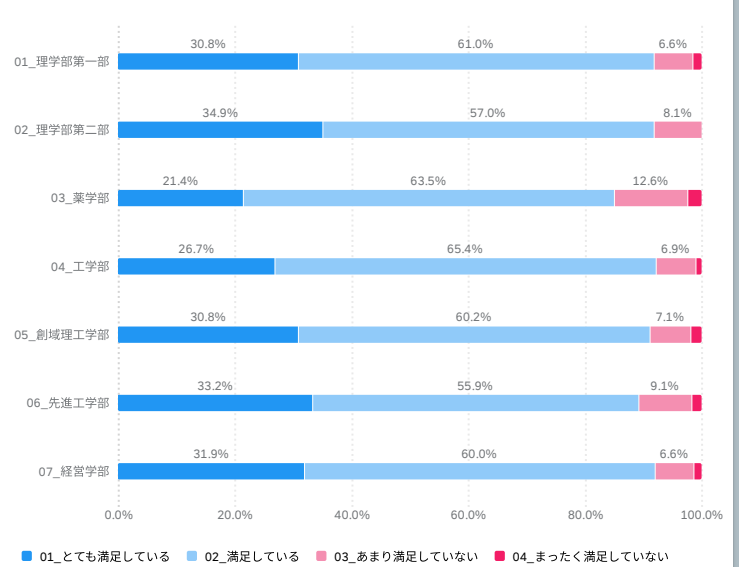
【問13】年度別 16,917 ▼



問13 学部別 2,789

学部＞学科	01_とても満足している	02_満足している	03_あまり満足していない	04_まったく満足していない	合計
01_理学部第一部	192	380	41	10	623
02_理学部第二部	60	98	14	-	172
03_薬学部	34	101	20	4	159
04_工学部	108	265	28	4	405
05_創域理工学部	247	483	57	15	802
06_先進工学部	73	123	20	4	220
07_経営学部	130	245	27	6	408
合計	844	1,695	207	43	

問13 総合 (学部別) 2,789



問13 学科別 2,789

Q7_2 - 学科	01_とても満足している	02_満足している	03_あまり満足していない	04_まったく満足していない	合計
11_数学科	37	48	6	1	92
12_物理学科	31	64	8	1	104
13_化学科	27	83	10	3	123
14_応用数学科	42	63	3	-	108
15_応用物理学科	34	58	5	3	100
16_応用化学科	21	64	9	2	96
21_数学科	26	32	6	-	64
22_物理学科	17	28	3	-	48
23_化学科	17	38	5	-	60
3A_薬学科	13	49	8	2	72
3B_生命創薬科学科	21	52	12	2	87
41_建築学科	22	36	3	1	62
42_工業化学科	19	52	7	-	78
43_電気工学科	34	69	5	-	108
45_機械工学科	10	37	7	-	54
46_情報工学科	18	64	6	3	91
4A_建築学科 夜間主社会人コース	5	7	-	-	12
61_数理科学科	44	44	4	-	92
62_先端物理学科	22	42	3	1	68
63_情報計算科学科	37	62	4	3	106
64_生命生物科学科	10	18	4	1	33
71_建築学科	4	25	2	-	31
72_先端化学科	33	67	11	6	117
73_電気電子情報工学科	37	101	15	2	155
74_経営システム工学科	8	17	1	1	27
75_機械航空宇宙工学科	14	36	4	-	54
76_社会基盤工学科	38	71	9	1	119
81_電子システム工学科	31	47	2	2	82
82_マテリアル創成工学科	11	31	5	1	48
83_生命システム工学科	31	45	13	1	90
86_経営学科	37	85	11	3	136
87_ビジネスエコノミクス学科	37	75	6	2	120
89_国際デザイン経営学科	56	85	10	1	152
合計	844	1,695	207	43	

問13 総合（学科別） 2,789

